

---

狭山市男女共同参画に関する  
市民意識調査報告書

---

令和8年3月

狭山市



# 目 次

I. 調査の概要.....	1
調査の概要.....	3
II. 調査結果の要約.....	5
1 男女平等についての考え方や行動について.....	7
2 家庭生活・子育てについて.....	7
3 ワーク・ライフ・バランスについて.....	8
4 男女の就業・仕事について.....	8
5 人権・暴力について.....	9
6 地域活動・社会参加について.....	10
7 防災について.....	10
8 男女共同参画社会のための施策について.....	11
III. 調査結果.....	13
●あなたご自身について.....	15
●男女平等についての考え方や行動について.....	20
●家庭生活・子育てについて.....	45
●ワーク・ライフ・バランスについて.....	57
●男女の職業・仕事について.....	63
●人権・暴力について.....	73
●地域活動・社会参加について.....	97
●防災について.....	103
●男女共同参画社会のための施策について.....	105
●自由記述.....	114
資料「男女共同参画に関する市民意識調査」調査票.....	128



---

---

## I . 調査の概要

---

---



## 調査の概要

### (1)調査目的

第6次狭山市男女共同参画プランの策定にあたり、男女共同参画に関する市民意識調査を実施し、意識と実態を把握したうえで、基本計画の見直しや今後の市の施策を検討するための基礎資料とすることを目的としています。

### (2)調査対象者及び調査方法

- ①調査対象者：狭山市内に住民登録のある18歳以上の市民2,000名(住民基本台帳から無作為抽出)
- ②調査方法：郵送による配布、回収及びWEBでの回答
- ③調査期間：令和7年8月1日(金)～8月31日(日)

### (3)調査項目

- ①対象者属性
- ②男女平等についての考え方や行動について
- ③家庭生活・子育てについて
- ④ワーク・ライフ・バランスについて
- ⑤男女の職業・仕事について
- ⑥人権・暴力について
- ⑦地域活動・社会参加について
- ⑧防災について
- ⑨男女共同参画社会のための施策について
- ⑩自由記述

### (4)配布数及び回収数

対象者	配布数	回収数			回収率		
			郵送等	WEB		郵送等	WEB
女性	1,000件	517件	366件	151件	51.7%	36.6%	15.1%
男性	1,000件	400件	252件	148件	40.0%	25.2%	14.8%
その他	-	3件	1件	2件	-	-	-
無回答	-	4件	3件	1件	-	-	-
合計	2,000件	924件	622件	302件	46.2%	31.1%	15.1%

## (5) 報告書の見方

- ・本報告書では、回答すべき箇所が回答されていないものは「無回答」として扱います。
- ・本報告書では、回答する必要のない箇所及び回答すべき箇所でないところを回答している場合は「非該当」として扱います。
- ・設問の構成比は、回答者数(該当設問での該当者数)を基数として百分率(%)で示しています。したがって、非該当者数は、構成比に含まれません。
- ・比率は全て百分率(%)で表し、小数点以下第二位を四捨五入し算出しているため合計が100%にならない場合があります。
- ・複数回答については、回答者数を基数として百分率(%)で示しています。したがって、合計値が100%にならない場合もあります。
- ・本報告書では、回答合計の表記を単一(1つだけ)回答は「合計」、複数(すべてに)回答は「回答者数」としています。非該当処理が含まれる設問は「回答者数」と表記しています。また、割合を設定している項目名について、単一回答は「構成比」、複数回答は「比率」と表記しています。
- ・クロス集計の表は、上位一位が濃い色、二位が薄い色で色付けされています。

## (6) 標本誤差について

- ・標本誤差とは、標本調査(母集団から一部の標本を抽出して行う調査)を行って母集団値を推定する際に生じる、標本値と母集団値との差を標本誤差と言います。この標本誤差は抽出数を多く抽出するほど小さくなり、また母集団内での個別データのバラツキが小さいほど小さくなります。

なお、アンケート調査における必要サンプル数を求める式は以下の通りです。

$$n \geq \frac{N}{\left(\frac{e}{k}\right)^2 \times \frac{N-1}{p(1-p)} + 1}$$

ここで、n=必要サンプル数 N=母集団の大きさ(男女別人口等)

e=標準誤差 k=信頼率に対応する係数=1.96(信頼率:95%)

p=回答比率=50%(不明の場合の一般値)

ここで、本調査の基準日である令和7年7月1日現在の男女別人口をもとに、回収数別の標本誤差は以下の通りです。なお、一般的に、標本誤差が5%以内であると信頼できる値といえます。

	令和7年7月1日 人口	回収数									
		100	200	300	400	500	600	700	800	900	1,000
女性	74,132	9.8%	6.9%	5.6%	4.9%	4.4%	4.0%	3.7%	3.5%	3.3%	3.1%
男性	73,397	9.8%	6.9%	5.6%	4.9%	4.4%	4.0%	3.7%	3.5%	3.3%	3.1%
合計	147,529	9.8%	6.9%	5.6%	4.9%	4.4%	4.0%	3.7%	3.5%	3.3%	3.1%

本調査における実際の回収数で見ると、女性の回収数は517件で標準誤差4.3%、男性の回収率は400件で4.9%、合計回収率は924件で3.2%となり、男女別においても本調査の回収数は十分標本数に値すると言えます。

---

---

## Ⅱ. 調査結果の要約

---

---



## 1 男女平等についての考え方や行動について

- ・「男は仕事、女は家庭」という考え方について、前回調査との比較では、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた回答が**4.4ポイント**増加しています。また、男女の地位の平等感については、多くの項目で「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が減少しており、固定的な性別役割分担意識は少しずつ変化しています。今後も、家庭や職場など身近な場面から、互いに支え合う意識を広げていくことが大切です。(問7、問8)
- ・性差意識については、「こどもの数や産む時期を決めるにあたって、女性の主体的な意見を尊重した方がよい」においては、賛成の意見「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が約**7割半**を占めています。また、ほとんどの項目で「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が前回調査より減少しており、性差に関する意識の均一化が図られていると考えられます。「子育ては、やはり母親でなくてはと思う」の賛成意見も**3割未満**となり、今後も性別にとらわれず、家庭や地域、職場など、さまざまな場面で誰もが役割を担い、意見を反映できる環境づくりに向けて意識を広げていくことが大切です。(問9)

## 2 家庭生活・子育てについて

- ・家庭生活や子育てについて、主に担当している方について「生活費の確保」と「高額な商品や土地、家屋の購入の決定」は「(主に) 男性」の割合が高く、他の項目は全て「(主に) 女性」の割合が高くなっています。「男性・女性共同して分担」の割合が最も高いのが「高額な商品や土地、家屋の購入の決定」となっています。『高額な商品や土地、家屋の購入の決定』で男女共同での分担が最も高くなっている背景としては、社会全体で共働き世帯が増加していることも一因として考えられ、家計や資産に関する意思決定を夫婦で行う場面が広がっている可能性があります。また、前回との比較では、ほとんどの項目で「(主に) 女性」という回答が減少しており、家庭内での男女共同参画意識が浸透してきていると言えます。一方で、「家事」や「家計の管理」については**5割前後**が「(主に) 女性」という回答となっていることから今後も家庭内での協力や意識の向上を促していくことが大切です。(問10)
- ・男性が家事関連に関わる時間が少ない理由については、「勤務時間が長く、家にいる時間が少ない」が**63.3%**と最も多く、次いで、「仕事が忙しくて疲れている」が**45.8%**、「家事の仕方がよくわからない」が**42.5%**となっています。仕事による時間的制約が大きな要因となっており、家庭内での役割分担を進めるためには、働き方の見直しや家事への理解を深める機会づくりが重要と考えられます。(問11)

### 3 ワーク・ライフ・バランスについて

- ・ワーク・ライフ・バランスの認知度については、前回調査より増加し認知度が高まっています。

また、生活の中での優先度について、男性の「理想」では、「仕事と家庭生活を優先」という回答が女性より高く、女性の「理想」では、「家庭生活とプライベート（個人的）な時間を優先」、「仕事・家庭生活とプライベート（個人的）な時間を両立」という回答が男性より高くなっています。

一方、「現実」では男性は、男性は、「仕事を優先」の回答が女性より高く、女性は、「家庭生活を優先」という回答が男性より高くなっています。前回と比較すると、「理想」では、「仕事を優先」という回答が減少しており、「家庭生活を優先」「プライベート（個人的）な時間を優先」という回答が増加しています。

「現実」でも、「仕事を優先」という回答が減少し、「家庭生活を優先」「プライベート（個人的）な時間を優先」という回答が増加していることから、ワーク・ライフ・バランスの推進等、仕事と生活の調和を意識しつつ、個人の意識だけでなく、働き方に関する職場環境の整備など、社会全体での取組を進めることで、家庭生活や自分の時間を大切にできる社会づくりにつなげていくことが大切です。（問12、問13）

### 4 男女の就業・仕事について

- ・女性の就業については、「職業をもち続けたほうがよい」が最も高く、次いで「子どもができたら辞めるが、子どもが成長したら再び職業に就いたほうがよい」となっています。

また、男女がともに働きやすい環境をつくるために必要なことでは、「在宅勤務や時差勤務など、柔軟な勤務制度を導入すること」が最も多く、次いで「保育所・学童保育などの育児環境の充実を図ること」、「出産・育児などに際して、仕事を辞めずに働き続けることへの社会的理解を深めること」となっています。

最も重要だと思う項目では、「男女とも家庭生活と両立できるよう労働時間の短縮を促進すること」が最も多く、次いで「在宅勤務や時差勤務など、柔軟な勤務制度を導入すること」、「出産・育児などに際して、仕事を辞めずに働き続けることへの社会的理解を深めること」となっています。

結婚や出産の有無にかかわらず、誰もが自分らしい働き方を選べるよう、柔軟な制度づくりや職場の理解を広げていくことが大切です。（問14、問15、問16）

- ・男性の育児休業・介護休業の取得が少ない理由については、「職場や周囲の理解が得られず、休みにくい雰囲気があるから」が最も高く、次いで「育児休業や介護休業等の制度が不十分または利用しにくいから」となっています。

男性の育児休業や介護休業の取得を進めるためには、制度の充実に加えて、職場全体で支え合う体制づくりや、ためらわずに休暇を取得できる雰囲気づくりが大切です。

同時に、育児・介護などを担うことを自然なこととして受け止められるよう、社会全体で理解を広げていくことが求められます。（問17）

## 5 人権・暴力について

- ・ハラスメントについては、「受けたり見聞きした経験はない」が概ね**4割以上**になっていますが、「セクシュアル・ハラスメント」「パワー・ハラスメント」「モラル・ハラスメント」では「受けたことがある」と「自分の周りに受けた人がいる」という回答が**3割**を超えています。

職場や地域、家庭などあらゆる場面でハラスメントを許さない意識を広げるとともに、被害者が安心して相談・支援を受けられる環境を整え、関係機関や事業者が連携し、実態に即した対策や啓発を進めていくことが求められます。(問18)

- ・ドメスティック・バイオレンスの行為については、ほとんどの項目で「全くない」が概ね**8割半以上**となっていますが、『(5) 身近で見聞きしたことがある』では約**7割**となり、「1・2度あった」が他の項目と比較し多くなっています。

身近なところで被害を知る人が多いことから、経済的DVや精神的DVなど、見えにくい暴力についても理解を深め、相談しやすい環境づくりと啓発を進めていくことが大切です。(問19)

- ・相談先については、「友人・知人」が最も高くなっていますが、「公的な相談機関」が**3.7ポイント**と低い結果となっています。

悩みを身近な人に打ち明ける傾向がみられる一方で、公的な相談機関の認知度や利用意欲が十分とはいえない状況にあります。

誰もが安心して相談できるよう、相談機関の周知や利用しやすい体制づくりを進めていくことが大切です。(問20)

- ・相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く、次いで、「相談しても無駄だと思ったから」、「自分が我慢すれば、このままやっていけると思ったから」となっています。

深刻な問題であっても相談につながらないケースがあることから、相談のハードルを下げ、安心して声を上げられる環境を整えていくことが大切です。(問21)

- ・性的マイノリティという言葉の認知度については、「言葉も意味も知っている」が最も多く、次いで、「言葉は知っているが、意味は知らない」、「言葉も意味も知らない」となっています。女性では、年代が上がるにつれて「言葉も意味も知っている」という回答が低くなる傾向がみられます。

性的マイノリティへの理解を広げるためには、世代を問わず、誰もが正しい知識を持てるよう周知や啓発を進めていくことが大切です。(問22)

- ・性的マイノリティに対する差別的な言動について見聞きした場所については、「見聞きしたことがない」が最も多く、次いで、「テレビ・ラジオ」、「インターネット」となっています。また、性的マイノリティに対する理解の促進や支援に必要な取り組みについては、「学校における性の多様性に関する教育の充実や性自認への配慮」が最も高く、次いで「法改正やパートナーシップ制度、福利厚生など社会制度の見直し」となっています。誰もが尊重され、安心して暮らせる社会の実現に向け、正しい知識の普及と相互理解を深める取組を進めていくことが大切です。(問23、問24)

## 6 地域活動・社会参加について

- ・現在行っている地域活動に関しては、「特にしていない」が最も高く、次いで「町内会・自治会などの活動」、「趣味・学習・スポーツ等に関する活動」となっています。地域活動への参加は依然として限られている傾向にあり、関心を持つきっかけづくりや、参加しやすい仕組みづくりを進めていくことが大切です。(問25)
- ・お住まいの地域の活動における事象については、「わからない」が最も多く、次いで、「団体の長には男性が就き、女性は補助的な役割に就く慣行がある」、「特に男女差はない」となっています。地域活動では、会場の設営や力仕事は男性、小道具の準備や細かな段取りは女性が担うといったイメージが残っている地域もあり、こうした役割観が“補助的な作業＝女性”という認識につながっている可能性があります。補助的な役割には、実務的な負担が大きい作業や時間的拘束の多い作業が含まれることから、男女ともに地域活動の役割が平等になるよう、地域全体で取り組みを進めていくことが求められます。(問26)
- ・政策決定への女性参画促進に必要なことでは、「男性中心の社会通念、慣習をなくす」が最も高く、次いで「女性の割合を決めるなど、計画的に女性の参画を実行する」、「女性自身がかもっと積極的に活動する」となっており、男性中心の慣習等をなくし、女性のエンパワーメントを高める取組を推進し、男女がともに参画する社会の実現を目指していくことが大切です。(問27)

## 7 防災について

- ・防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点に配慮した取り組みの中から、必要と思うこととしては、「避難所の設備（トイレ、更衣室、授乳室、洗濯物干し場、居住スペース等の設置によるプライバシーの確保」が最も高く、唯一**80.0%**を超えています。次いで、「女性用品、育児用品、介護用品などの物資の配布」、「救援医療・相談体制（医師・看護師・心理カウンセラー）の整備」となっています。これらの結果から、災害時の避難所運営において、誰もが安心して過ごせる環境を整えるため、関係各課が連携しながら具体的な取組を検討していくことが大切です。(問28)

## 8 男女共同参画社会のための施策について

- ・男女共同参画社会のイメージとしては、『家庭生活と仕事時間のバランスがとれ、男女が共にゆとりと充実感を持って生活できる社会』が最も高く、次いで『家事・育児・介護を家族全員で分担し喜びも苦労も分かち合う社会』、『「男は仕事、女は家庭」という固定的役割分担意識が解消され、一人ひとりの考え方や行動が尊重される社会』となっています。誰もが家庭と仕事の両立を実現し、充実した生活を送ることができるよう、意識啓発や環境づくりを進めていくことが大切です。(問29)
- ・男女共同参画社会をめざすために、市が力を入れる必要があることとしては、「男女がともに働きやすい労働環境の整備を働きかけること」が最も高く、次いで「こどもの時から家庭や学校で男女平等について教えること」、「子育て家庭への支援を充実させること」となっています。働きやすい職場環境の整備に加え、次世代への教育や家庭への支援を一体的に進め、男女がともに活躍できる社会づくりを推進していくことが大切です。(問30)
- ・狭山市男女共同参画センターの認知度は**15.6%**であり、利用した方は**6.3%**となっています。センターの認知度向上に加え、誰もが気軽に立ち寄り、相談や交流ができる身近な拠点として活用されるよう、積極的かつ効果的な情報発信を行っていくことが大切です。  
(問31、問32)



---

---

### Ⅲ. 調査結果

---

---

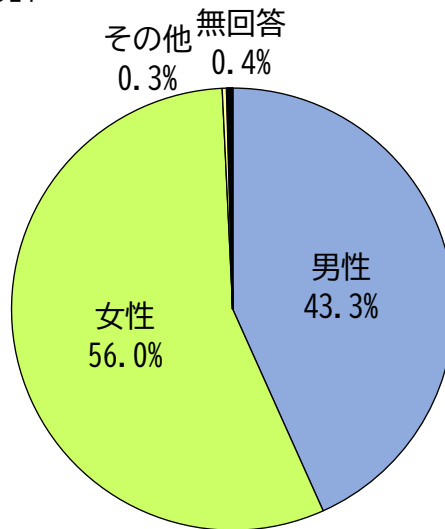


## ●あなたご自身について

問1 あなたの性別をお聞かせください。(回答は1つだけ)

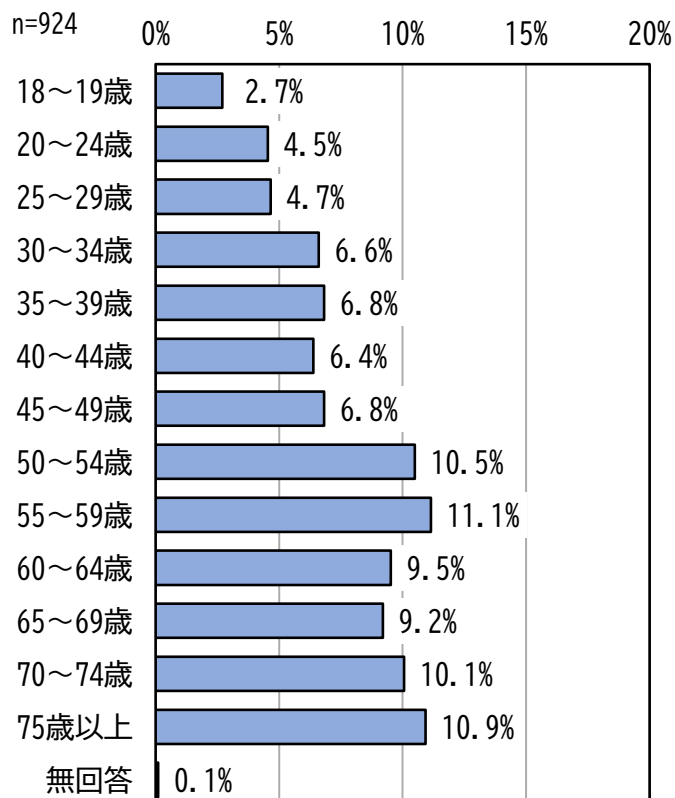
回答者の性別は、「男性」が**43.3%**、「女性」が**56.0%**となっています。また、「その他」が**0.3%**となっています。

n=924



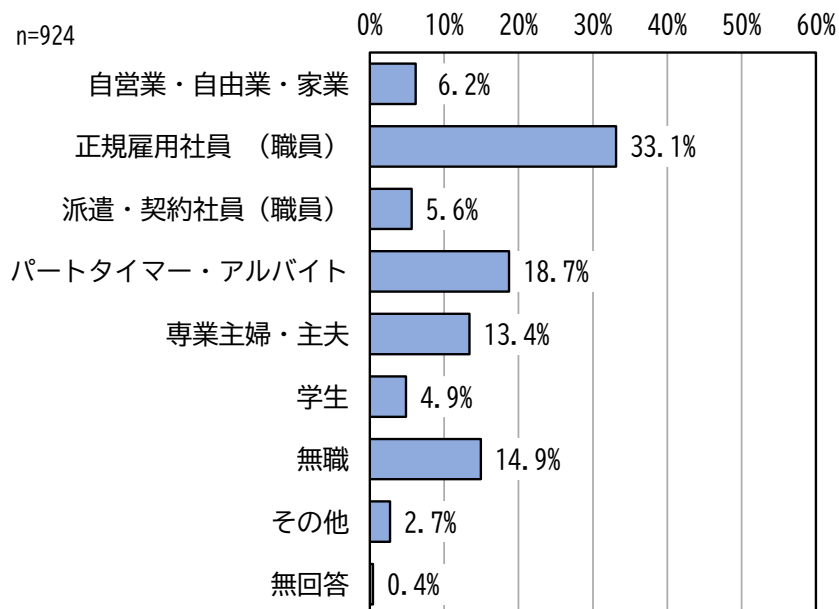
問2 あなたの年齢は次のどれにあてはまりますか。(回答は1つだけ)

年齢では、「55～59歳」が**11.1%**と最も多く、次いで、「75歳以上」が**10.9%**、「50～54歳」が**10.5%**となっています。

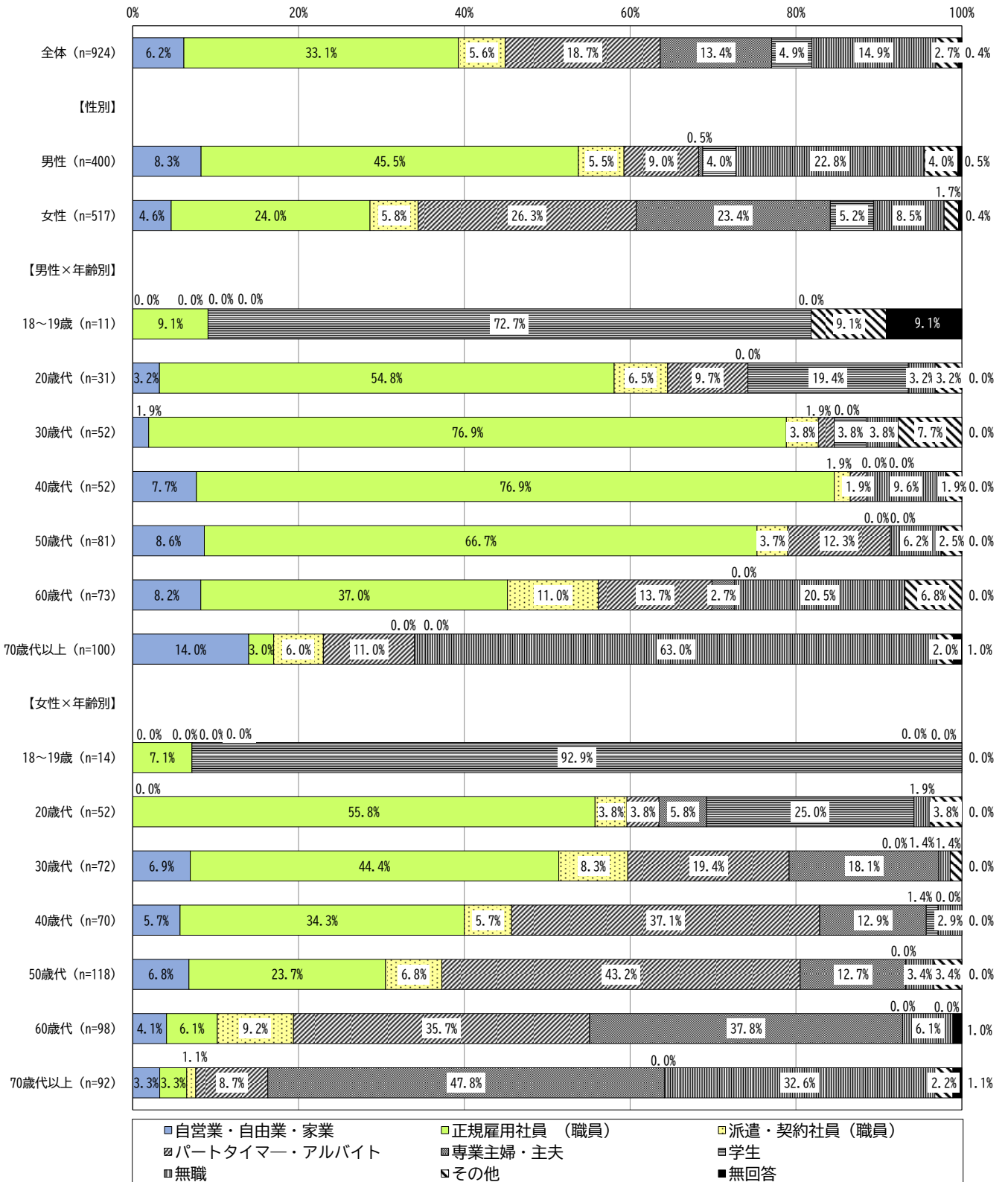


問3 あなたの職業は次のどれにあてはまりますか。(回答は1つだけ)

回答者の職業をみると、全体では「正規雇用社員(職員)」が33.1%と最も多く、次いで、「パートタイマー・アルバイト」が18.7%、「無職」が14.9%となっています。

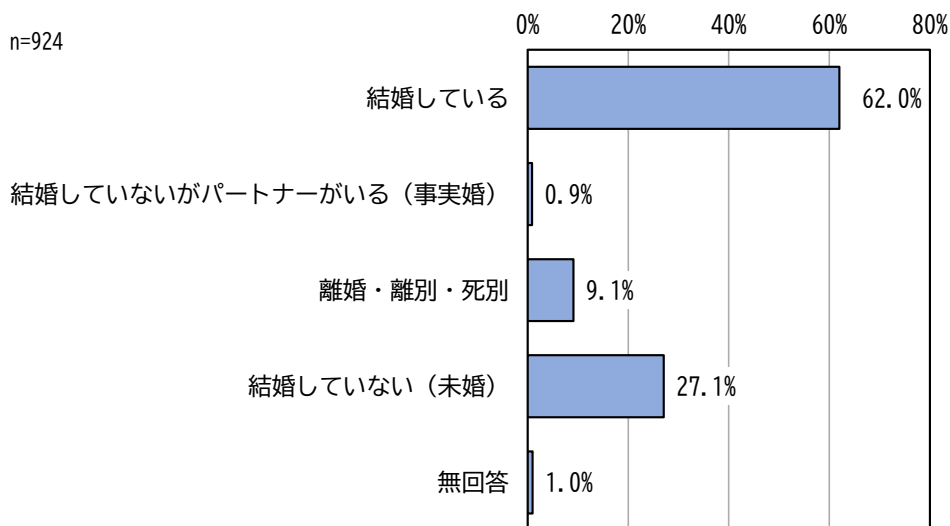


【男女別・年代別クロス表】



問4 あなたは結婚されていますか。次の中からお選びください。(回答は1つだけ)

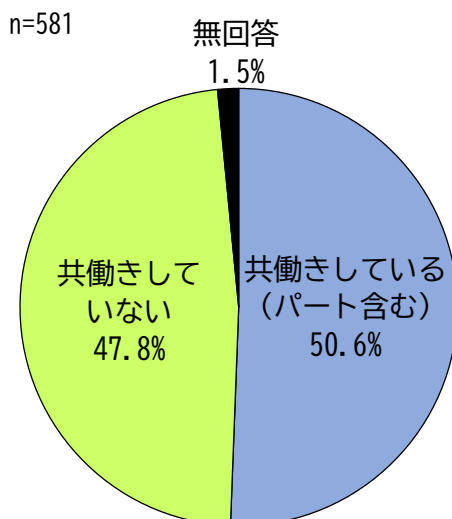
回答者の婚姻状況は、「結婚している」が**62.0%**と最も多く、次いで、「結婚していない(未婚)」が**27.1%**、「離婚・離別・死別」が**9.1%**となっています。



問4で「結婚している」「結婚していないがパートナーがいる(事実婚)」を選択した方の回答

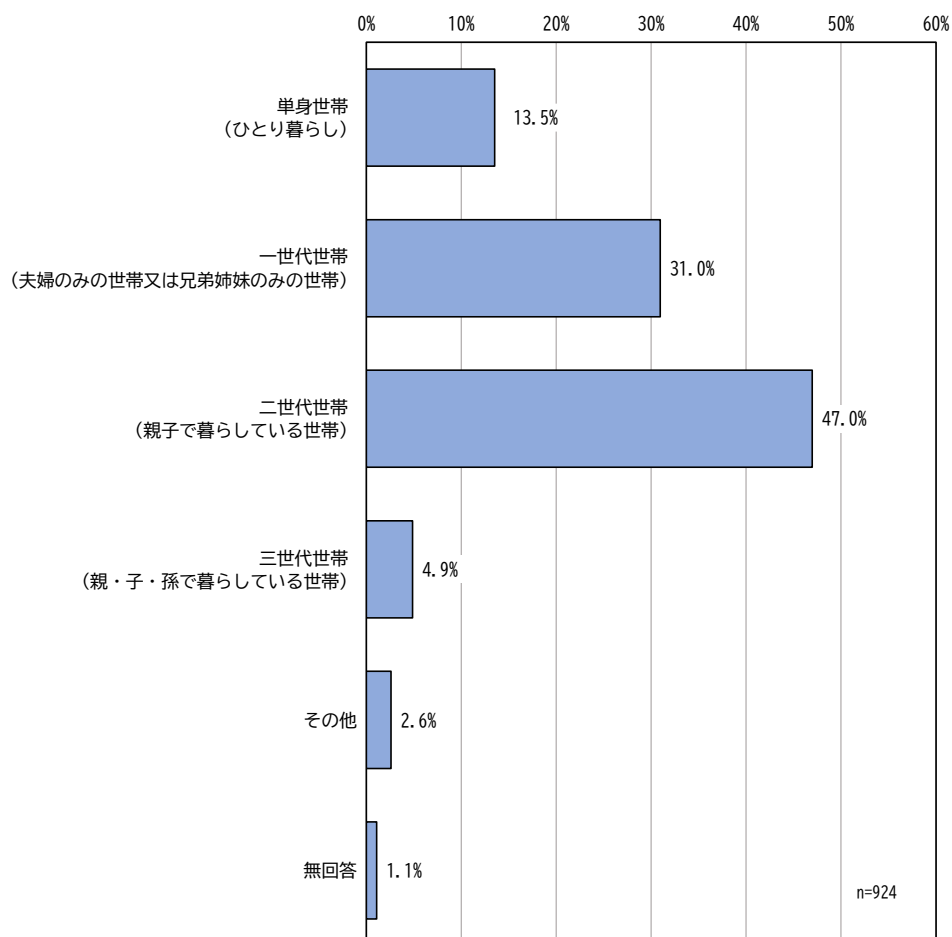
問5 あなたの世帯は、共働きですか。(回答は1つだけ)

回答者の世帯は、共働きかについては、「共働きしている(パート含む)」が**50.6%**に対し、「共働きしていない」が**47.8%**となっています。



問6 あなたの世帯状況は、次のどれにあてはまりますか。(回答は1つだけ)

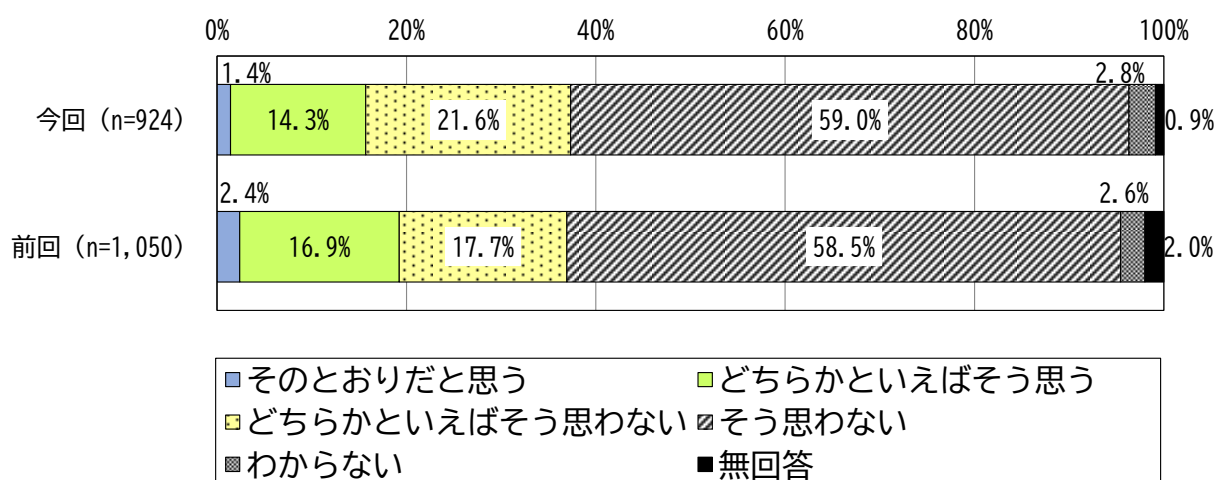
家族構成では、「二世帯世帯(親子で暮らしている世帯)」が**47.0%**と最も多く、次いで、「一世帯世帯(夫婦のみの世帯又は兄弟姉妹のみの世帯)」が**31.0%**、「単身世帯(ひとり暮らし)」が**13.5%**となっています。



## ●男女平等についての考え方や行動について

問7 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。次の中からあてはまる番号を1つだけ選び○をつけてください。

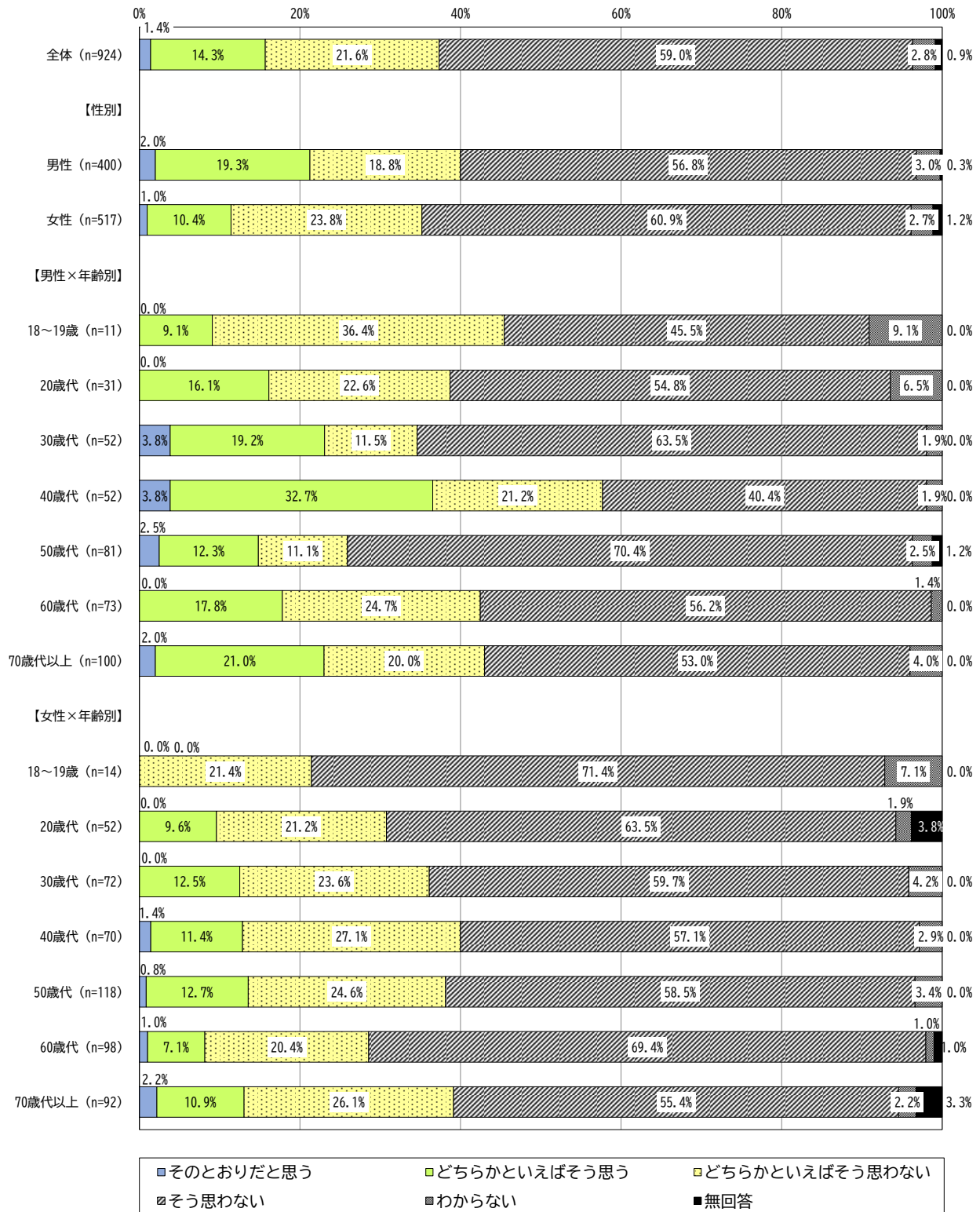
「男は仕事、女は家庭」という考え方をどのように思うかについては、「そのとおりだと思う(1.4%)」、「どちらかといえばそう思う(14.3%)」を合わせた『そう思う(計)』が15.7%に対し、「どちらかといえばそう思わない(21.6%)」、「そう思わない(59.0%)」を合わせた『そう思わない(計)』が80.6%となっています。また、「わからない」が2.8%となっています。



### 【前回調査(令和2年度)との比較】

「その通りだと思う」と「どちらかといえばそう思う」という回答は3.6ポイント減少し、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」という回答は4.4ポイント増加しています。また、「わからない」という回答は0.2ポイント増加しています。

## 【男女別・年代別クロス表】

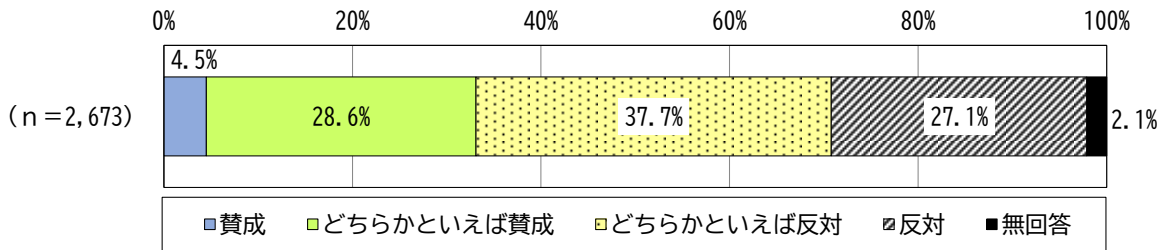


男女別では、男性よりも女性の方が「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」という回答が高くなっています。

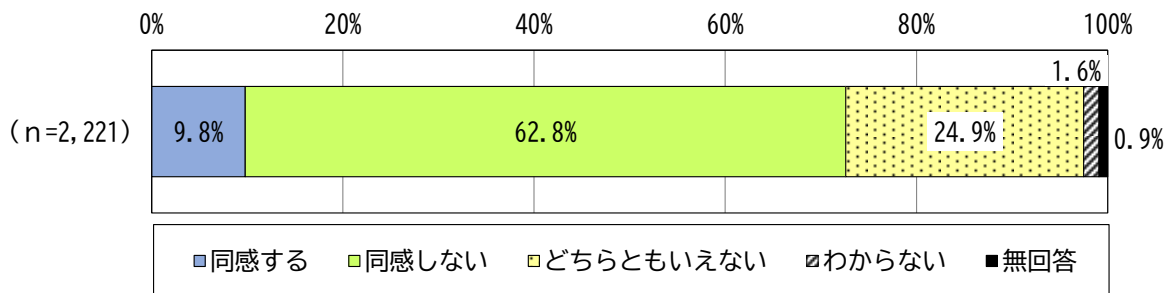
年代別では、男女ともに、「18～19歳」が「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」という回答が最も高くなっています。

【参考】

内閣府：「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和6年調査)



埼玉県：「男女共同参画に関する意識・実態調査」(令和2年調査)



問8 あなたは現在、次の(1)～(9)の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの考えに近いものを1つずつ選び、その番号(1～6)に○をつけてください。

男女の地位の平等感について、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている(計)』では、『政治や政策決定の場で』が**71.3%**と最も多く、次いで、『慣習・しきたり等で』が**70.1%**、『社会全体で』が**62.3%**となっています。

「男女が平等になっている」では、『学校教育の場で』が**52.1%**と最も多く、次いで、『地域や社会活動の場で』が**34.4%**、『職場で』が**29.5%**となっています。

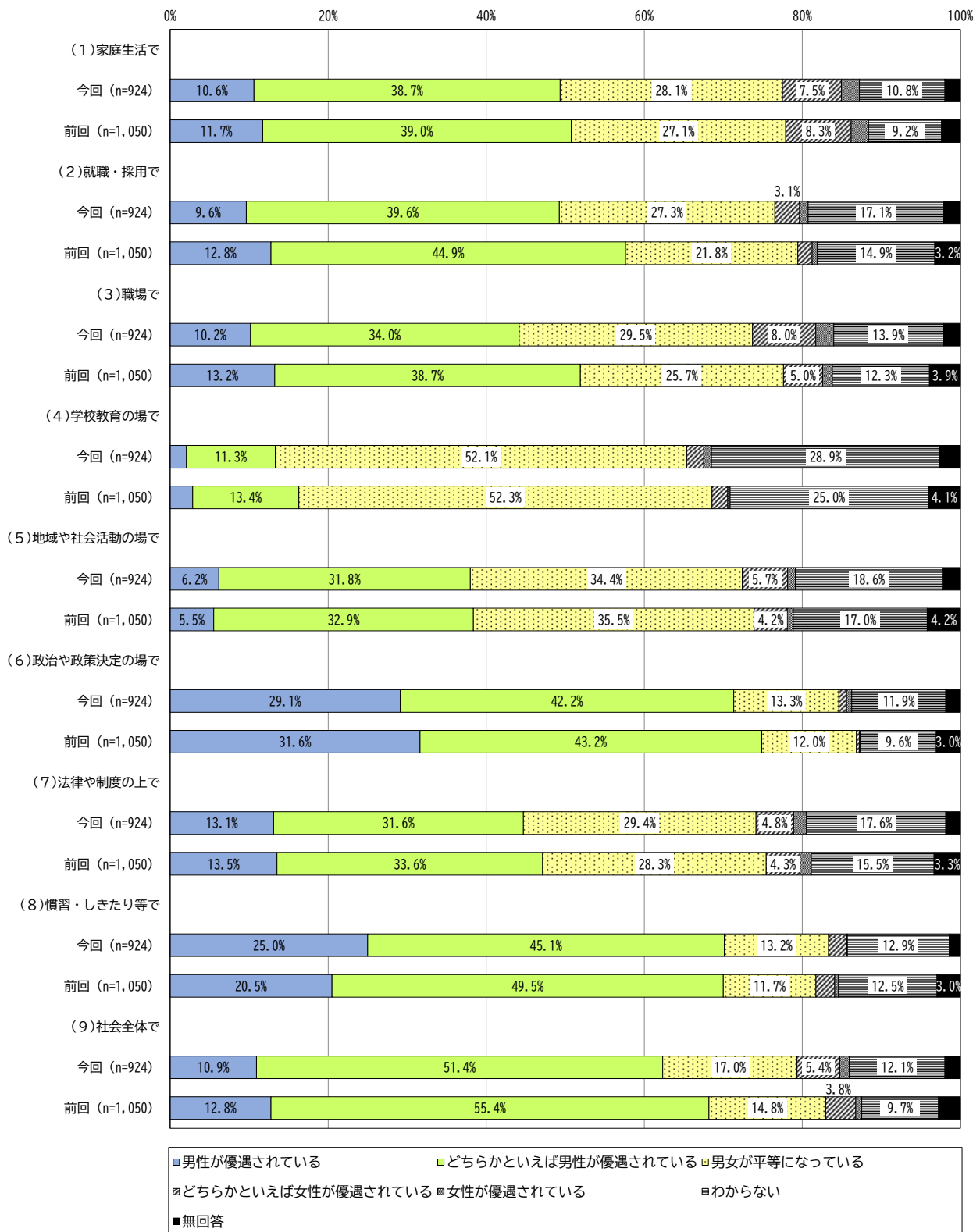
「どちらかといえば女性が優遇されている」、「女性が優遇されている」を合わせた『女性が優遇されている(計)』では、『職場で』が**10.3%**と最も多く、次いで、『家庭生活で』が**9.8%**、『地域や社会活動の場で』が**6.7%**となっています。

また、「わからない」では、『学校教育の場で』が**28.9%**と最も多く、次いで、『地域や社会活動の場で』が**18.6%**、『法律や制度の上で』が**17.6%**となっています。

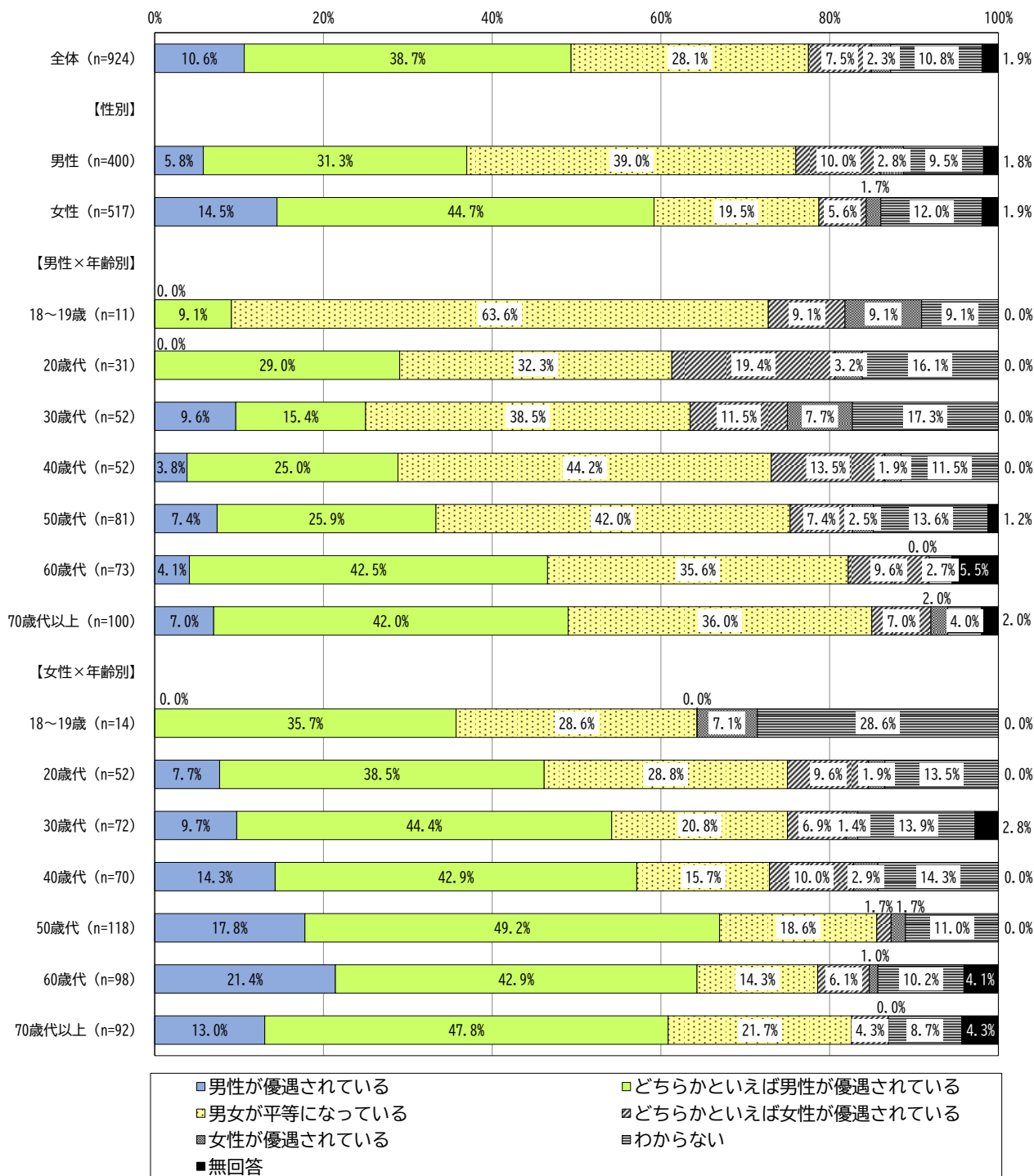
#### 【前回調査(令和2年度)との比較】

前回との比較では、ほぼ全ての項目で「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合の合計が減少しています。特に、「就職・採用で」、「職場で」、「社会全体で」という回答が多く減少しています。

項目(構成比)		い 男 性 が 優 遇 さ れ て	い ど ち ら か が 優 か 遇 と さ い え ば	な 男 女 が 平 等 に	い ど ち ら か が 優 か 遇 と さ い え ば	い る 女 性 が 優 遇 さ れ て	わ か ら な い	無 回 答	回 答 者 数
(1)家庭生活で	今回(令和7年)	10.6%	38.7%	28.1%	7.5%	2.3%	10.8%	1.9%	100.0%
	前回(令和2年)	11.7%	39.0%	27.1%	8.3%	2.2%	9.2%	2.4%	100.0%
(2)就職・採用で	今回(令和7年)	9.6%	39.6%	27.3%	3.1%	1.1%	17.1%	2.2%	100.0%
	前回(令和2年)	12.8%	44.9%	21.8%	1.8%	0.7%	14.9%	3.2%	100.0%
(3)職場で	今回(令和7年)	10.2%	34.0%	29.5%	8.0%	2.3%	13.9%	2.2%	100.0%
	前回(令和2年)	13.2%	38.7%	25.7%	5.0%	1.2%	12.3%	3.9%	100.0%
(4)学校教育の場で	今回(令和7年)	2.1%	11.3%	52.1%	2.2%	1.0%	28.9%	2.6%	100.0%
	前回(令和2年)	2.9%	13.4%	52.3%	2.0%	0.3%	25.0%	4.1%	100.0%
(5)地域や社会活動の場で	今回(令和7年)	6.2%	31.8%	34.4%	5.7%	1.0%	18.6%	2.3%	100.0%
	前回(令和2年)	5.5%	32.9%	35.5%	4.2%	0.8%	17.0%	4.2%	100.0%
(6)政治や政策決定の場で	今回(令和7年)	29.1%	42.2%	13.3%	1.0%	0.6%	11.9%	1.8%	100.0%
	前回(令和2年)	31.6%	43.2%	12.0%	0.4%	0.1%	9.6%	3.0%	100.0%
(7)法律や制度の上で	今回(令和7年)	13.1%	31.6%	29.4%	4.8%	1.6%	17.6%	1.8%	100.0%
	前回(令和2年)	13.5%	33.6%	28.3%	4.3%	1.4%	15.5%	3.3%	100.0%
(8)慣習・しきたり等で	今回(令和7年)	25.0%	45.1%	13.2%	2.3%	0.1%	12.9%	1.4%	100.0%
	前回(令和2年)	20.5%	49.5%	11.7%	2.4%	0.5%	12.5%	3.0%	100.0%
(9)社会全体で	今回(令和7年)	10.9%	51.4%	17.0%	5.4%	1.2%	12.1%	1.9%	100.0%
	前回(令和2年)	12.8%	55.4%	14.8%	3.8%	0.8%	9.7%	2.8%	100.0%



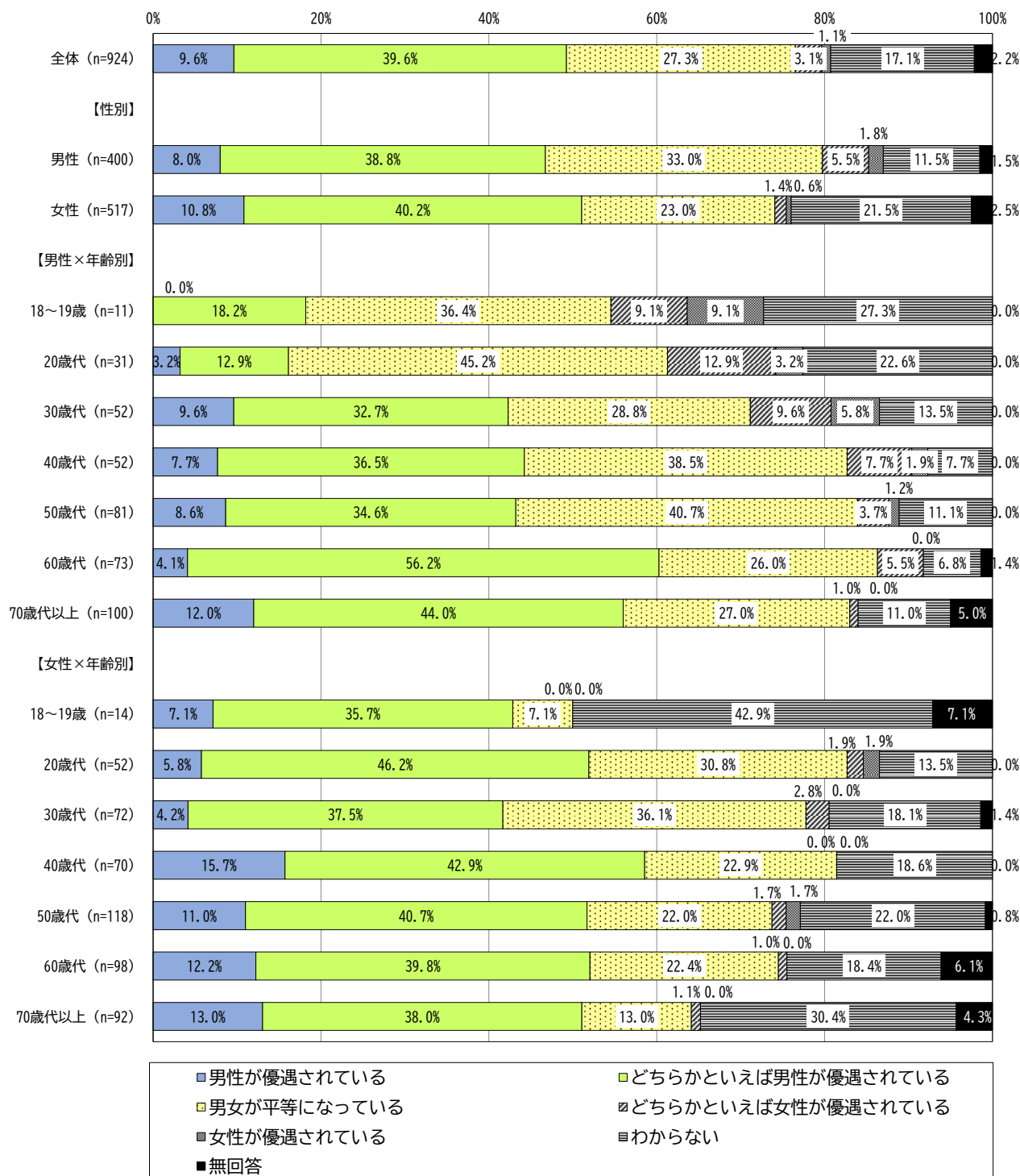
【(1)家庭生活で:男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性よりも女性の方が、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が高くなっており、男性は女性よりも「男女が平等になっている」という回答が高くなっています。

年代別でみると、若年者ほど「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が低い傾向になっています。

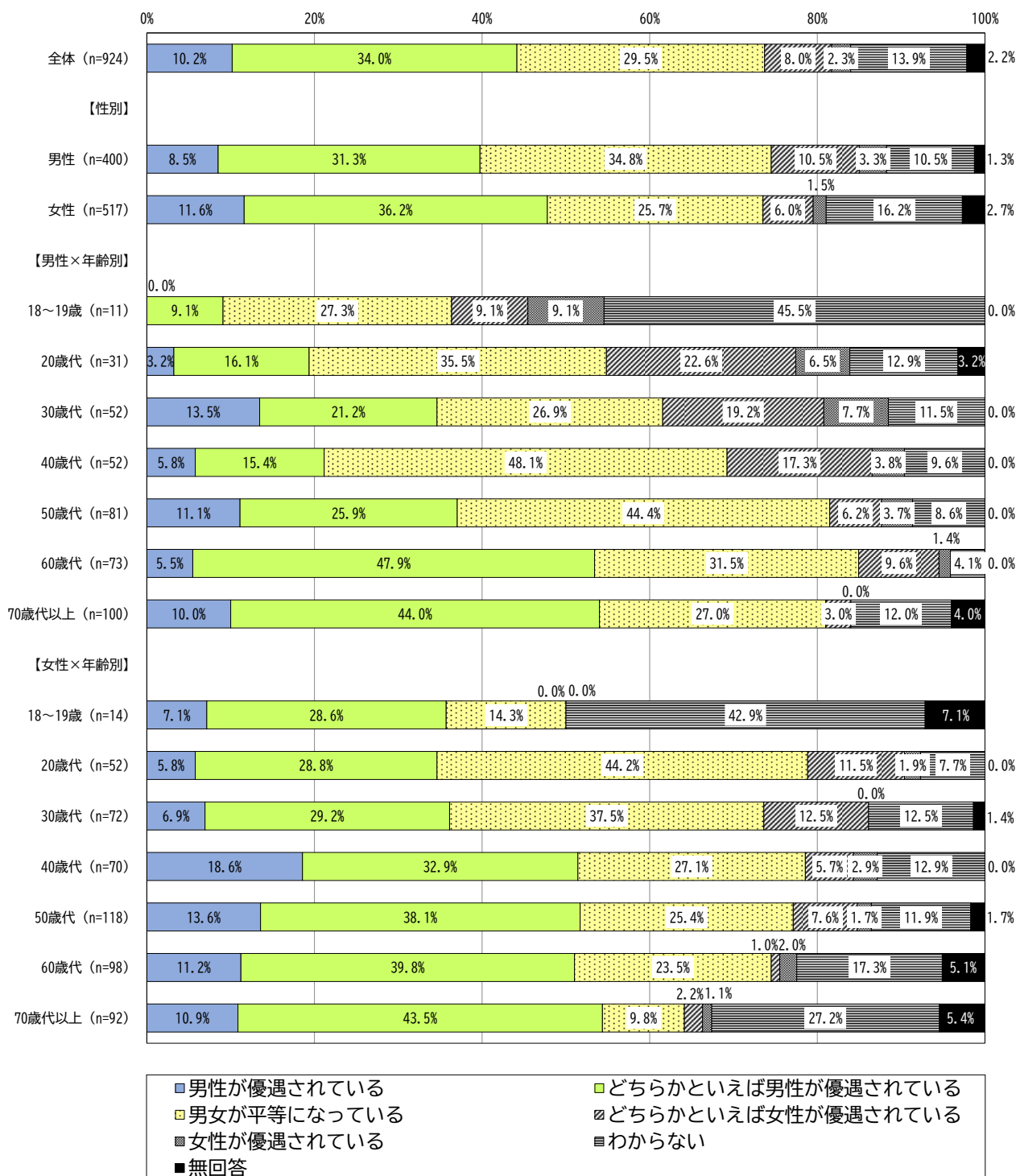
【(2)就職・採用で:男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性よりも女性の方が、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答がやや高くなっています。

年代別でみると、30歳代以外の男性は「男女が平等になっている」という回答が同世代の女性より高くなっていますが、女性は30歳代、60歳代以上の世代を除いた全ての世代が「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が男性より高くなっています。

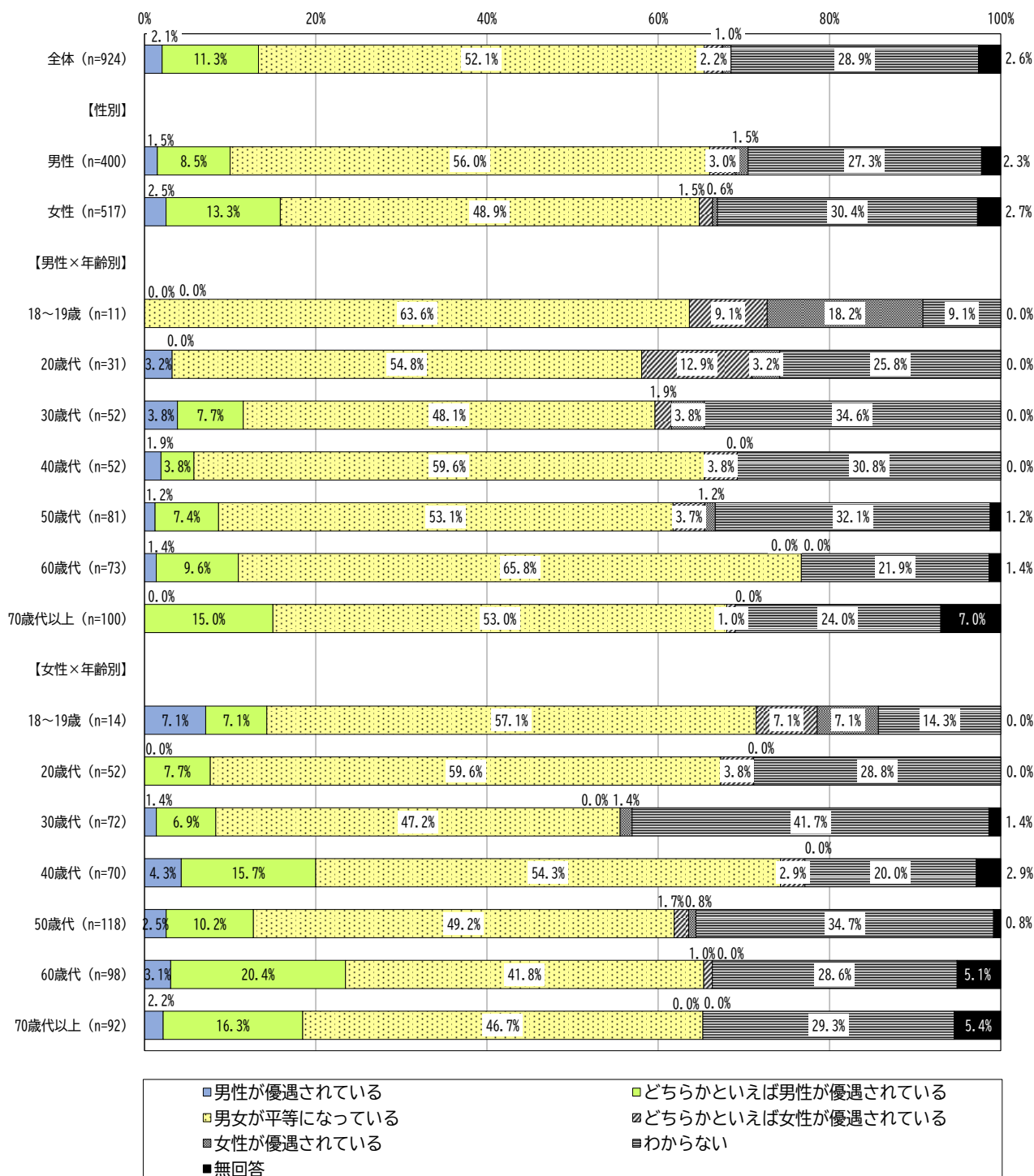
### 【(3)職場で:男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性よりも女性の方が、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が高くなっており、男性は女性よりも「男女が平等になっている」という回答が高くなっています。

年代別で見ると、男性は60歳代から、女性は40歳代から「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が増加する傾向にあります。

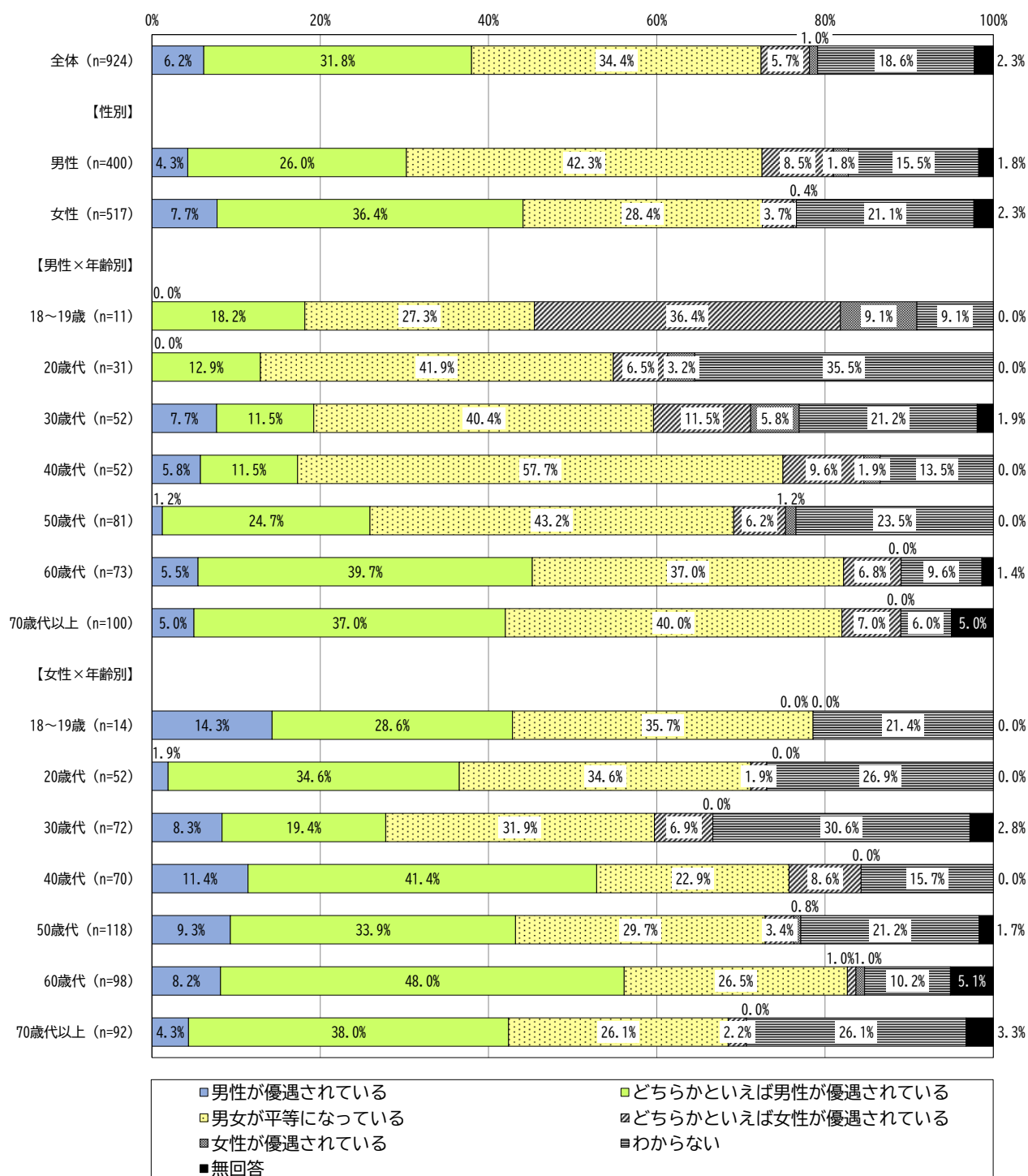
#### 【(4)学校教育の場で：男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性よりも女性の方が、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が高くなっており、男性は女性よりも「男女が平等になっている」という回答が高くなっています。

年代別でみると、男性は70歳代以上で女性は60歳代で「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が最も多くなっています。

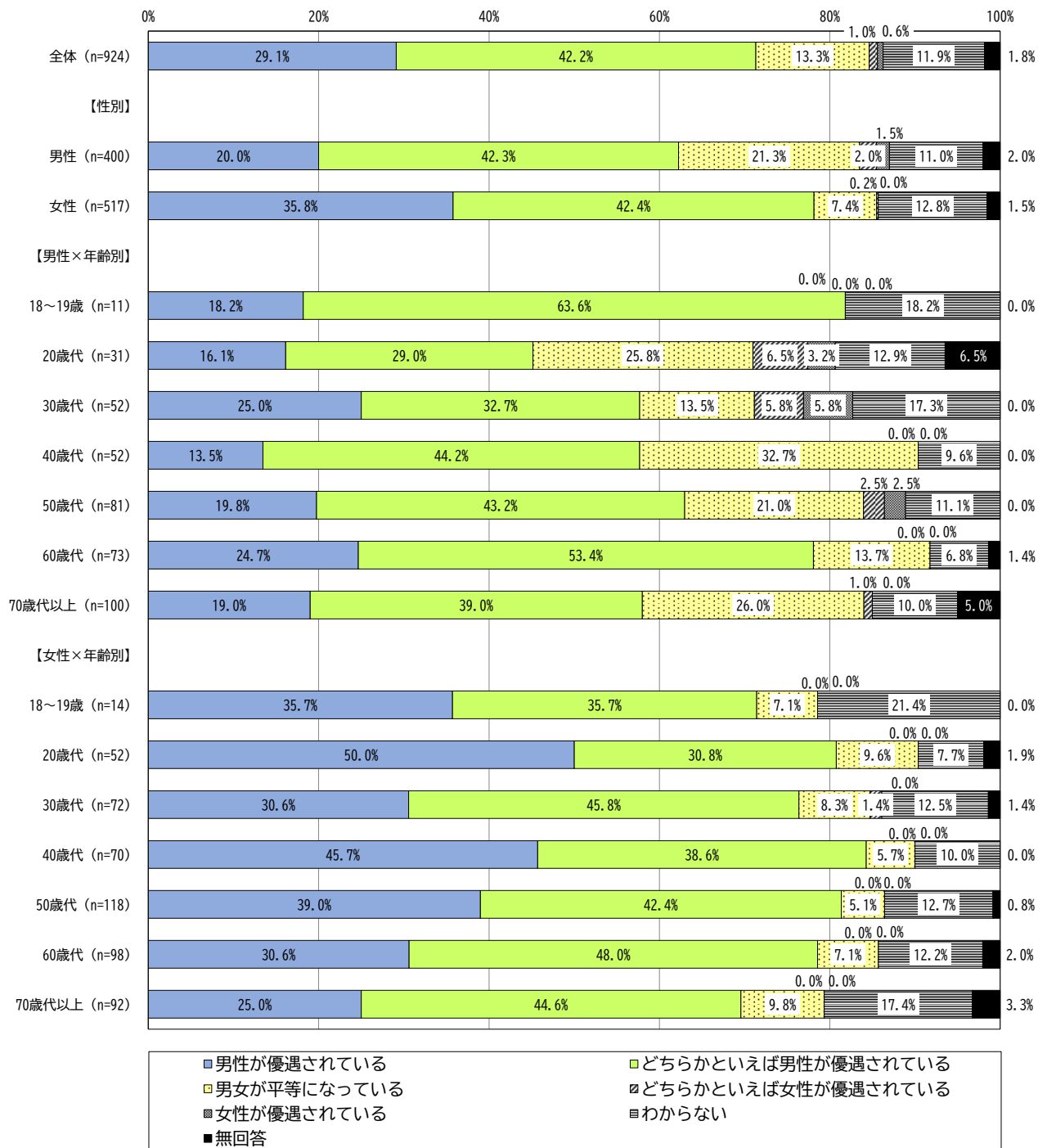
【(5)地域や社会活動の場で:男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性よりも女性の方が、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が高くなっており、男性は女性よりも「男女が平等になっている」という回答が高くなっています。

年代別で見ると、男性は年齢が上がるに従い、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が増加する傾向にあり、女性は40歳代、60歳代で5割前後と高い回答となっています。

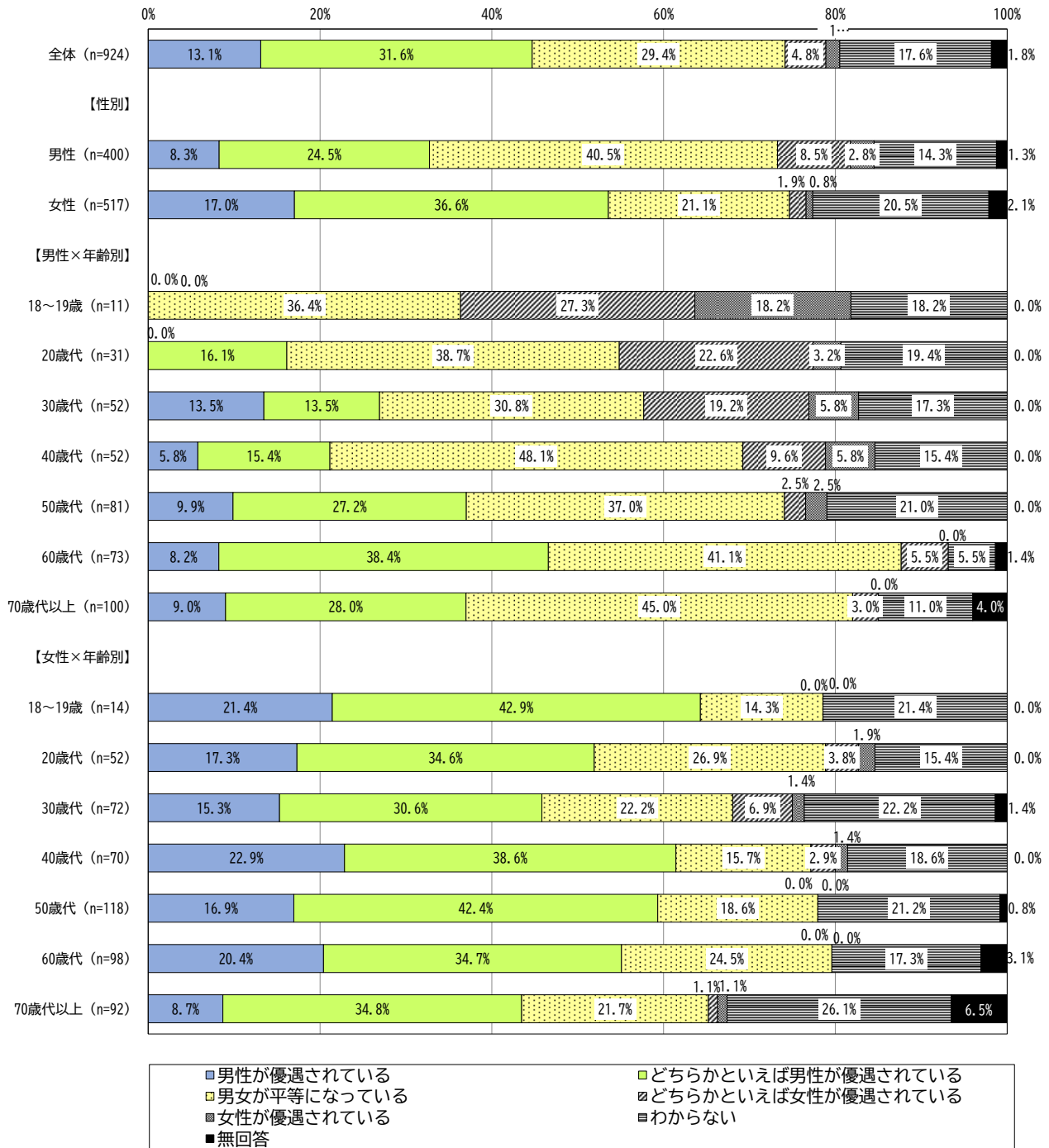
【(6)政治や政策決定の場で:男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性よりも女性の方が、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が高くなっており、女性の8割近くの方が回答しています。

年代別でみると、女性よりも男性のほうが18~19歳以外の全ての世代で、「男女が平等になっている」という回答が高くなっています。女性の20歳代、40歳代、50歳代では8割以上の方が「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答しています。

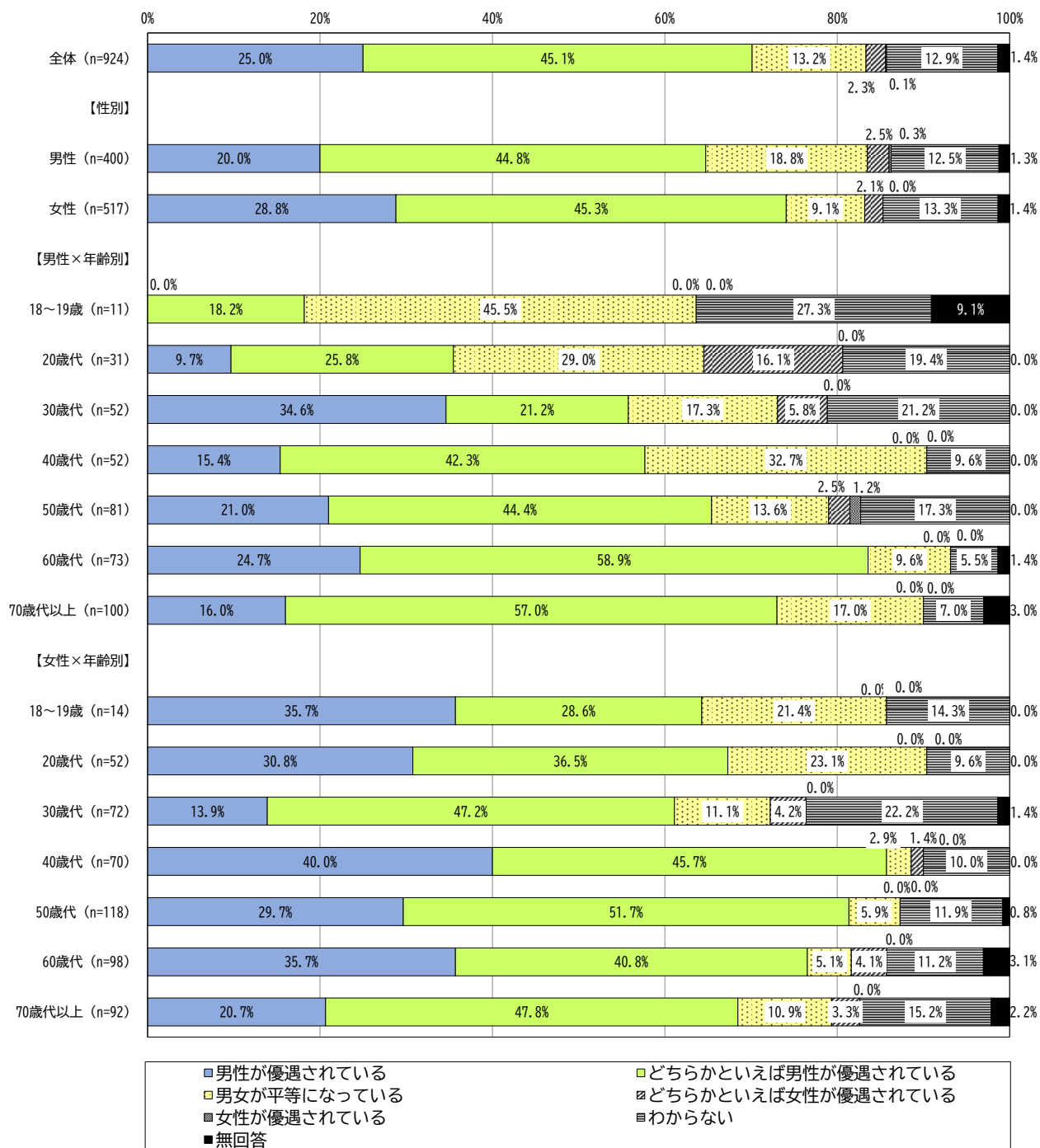
【(7)法律や制度の上で:男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性よりも女性の方が、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が高くなっており、男性は女性よりも「男女が平等になっている」という回答が高くなっています。

年代別でみると、男性の若年者は「どちらかといえば女性が優遇されている」、「女性が優遇されている」という回答が高い傾向にあります。また、女性では、18~19歳、40歳代、50歳代で「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が高くなっています。

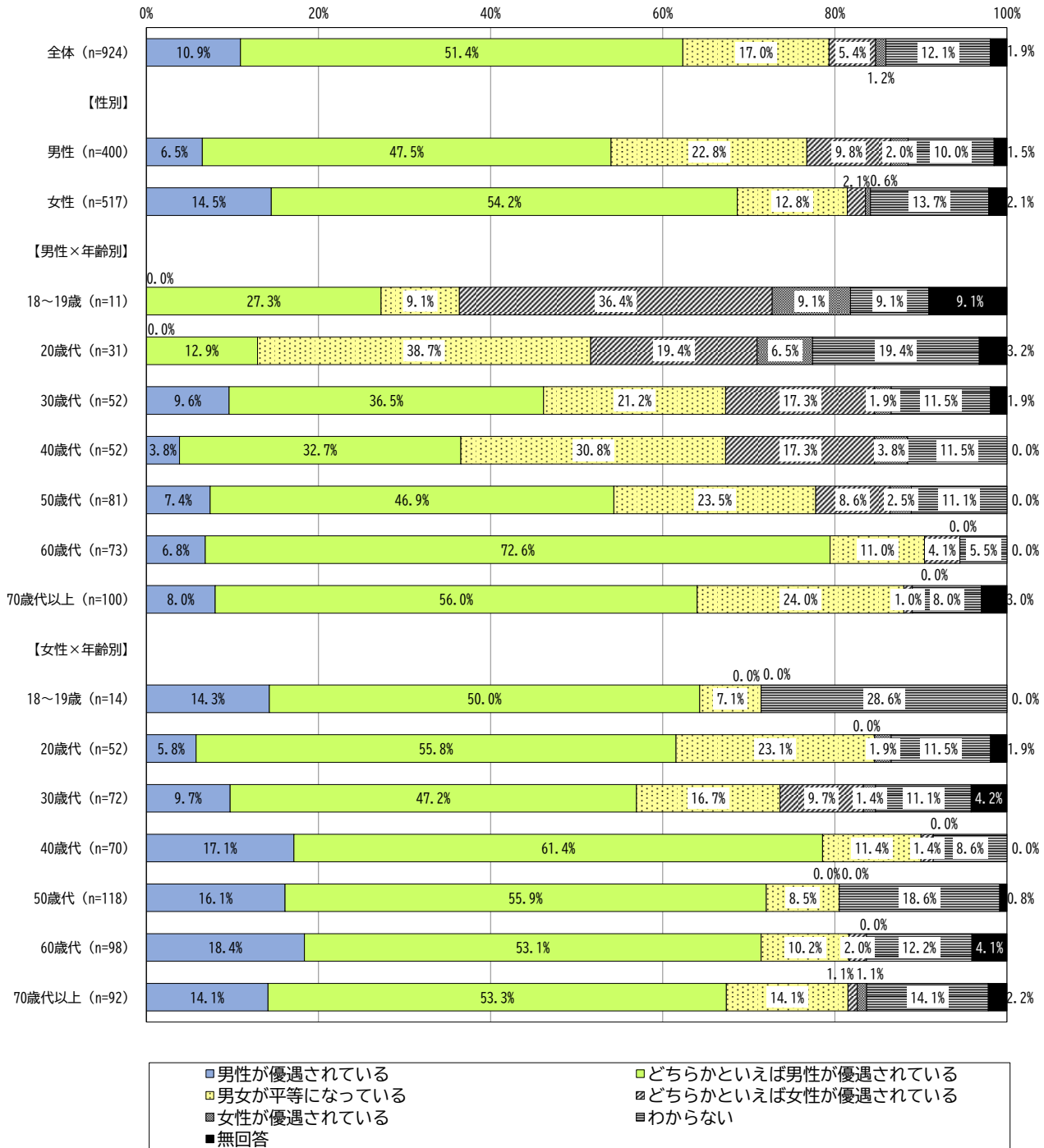
【(8)慣習・しきたり等で:男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性よりも女性の方が、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が高くなっており、男性は女性よりも「男女が平等になっている」という回答が高くなっています。

年代別でみると、男性は年齢が上がるに従い「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が高くなる傾向があり、女性の40歳代、50歳代では8割以上の方が「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答しています。

【(9)社会全体で:男女別・年代別クロス表】

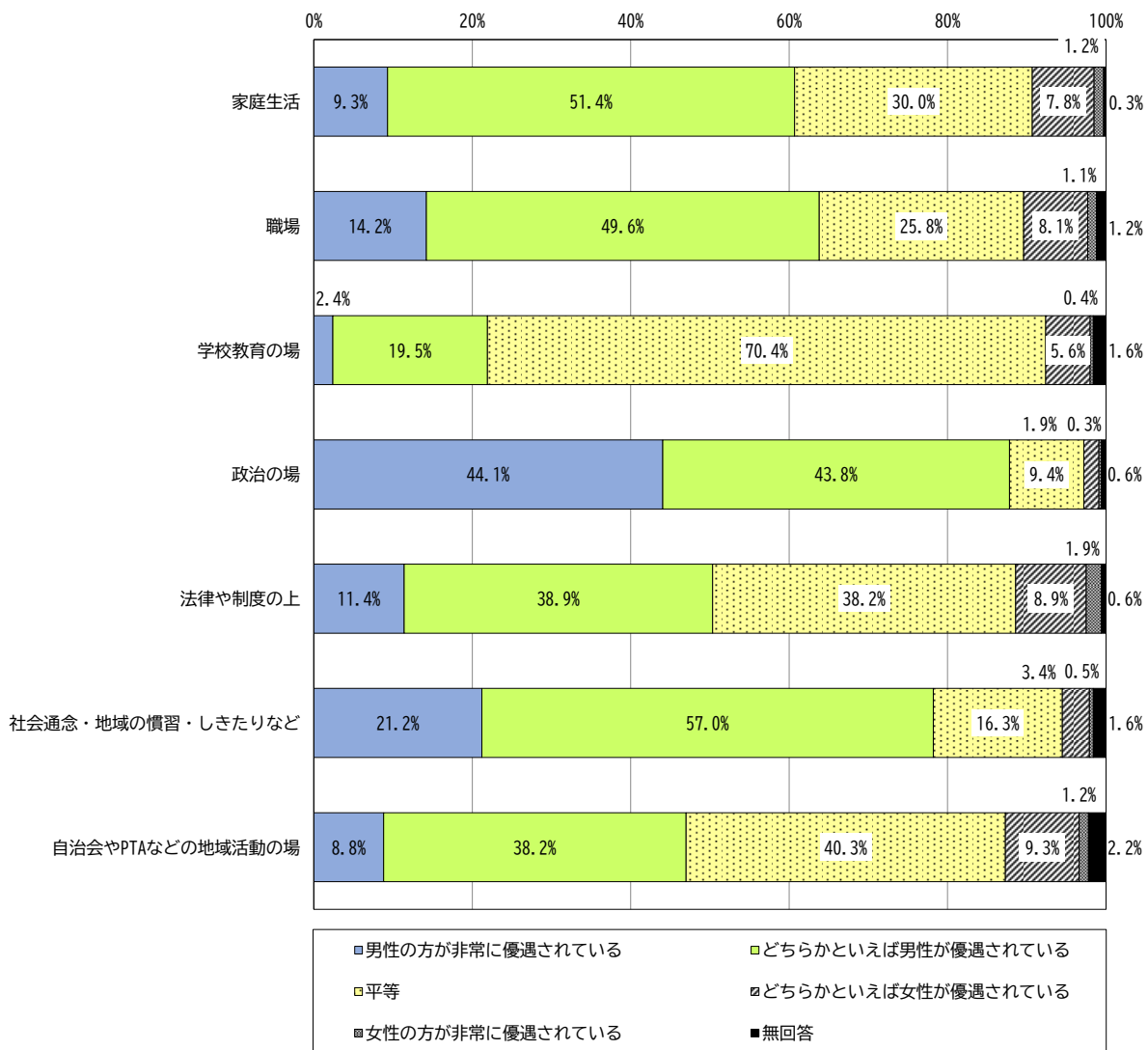


男女別では、男性よりも女性の方が、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が高くなっており、男性は女性よりも「男女が平等になっている」という回答が高くなっています。

年代別でみると、男性の50歳代以上及び女性の全ての年代において「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が高くなっています。

【参考】

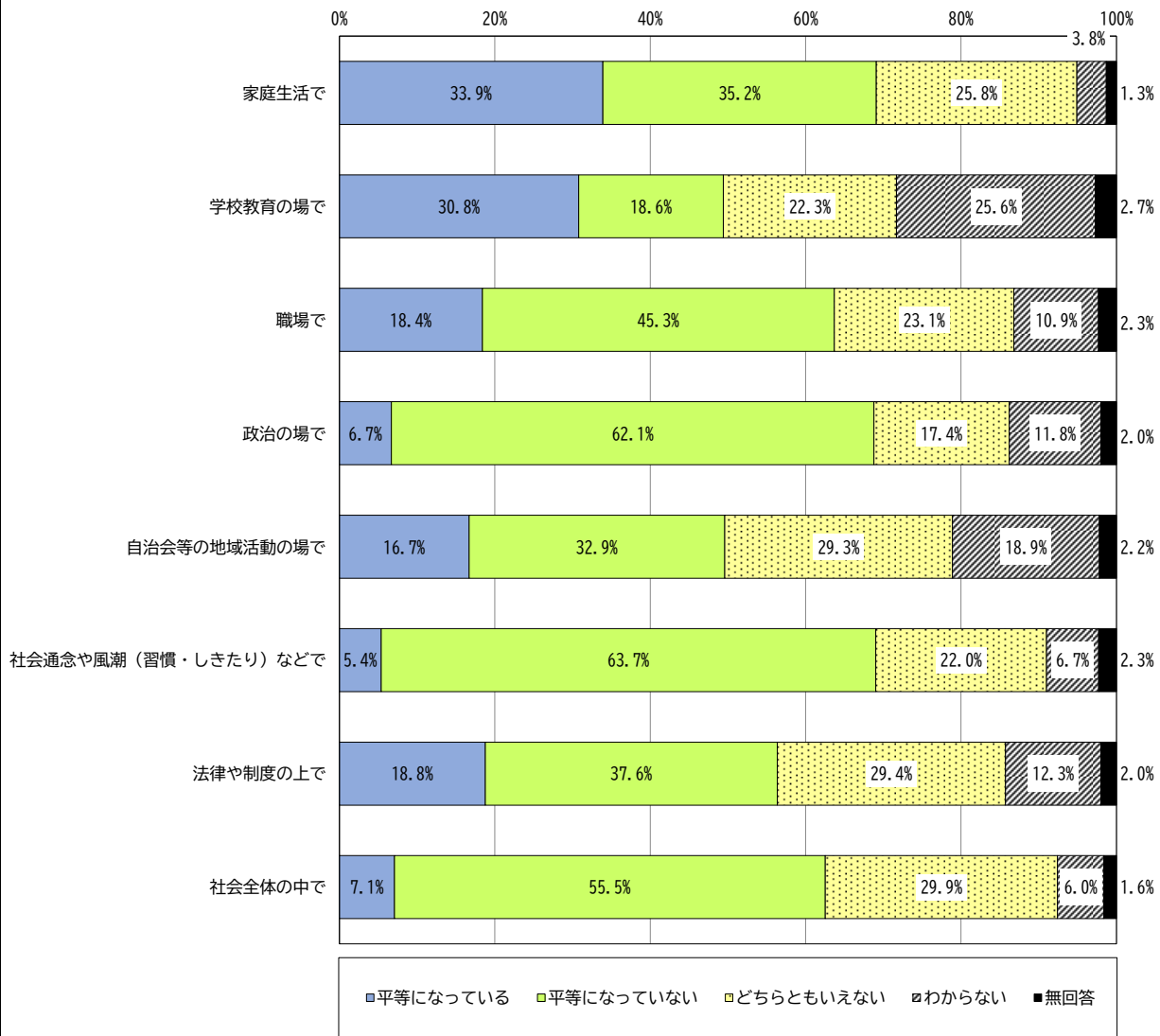
内閣府：「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和6年調査)



(n=2,673)

【参考】

埼玉県：「男女共同参画に関する意識・実態調査」(令和2年調査)



(n=2,221)

問9 あなたは、次の(1)～(7)の考え方についてどう思いますか。それぞれの項目ごとにあてはまる番号を1つずつ選び、その番号に○をつけてください。(1～5)に○をつけてください。

性差に関する意識についてたずねたところ、「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』では、『こどもの数や産む時期を決めるにあたって、女性の主体的な意見を尊重した方がよい』が**74.9%**と最も多く、次いで、『女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい』が**39.7%**、『子育ては、やはり母親でなくてはと思う』が**28.8%**となっています。

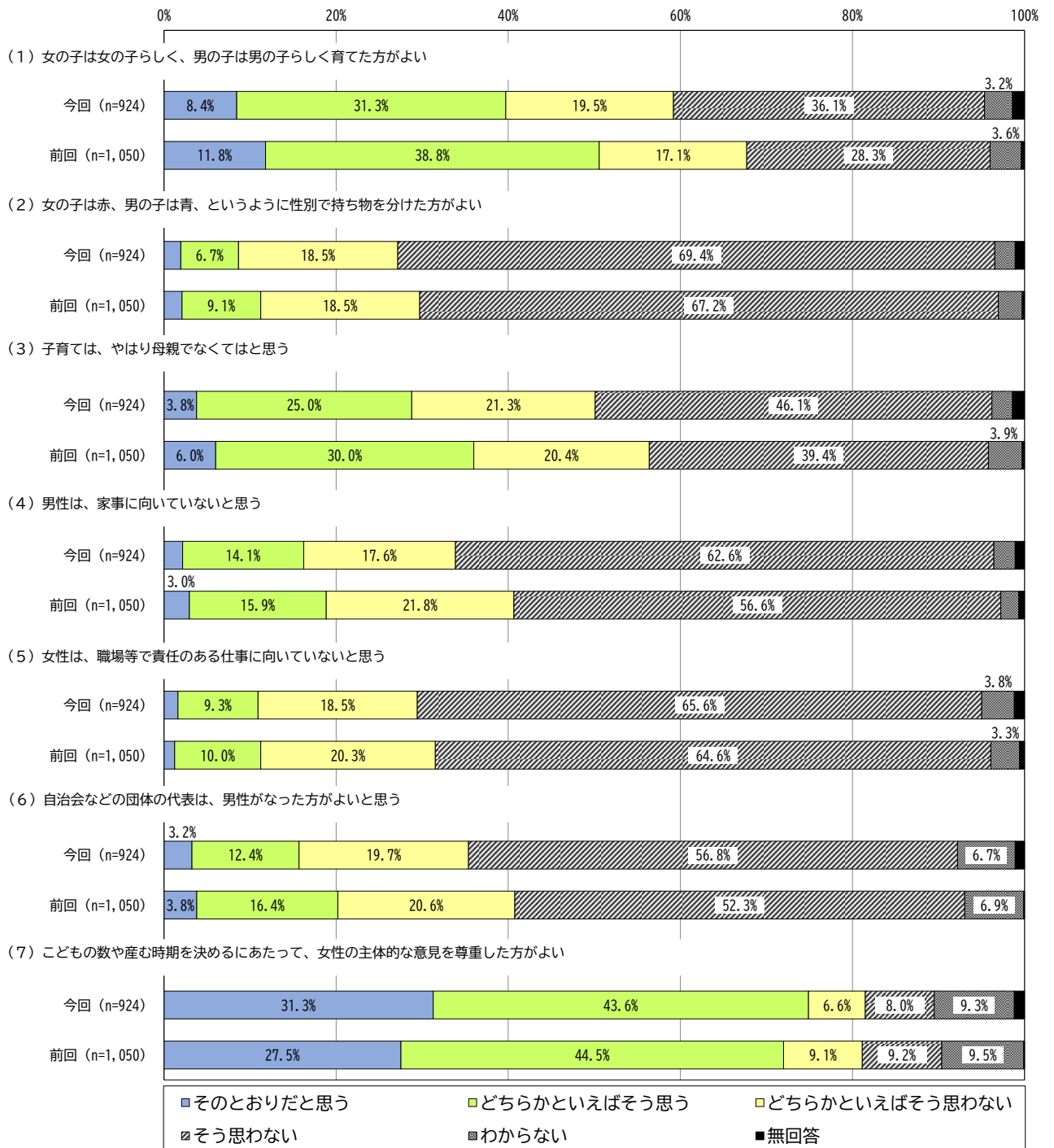
反対に、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」を合わせた『そう思わない(計)』では、『女の子は赤、男の子は青、というように性別で持ち物を分けた方がよい』が**87.9%**と最も多く、次いで、『女性は、職場等で責任のある仕事に向いていないと思う』が**84.1%**、『男性は、家事に向いていないと思う』が**80.2%**となっています。

また、「わからない」では、『こどもの数や産む時期を決めるにあたって、女性の主体的な意見を尊重した方がよい』が**9.3%**と最も多く、次いで、『自治会などの団体の代表は、男性になった方がよいと思う』が**6.7%**、『女性は、職場等で責任のある仕事に向いていないと思う』が**3.8%**となっています。

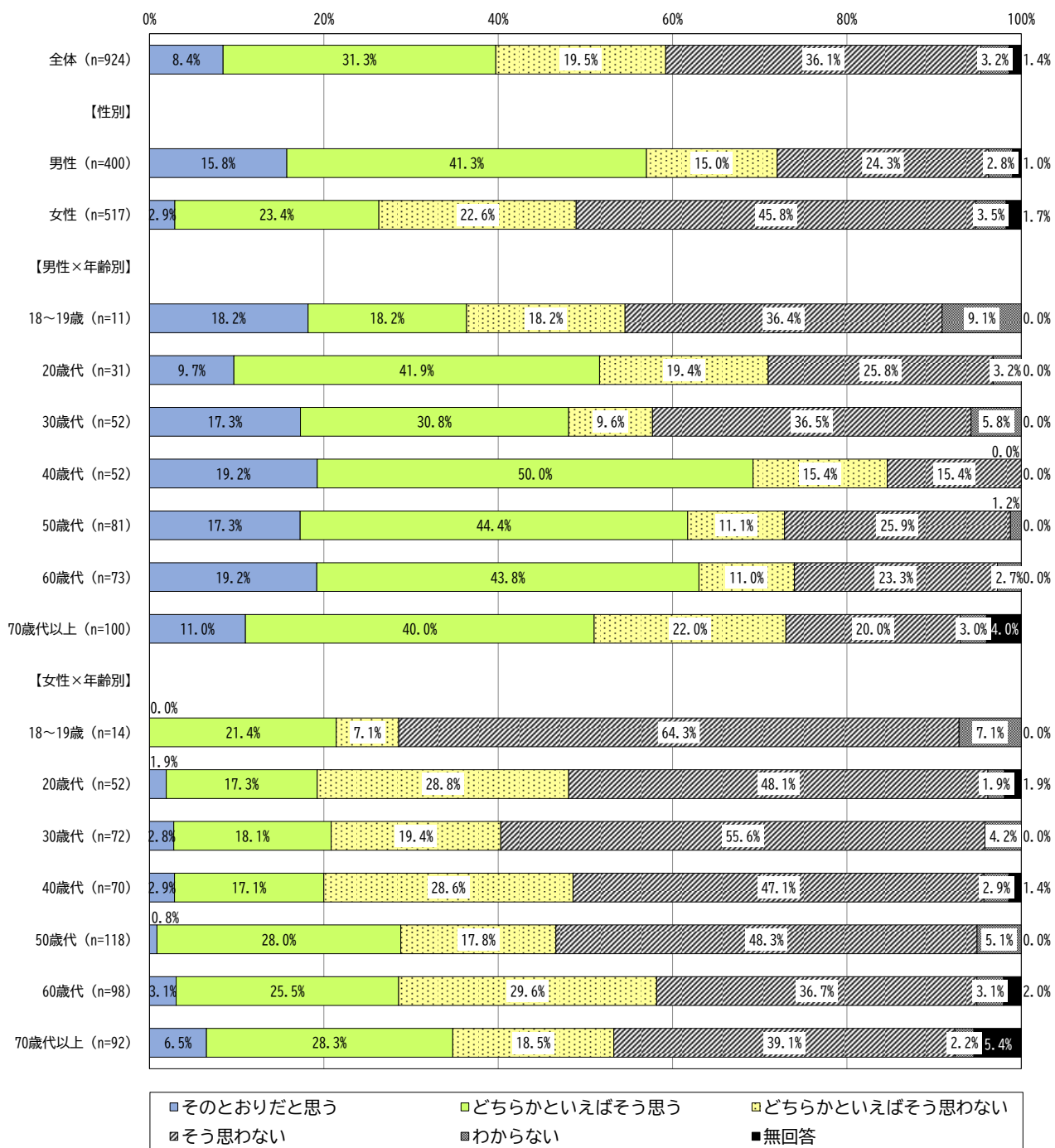
#### 【前回調査(令和2年度)との比較】

「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」に賛成の意見「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計が**39.7%**、反対意見の「どちらかと言えばそう思わない」、「そう思わない」の合計が**55.6%**であり、前回と比較すると、賛成意見が**10.9ポイント**減少し、反対意見が**10.2ポイント**増えていることから、性差に関する意識の変化がうかがえます。

項目(構成比)		だそ との 思う おり	そい ど う え ち ら か と	思 い ど う え ち ら か と	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答	回 答 者 数
(1) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい	今回(令和7年)	8.4%	31.3%	19.5%	36.1%	3.2%	1.4%	100.0%
	前回(令和2年)	11.8%	38.8%	17.1%	28.3%	3.6%	0.4%	100.0%
(2) 女の子は赤、男の子は青、というように性別で持ち物を分けた方がよい	今回(令和7年)	1.9%	6.7%	18.5%	69.4%	2.4%	1.1%	100.0%
	前回(令和2年)	2.1%	9.1%	18.5%	67.2%	2.8%	0.3%	100.0%
(3) 子育ては、やはり母親でなくてはと思う	今回(令和7年)	3.8%	25.0%	21.3%	46.1%	2.4%	1.4%	100.0%
	前回(令和2年)	6.0%	30.0%	20.4%	39.4%	3.9%	0.3%	100.0%
(4) 男性は、家事に向いていないと思う	今回(令和7年)	2.2%	14.1%	17.6%	62.6%	2.5%	1.1%	100.0%
	前回(令和2年)	3.0%	15.9%	21.8%	56.6%	2.1%	0.7%	100.0%
(5) 女性は、職場等で責任のある仕事に向いていないと思う	今回(令和7年)	1.6%	9.3%	18.5%	65.6%	3.8%	1.2%	100.0%
	前回(令和2年)	1.2%	10.0%	20.3%	64.6%	3.3%	0.6%	100.0%
(6) 自治会などの団体の代表は、男性になった方がよいと思う	今回(令和7年)	3.2%	12.4%	19.7%	56.8%	6.7%	1.1%	100.0%
	前回(令和2年)	3.8%	16.4%	20.6%	52.3%	6.9%	0.1%	100.0%
(7) こどもの数や産む時期を決めるにあたって、女性の主体的な意見を尊重した方がよい	今回(令和7年)	31.3%	43.6%	6.6%	8.0%	9.3%	1.2%	100.0%
	前回(令和2年)	27.5%	44.5%	9.1%	9.2%	9.5%	0.1%	100.0%



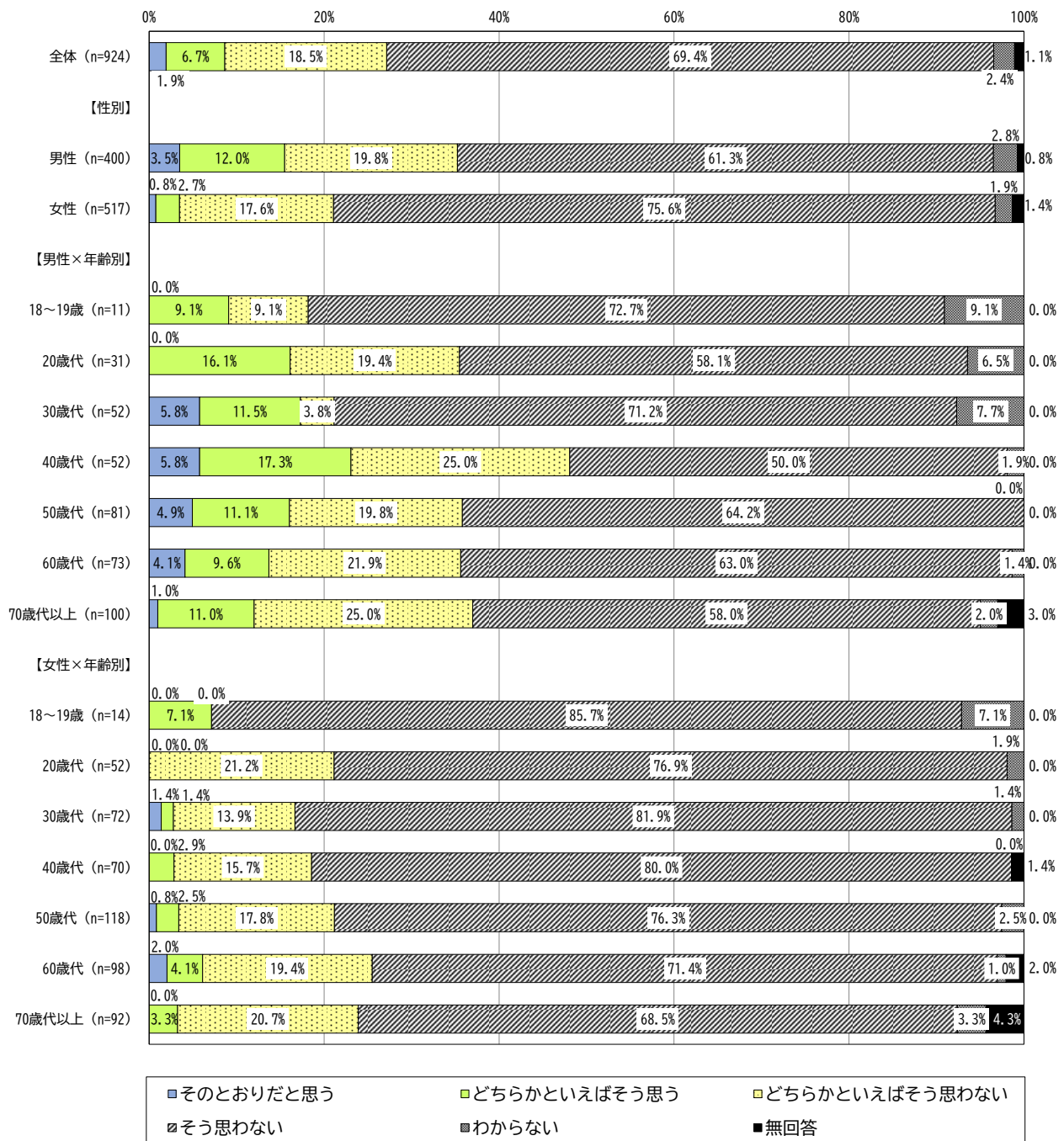
【(1)女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい:男女別・年代別クロス表】



男女別では、女性よりも男性の方が、「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答が高くなっています。

年代別でみると、男性は40歳代、女性は70歳代以上において「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答が最も高くなっています。

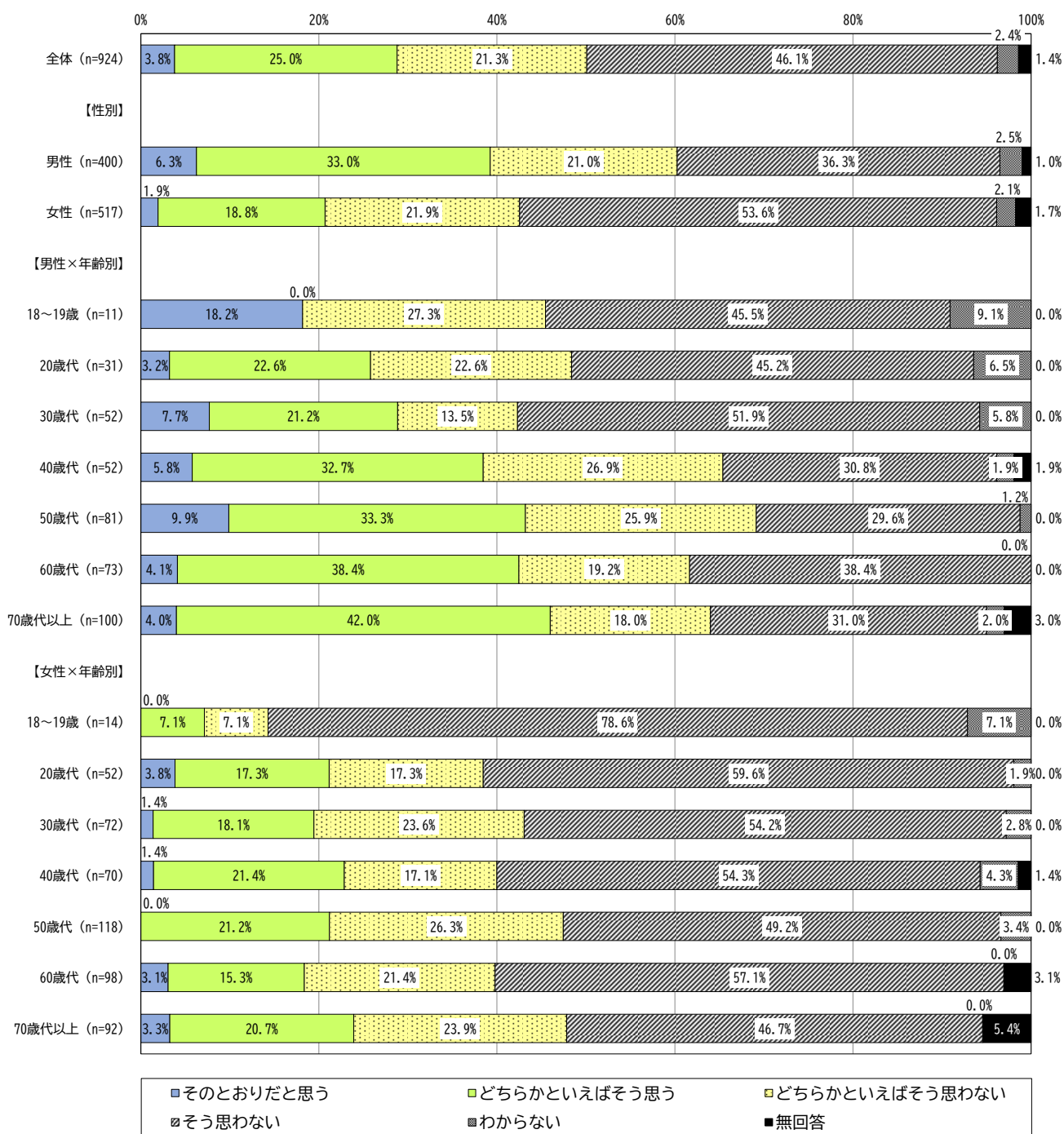
【(2)女の子は赤、男の子は青、というように性別で持ち物を分けた方がよい  
:男女別・年代別クロス表】



男女別では、女性よりも男性の方が「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答が高くなっています。

年代別でみると、男性は40歳代までは年代が上がるに従い「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答が増加する傾向にあり、50歳代以降は減少する傾向にあります。

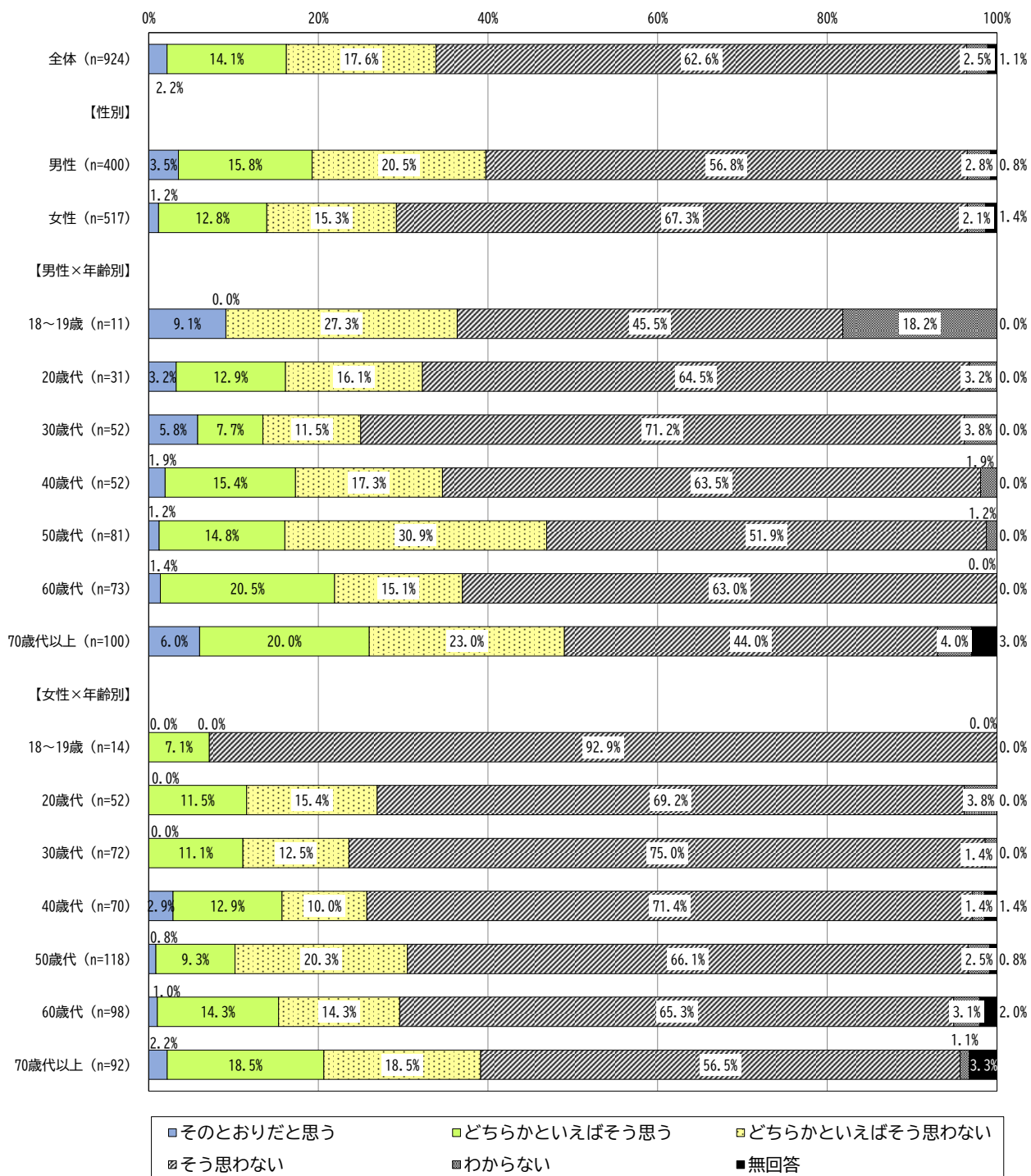
【(3)子育ては、やはり母親でなくてはと思う：男女別・年代別クロス表】



男女別では、女性よりも男性の方が「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答が高く、女性では7割半以上の方が「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」と回答しています。

年代別でみると、男性では年代が上がるに従い「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答が増加する傾向にあります。

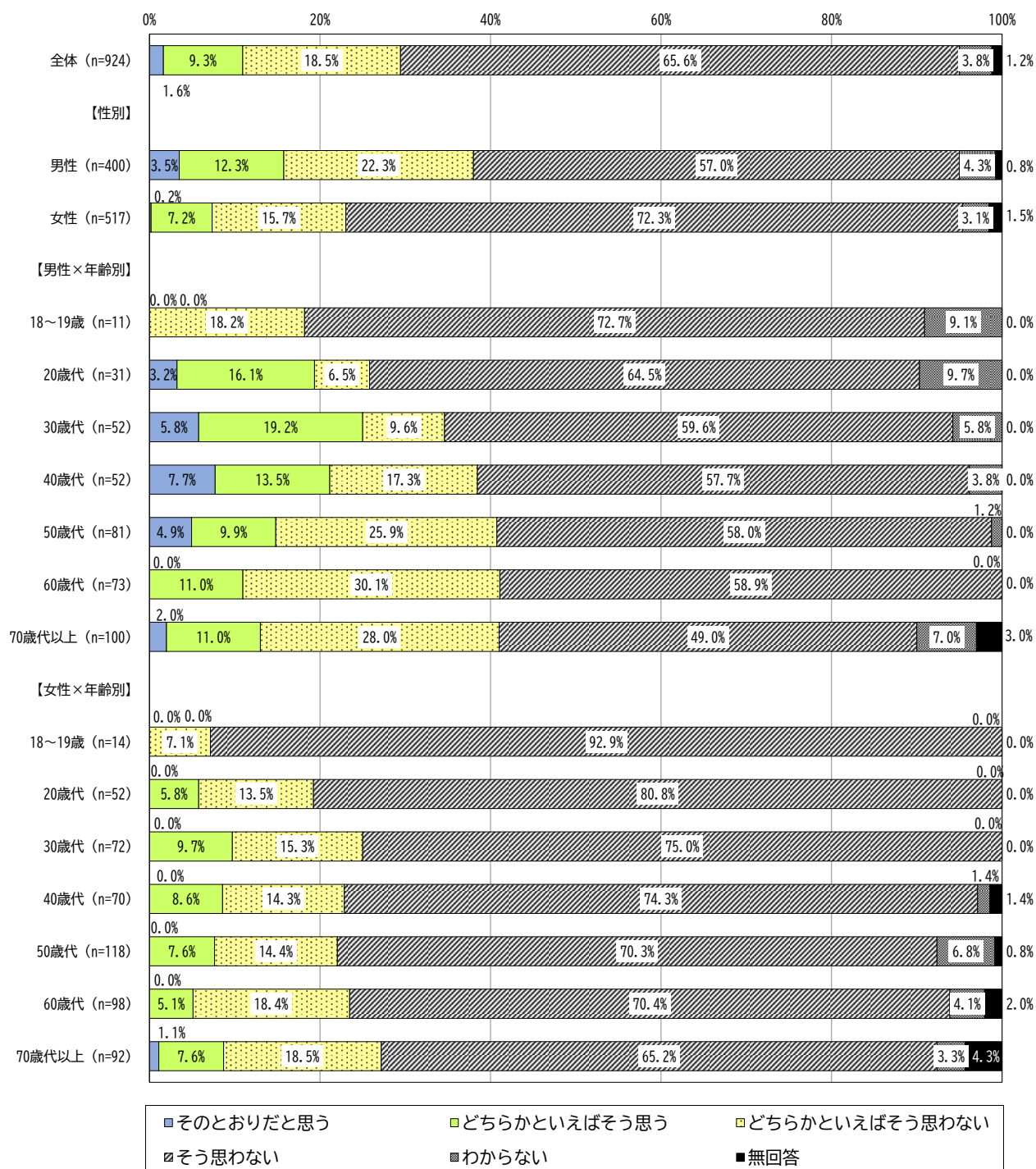
【(4)男性は、家事に向いていないと思う:男女別・年代別クロス表】



男女別では、女性よりも男性の方が「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答がやや高くなっています。

年代別でみると、男女ともに年代が上がるに従い「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答がやや増加する傾向にあります。

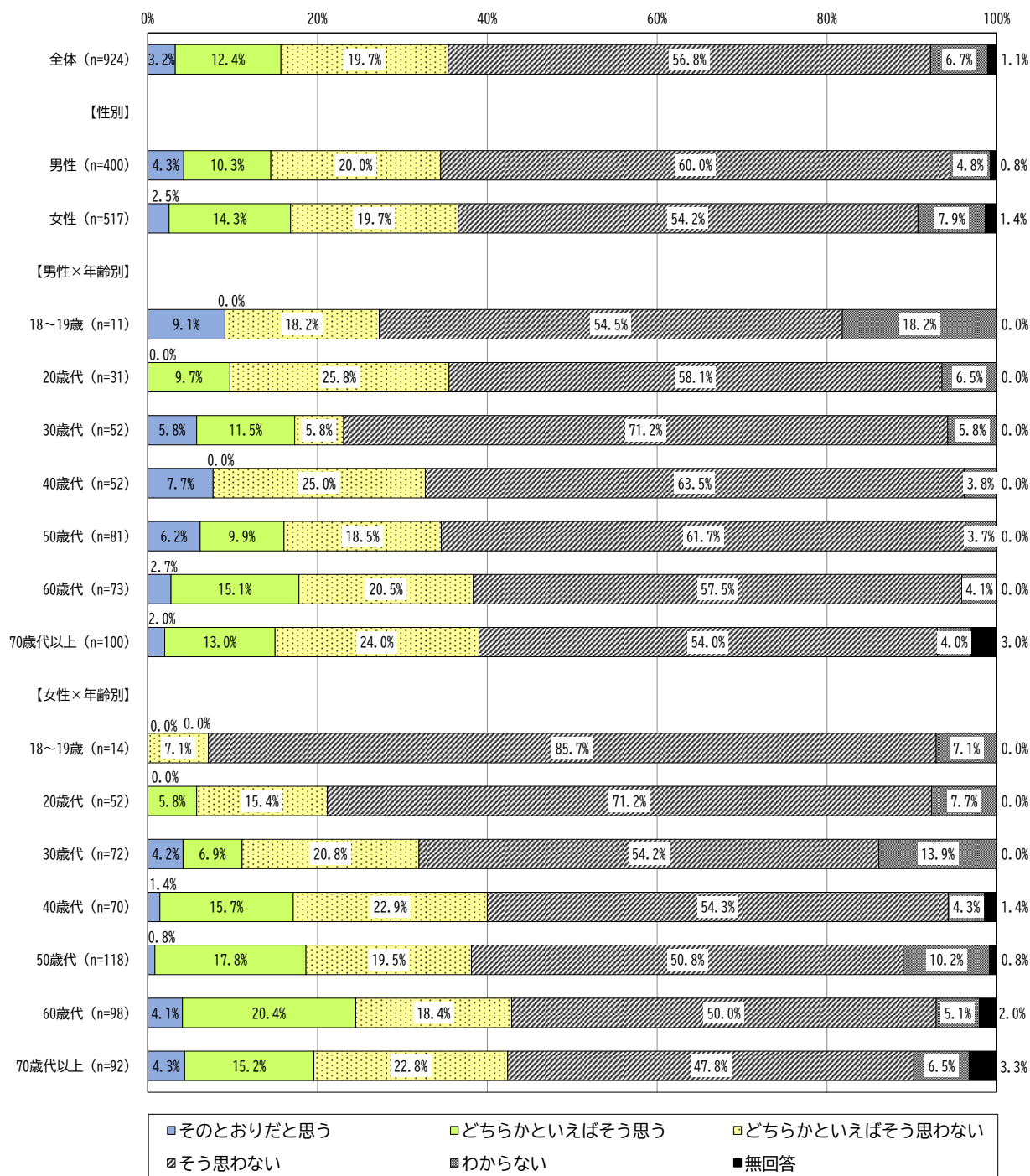
【(5)女性は、職場等で責任のある仕事に向いていないと思う：男女別・年代別クロス表】



男女別では、女性よりも男性の方が「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答が高くなっています。

年代別でみると、男性では、30歳代と40歳代で「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答がやや高くなっています。女性では、年齢が上がるに従い「どちらかといえばそう思う」という回答が多くなる傾向にあります。

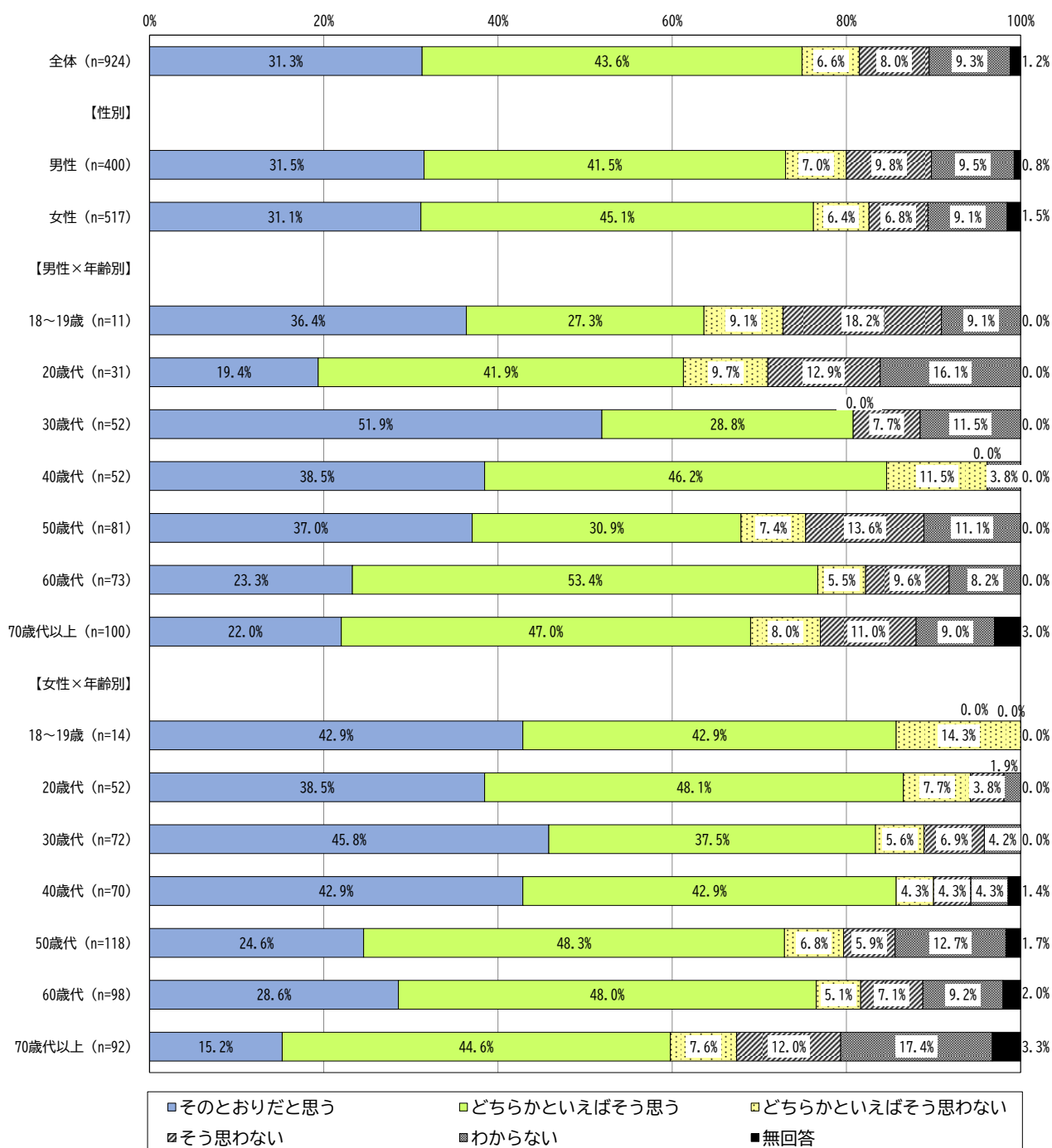
【(6)自治会などの団体の代表は、男性がなった方がよいと思う：男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性よりも女性の方が「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答がやや高くなっています。

年代別にみると、女性は年代が上がるに従い「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答が高くなる傾向にあります。

【(7)子どもの数や産む時期を決めるにあたって、女性の主体的な意見を尊重した方がよい  
:男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性よりも女性の方が「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答がやや高くなっています。

年代別でみると、男性は30歳代、40歳代で「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答が8割を超えています。

## ●家庭生活・子育てについて

問10 今現在あなたの家庭では、次の(1)～(8)のことについて、(主に)男性、女性のどちらが行っていますか。それぞれ1つずつ選びその番号(1～5)に○をつけてください。

家庭生活や子育てについて主に担当している性別をたずねたところ、「(主に)男性」では、『生活費の確保』が**46.5%**と最も多く、次いで、『高額な商品や土地、家屋の購入の決定』が**28.0%**、『地域の行事への参加』が**17.0%**となっています。

「男性・女性共同して分担」では、『高額な商品や土地、家屋の購入の決定』が**50.4%**と最も多く、次いで、『生活費の確保』が**33.0%**、『家計の管理』が**26.3%**となっています。

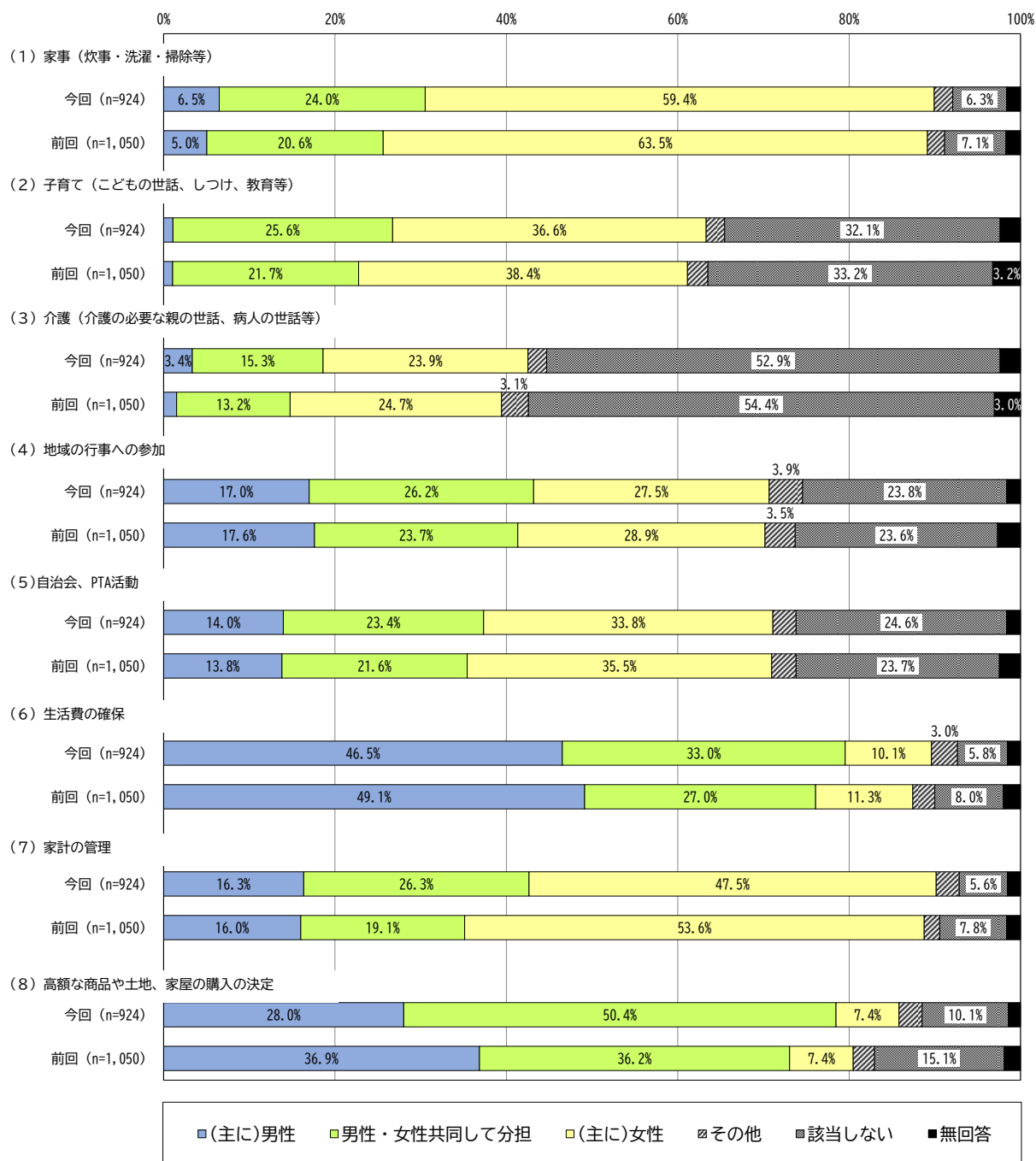
「(主に)女性」では、『家事(炊事・洗濯・掃除等)』が**59.4%**と最も多く、次いで、『家計の管理』が**47.5%**、『子育て(こどもの世話、しつけ、教育等)』が**36.6%**となっています。

また「その他」では、『地域の行事への参加』が**3.9%**と最も多く、次いで、『生活費の確保』が**3.0%**、『自治会、PTA活動』、『家計の管理』、『高額な商品や土地、家屋の購入の決定』がそれぞれ**2.7%**となっています。

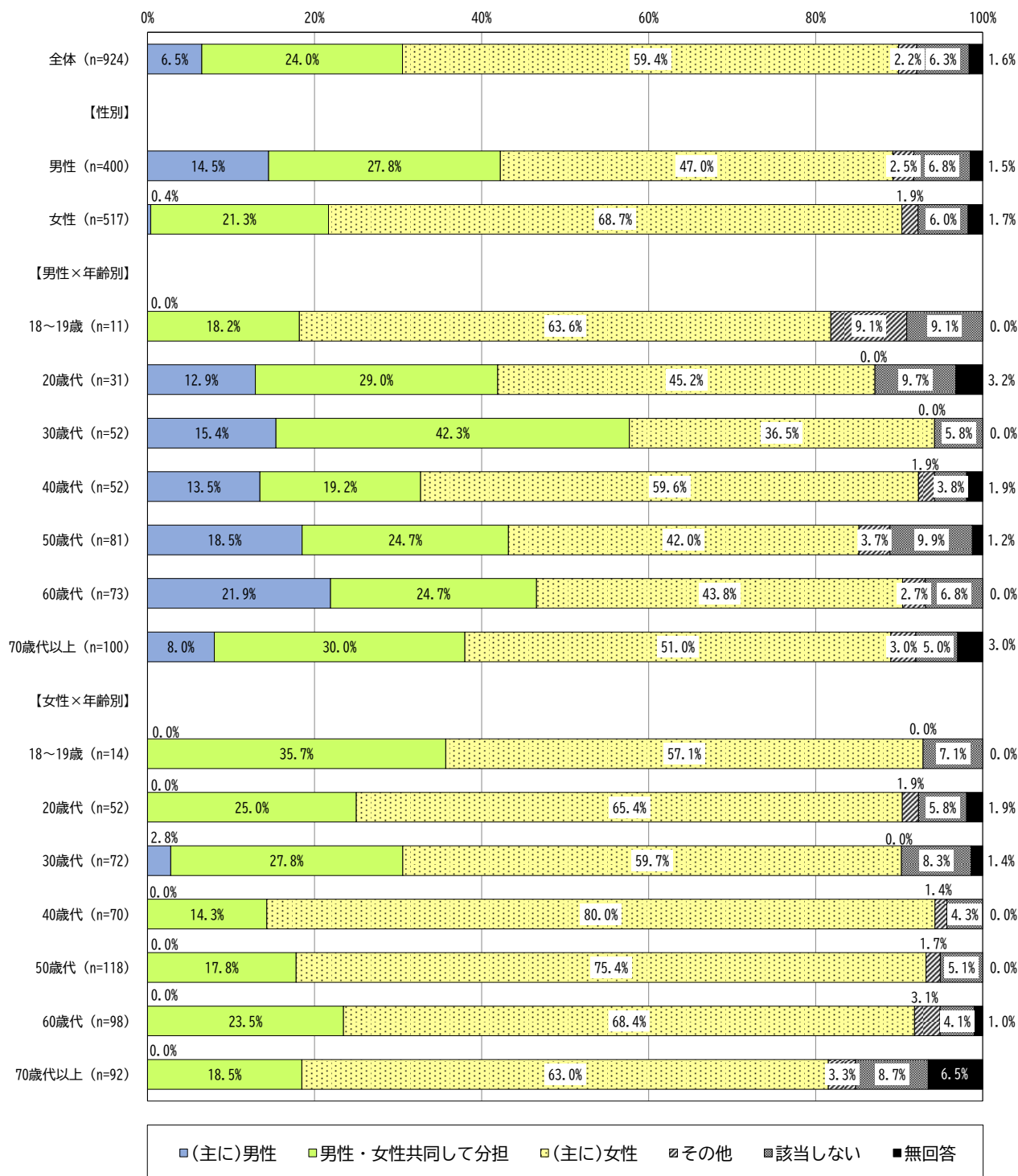
### 【前回調査(令和2年度)との比較】

前回との比較では、ほとんどの項目で「(主に)女性」という回答が減少しています。また、「高額な商品や土地、家屋の購入の決定」では、前回より「男性・女性共同して分担」という回答が**14.2**ポイント増加しています。

項目(構成比)		(主に)男性	男性・女性共同	(主に)女性	その他	該当しない	無回答	回答者数
(1) 家事(炊事・洗濯・掃除等)	今回(令和7年)	6.5%	24.0%	59.4%	2.2%	6.3%	1.6%	100.0%
	前回(令和2年)	5.0%	20.6%	63.5%	2.0%	7.1%	1.7%	100.0%
(2) 子育て(こどもの世話、しつけ、教育等)	今回(令和7年)	1.1%	25.6%	36.6%	2.2%	32.1%	2.4%	100.0%
	前回(令和2年)	1.0%	21.7%	38.4%	2.4%	33.2%	3.2%	100.0%
(3) 介護(介護の必要な親の世話、病人の世話等)	今回(令和7年)	3.4%	15.3%	23.9%	2.2%	52.9%	2.4%	100.0%
	前回(令和2年)	1.5%	13.2%	24.7%	3.1%	54.4%	3.0%	100.0%
(4) 地域の行事への参加	今回(令和7年)	17.0%	26.2%	27.5%	3.9%	23.8%	1.6%	100.0%
	前回(令和2年)	17.6%	23.7%	28.9%	3.5%	23.6%	2.7%	100.0%
(5) 自治会、PTA活動	今回(令和7年)	14.0%	23.4%	33.8%	2.7%	24.6%	1.6%	100.0%
	前回(令和2年)	13.8%	21.6%	35.5%	2.9%	23.7%	2.5%	100.0%
(6) 生活費の確保	今回(令和7年)	46.5%	33.0%	10.1%	3.0%	5.8%	1.5%	100.0%
	前回(令和2年)	49.1%	27.0%	11.3%	2.6%	8.0%	2.0%	100.0%
(7) 家計の管理	今回(令和7年)	16.3%	26.3%	47.5%	2.7%	5.6%	1.5%	100.0%
	前回(令和2年)	16.0%	19.1%	53.6%	1.8%	7.8%	1.6%	100.0%
(8) 高額な商品や土地、家屋の購入の決定	今回(令和7年)	28.0%	50.4%	7.4%	2.7%	10.1%	1.4%	100.0%
	前回(令和2年)	36.9%	36.2%	7.4%	2.5%	15.1%	1.9%	100.0%



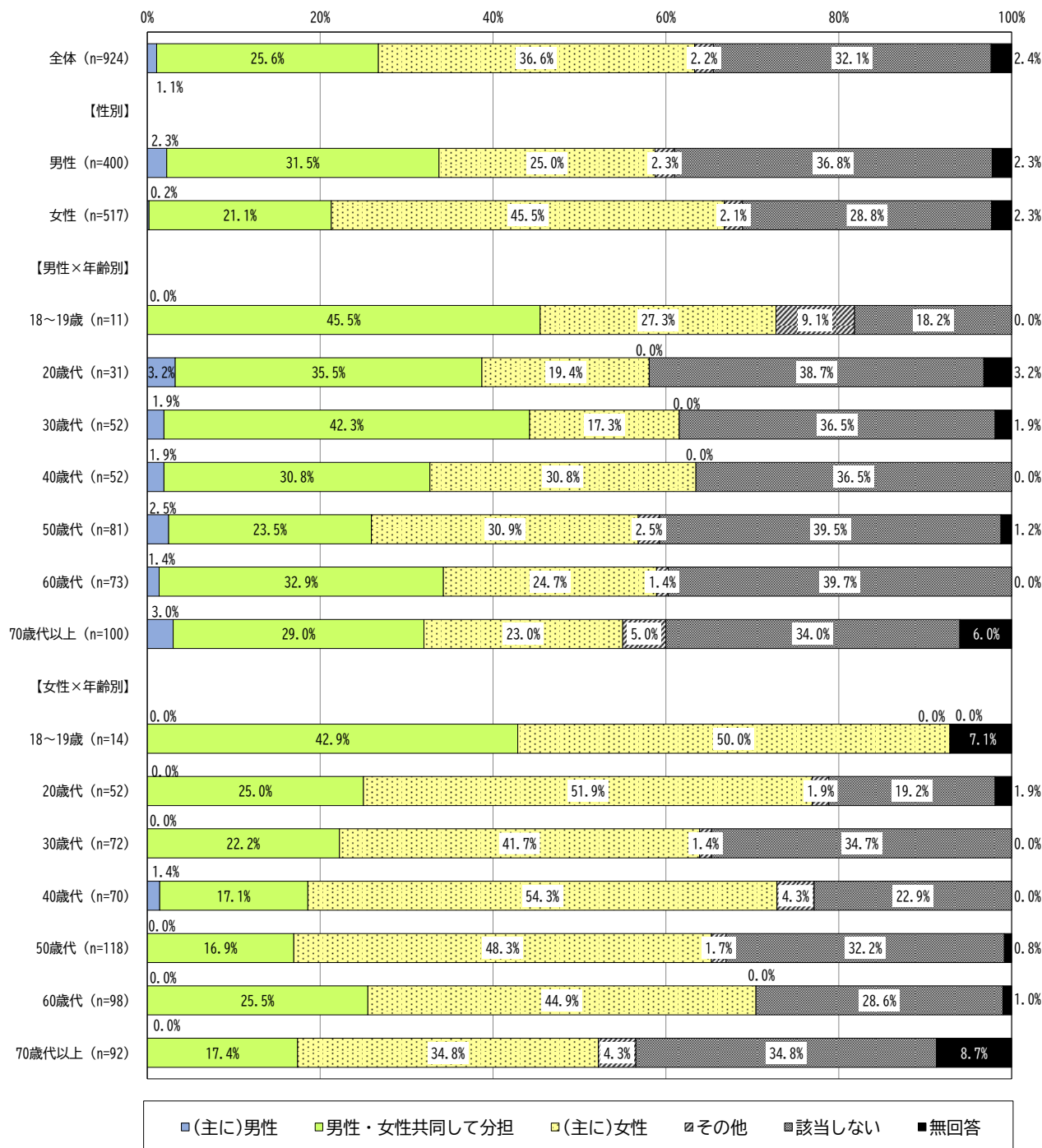
【(1)家事(炊事・洗濯・掃除等):男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性の約1.5割が「(主に)男性」と回答しています。

年代別でみると、男性は「(主に)男性」という回答が20歳以上の年代で、8.0ポイント～21.9ポイントありますが、女性の20歳以上の年代では0.0ポイント～2.8ポイントとなっています。

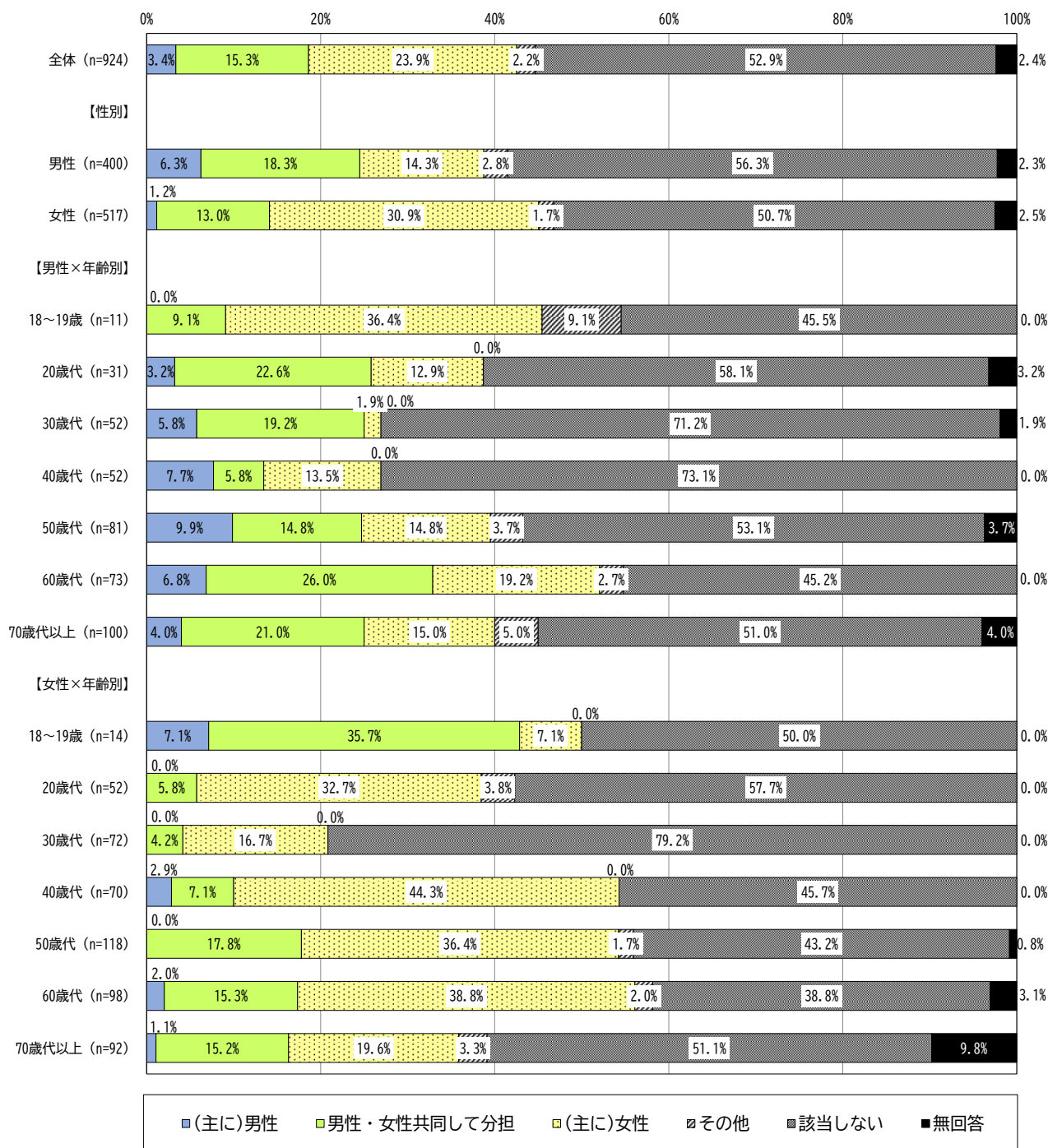
【(2)子育て(こどもの世話、しつけ、教育等):男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性は女性より、「男性・女性共同して分担」という回答が高く、女性は男性より「(主に)女性」という回答が高くなっています。

年代別でみると、男性の18~19歳と30歳代で「男性・女性共同して分担」という回答が4割を超えています。一方、女性では、年齢が上がるに従い、「男性・女性共同して分担」という回答が低くなる傾向がありますが、60歳代の定年後に「男性・女性共同して分担」がやや増加しています。

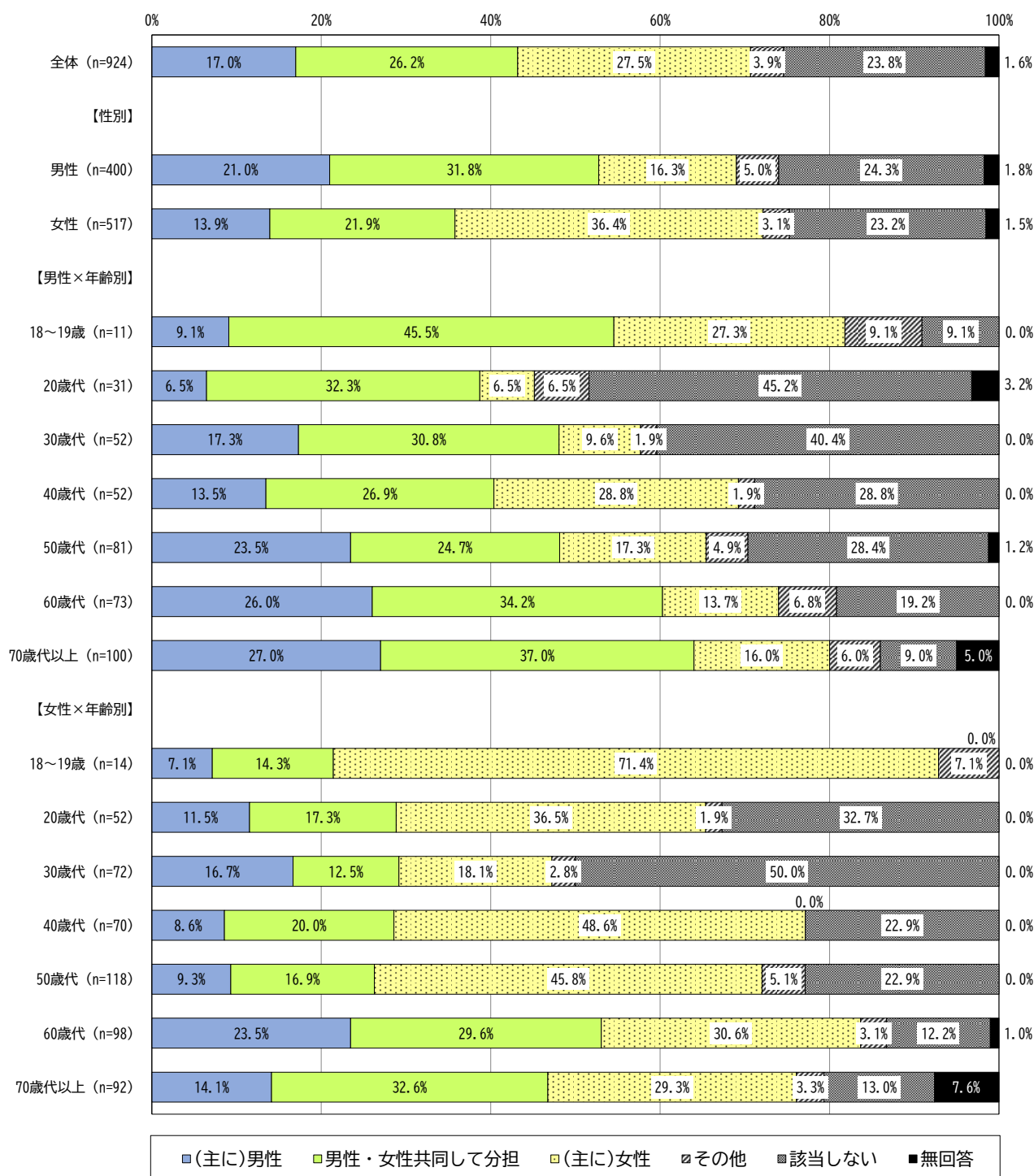
【(3)介護(介護の必要な親の世話、病人の世話等):男女別・年代別クロス表】



男女別では、女性は「(主に)女性」という回答が3割以上となり、「(主に)男性」という回答はあまりありませんでした。

年代別でみると、「(主に)女性」という回答が、女性は20歳代、40歳代、50歳代、60歳代で男性は18~19歳代で3割以上となっています。

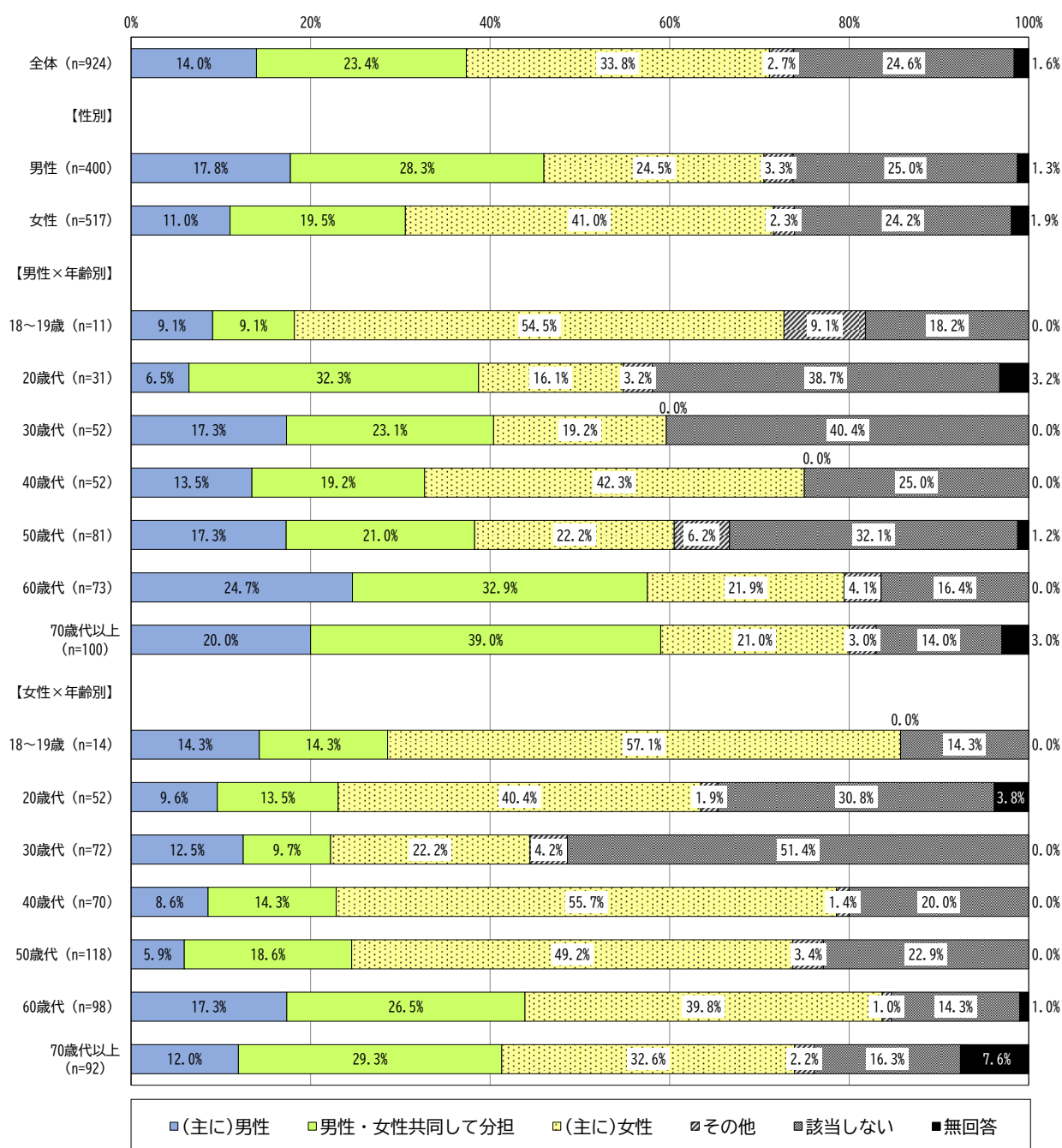
【(4)地域の行事への参加:男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性は「(主に)男性」という回答が女性より高く、女性は、「(主に)女性」という回答が男性より高くなっています。

年代別でみると、男性は、年代が上がるに従い「(主に)男性」という回答が増加する傾向があります。女性は、18歳～19歳では、「(主に)女性」という回答が7割以上となっています。

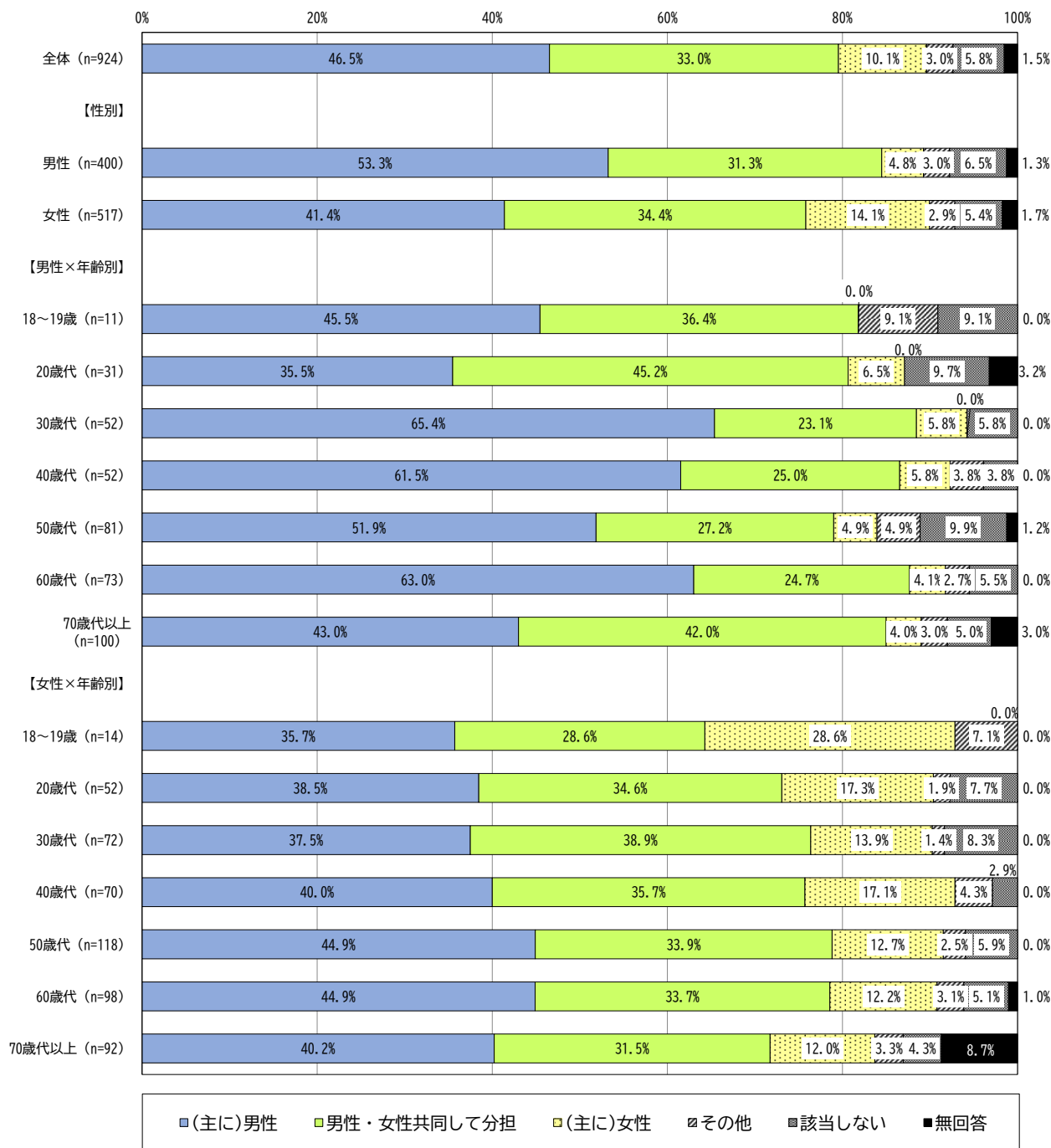
【(5)自治会、PTA活動:男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性は「(主に)男性」という回答が女性より高く、女性は、「(主に)女性」という回答が男性より高くなっています。

年代別でみると、男女ともに60歳代が「(主に)男性」という回答が最も多く、女性は、50歳代が「(主に)男性」という回答が最も少なくなっています。

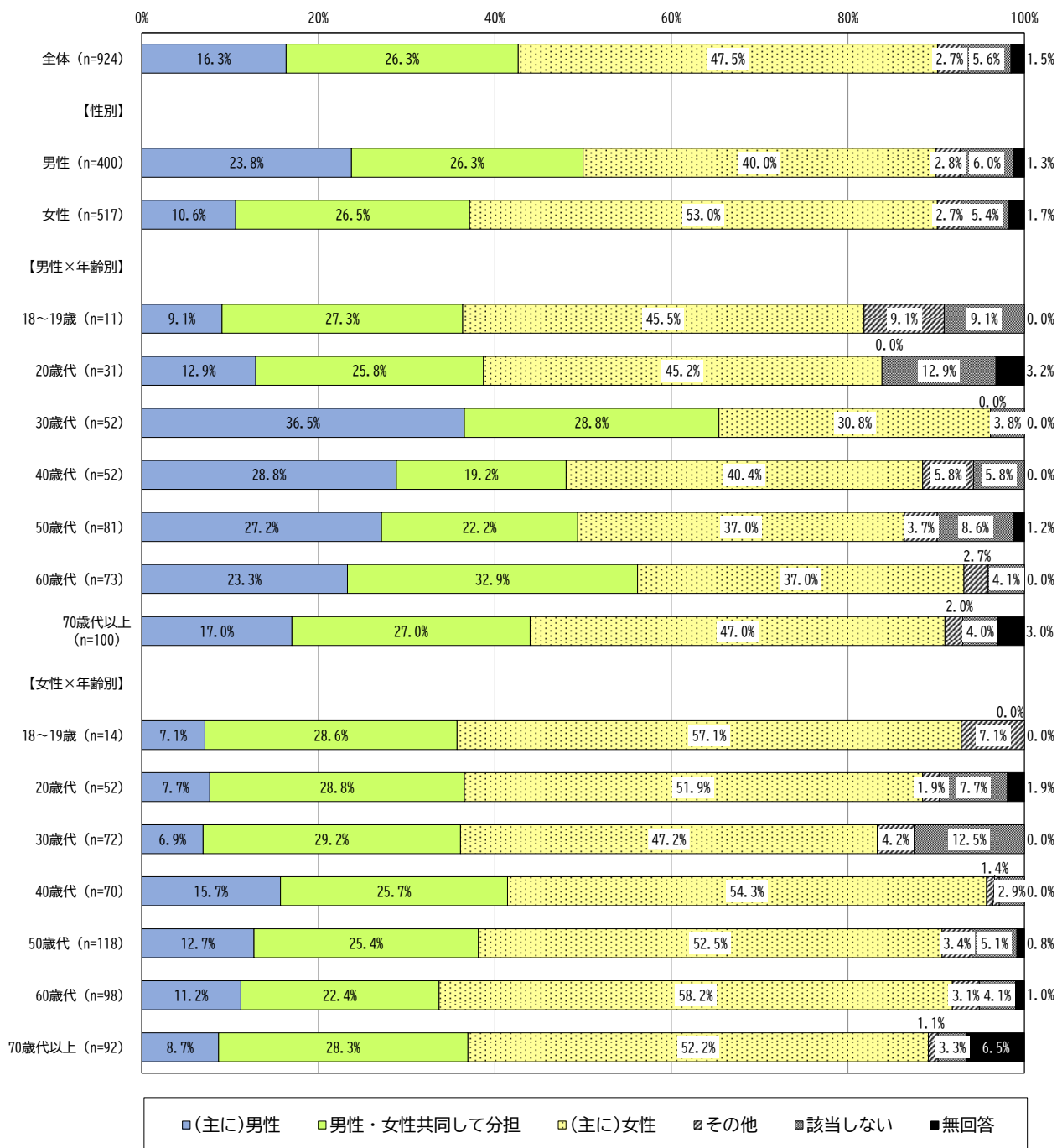
【(6)生活費の確保:男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性は「(主に)男性」という回答が女性より高く、女性は、「(主に)女性」、「男性・女性共同して分担」という回答が男性より高くなっています。

年代別でみると、男性は30歳代～60歳代までは「(主に)男性」という回答が高くなっていますが、男女ともに70歳代以降はやや減少しています。女性は、全ての年代で「(主に)男性」という回答が3割半を超えています。

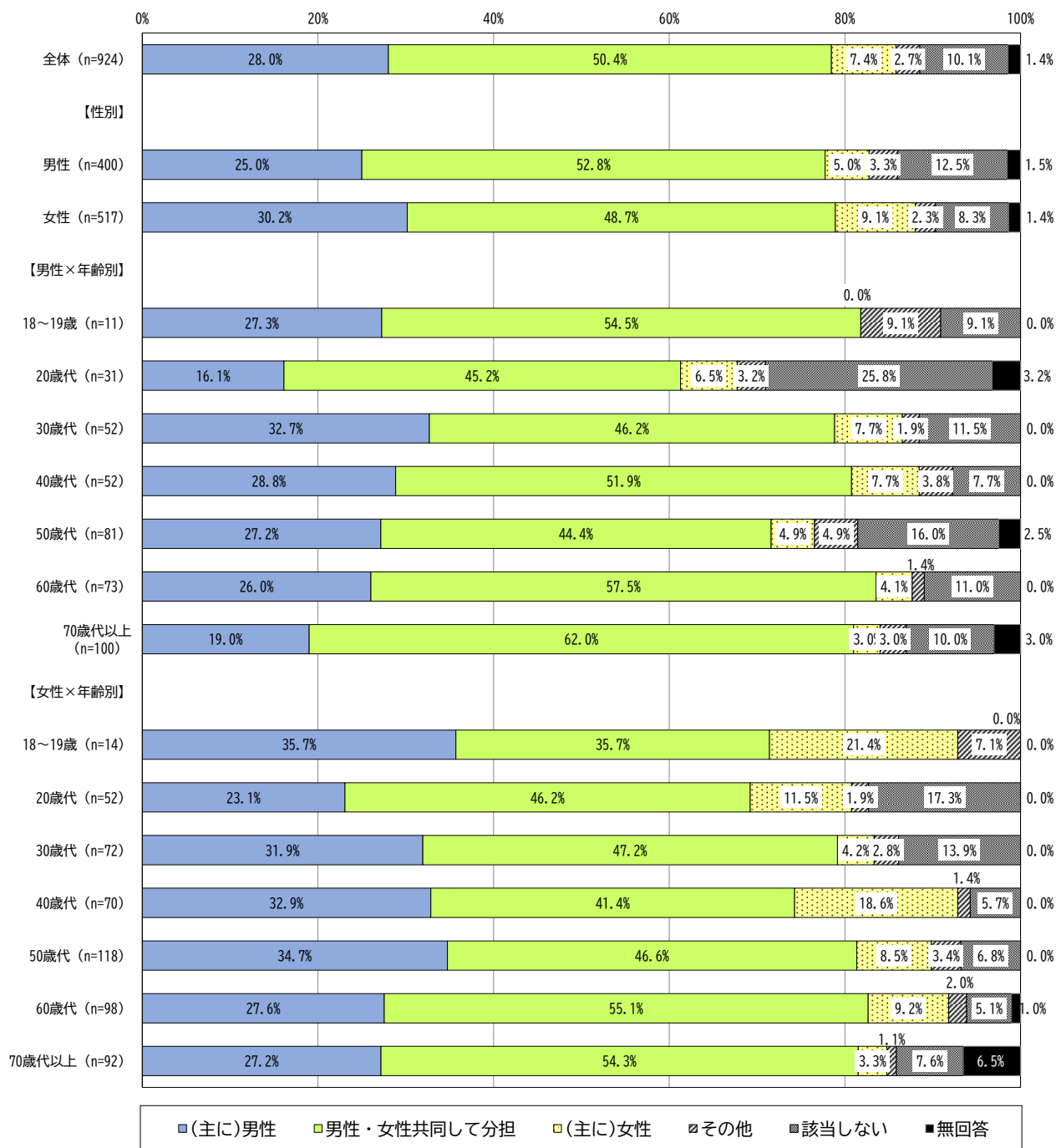
【(7)家計の管理:男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性は「(主に)男性」という回答が女性より高く、女性は、「(主に)女性」という回答が男性より高くなっています。

年代別でみると、男性の30歳代以降では、「(主に)男性」という回答が3割半を超えています。また、女性では、全ての年代で「(主に)女性」という回答が約半数を占めています。

【(8)高額な商品や土地、家屋の購入の決定:男女別・年代別クロス表】

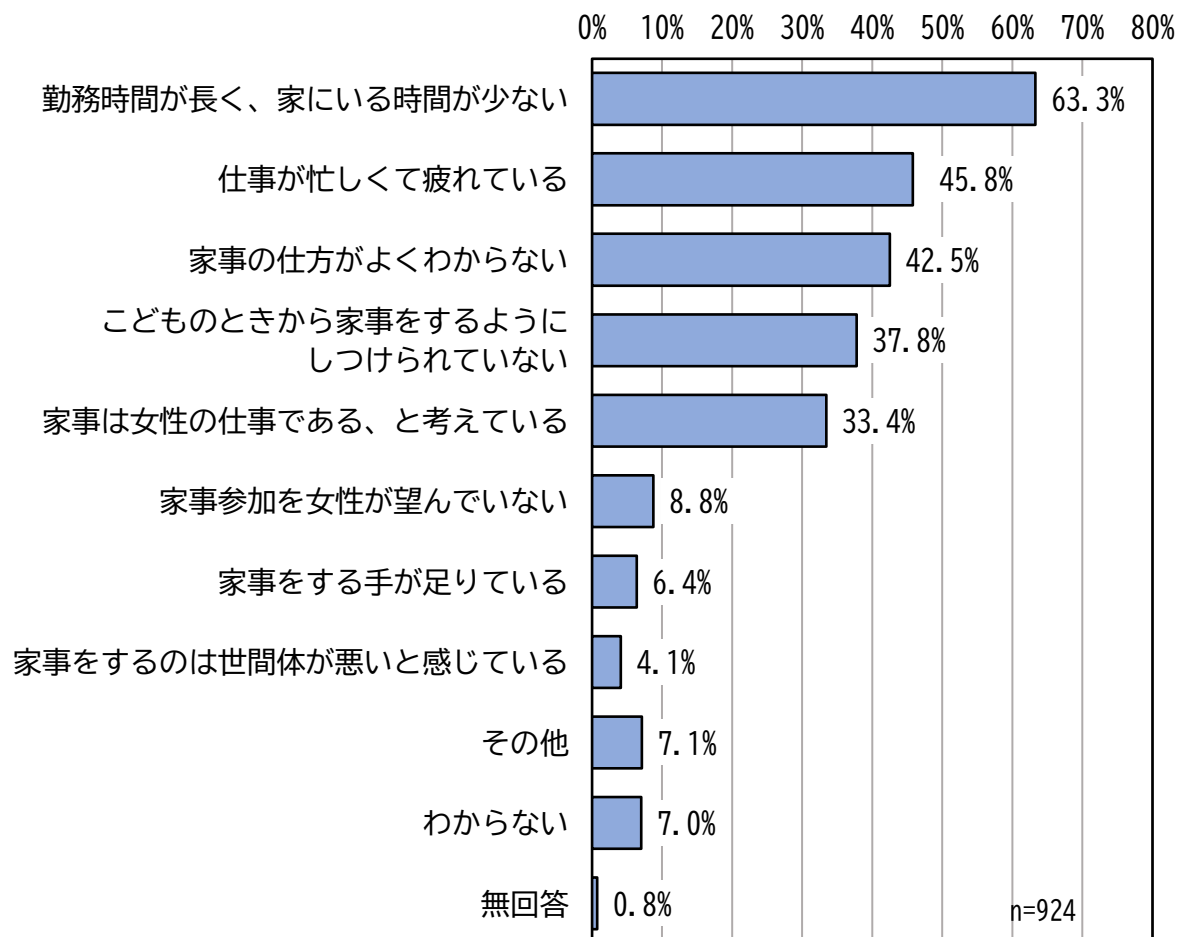


男女別では、女性は「(主に)女性」という回答が男性よりやや高くなっています。

年代別でみると、男女ともに全ての世代で「男性・女性共同して分担」という回答が高くなっています。特に男女とも60歳代以上の年代で増加する傾向があります。

問11 最新の「社会生活基本調査(総務省統計局・令和3年)」によると、「1日平均の家事関連(家事・介護・育児など)時間は、女性が、3時間24分に対し、男性は51分となっています。男性が家事関連に関わる時間が少ないのはなぜだと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

男性が家事関連に関わる時間が少ない理由については、「勤務時間が長く、家にいる時間が少ない」が63.3%と最も多く、次いで、「仕事が忙しくて疲れている」が45.8%、「家事の仕方がよくわからない」が42.5%となっています。



【男女別・年代別クロス表】

		回答者数	仕事で忙しくて疲れている	家事参加を望んでいない女性が多い	勤務時間が長く、家にいる時間が少ない	家事を手を足りしている	子どものときから家事をされている	家事は女性の仕事である、と考えている	世間体が悪いと感じている	家事をするのはよくない	その他	わからない	無回答
全体		924	45.8%	8.8%	63.3%	6.4%	37.8%	33.4%	4.1%	42.5%	7.1%	7.0%	0.8%
性別	男性	400	43.0%	9.8%	70.3%	7.5%	20.8%	19.5%	1.5%	28.5%	7.5%	10.0%	0.3%
	女性	517	48.5%	7.9%	58.2%	5.6%	50.5%	43.7%	6.2%	53.0%	7.0%	4.6%	1.2%
男性×年齢別	18～19歳	11	63.6%	9.1%	72.7%	18.2%	9.1%	18.2%	0.0%	27.3%	0.0%	27.3%	0.0%
	20歳代	31	32.3%	19.4%	64.5%	6.5%	19.4%	25.8%	0.0%	41.9%	9.7%	0.0%	0.0%
	30歳代	52	50.0%	13.5%	80.8%	1.9%	9.6%	21.2%	0.0%	26.9%	9.6%	7.7%	0.0%
	40歳代	52	50.0%	17.3%	82.7%	13.5%	21.2%	25.0%	1.9%	34.6%	5.8%	3.8%	0.0%
	50歳代	81	49.4%	3.7%	77.8%	7.4%	19.8%	12.3%	2.5%	19.8%	3.7%	9.9%	0.0%
	60歳代	73	41.1%	2.7%	67.1%	4.1%	28.8%	16.4%	2.7%	34.2%	9.6%	9.6%	1.4%
	70歳代以上	100	33.0%	11.0%	56.0%	9.0%	23.0%	22.0%	1.0%	25.0%	9.0%	16.0%	0.0%
女性×年齢別	18～19歳	14	35.7%	0.0%	42.9%	7.1%	28.6%	42.9%	0.0%	71.4%	7.1%	7.1%	0.0%
	20歳代	52	46.2%	7.7%	53.8%	1.9%	46.2%	50.0%	3.8%	61.5%	11.5%	3.8%	0.0%
	30歳代	72	61.1%	12.5%	65.3%	4.2%	43.1%	37.5%	4.2%	61.1%	6.9%	5.6%	0.0%
	40歳代	70	52.9%	7.1%	61.4%	7.1%	51.4%	47.1%	8.6%	54.3%	7.1%	2.9%	0.0%
	50歳代	118	47.5%	9.3%	56.8%	3.4%	57.6%	49.2%	3.4%	46.6%	8.5%	5.9%	0.0%
	60歳代	98	48.0%	3.1%	62.2%	6.1%	49.0%	37.8%	6.1%	50.0%	5.1%	2.0%	3.1%
	70歳代以上	92	41.3%	9.8%	52.2%	9.8%	54.3%	42.4%	12.0%	50.0%	4.3%	6.5%	3.3%

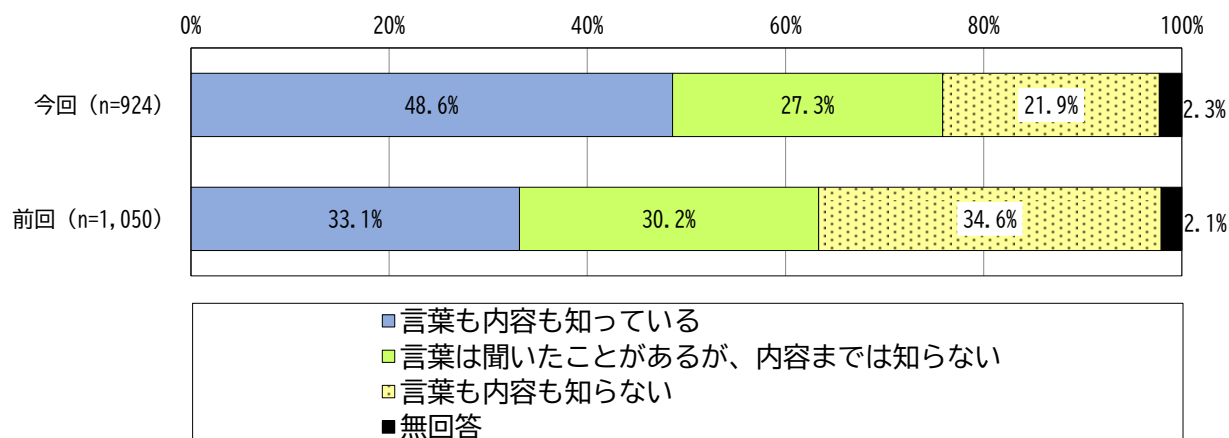
男女別では、男女ともに、「勤務時間が長く、家にいる時間が少ない」という回答が最も高く、次いで男性は「仕事が忙しくて疲れている」、女性は「家事の仕方がよくわからない」となっています。

年代別でみると、男性の全ての年代で、「勤務時間が長く、家にいる時間が少ない」という回答が最も高くなっています。また、男性の20歳代では、「家事の仕方がよくわからない」という回答が第2位となっています。女性では、「勤務時間が長く、家にいる時間が少ない」、「家事の仕方がよくわからない」、「子どものときから家事をするようにしつけられていない」という回答が上位を占めています。

## ●ワーク・ライフ・バランスについて

問12 あなたは、ワーク・ライフ・バランスという言葉を知っていますか。あてはまる番号を1つだけ選び番号に○をつけてください。

「ワーク・ライフ・バランス」の認知度については、「言葉も内容も知っている」が**48.6%**と最も多く、次いで、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が**27.3%**、「言葉も内容も知らない」が**21.9%**となっています。

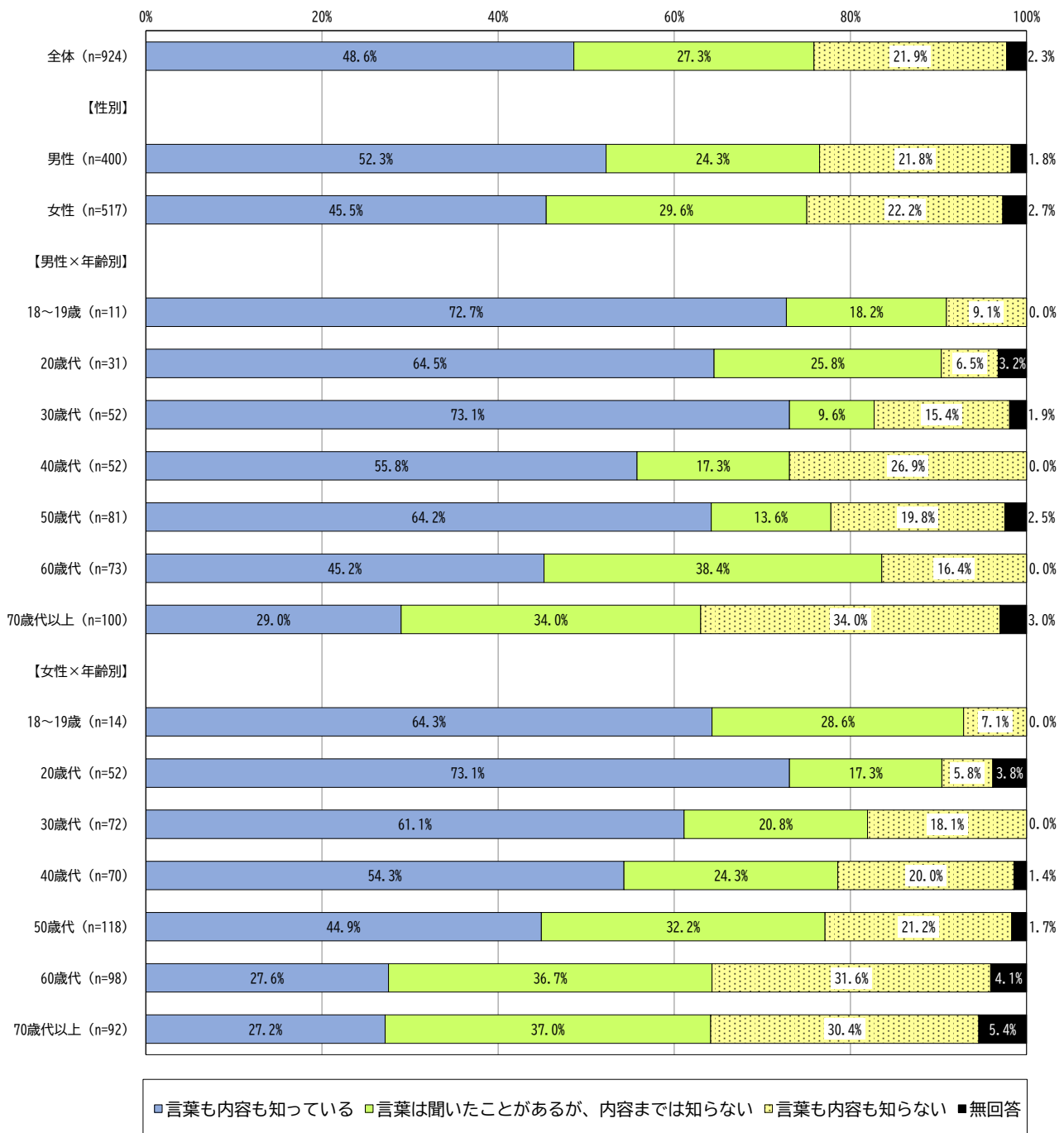


※ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)とは、「仕事と生活(家庭、趣味や余暇など)のバランスを上手にとることによって、「仕事をしながら充実した生活を送る」という考え方のことです。

### 【前回調査(令和2年度)との比較】

前回との比較では、知っている(「言葉も内容も知っている」と「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」の合計)という回答が**12.6ポイント**増加し、「言葉も内容も知らない」という回答が**12.7ポイント**減少しています。ワーク・ライフ・バランスという言葉の認知度が高まっていることがわかります。

## 【男女別・年代別クロス表】

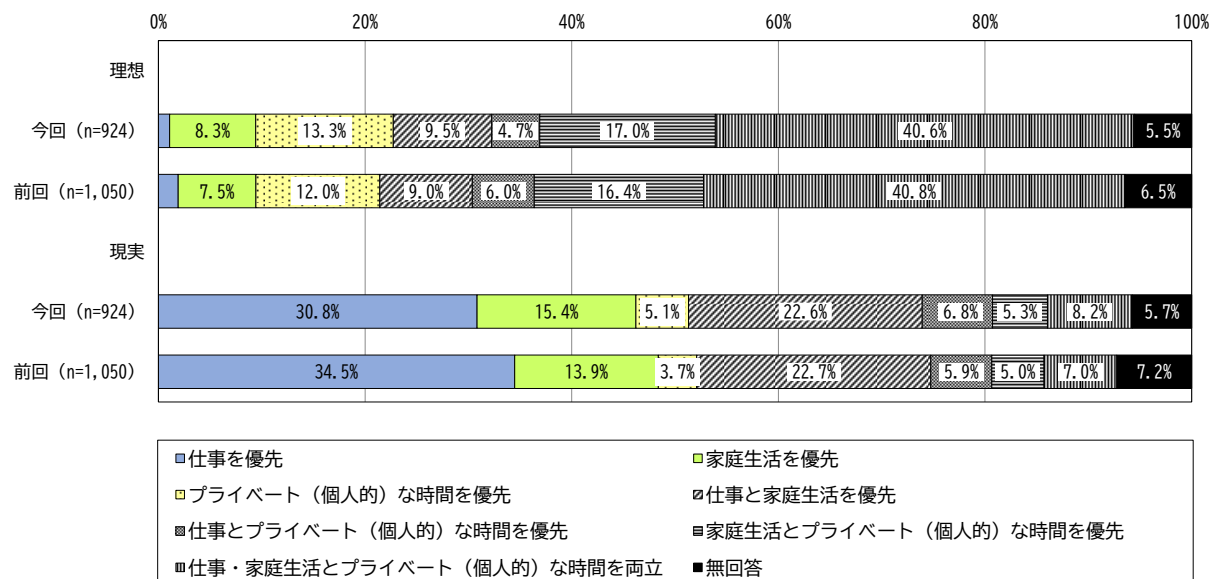


男女別では、男性は「言葉も内容も知っている」という回答が女性より高く、女性は「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」という回答が男性より高くなっています。

年代別でみると、男女ともに年代が上がるに従い、「言葉も内容も知っている」という回答が減少する傾向にあります。

問13 生活の中での優先度についてお伺いします。「理想」としての優先度と、「現実」の優先度について、あなたのお考えや現状に最も近いものを、それぞれ1つずつ選んで番号を記入してください。

生活の中での優先度について「理想」と「現実」を比較すると、理想では「仕事・家庭生活とプライベート(個人的)な時間を両立」が40.6%と最も多く、次いで、「家庭生活とプライベート(個人的)な時間を優先」が17.0%、「プライベート(個人的)な時間を優先」が13.3%となっていますが、現実では「仕事を優先」が30.8%と最も多く、次いで、「仕事と家庭生活を優先」が22.6%、「家庭生活を優先」が15.4%となっています。



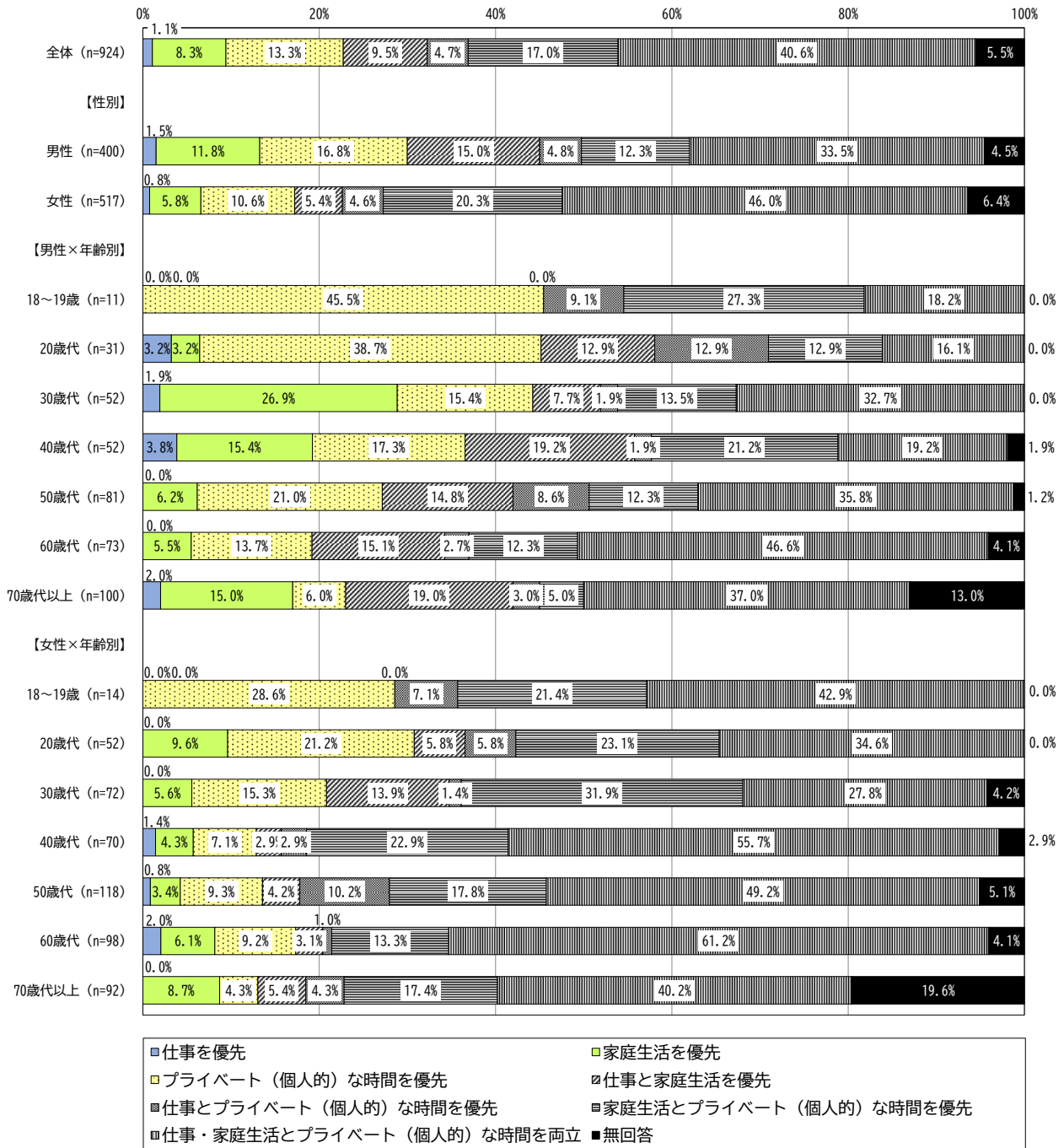
項目 (構成比)		仕事を優先	家庭生活を優先	優(プ 先(ラ イ ベ ー ト な 時 間 を	優仕 先事 と家 庭生 活を	優(仕 先事 と家 庭生 活を	なベ ー ト な 時 間 を 優 先	家庭 生活 と プ ラ イ ベ ー ト な 時 間 を 優 先	的) プ ラ イ ベ ー ト な 時 間 を 両 立 と 人	無 回 答	回 答 者 数
理想	今回 (令和7年)	1.1%	8.3%	13.3%	9.5%	4.7%	17.0%	40.6%	5.5%	100.0%	
	前回 (令和2年)	1.9%	7.5%	12.0%	9.0%	6.0%	16.4%	40.8%	6.5%	100.0%	
現実	今回 (令和7年)	30.8%	15.4%	5.1%	22.6%	6.8%	5.3%	8.2%	5.7%	100.0%	
	前回 (令和2年)	34.5%	13.9%	3.7%	22.7%	5.9%	5.0%	7.0%	7.2%	100.0%	

【前回調査(令和2年度)との比較】

前回との比較では、「理想」では、「仕事を優先」という回答が減少しており、「家庭生活を優先」「プライベート(個人的)な時間を優先」という回答が増加しています。

「現実」でも、「仕事を優先」という回答が減少し、「家庭生活を優先」「プライベート(個人的)な時間を優先」という回答が増加しています。

【理想：男女別・年代別クロス表】

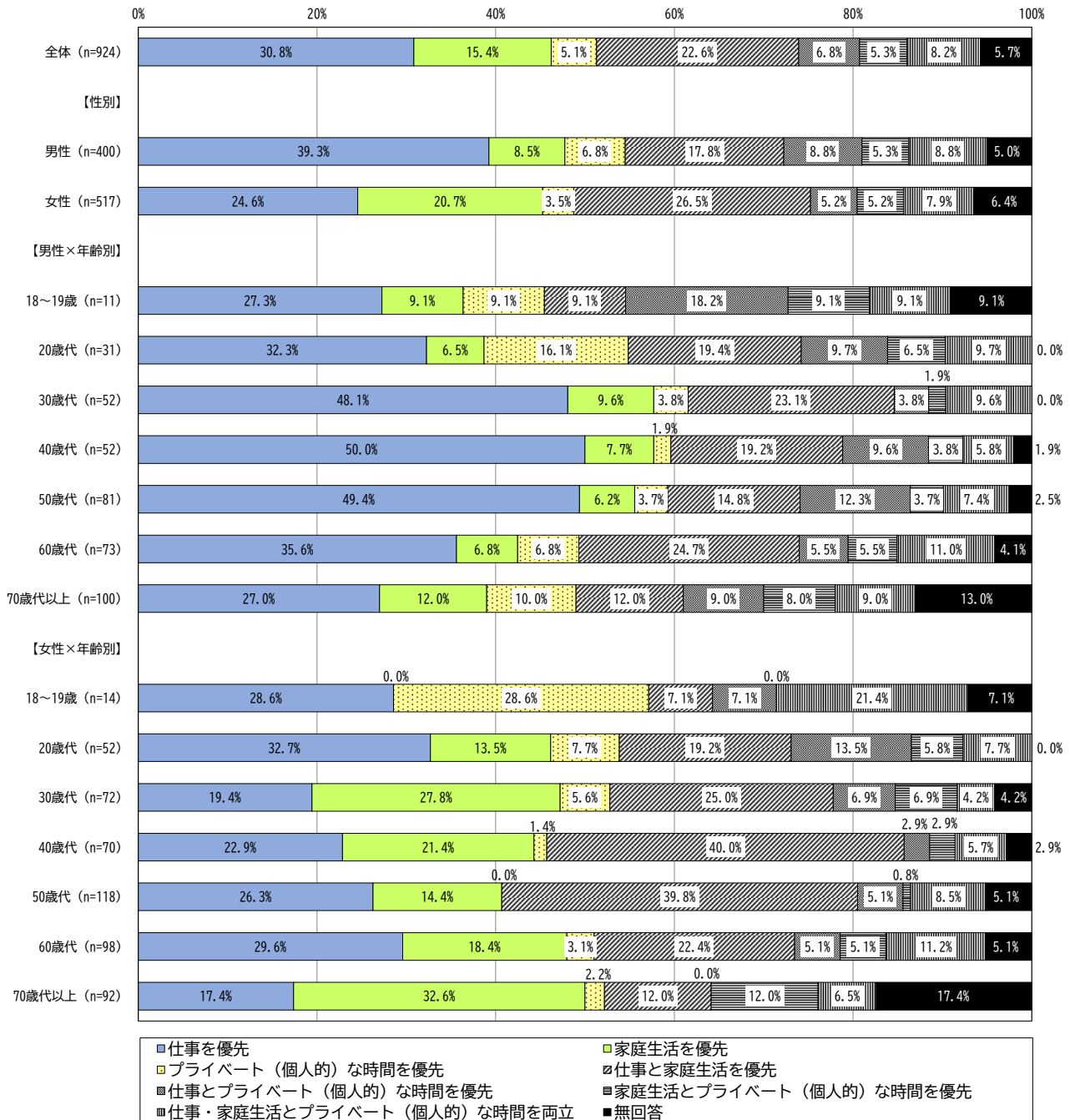


男女別では、共に「仕事・家庭生活とプライベート(個人的)な時間を両立」という回答がもっとも高くなっていますが、男女間で若干の差があります。

また、男性は「仕事と家庭生活を優先」という回答が女性と比較すると高く、女性は、「家庭生活とプライベート(個人的)な時間を優先」、という回答が男性と比較すると高くなっています。

年代別でみると、男性の若年者は「プライベート(個人的)な時間を優先」という回答が高くなっています。女性は40歳代~60歳代で「仕事・家庭生活とプライベート(個人的)な時間を両立」という回答が高くなっています。

【現実:男女別・年代別クロス表】

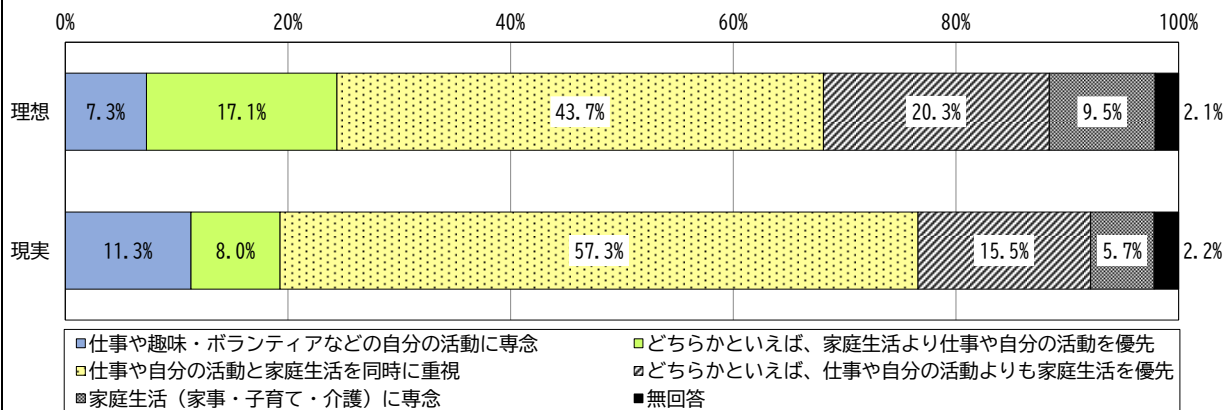


男女別では、男性は「仕事を優先」という回答が最も多くなっています。女性は「仕事と家庭生活を優先」という回答が最も多くなっています。

年代別でみると、男性は全ての年代で「仕事を優先」回答が高く、特に30歳代～50歳代は約半数を占めています。一方、女性では18～19歳以外の年代で、「仕事を優先」と「仕事と家庭生活を優先」と「家庭生活を優先」という回答が高くなっています。

【参考】

埼玉県：「男女共同参画に関する意識・実態調査」(令和2年調査)

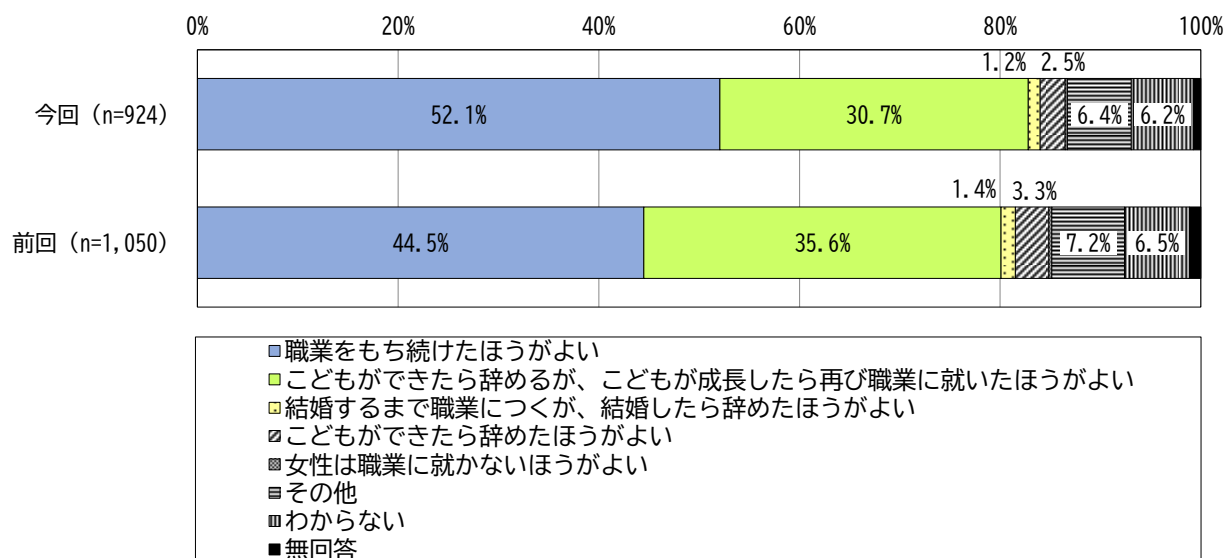


(n=2,221)

## ●男女の職業・仕事について

問14 あなたは女性が職業に就くことについてどう思いますか。1つだけ選び○をつけてください。

女性が職業に就くことについては、「職業をもち続けたほうがよい」が**52.1%**と最も多く、次いで、「子どもができたなら辞めるが、子どもが成長したら再び職業に就いたほうがよい」が**30.7%**となっています。また「その他」が**6.4%**となっています。

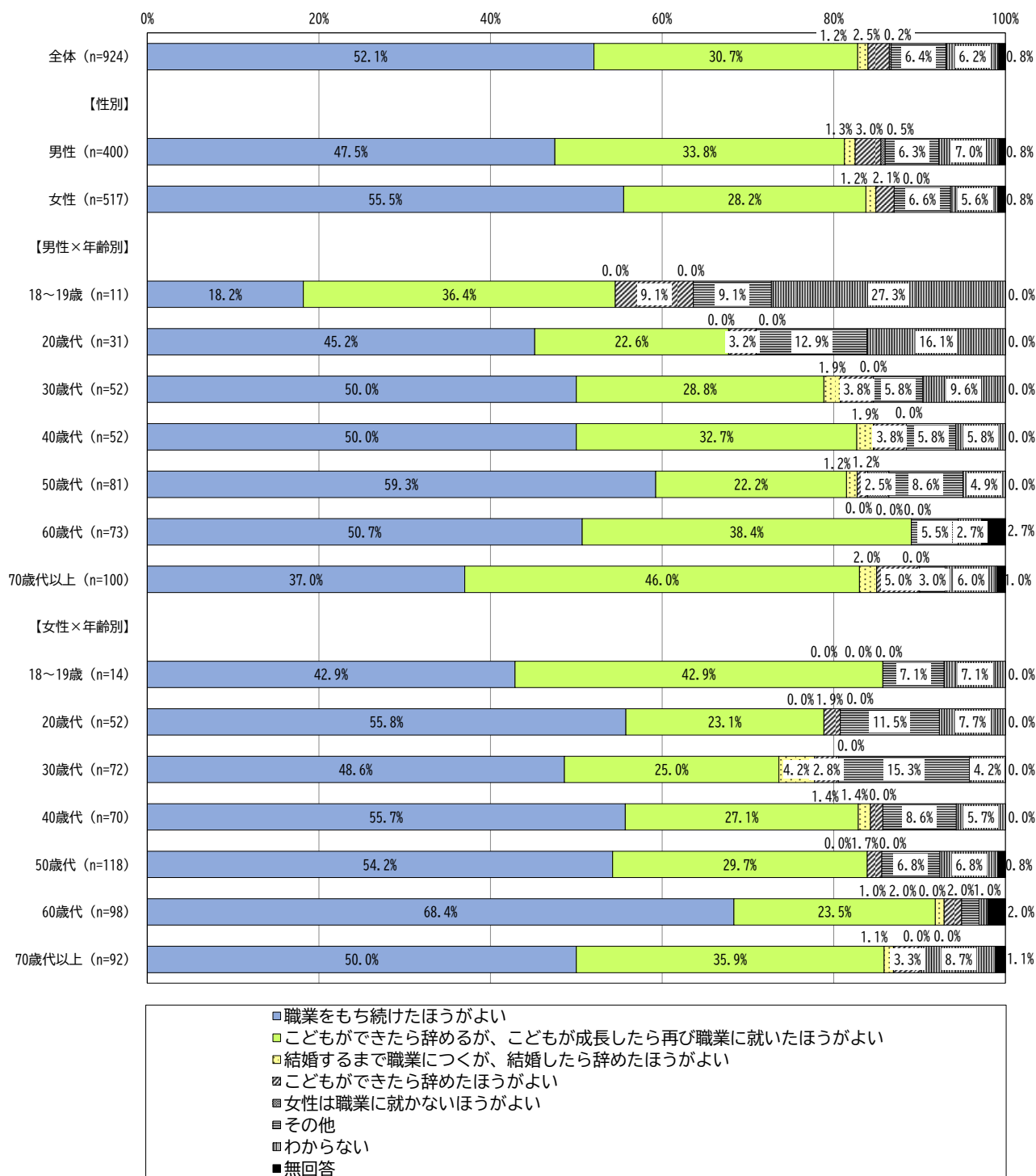


項目	構成比	
	今回(令和7年)	前回(令和2年)
職業をもち続けたほうがよい	52.1%	44.5%
子どもができたなら辞めるが、子どもが成長したら再び職業に就いたほうがよい	30.7%	35.6%
結婚するまで職業につくが、結婚したら辞めたほうがよい	1.2%	1.4%
子どもができたなら辞めたほうがよい	2.5%	3.3%
女性は職業に就かないほうがよい	0.2%	0.3%
その他	6.4%	7.2%
わからない	6.2%	6.5%
無回答	0.8%	1.1%
回答者数	100.0%	100.0%

### 【前回調査(令和2年度)との比較】

前回との比較では、「子どもができたなら辞めるが、子どもが成長したら再び職業に就いたほうがよい」という回答が**4.9ポイント**減少しており、「職業をもち続けたほうがよい」という回答は**7.6ポイント**増加しています。

## 【男女別・年代別クロス表】

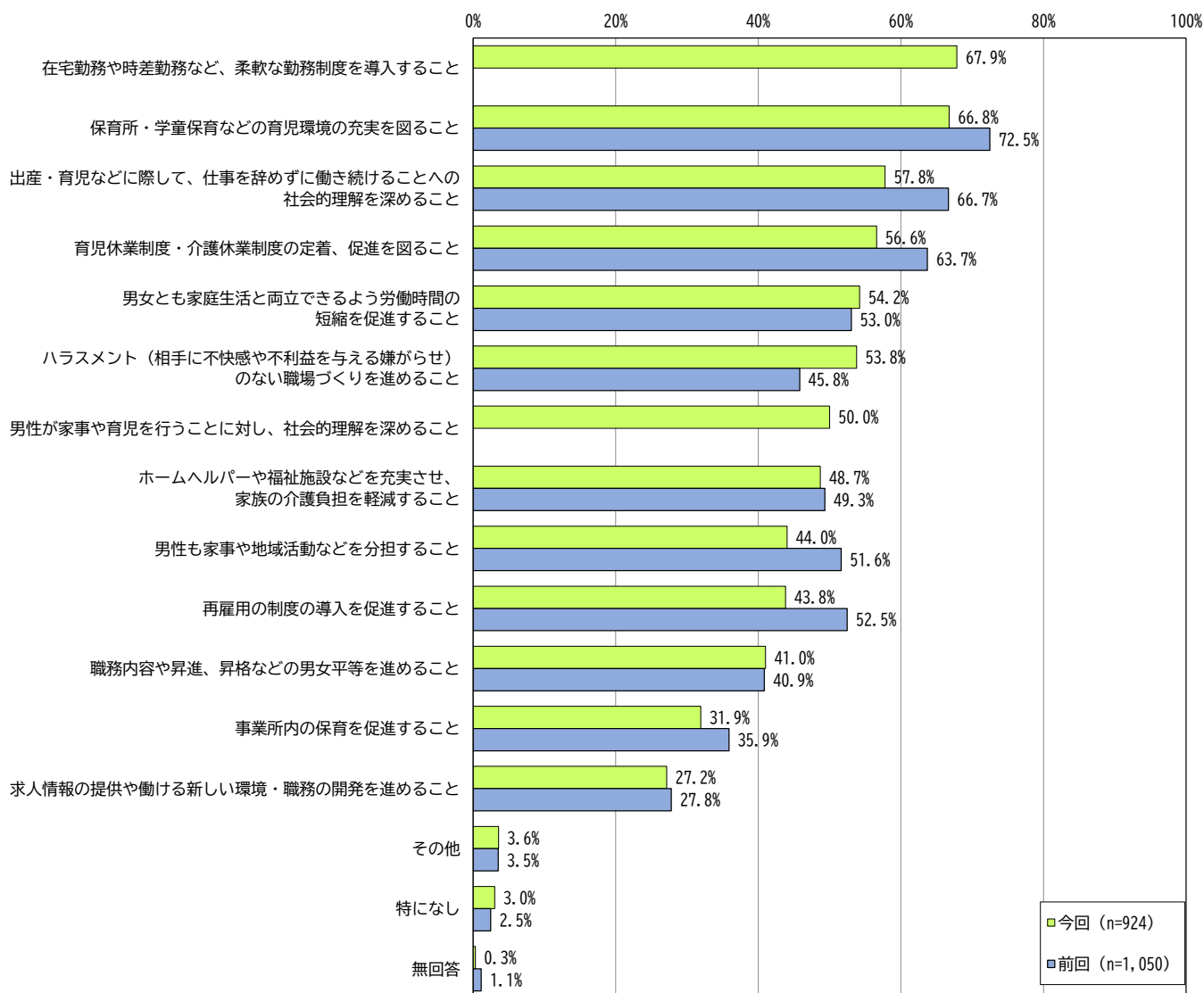


男女別では、男性は、「子どもができたら辞めたほうがよい」の回答が女性より高く、女性は、「職業をもち続けたほうがよい」という回答が男性より高くなっています。

年代別でみると、男性は、「職業をもち続けたほうがよい」という回答が年代が上がるに従って増加し、50歳代をピークに減少していく傾向があります。また、女性は全ての年代で「職業をもち続けたほうがよい」という回答が4割を超えています。

問15 男女がともに働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

男女がともに働きやすい環境をつくるために、必要なことについては、「在宅勤務や時差勤務など、柔軟な勤務制度を導入すること」が67.9%と最も多く、次いで、「保育所・学童保育などの育児環境の充実を図ること」が66.8%、「出産・育児などに際して、仕事を辞めずに働き続けることへの社会的理解を深めること」が66.7%、「出産・育児などに際して、仕事を辞めずに働き続けることへの社会的理解を深めること」が57.8%となっています。



【前回調査(令和2年度)との比較】

前回との比較では、「保育所・学童保育などの育児環境の充実を図ること」「出産・育児などに際して、仕事を辞めずに働き続けることへの社会的理解を深めること」「育児休業制度・介護休業制度の定着、促進を図ること」などの回答が減少しています。新たに追加された「在宅勤務や時差勤務など、柔軟な勤務制度を導入すること」が最も上位であり、前回同様育児への支援に関することが上位を占めていることがわかります。

【男女別・年代別クロス表】

		回答者数	こよ男 う女と も家庭 の生活 と両立 できる こと	柔軟な 勤務制 度や時 差勤務 を導入 すること	在宅勤 務や時 差勤務 など、 柔軟な 勤務制 度や時 差勤務 を導入 すること	保育所 ・学童 保育な どの育 児環境 の充実 を図る こと	事業所 内の保 育を促 進する こと	育児休 業制度 ・介護 休業制 度の定 着、促 進を図 ること	社会的 理解を 深める こと	出産・ 育児な どに際 して、 仕事を 辞めず に働き 続ける ことへ の社会 的理 解を深 めるこ と	介護負 担を軽 減する こと	ホーム ヘルパ ーや福 祉施設 などを 充実さ せ、家 族の介 護を担 うこと	男女平 等や昇 進、昇 格など の職 務内容 を進め ること	ハラス メント (相手 に不快 感や嫌 がらせ の行為 など)を 与えら れない よう な職場 づくり を進め ること
全体		924	54.2%	67.9%	66.8%	31.9%	56.6%	57.8%	48.7%	41.0%	53.8%			
性別	男性	400	57.0%	64.3%	64.3%	28.8%	50.8%	53.0%	39.0%	36.3%	51.0%			
	女性	517	52.4%	70.2%	68.9%	34.2%	61.5%	61.5%	55.9%	44.5%	55.9%			
男性 × 年齢別	18～19歳	11	63.6%	81.8%	36.4%	0.0%	45.5%	36.4%	0.0%	45.5%	36.4%			
	20歳代	31	48.4%	64.5%	48.4%	25.8%	48.4%	54.8%	16.1%	29.0%	35.5%			
	30歳代	52	67.3%	73.1%	57.7%	28.8%	51.9%	53.8%	36.5%	38.5%	50.0%			
	40歳代	52	50.0%	69.2%	69.2%	32.7%	44.2%	53.8%	38.5%	26.9%	55.8%			
	50歳代	81	58.0%	64.2%	63.0%	24.7%	40.7%	48.1%	37.0%	38.3%	49.4%			
	60歳代	73	63.0%	65.8%	74.0%	30.1%	58.9%	63.0%	43.8%	41.1%	56.2%			
	70歳代以上	100	52.0%	54.0%	67.0%	33.0%	57.0%	50.0%	50.0%	36.0%	53.0%			
女性 × 年齢別	18～19歳	14	64.3%	92.9%	64.3%	35.7%	78.6%	64.3%	50.0%	42.9%	50.0%			
	20歳代	52	65.4%	65.4%	78.8%	28.8%	63.5%	71.2%	36.5%	59.6%	53.8%			
	30歳代	72	65.3%	79.2%	68.1%	29.2%	56.9%	61.1%	43.1%	37.5%	59.7%			
	40歳代	70	55.7%	80.0%	77.1%	41.4%	51.4%	61.4%	52.9%	48.6%	50.0%			
	50歳代	118	44.9%	69.5%	60.2%	33.1%	67.8%	58.5%	65.3%	49.2%	56.8%			
	60歳代	98	50.0%	69.4%	70.4%	38.8%	64.3%	69.4%	62.2%	42.9%	60.2%			
	70歳代以上	92	42.4%	56.5%	67.4%	32.6%	57.6%	51.1%	62.0%	34.8%	54.3%			

次のページにつづく→

		回答者数	再雇用 の制度の 導入を 促進する こと	求人情報 の提供や 働き方 の改善を 進める こと	男性も 家事や 地域活動 などを 担うこと	男性が 社会的 責任を 果たす こと	その他	特になし	無回答
全体		924	43.8%	27.2%	44.0%	50.0%	3.6%	3.0%	0.3%
性別	男性	400	42.3%	26.3%	36.3%	40.8%	3.0%	4.0%	0.0%
	女性	517	45.3%	28.0%	49.9%	57.3%	4.1%	2.3%	0.6%
男性 × 年齢別	18～19歳	11	36.4%	18.2%	18.2%	27.3%	0.0%	9.1%	0.0%
	20歳代	31	29.0%	29.0%	51.6%	58.1%	3.2%	6.5%	0.0%
	30歳代	52	36.5%	25.0%	28.8%	36.5%	3.8%	1.9%	0.0%
	40歳代	52	34.6%	28.8%	34.6%	34.6%	7.7%	1.9%	0.0%
	50歳代	81	38.3%	25.9%	24.7%	35.8%	2.5%	4.9%	0.0%
	60歳代	73	56.2%	23.3%	45.2%	46.6%	2.7%	2.7%	0.0%
	70歳代以上	100	47.0%	28.0%	41.0%	42.0%	1.0%	5.0%	0.0%
女性 × 年齢別	18～19歳	14	42.9%	28.6%	50.0%	64.3%	7.1%	7.1%	0.0%
	20歳代	52	44.2%	25.0%	36.5%	63.5%	1.9%	3.8%	0.0%
	30歳代	72	33.3%	26.4%	48.6%	55.6%	4.2%	1.4%	0.0%
	40歳代	70	48.6%	25.7%	61.4%	68.6%	7.1%	2.9%	0.0%
	50歳代	118	45.8%	31.4%	52.5%	53.4%	4.2%	0.8%	0.0%
	60歳代	98	54.1%	32.7%	42.9%	60.2%	6.1%	0.0%	1.0%
	70歳代以上	92	43.5%	23.9%	54.3%	47.8%	0.0%	5.4%	2.2%

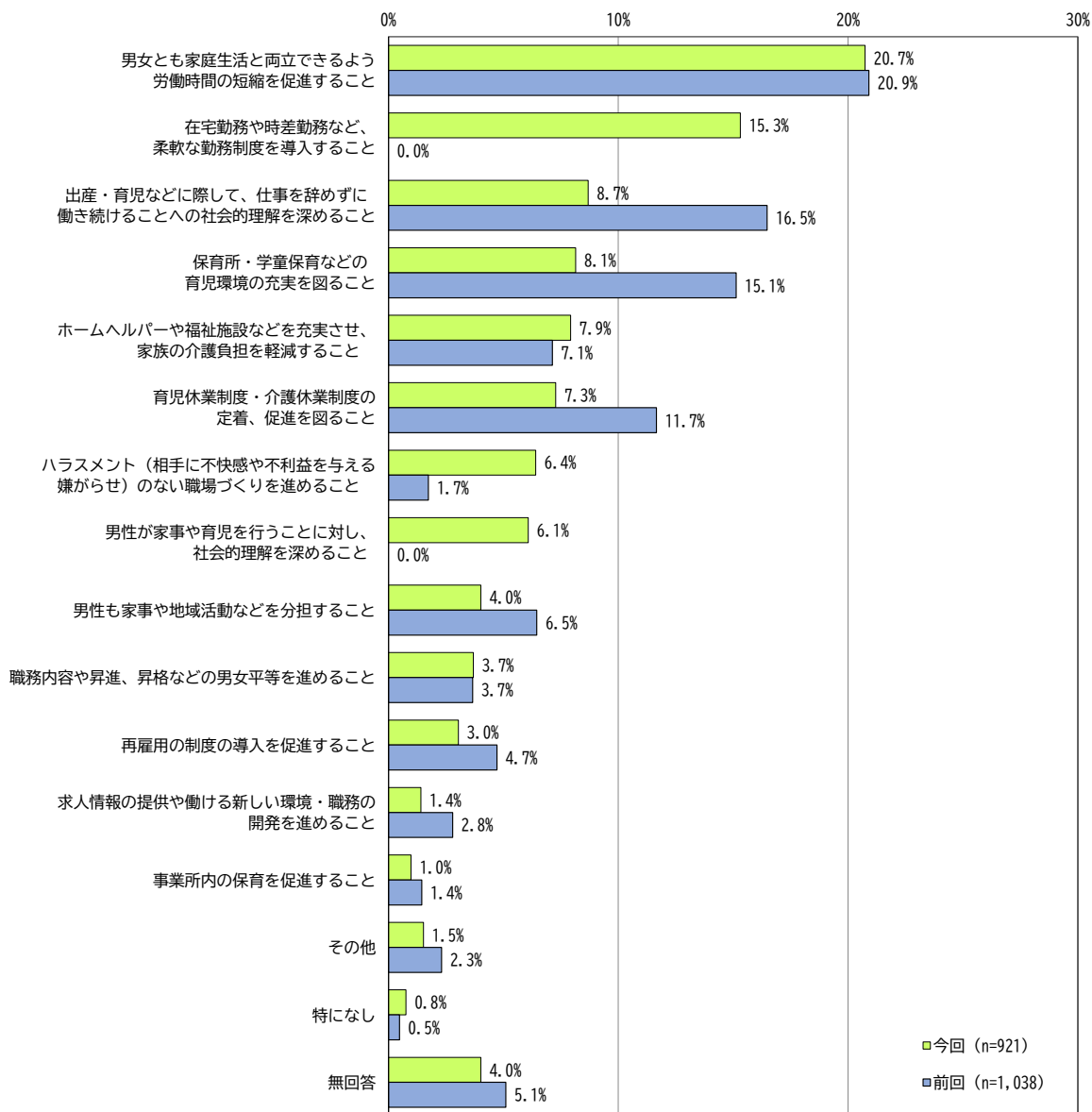
男女別では、男女ともに、「在宅勤務や時差勤務など、柔軟な勤務制度を導入すること」「保育所・学童保育などの育児環境の充実を図ること」という回答が高くなっています。

年代別でみると、男性の18歳～50歳代で、「在宅勤務や時差勤務など、柔軟な勤務制度を導入すること」という回答が最も高くなっています。また、男性の60歳代以上では、「保育所・学童保育などの育児環境の充実を図ること」という回答が最も高くなっています。女性では、「在宅勤務や時差勤務など、柔軟な勤務制度を導入すること」「保育所・学童保育などの育児環境の充実を図ること」という回答が上位を占めていますが、年齢が上がるに従い介護に関する回答も増加する傾向にあります。

## 問15で○をつけた方の回答

問16 問15で○をつけた中で、あなたがもっとも重要だと思うことを1つだけ選び、番号を記入してください。

問15の中で、もっとも重要だと思うことについては、「男女とも家庭生活と両立できるよう労働時間の短縮を促進すること」が20.7%と最も多く、次いで、「在宅勤務や時差勤務など、柔軟な勤務制度を導入すること」が15.3%、「出産・育児などに際して、仕事を辞めずに働き続けることへの社会的理解を深めること」が8.7%となっています。



### 【前回調査(令和2年度)との比較】

前回との比較では、「出産・育児などに際して、仕事を辞めずに働き続けることへの社会的理解を深めること」「保育所・学童保育などの育児環境の充実を図ること」「育児休業制度・介護休業制度の定着、促進を図ること」などの回答が減少し、一方で、「男女とも家庭生活と両立できるよう労働時間の短縮を促進すること」という回答が0.2ポイント減少しているが、前回に引き続き最も高くなっています。

【男女別・年代別クロス表】

		回答者数	こと よう 男女 とも 家庭 生活 と両 立可 能な 短縮 を促 進す る	在宅 勤務 や時 差勤 務な ど、 柔軟 な勤 務制 度を 導入 する こと	育保 児環 境の 充実 を図 ること	事業 所内 の保 育を 促進 する こと	定着 、促 進を 図る こと	育休 制度 ・介 護休 業制 度の 活用 を促 進す るこ と	社会 的理 解を 深め るこ と	出産 ・育 児な どに 際し て、 仕事 を辞 めず に働 き続 ける こと への 理解 を促 進す るこ と	軽減 する こと	を充 実さ せ、 家族 の介 護負 担を 軽減 する こと	ホー ムヘル パー や福 祉施 設な どを 活用 する こと	男女 平等 を進 める こと	職務 内容 や昇 進、 昇格 など の機 会を 確保 する こと	不利 な職 場を 与え る嫌 がら せの こと	ハラ スメ ント （相 手に 不快 感や 不意 な嫌 がら せ） の事 を懸 念し て、 嫌が らな い職 場を 確保 する こと
全体		921	20.7%	15.3%	8.1%	1.0%	7.3%	8.7%	7.9%	3.7%	6.4%						
性別	男性	400	23.8%	14.5%	8.5%	1.3%	6.3%	8.5%	6.8%	3.3%	7.8%						
	女性	514	18.5%	15.8%	8.0%	0.8%	8.2%	8.6%	8.8%	3.9%	5.4%						
男性 ×年 齢別	18～19歳	11	45.5%	18.2%	0.0%	0.0%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%	9.1%						
	20歳代	31	16.1%	6.5%	9.7%	0.0%	9.7%	16.1%	0.0%	3.2%	3.2%						
	30歳代	52	40.4%	25.0%	9.6%	0.0%	5.8%	3.8%	1.9%	1.9%	3.8%						
	40歳代	52	26.9%	23.1%	7.7%	3.8%	1.9%	0.0%	3.8%	1.9%	9.6%						
	50歳代	81	30.9%	11.1%	7.4%	0.0%	6.2%	11.1%	6.2%	4.9%	7.4%						
	60歳代	73	16.4%	13.7%	8.2%	1.4%	4.1%	6.8%	8.2%	4.1%	11.0%						
	70歳代以上	100	13.0%	10.0%	10.0%	2.0%	9.0%	12.0%	13.0%	3.0%	8.0%						
女性 ×年 齢別	18～19歳	14	14.3%	14.3%	7.1%	0.0%	7.1%	21.4%	0.0%	0.0%	0.0%						
	20歳代	52	23.1%	15.4%	19.2%	0.0%	5.8%	9.6%	0.0%	9.6%	1.9%						
	30歳代	72	25.0%	26.4%	8.3%	2.8%	5.6%	6.9%	0.0%	5.6%	4.2%						
	40歳代	70	18.6%	21.4%	7.1%	0.0%	5.7%	7.1%	4.3%	2.9%	4.3%						
	50歳代	118	19.5%	15.3%	6.8%	1.7%	5.1%	8.5%	9.3%	4.2%	5.9%						
	60歳代	97	16.5%	10.3%	6.2%	0.0%	12.4%	10.3%	8.2%	2.1%	9.3%						
	70歳代以上	90	11.1%	10.0%	5.6%	0.0%	13.3%	6.7%	25.6%	2.2%	5.6%						

次のページにつづく→

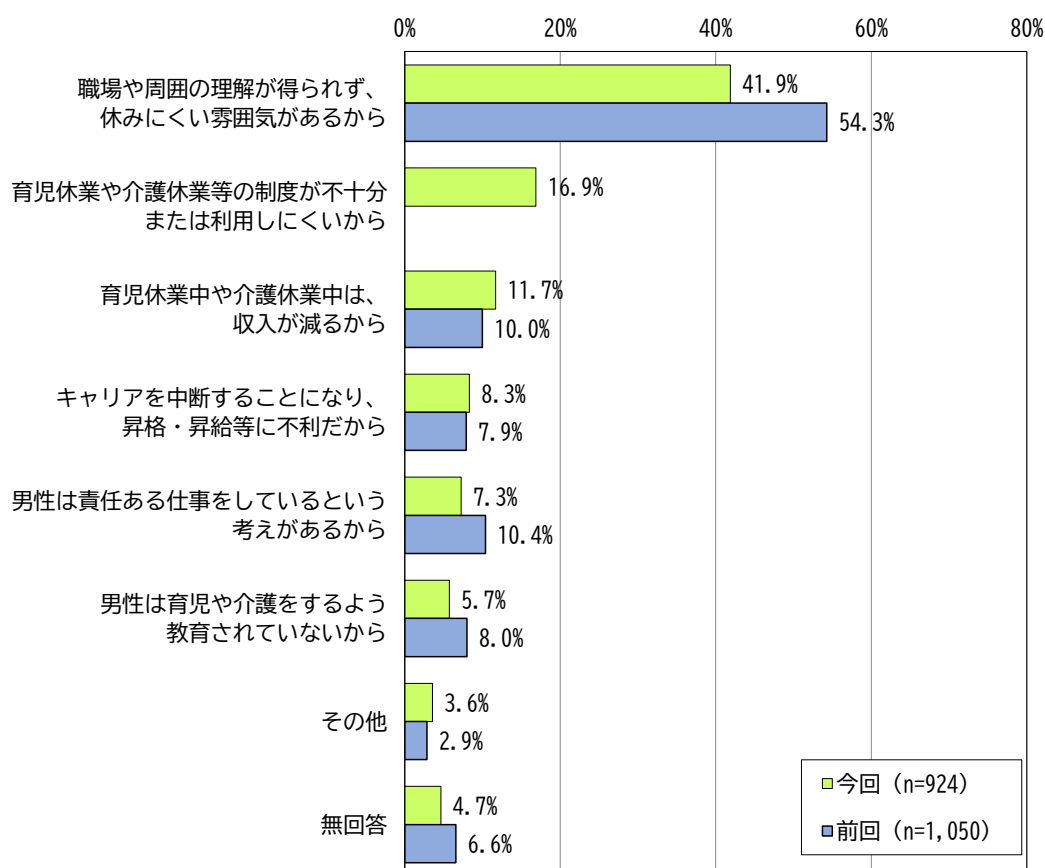
		回答者数	再雇用 の制度の 導入を 促進する こと	求人情報 の提供や 働ける新 しい環 境・職務 の開発を進 めること	男性も家事 や地域活 動などを 分擔する こと	男性が家事 や育児を 行うこと に社会的 理解を深 めること	その他	特になし	無回答
全体		921	3.0%	1.4%	4.0%	6.1%	1.5%	0.8%	4.0%
性別	男性	400	2.8%	0.5%	2.5%	6.5%	1.5%	0.8%	5.0%
	女性	514	3.3%	2.1%	5.3%	5.8%	1.6%	0.8%	3.3%
男性 × 年齢別	18～19歳	11	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	31	3.2%	0.0%	9.7%	16.1%	0.0%	0.0%	6.5%
	30歳代	52	1.9%	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%	1.9%	0.0%
	40歳代	52	3.8%	1.9%	3.8%	1.9%	5.8%	0.0%	3.8%
	50歳代	81	1.2%	1.2%	0.0%	6.2%	2.5%	0.0%	3.7%
	60歳代	73	4.1%	0.0%	4.1%	9.6%	1.4%	2.7%	4.1%
	70歳代以上	100	2.0%	0.0%	2.0%	6.0%	0.0%	0.0%	10.0%
女性 × 年齢別	18～19歳	14	0.0%	7.1%	7.1%	14.3%	0.0%	0.0%	7.1%
	20歳代	52	1.9%	0.0%	1.9%	5.8%	1.9%	0.0%	3.8%
	30歳代	72	1.4%	1.4%	2.8%	5.6%	1.4%	1.4%	1.4%
	40歳代	70	4.3%	0.0%	10.0%	8.6%	4.3%	1.4%	0.0%
	50歳代	118	5.1%	3.4%	6.8%	3.4%	1.7%	0.0%	3.4%
	60歳代	97	3.1%	3.1%	4.1%	7.2%	1.0%	1.0%	5.2%
	70歳代以上	90	3.3%	2.2%	4.4%	4.4%	0.0%	1.1%	4.4%

男女別では、男女ともに、「男女とも家庭生活と両立できるよう労働時間の短縮を促進すること」という回答が最も高く、次いで、「在宅勤務や時差勤務など、柔軟な勤務制度を導入すること」となっています。

年代別でみると、男女ともに、「男女とも家庭生活と両立できるよう労働時間の短縮を促進すること」「在宅勤務や時差勤務など、柔軟な勤務制度を導入すること」という回答が高い傾向にあります。女性の18～19歳では「出産・育児などに際して、仕事を辞めずに働き続けることへの社会的理解を深めること」という回答が最も高く、男女とも70歳代以上では、「ホームヘルパーや福祉施設などを充実させ、家族の介護負担を軽減すること」という回答が最も高くなっています。

問17 男性の育児休業・介護休業の取得は依然として少ない状況ですが、その理由は何だと思えますか。  
1つだけ選び○をつけてください。

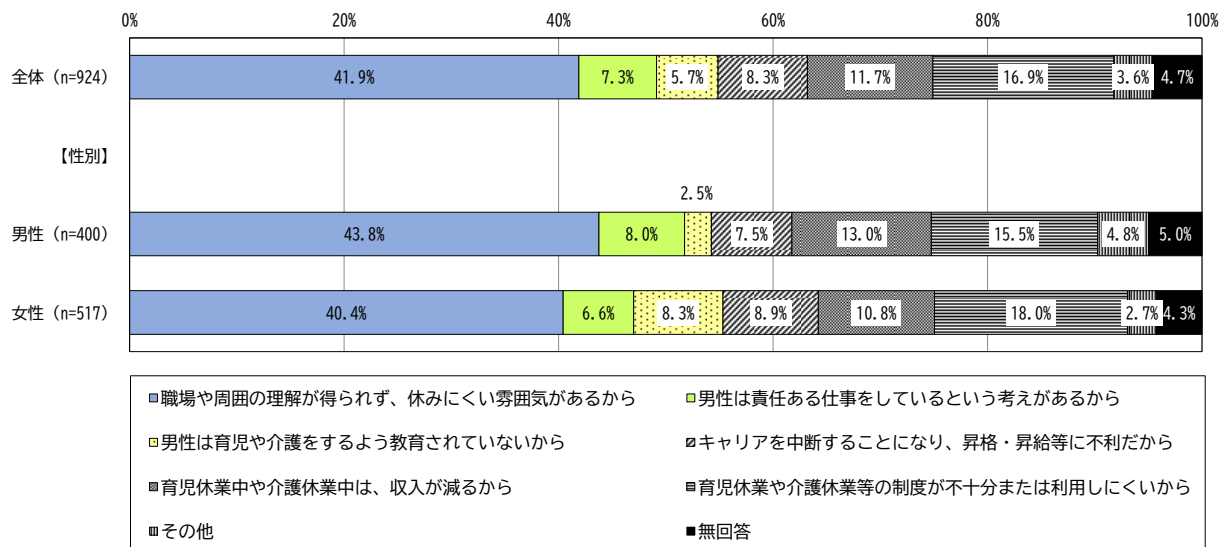
男性の育児休業・介護休業の取得が依然として少ない理由については、「職場や周囲の理解が得られず、休みにくい雰囲気があるから」が**41.9%**と最も多く、次いで、「育児休業や介護休業等の制度が不十分または利用しにくいから」が**16.9%**、「育児休業中や介護休業中は、収入が減るから」が**11.7%**となっています。



#### 【前回調査(令和2年度)との比較】

前回との比較では、前回と同様に「職場や周囲の理解が得られず、休みにくい雰囲気があるから」という回答が最も高くなっていますが、**12.4ポイント**減少しています。一方「育児休業や介護休業等の制度が不十分または利用しにくいから」という回答は上位を占めています。

## 【男女別クロス表】



男女別では、性別による回答に大きな差はありませんが、男性は「育児休業中や介護休業中は、収入が減るから」「男性は責任ある仕事をしているという考えがあるから」という回答が女性より高く、女性は「男性は育児や介護をするよう教育されていないから」「育児休業や介護休業等の制度が不十分または利用しにくいから」という回答が男性より高くなっています。

## ●人権・暴力について

問18 次の(1)~(6)のハラスメントについて、過去5年の間で、あなた自身やあなたの周りで、被害を受けたり、見聞きした経験はありますか。あてはまる番号(1~5)をすべて選び、番号に○をつけてください。

ハラスメントでは、過去5年の間、自身や周りで、被害を受けたり、見聞きした経験について、『セクシャル・ハラスメント』では、「受けたり見聞きした経験はない」が**57.1%**と最も多く、次いで、「自分の周りに受けた人がある」が**21.0%**、「受けたことがある」が**10.7%**となっています。

『パワー・ハラスメント』では、「受けたり見聞きした経験はない」が**38.7%**と最も多く、次いで、「自分の周りに受けた人がある」が**31.0%**、「受けたことがある」が**22.1%**となっています。

『モラル・ハラスメント』では、「受けたり見聞きした経験はない」が**40.2%**と最も多く、次いで、「自分の周りに受けた人がある」が**26.5%**、「受けたことがある」が**22.6%**となっています。

『出産や育児に係わるハラスメント』では、「受けたり見聞きした経験はない」が**71.5%**と最も多く、次いで、「自分の周りに受けた人がある」が**10.1%**、「受けたことがあるかわからない」が**8.8%**となっています。

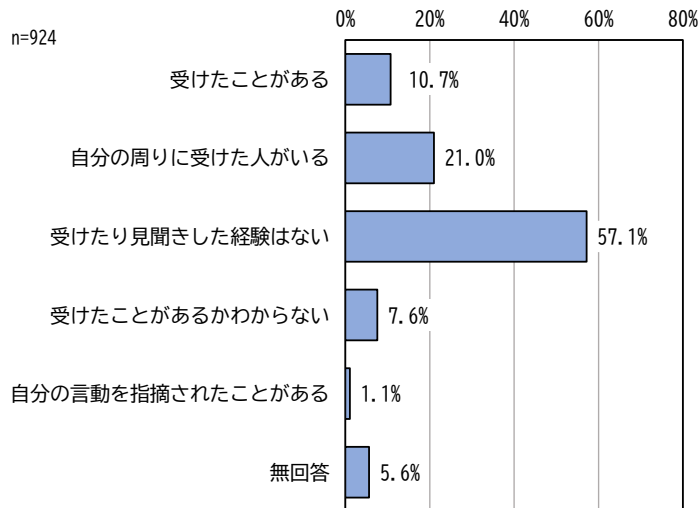
『性的指向<sup>(※1)</sup>・性自認<sup>(※2)</sup>に係るハラスメント』では、「受けたり見聞きした経験はない」が**76.3%**と最も多く、次いで、「受けたことがあるかわからない」が**8.4%**、「自分の周りに受けた人がある」が**6.7%**となっています。

また、『その他のハラスメント』では、「受けたり見聞きした経験はない」が**40.5%**と最も多く、次いで、「受けたことがあるかわからない」が**9.7%**、「受けたことがある」が**2.8%**となっています。

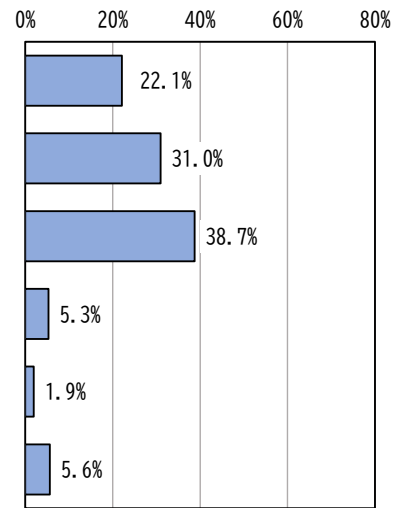
※1 性的指向:恋愛感情や性的な関心がどの性に向いているか。「好きになる性」と言うこともあり、異性愛や同性愛、両性愛など、さまざまな形があります。

※2 性自認:自分の性別をどう認識しているか。男性/女性という認識だけでなく、中間、どちらでもないなど、そのあり方は多様です。

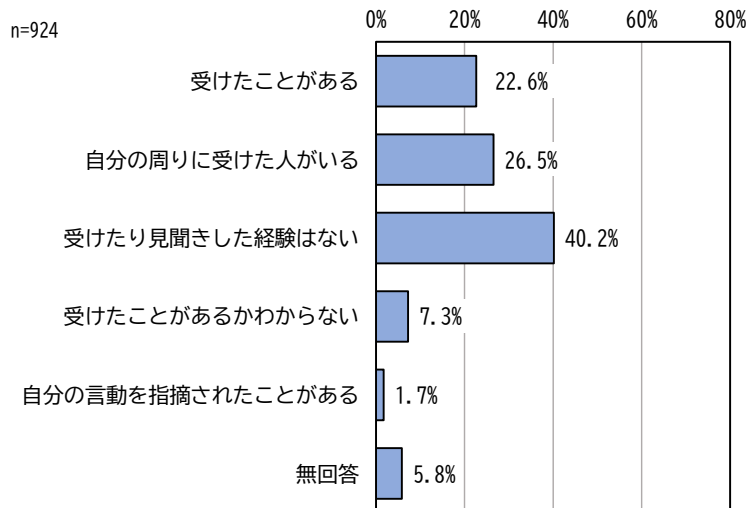
### (1) セクシャル・ハラスメント



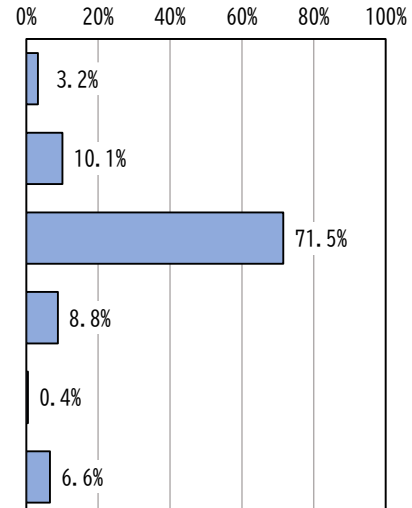
### (2) パワー・ハラスメント



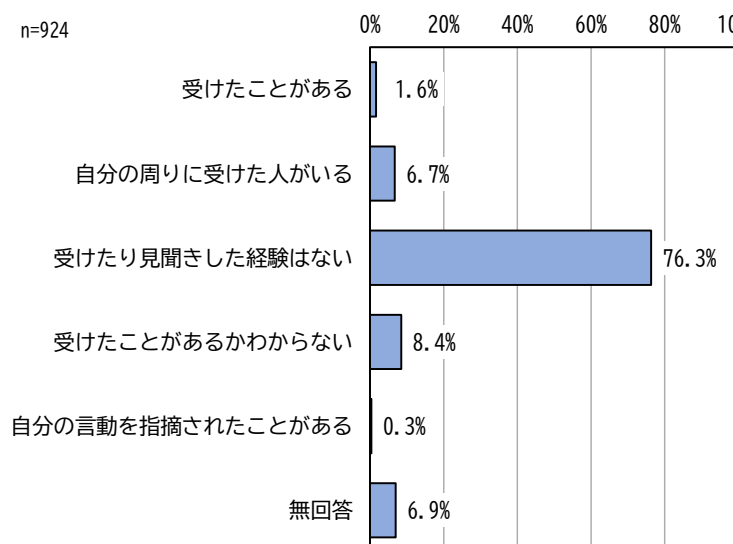
### (3) モラル・ハラスメント



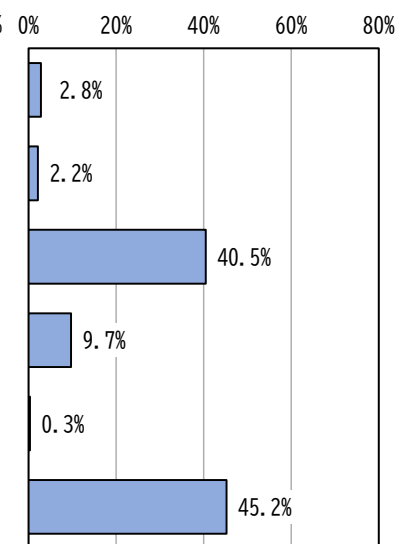
### (4) 出産や育児に係わるハラスメント



### (5) 性的指向<sup>(※1)</sup>・性自認<sup>(※2)</sup>に係るハラスメント



### (6) その他のハラスメント



【(1)セクシャル・ハラスメント:男女別・年代別クロス表】

		回答者数	受けたことがある	自分の周りに受けた人がいる	受けたり見聞きした経験はない	受けたり見聞きした経験はない	かわかたことがある	自分の言動を指摘されたことがある	無回答
全体		924	10.7%	21.0%	57.1%	7.6%	1.1%	5.6%	
性別	男性	400	4.5%	24.0%	56.0%	11.0%	2.3%	4.5%	
	女性	517	15.5%	18.8%	58.0%	4.8%	0.2%	6.6%	
男性×年齢別	18～19歳	11	0.0%	9.1%	81.8%	9.1%	0.0%	0.0%	
	20歳代	31	9.7%	22.6%	61.3%	6.5%	0.0%	3.2%	
	30歳代	52	11.5%	38.5%	44.2%	9.6%	0.0%	0.0%	
	40歳代	52	3.8%	28.8%	55.8%	11.5%	1.9%	0.0%	
	50歳代	81	3.7%	25.9%	59.3%	8.6%	1.2%	3.7%	
	60歳代	73	5.5%	24.7%	57.5%	6.8%	4.1%	5.5%	
	70歳代以上	100	0.0%	14.0%	54.0%	18.0%	4.0%	10.0%	
女性×年齢別	18～19歳	14	14.3%	28.6%	57.1%	7.1%	0.0%	0.0%	
	20歳代	52	21.2%	28.8%	46.2%	5.8%	0.0%	1.9%	
	30歳代	72	26.4%	22.2%	54.2%	2.8%	0.0%	1.4%	
	40歳代	70	17.1%	25.7%	57.1%	2.9%	0.0%	2.9%	
	50歳代	118	14.4%	21.2%	62.7%	2.5%	0.0%	4.2%	
	60歳代	98	13.3%	11.2%	62.2%	7.1%	1.0%	7.1%	
	70歳代以上	92	6.5%	8.7%	57.6%	7.6%	0.0%	19.6%	

男女別では、男女ともに、「受けたり見聞きした経験はない」が最も高く、次いで「自分の周りに受けた人がいる」という回答が高くなっています。

年代別でみると、全ての年代で男女ともに「受けたり見聞きした経験はない」が最も高くなっています。また、女性は30歳代と60歳代で「受けたことがある」という回答が2番目に高くなっています。

【(2)パワー・ハラスメント:男女別・年代別クロス表】

		回答者数	受けたことがある	自分の周りに受けた人がいる	受けた経験はない	かわかたらないがある	自分の言動がある指摘	無回答
全体		924	22.1%	31.0%	38.7%	5.3%	1.9%	5.6%
性別	男性	400	24.8%	30.0%	35.8%	7.5%	3.3%	4.5%
	女性	517	20.1%	31.7%	40.8%	3.7%	1.0%	6.6%
男性×年齢別	18～19歳	11	9.1%	9.1%	81.8%	9.1%	0.0%	0.0%
	20歳代	31	32.3%	19.4%	51.6%	0.0%	0.0%	3.2%
	30歳代	52	28.8%	34.6%	30.8%	7.7%	1.9%	1.9%
	40歳代	52	30.8%	40.4%	30.8%	3.8%	3.8%	0.0%
	50歳代	81	32.1%	25.9%	30.9%	7.4%	1.2%	3.7%
	60歳代	73	27.4%	39.7%	28.8%	5.5%	5.5%	4.1%
	70歳代以上	100	11.0%	24.0%	40.0%	13.0%	5.0%	10.0%
女性×年齢別	18～19歳	14	0.0%	28.6%	57.1%	14.3%	0.0%	0.0%
	20歳代	52	13.5%	38.5%	38.5%	7.7%	0.0%	1.9%
	30歳代	72	29.2%	34.7%	38.9%	5.6%	0.0%	1.4%
	40歳代	70	31.4%	34.3%	37.1%	1.4%	0.0%	1.4%
	50歳代	118	27.1%	33.9%	36.4%	2.5%	0.8%	4.2%
	60歳代	98	18.4%	30.6%	40.8%	3.1%	3.1%	7.1%
	70歳代以上	92	4.3%	22.8%	48.9%	2.2%	1.1%	20.7%

男女別では、男女ともに、「受けた経験はない」が最も高く、次いで「自分の周りに受けた人がいる」という回答が高くなっています。

年代別でみると、全ての年代で女性は「受けた経験はない」が最も高くなっていますが、男性は30歳代、40歳代、60歳代で「自分の周りに受けた人がいる」50歳代で「受けたことがある」という回答が最も高くなっています。

【(3)モラル・ハラスメント:男女別・年代別クロス表】

		回答者数	受けたことがある	自分の周りに受けた人がいる	受けた経験はない	かかわらないことがある	自分の言動がある指摘	無回答
全体		924	22.6%	26.5%	40.2%	7.3%	1.7%	5.8%
性別	男性	400	21.0%	23.8%	43.0%	9.5%	2.0%	4.5%
	女性	517	23.6%	28.6%	37.9%	5.6%	1.5%	7.0%
男性×年齢別	18～19歳	11	0.0%	9.1%	81.8%	9.1%	0.0%	0.0%
	20歳代	31	19.4%	25.8%	51.6%	3.2%	0.0%	3.2%
	30歳代	52	26.9%	28.8%	36.5%	9.6%	1.9%	0.0%
	40歳代	52	34.6%	21.2%	48.1%	1.9%	1.9%	0.0%
	50歳代	81	33.3%	17.3%	37.0%	9.9%	1.2%	3.7%
	60歳代	73	12.3%	35.6%	41.1%	9.6%	1.4%	4.1%
	70歳代以上	100	10.0%	20.0%	43.0%	15.0%	4.0%	11.0%
女性×年齢別	18～19歳	14	0.0%	21.4%	57.1%	7.1%	7.1%	7.1%
	20歳代	52	21.2%	30.8%	38.5%	9.6%	0.0%	1.9%
	30歳代	72	29.2%	25.0%	45.8%	4.2%	1.4%	1.4%
	40歳代	70	32.9%	27.1%	40.0%	2.9%	0.0%	2.9%
	50歳代	118	30.5%	36.4%	28.8%	4.2%	2.5%	5.1%
	60歳代	98	18.4%	31.6%	38.8%	6.1%	2.0%	5.1%
	70歳代以上	92	14.1%	19.6%	37.0%	7.6%	1.1%	21.7%

男女別では、男女ともに、「受けた経験はない」が最も高く、次いで「自分の周りに受けた人がいる」という回答が高くなっています。

年代別でみると、全ての年代で男性は「受けた経験はない」が最も高くなっていますが、女性は50歳代で「自分の周りに受けた人がいる」という回答が最も高くなっています。

【(4)出産や育児に係わるハラスメント:男女別・年代別クロス表】

		回答者数	受けたことがある	自分の周りに受けた人がいる	受けた経験はない	かわからない	自分の言動を指摘されたことがある	無回答
全体		924	3.2%	10.1%	71.5%	8.8%	0.4%	6.6%
性別	男性	400	1.3%	10.8%	70.5%	12.0%	0.8%	5.3%
	女性	517	4.8%	9.7%	72.1%	6.2%	0.2%	7.7%
男性×年齢別	18～19歳	11	0.0%	0.0%	90.9%	0.0%	0.0%	9.1%
	20歳代	31	0.0%	19.4%	71.0%	6.5%	0.0%	3.2%
	30歳代	52	3.8%	23.1%	59.6%	11.5%	1.9%	0.0%
	40歳代	52	1.9%	15.4%	67.3%	15.4%	1.9%	0.0%
	50歳代	81	0.0%	7.4%	76.5%	13.6%	0.0%	3.7%
	60歳代	73	2.7%	5.5%	78.1%	8.2%	0.0%	5.5%
	70歳代以上	100	0.0%	7.0%	65.0%	15.0%	1.0%	12.0%
女性×年齢別	18～19歳	14	0.0%	7.1%	92.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	52	7.7%	17.3%	65.4%	7.7%	0.0%	1.9%
	30歳代	72	13.9%	15.3%	66.7%	5.6%	0.0%	1.4%
	40歳代	70	7.1%	17.1%	70.0%	4.3%	0.0%	2.9%
	50歳代	118	4.2%	5.1%	79.7%	4.2%	0.0%	6.8%
	60歳代	98	0.0%	8.2%	73.5%	11.2%	1.0%	7.1%
	70歳代以上	92	1.1%	3.3%	67.4%	5.4%	0.0%	22.8%

男女別では、男女ともに、「受けた経験はない」が最も高く、次いで男性では「受けたことがあるかわからない」女性では「自分の周りに受けた人がいる」という回答が高くなっています。

年代別でみると、全ての年代で男女ともに「受けた経験はない」が最も高くなっています。また男女ともに年代が上がると、2番目に高い回答が「自分の周りに受けた人がいる」から「受けたことがあるかわからない」という回答に変化する傾向があります。

【(5)性的指向<sup>(※1)</sup>・性自認<sup>(※2)</sup>に係るハラスメント:男女別・年代別クロス表】

		回答者数	受けたことがある	受自 けた たの 人周 りが いる	し受 けた り見 聞 きは ない	か受 けた らな いがある	さ自 れた たの 言動 がある 指摘	無 回 答
全体		924	1.6%	6.7%	76.3%	8.4%	0.3%	6.9%
性別	男性	400	1.5%	7.5%	72.5%	12.3%	0.8%	5.8%
	女性	517	1.7%	6.2%	79.3%	5.2%	0.0%	7.9%
男性 × 年 齢 別	18～19歳	11	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	31	3.2%	16.1%	71.0%	6.5%	0.0%	3.2%
	30歳代	52	1.9%	7.7%	73.1%	17.3%	0.0%	0.0%
	40歳代	52	0.0%	13.5%	71.2%	15.4%	0.0%	0.0%
	50歳代	81	2.5%	2.5%	79.0%	12.3%	0.0%	3.7%
	60歳代	73	2.7%	8.2%	74.0%	6.8%	1.4%	8.2%
	70歳代以上	100	0.0%	6.0%	64.0%	15.0%	2.0%	13.0%
女性 × 年 齢 別	18～19歳	14	0.0%	21.4%	78.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	52	3.8%	9.6%	76.9%	3.8%	0.0%	5.8%
	30歳代	72	4.2%	8.3%	76.4%	8.3%	0.0%	4.2%
	40歳代	70	0.0%	10.0%	84.3%	2.9%	0.0%	2.9%
	50歳代	118	2.5%	4.2%	84.7%	4.2%	0.0%	5.1%
	60歳代	98	0.0%	4.1%	81.6%	7.1%	0.0%	7.1%
	70歳代以上	92	1.1%	2.2%	69.6%	5.4%	0.0%	21.7%

男女別では、男女ともに、「受けたり見聞きした経験はない」が最も高く、次いで男性では「受けたことがあるかわからない」女性では「自分の周りに受けた人がある」という回答が高くなっています。

年代別でみると、全ての年代で男女ともに「受けたり見聞きした経験はない」が最も高くなっています。また男女ともに「自分の周りに受けた人がある」「受けたことがあるかわからない」という回答も高い傾向になっています。

【(6)その他のハラスメント:男女別・年代別クロス表】

		回答者数	受けたことがある	自分の周りに受けた人がいる	受けた経験はない	かわからない	自分の言動を指摘されたことがある	無回答
全体		924	2.8%	2.2%	40.5%	9.7%	0.3%	45.2%
性別	男性	400	2.0%	2.8%	43.0%	11.3%	0.3%	41.8%
	女性	517	3.5%	1.7%	38.7%	8.5%	0.4%	47.8%
男性×年齢別	18～19歳	11	0.0%	0.0%	72.7%	0.0%	0.0%	27.3%
	20歳代	31	0.0%	3.2%	67.7%	3.2%	0.0%	25.8%
	30歳代	52	1.9%	3.8%	51.9%	17.3%	0.0%	25.0%
	40歳代	52	1.9%	7.7%	53.8%	9.6%	0.0%	28.8%
	50歳代	81	3.7%	2.5%	44.4%	13.6%	0.0%	37.0%
	60歳代	73	1.4%	2.7%	39.7%	8.2%	1.4%	49.3%
	70歳代以上	100	2.0%	0.0%	23.0%	13.0%	0.0%	62.0%
女性×年齢別	18～19歳	14	0.0%	0.0%	57.1%	14.3%	0.0%	28.6%
	20歳代	52	3.8%	0.0%	44.2%	13.5%	0.0%	38.5%
	30歳代	72	2.8%	5.6%	41.7%	12.5%	0.0%	38.9%
	40歳代	70	4.3%	0.0%	51.4%	10.0%	1.4%	32.9%
	50歳代	118	5.9%	3.4%	39.8%	5.1%	0.0%	47.5%
	60歳代	98	3.1%	0.0%	33.7%	10.2%	1.0%	52.0%
	70歳代以上	92	1.1%	1.1%	23.9%	3.3%	0.0%	70.7%

男女別では、男女ともに、「受けた経験はない」が最も高く、次いで「受けたことがあるかわからない」という回答が高くなっています。

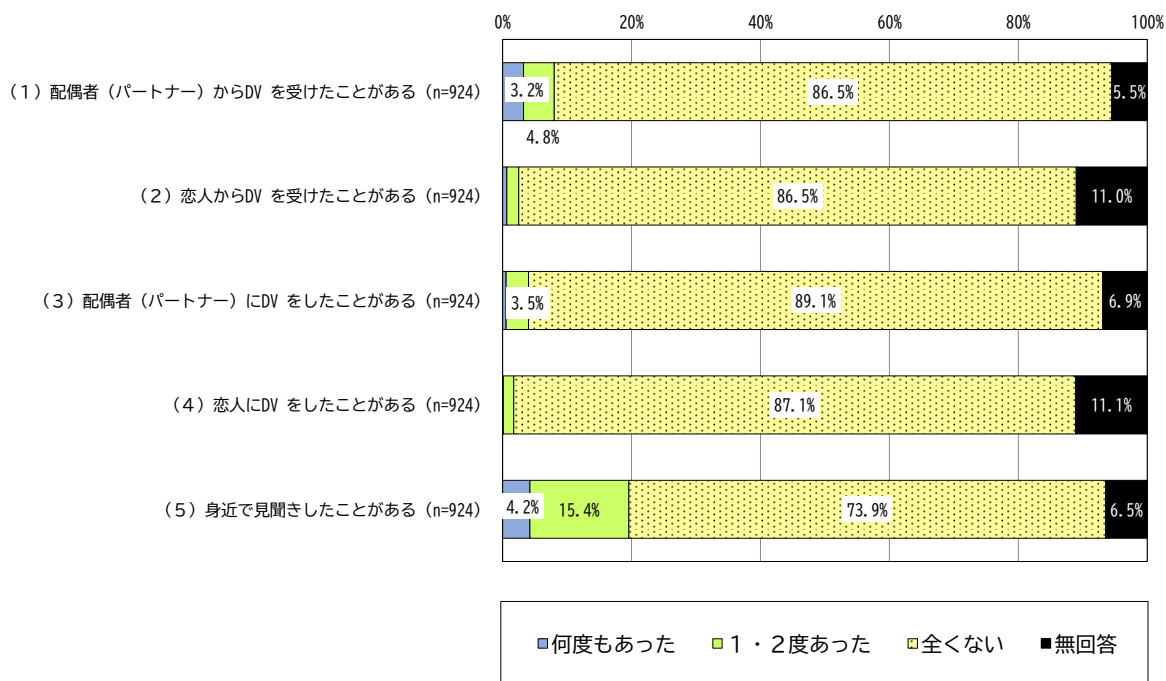
年代別でみると、全ての年代で男女ともに「受けた経験はない」が最も高くなっています。また男女ともに「受けたことがあるかわからない」という回答が全体的に2番目に高くなっていますが、男性は20歳代で「自分の周りに受けた人がいる」女性は50歳代で「受けたことがある」という回答が2番目に高くなっています。

問19 あなたは過去5年の間で、配偶者(パートナー)や恋人からDV(ドメスティック・バイオレンス)を受けたり、あるいはDVをしたことがあったり、身近で見聞きした経験はありますか。あてはまる番号(1～3)を1つずつ選び、番号に○をつけてください。

過去5年の間で、配偶者や恋人からDVを受けたり、あるいはDVをしたことがあったり、身近で見聞きした経験について、「何度もあった」では、『身近で見聞きしたことがある』が4.2%と最も多く、次いで、『配偶者(パートナー)からDVを受けたことがある』が3.2%、『恋人からDVを受けたことがある』が0.6%となっています。

「1・2度あった」では、『身近で見聞きしたことがある』が15.4%と最も多く、次いで、『配偶者(パートナー)からDVを受けたことがある』が4.8%、『配偶者(パートナー)にDVをしたことがある』が3.5%となっています。

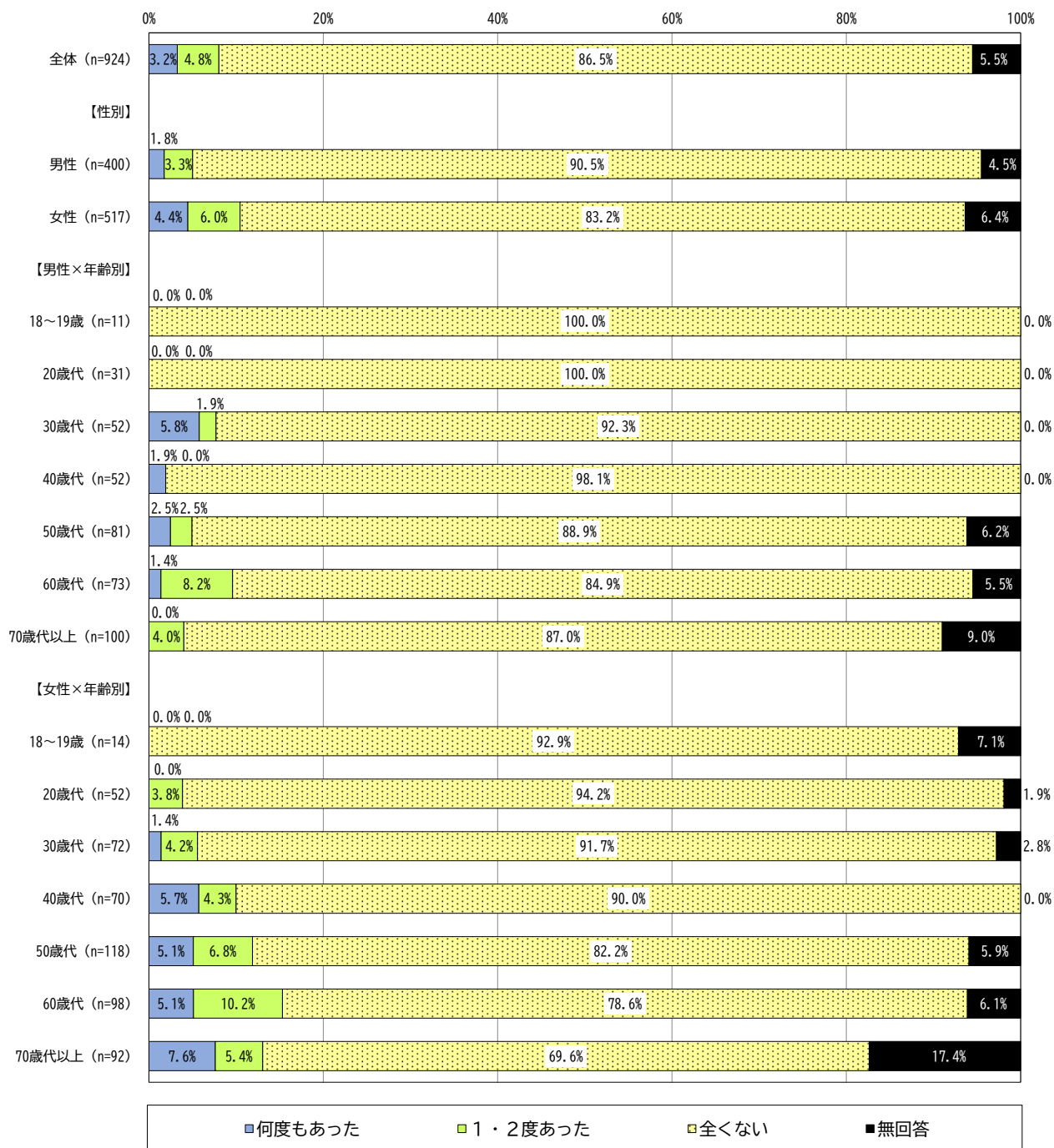
「全くない」では、『配偶者(パートナー)にDVをしたことがある』が89.1%と最も多く、次いで、『恋人にDVをしたことがある』が87.1%、『配偶者(パートナー)からDVを受けたことがある』、『恋人からDVを受けたことがある』がともに86.5%となっています。



項目(構成比)	何度もあった	1・2度あった	全くない	無回答	合計
(1) 配偶者(パートナー)からDVを受けたことがある (n=924)	3.2%	4.8%	86.5%	5.5%	100.0%
(2) 恋人からDVを受けたことがある (n=924)	0.6%	1.8%	86.5%	11.0%	100.0%
(3) 配偶者(パートナー)にDVをしたことがある (n=924)	0.5%	3.5%	89.1%	6.9%	100.0%
(4) 恋人にDVをしたことがある (n=924)	0.1%	1.6%	87.1%	11.1%	100.0%
(5) 身近で見聞きしたことがある (n=924)	4.2%	15.4%	73.9%	6.5%	100.0%

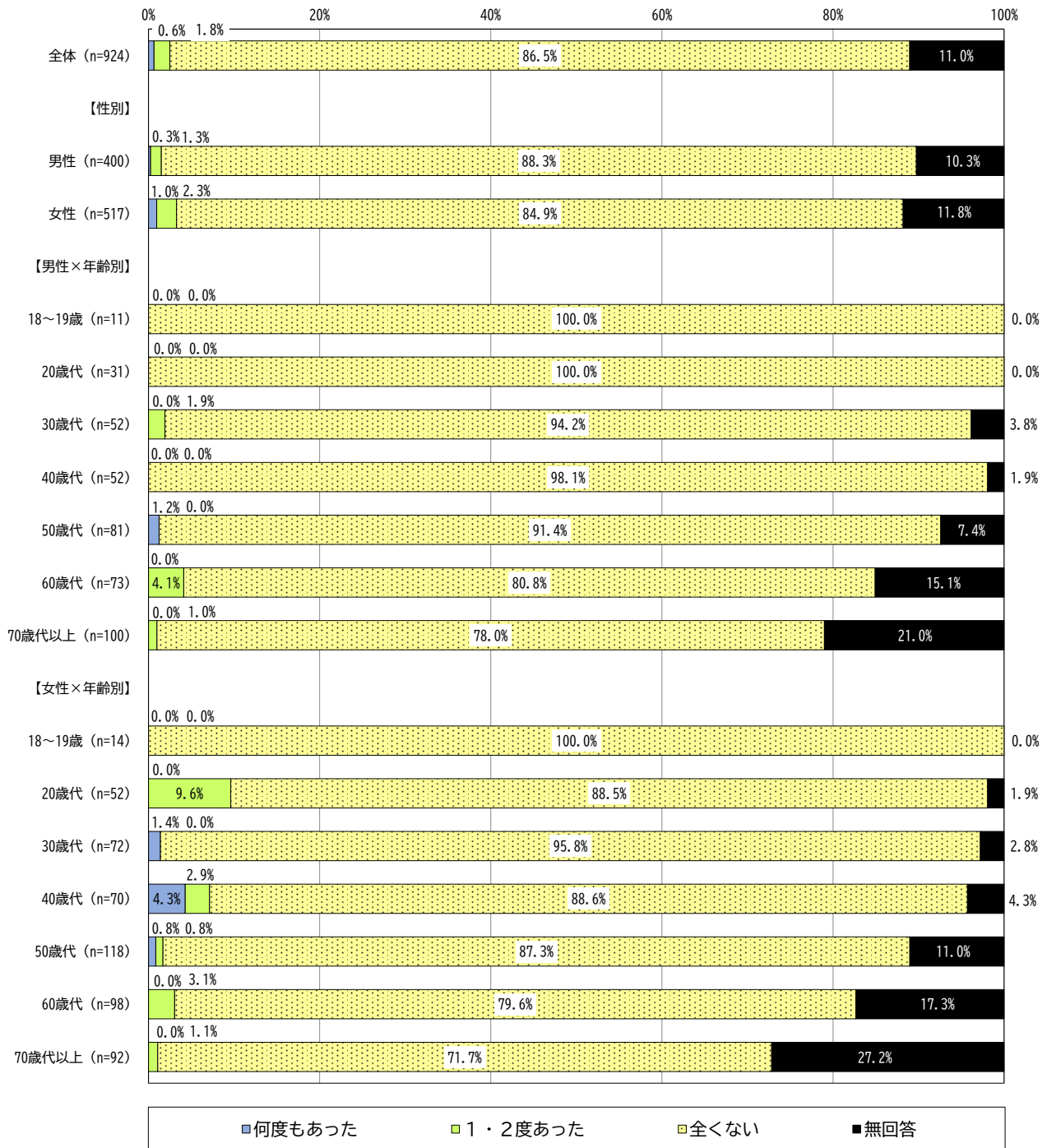
※DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、配偶者やパートナーなど親密な関係にあった相手から振られる暴力を言います。暴力とは、身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力、子どもを利用した暴力などを言います。

【(1)配偶者(パートナー)からDVを受けたことがある:男女別・年代別クロ表】



男女別では、女性は男性より、「何度もあった」「1・2度あった」という回答が高くなっています。  
 年代別で見ると、男性は若年層で「全くない」という回答が全てとなっており、女性は年代が上がるに従い、「何どもあった」「1・2度あった」という回答が高くなる傾向があります。

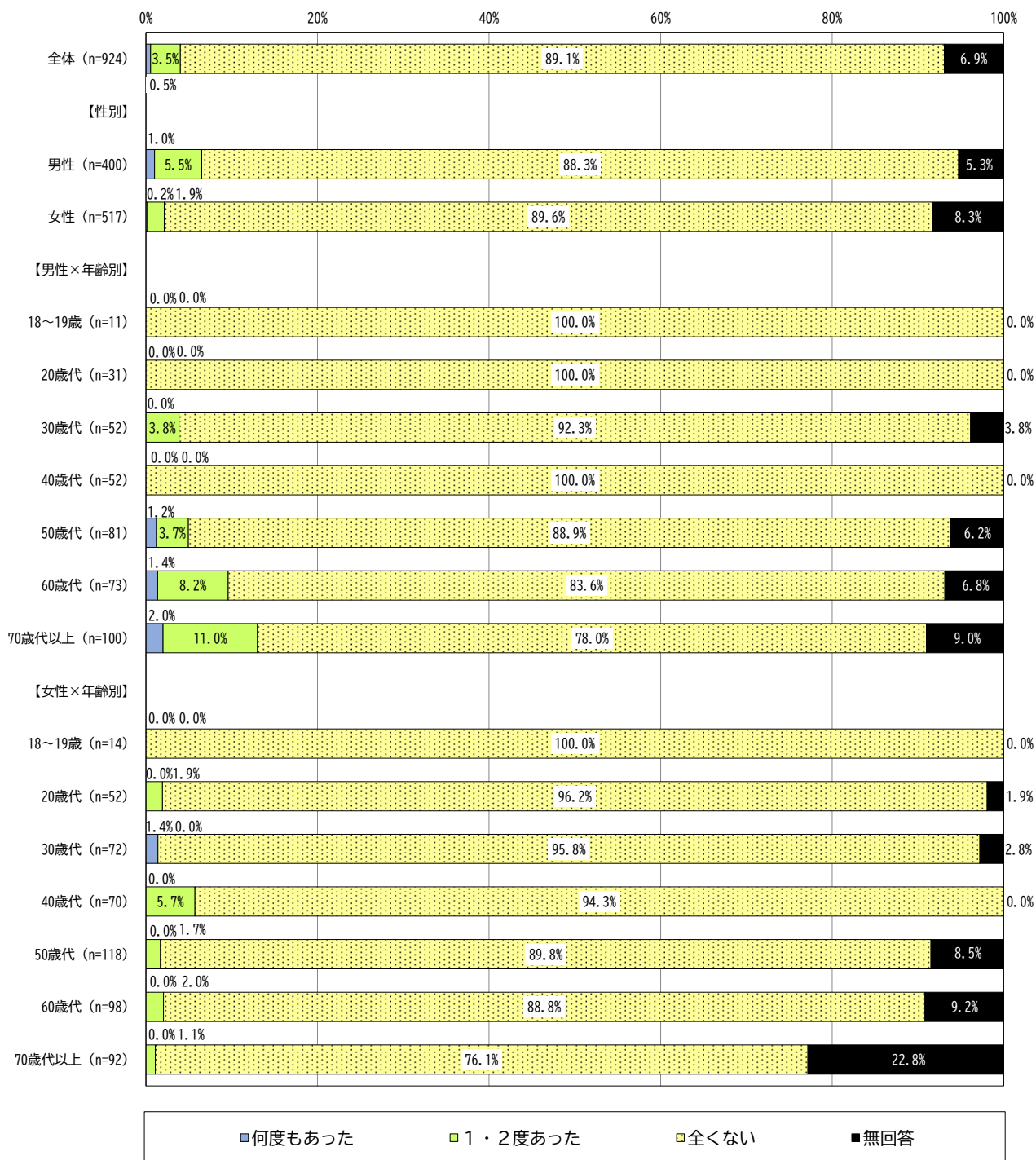
【(2)恋人からDVを受けたことがある:男女別・年代別クロス表】



男女別では、女性は男性より、「何度もあった」「1・2度あった」という回答がやや高くなっています。

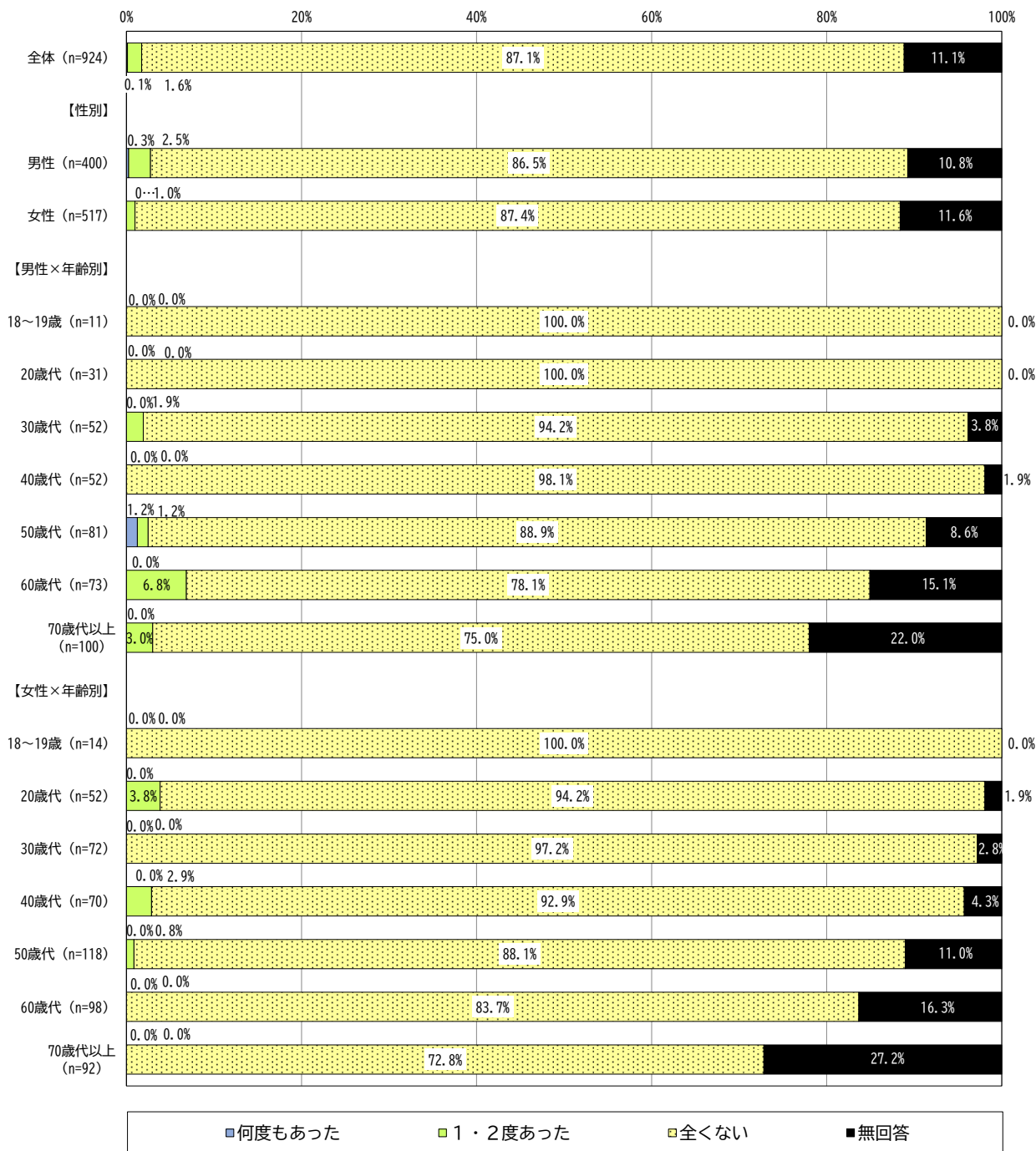
年代別でみると、男性は若年層で「全くない」という回答が全てとなっており、女性は20歳代で、「1・2度あった」という回答がやや高くなっています。

### 【(3)配偶者(パートナー)にDVをしたことがある:男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性は女性より、「何度もあった」「1・2度あった」という回答が高くなっています。年代別でみると、男性は18~19歳、20歳代、40歳代で「全くない」という回答が全くなっていますが、50歳代以上は年代が上がるに従い増加傾向にあります。また、女性は40歳代で、「1・2度あった」という回答がやや高くなっています。

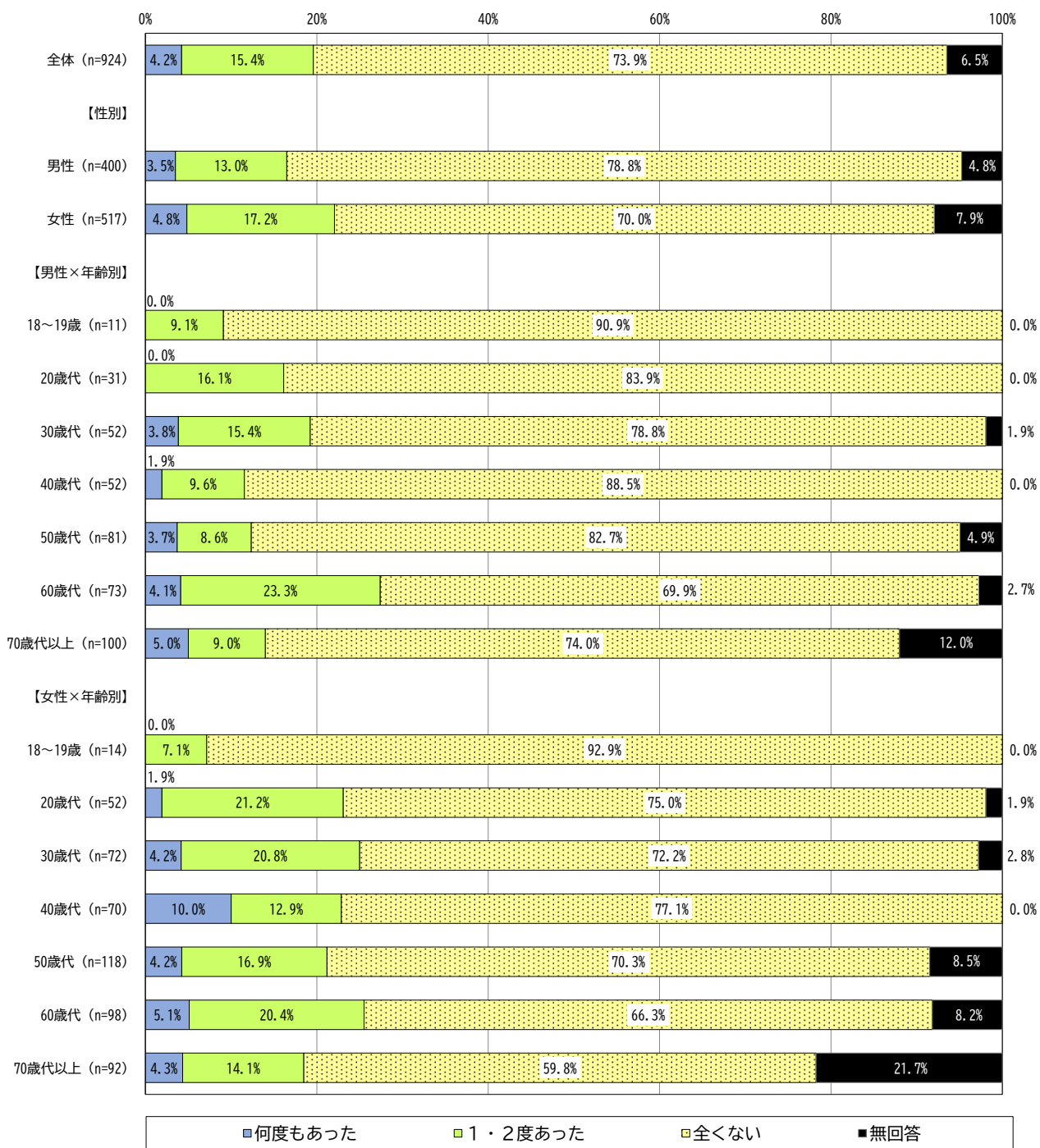
【(4)恋人にDVをしたことがある:男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性は女性より、「1・2度あった」という回答がやや高くなっています。

年代別でみると、男性は若年層で「全くない」という回答が全てとなっていますが、60歳代は「1・2度あった」6.8ポイントとなっています。また、女性は20歳代で、「1・2度あった」という回答が3.8ポイントとなっています。

【(5)身近で見聞きしたことがある:男女別・年代別クロス表】

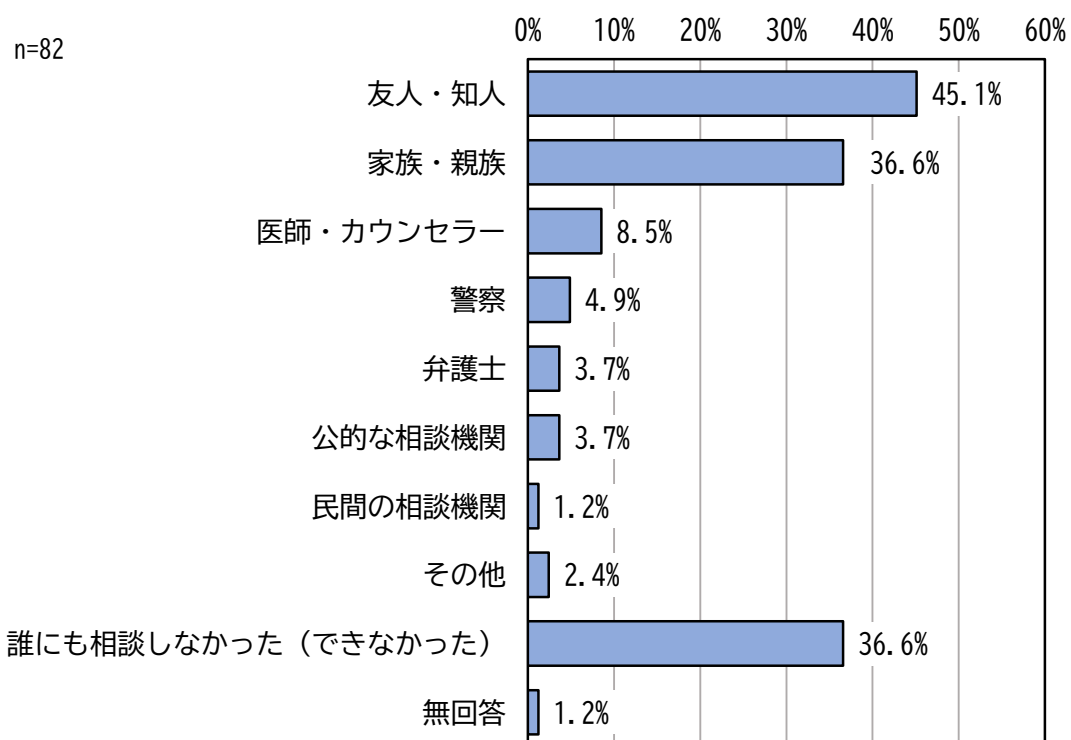


男女別では、女性は男性より、「何度もあった」「1・2度あった」という回答が高くなっています。  
 年代別でみると、男性は60歳代で「何度もあった」「1・2度あった」という回答が高くなっています。また、女性は20歳代以上で身近で見聞きする経験が増えてくるようです。

問19でDVを受けたとき、「何度もあった」「1・2度あった」を選択した方の回答

問20 DVを受けたとき、あなたは誰(どこ)に相談しましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

DVを受けたとき、相談した人(場所)については、「友人・知人」が**45.1%**と最も多く、次いで、「家族・親族」、「誰にも相談しなかった(できなかった)」がともに**36.6%**となっています。



## 【男女別・年代別クロス表】

		回答者数	家族・親族	友人・知人	警察	医師・カウンセラー	弁護士	公的な相談機関	民間の相談機関	その他	誰にも相談しなかった(できなかつた)	無回答	非該当
全体		82	36.6%	45.1%	4.9%	8.5%	3.7%	3.7%	1.2%	2.4%	36.6%	1.2%	842
性別	男性	20	10.0%	30.0%	5.0%	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	55.0%	5.0%	380
	女性	62	45.2%	50.0%	4.8%	8.1%	1.6%	4.8%	1.6%	3.2%	30.6%	0.0%	455
男性×年齢別	18～19歳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11
	20歳代	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	31
	30歳代	4	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	75.0%	0.0%	48
	40歳代	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	51
	50歳代	4	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	77
	60歳代	7	28.6%	42.9%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	14.3%	66
	70歳代以上	4	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	75.0%	0.0%	96
女性×年齢別	18～19歳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14
	20歳代	5	40.0%	100.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	47
	30歳代	5	20.0%	60.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	67
	40歳代	9	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	61
	50歳代	15	53.3%	53.3%	13.3%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	103
	60歳代	15	46.7%	53.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	83
	70歳代以上	13	38.5%	23.1%	0.0%	7.7%	0.0%	7.7%	7.7%	0.0%	46.2%	0.0%	79

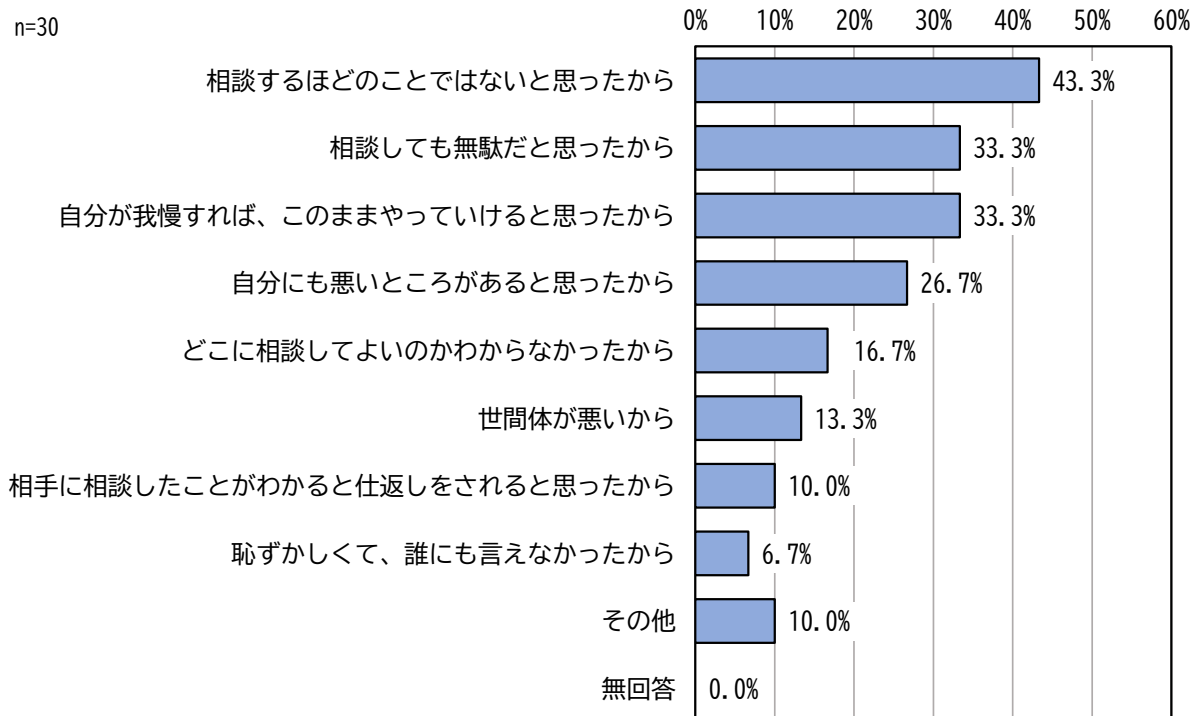
男女別では、男性は「誰にも相談しなかった(できなかつた)」という回答が最も高く、次いで、「友人・知人」となっています。女性は「友人・知人」という回答が最も高く、次いで、「家族・親族」となっています。

年代別でみると、男性は「誰にも相談しなかった(できなかつた)」という回答が高い傾向にあり、50歳代では「医師・カウンセラー」60歳代では「友人・知人」という回答が最も高くなっています。また、女性は「友人・知人」「家族・親族」が高い傾向にあり、70歳代以上では「誰にも相談しなかった(できなかつた)」が最も高くなっています。

問20で「相談しなかった(できなかった)」を選択した方の回答

問21 誰(どこ)にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

誰(どこ)にも相談しなかった、できなかった理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が**43.3%**と最も多く、次いで、「相談しても無駄だと思ったから」、「自分が我慢すれば、このままやっていけると思ったから」がともに**33.3%**となっています。



【男女別・年代別クロス表】

	回答者数	かどこから相談したよからの	言えずなかつたから、誰にも	相談しても無駄だと思ったから	相手に相談したことがされると思つたから	自分が我慢すれば、このままやっていると思つたから	世間体が悪いから	相談するほどのことではないと思つたから	自分にも悪いところがあると思つたから	その他	無回答	非該当
全体	30	16.7%	6.7%	33.3%	10.0%	33.3%	13.3%	43.3%	26.7%	10.0%	0.0%	894
性別	男性	11	0.0%	9.1%	45.5%	0.0%	27.3%	18.2%	54.5%	45.5%	0.0%	389
	女性	19	26.3%	5.3%	26.3%	15.8%	36.8%	10.5%	36.8%	15.8%	15.8%	498
男性×年齢別	18～19歳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11
	20歳代	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	31
	30歳代	3	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	49
	40歳代	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	51
	50歳代	2	0.0%	50.0%	100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	79
	60歳代	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	71
	70歳代以上	3	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	66.7%	66.7%	0.0%	97
女性×年齢別	18～19歳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14
	20歳代	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	52
	30歳代	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	71
	40歳代	3	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	67
	50歳代	3	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	115
	60歳代	6	16.7%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	16.7%	33.3%	33.3%	16.7%	92
	70歳代以上	6	33.3%	16.7%	16.7%	33.3%	33.3%	0.0%	50.0%	16.7%	16.7%	86

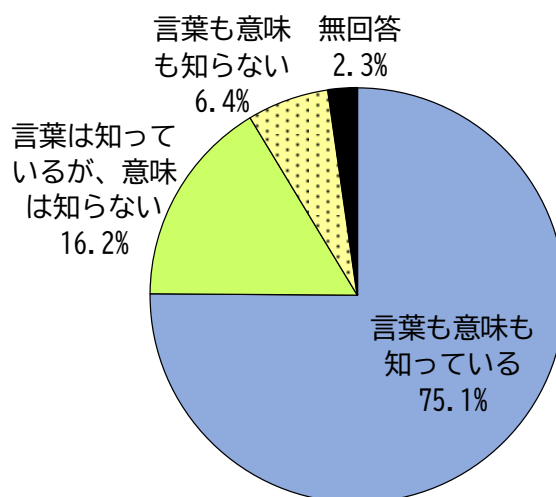
男女別では、男性は「相談するほどのことではないと思つたから」という回答が最も高く、次いで、「相談しても無駄だと思つたから」「自分にも悪いところがあると思つたから」という回答がともに高くなっています。女性は「相談するほどのことではないと思つたから」「自分が我慢すれば、このままやっていると思つたから」という回答がともに最も高くなっています。

年代別でみると、男性は「相談しても無駄だと思つたから」「相談するほどのことではないと思つたから」「自分にも悪いところがあると思つたから」という回答が高い傾向にあります。

問22 あなたは、「性的マイノリティ(LGBTQ※)」という言葉と意味について、知っていますか。あてはまる番号を1つだけ選び番号に○をつけてください。

「性的マイノリティ(LGBTQ※)」という言葉の認知度については、「言葉も意味も知っている」が75.1%と最も多く、次いで、「言葉は知っているが、意味は知らない」が16.2%、「言葉も意味も知らない」が6.4%となっています。

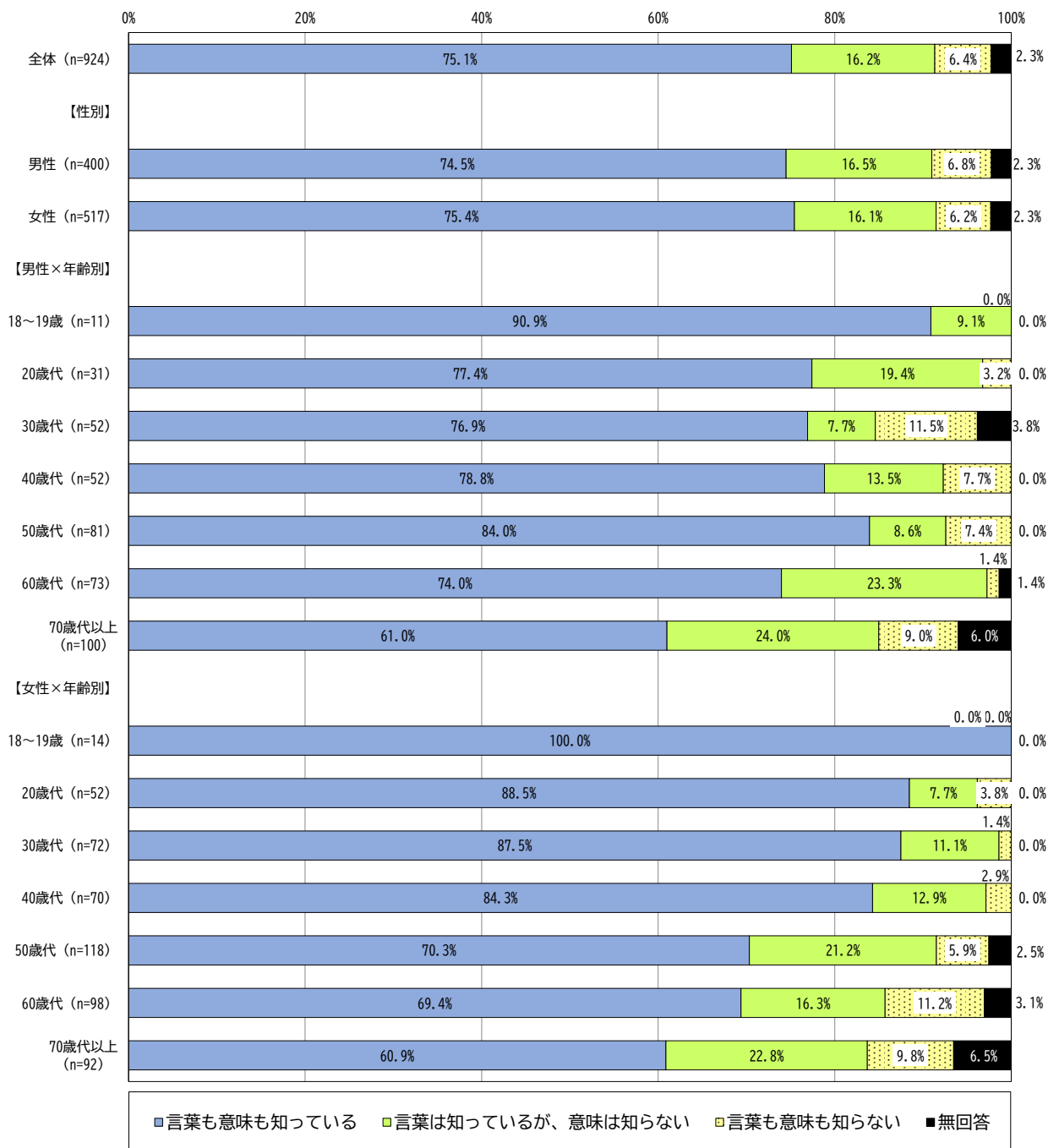
n=924



※性的マイノリティ(LGBTQ)とは、次の総称を言います。

- ・レズビアン(Lesbian)…女性同性愛者
- ・ゲイ(Gay)…男性同性愛者
- ・バイセクシュアル(Bisexual)…両性愛者
- ・トランスジェンダー(Transgender)…生まれた時の性別と自認する性別が一致しない人
- ・クエスチョニング・クエア(Questioning・Queer)…自分自身の性を決められない・わからない・決めていない人など

## 【男女別・年代別クロス表】

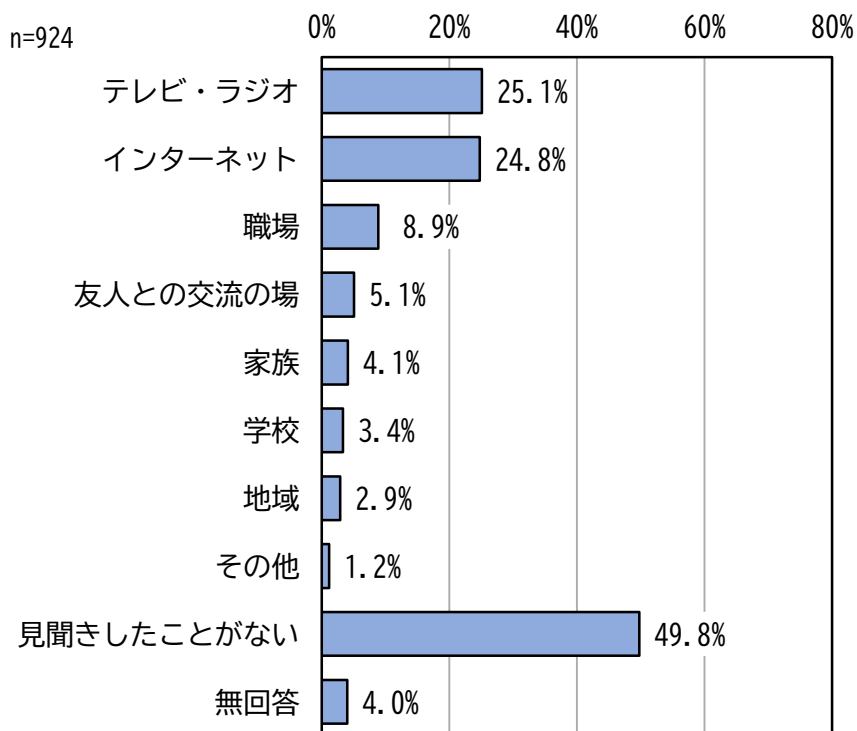


男女別では、男女ともに同様の数値となっています。

年代別で見ると、男性は18～19歳、50歳代で「言葉も意味も知っている」という回答が8割を超えています。また、女性は年代が上がるに従い「言葉も意味も知っている」という回答が低くなる傾向があります。

問23 あなたは過去5年の間で、性的マイノリティ(LGBTQ)に対する差別的な言動を、次の場所で見聞きしたことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

過去5年の間で、性的マイノリティ(LGBTQ)に対する差別的な言動を、見聞きした場所については、「見聞きしたことがない」が**49.8%**と最も多く、次いで、「テレビ・ラジオ」が**25.1%**、「インターネット」が**24.8%**となっています。



【男女別・年代別クロス表】

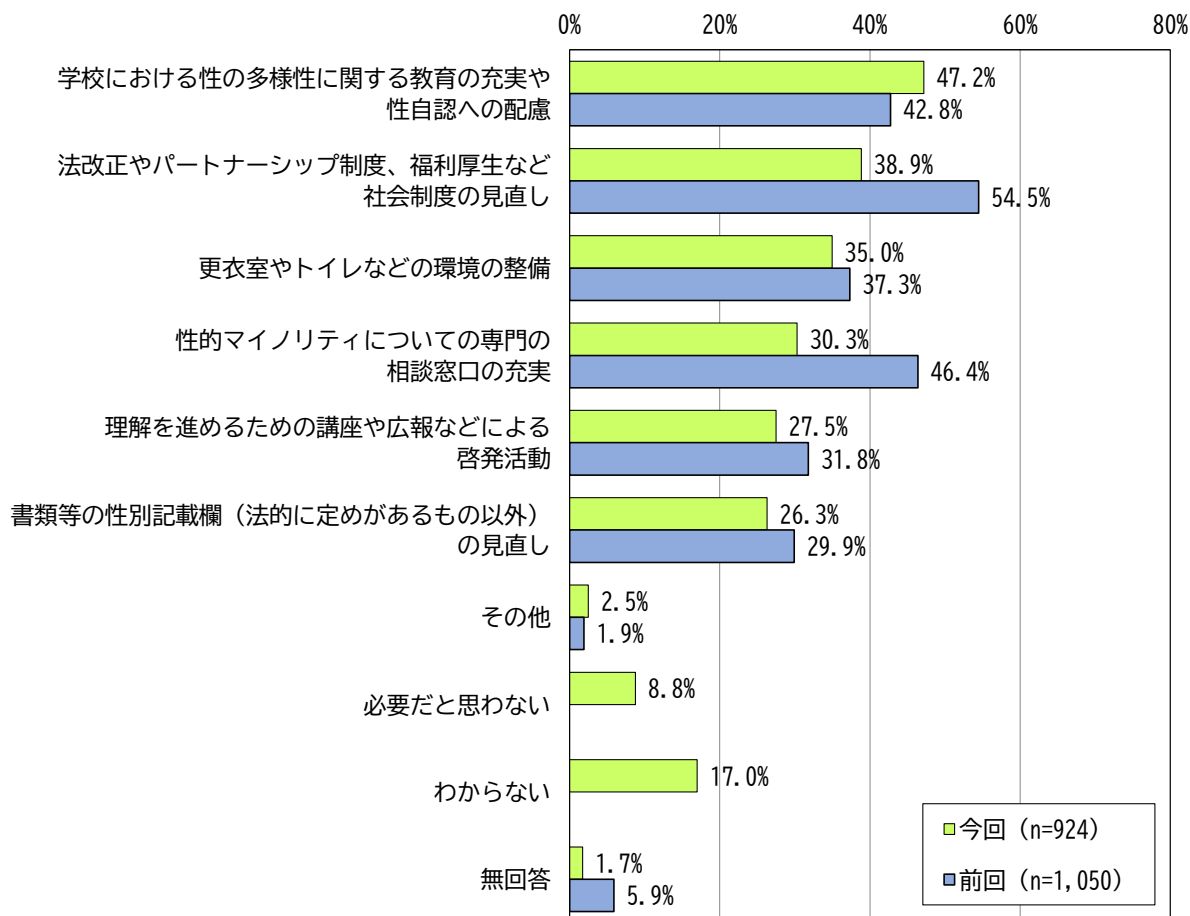
	回答者数	職場	学校	地域	家族	テレビ・ラジオ	インターネット	友人との交流の場	その他	ない見聞きしたことが	無回答	
全体	924	8.9%	3.4%	2.9%	4.1%	25.1%	24.8%	5.1%	1.2%	49.8%	4.0%	
性別	男性	400	9.0%	3.0%	2.5%	1.3%	26.3%	28.3%	6.0%	1.8%	50.0%	2.8%
	女性	517	8.9%	3.5%	3.3%	6.4%	24.0%	21.9%	4.4%	0.8%	50.1%	5.0%
男性×年齢別	18～19歳	11	0.0%	18.2%	0.0%	9.1%	0.0%	36.4%	0.0%	9.1%	45.5%	0.0%
	20歳代	31	12.9%	16.1%	6.5%	3.2%	22.6%	51.6%	16.1%	0.0%	38.7%	0.0%
	30歳代	52	21.2%	0.0%	0.0%	1.9%	15.4%	36.5%	9.6%	0.0%	53.8%	0.0%
	40歳代	52	5.8%	1.9%	3.8%	0.0%	13.5%	25.0%	1.9%	5.8%	63.5%	1.9%
	50歳代	81	11.1%	1.2%	1.2%	0.0%	22.2%	30.9%	2.5%	1.2%	55.6%	1.2%
	60歳代	73	6.8%	2.7%	2.7%	2.7%	37.0%	28.8%	8.2%	0.0%	45.2%	2.7%
	70歳代以上	100	4.0%	1.0%	3.0%	0.0%	38.0%	15.0%	5.0%	2.0%	44.0%	7.0%
女性×年齢別	18～19歳	14	0.0%	7.1%	0.0%	7.1%	21.4%	64.3%	0.0%	0.0%	21.4%	0.0%
	20歳代	52	9.6%	17.3%	7.7%	11.5%	21.2%	44.2%	9.6%	0.0%	30.8%	1.9%
	30歳代	72	19.4%	2.8%	1.4%	8.3%	19.4%	29.2%	1.4%	0.0%	40.3%	0.0%
	40歳代	70	20.0%	5.7%	7.1%	11.4%	21.4%	25.7%	10.0%	1.4%	54.3%	1.4%
	50歳代	118	8.5%	0.8%	2.5%	7.6%	24.6%	20.3%	2.5%	1.7%	52.5%	4.2%
	60歳代	98	2.0%	1.0%	3.1%	1.0%	32.7%	13.3%	2.0%	1.0%	57.1%	6.1%
	70歳代以上	92	1.1%	0.0%	1.1%	2.2%	21.7%	5.4%	5.4%	0.0%	58.7%	14.1%

男女別では、男女ともに「見聞きしたことがない」という回答が最も高く、次いで男性は「インターネット」女性は「テレビ・ラジオ」となっています。

年代別でみると、男女ともに「見聞きしたことがない」という回答が高くなっており、見聞きしたことがある方の回答は、年代が上がるに従い「インターネット」という回答が低くなり、「テレビ・ラジオ」という回答が高くなる傾向があります。

問24 あなたは性的マイノリティ(LGBTQ)に対する理解の促進や支援にはどのような取り組みが必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

性的マイノリティ(LGBTQ)に対する理解の促進や支援に必要な取り組みについては、「学校における性の多様性に関する教育の充実や性自認への配慮」が**47.2%**と最も多く、次いで、「法改正やパートナーシップ制度、福利厚生など社会制度の見直し」が**38.9%**、「更衣室やトイレなどの環境の整備」が**35.0%**となっています。



#### 【前回調査(令和2年度)との比較】

前回との比較では、「学校における性の多様性に関する教育の充実や性自認への配慮」回答が**4.4ポイント**増加しています。他の項目は概ね減少傾向にあります。また、新たに新設した「必要だと思わない」「わからない」を合わせて**25.8ポイント**となっています。

【男女別・年代別クロス表】

		回答者数	見直し (法的に定めがあるもの以外)の 書類等の性別記載欄	理解を進めるための講座や広報 などによる啓発活動	性的マイノリティについての 専門の相談窓口の充実	法改正やパートナーシップ制度、 福利厚生など社会制度の見直し	学校における性の多様性に関する 教育の充実や性自認への配慮	更衣室やトイレなどの環境の整備	その他	必要だと思わない	わからない	無回答
全体		924	26.3%	27.5%	30.3%	38.9%	47.2%	35.0%	2.5%	8.8%	17.0%	1.7%
性別	男性	400	24.3%	27.5%	26.0%	34.3%	38.5%	26.0%	3.3%	14.8%	18.8%	1.0%
	女性	517	28.0%	27.5%	33.7%	42.6%	53.8%	42.0%	1.9%	4.3%	15.5%	2.3%
男性× 年齢別	18～19歳	11	18.2%	18.2%	36.4%	9.1%	45.5%	27.3%	0.0%	9.1%	27.3%	0.0%
	20歳代	31	16.1%	19.4%	32.3%	25.8%	41.9%	22.6%	3.2%	25.8%	6.5%	0.0%
	30歳代	52	17.3%	21.2%	17.3%	40.4%	36.5%	25.0%	5.8%	26.9%	15.4%	0.0%
	40歳代	52	23.1%	15.4%	15.4%	23.1%	32.7%	28.8%	7.7%	23.1%	15.4%	1.9%
	50歳代	81	27.2%	33.3%	25.9%	30.9%	28.4%	24.7%	2.5%	9.9%	22.2%	0.0%
	60歳代	73	28.8%	35.6%	34.2%	46.6%	47.9%	28.8%	1.4%	8.2%	17.8%	0.0%
	70歳代以上	100	26.0%	30.0%	27.0%	36.0%	42.0%	25.0%	2.0%	10.0%	23.0%	3.0%
女性× 年齢別	18～19歳	14	21.4%	21.4%	35.7%	42.9%	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%
	20歳代	52	19.2%	9.6%	28.8%	46.2%	50.0%	44.2%	7.7%	9.6%	9.6%	0.0%
	30歳代	72	29.2%	16.7%	26.4%	44.4%	50.0%	34.7%	0.0%	6.9%	12.5%	0.0%
	40歳代	70	35.7%	34.3%	48.6%	58.6%	70.0%	55.7%	0.0%	1.4%	7.1%	1.4%
	50歳代	118	29.7%	33.1%	33.1%	47.5%	58.5%	48.3%	3.4%	4.2%	10.2%	1.7%
	60歳代	98	33.7%	29.6%	35.7%	40.8%	46.9%	40.8%	1.0%	5.1%	23.5%	2.0%
	70歳代以上	92	19.6%	31.5%	29.3%	21.7%	47.8%	29.3%	1.1%	1.1%	27.2%	7.6%

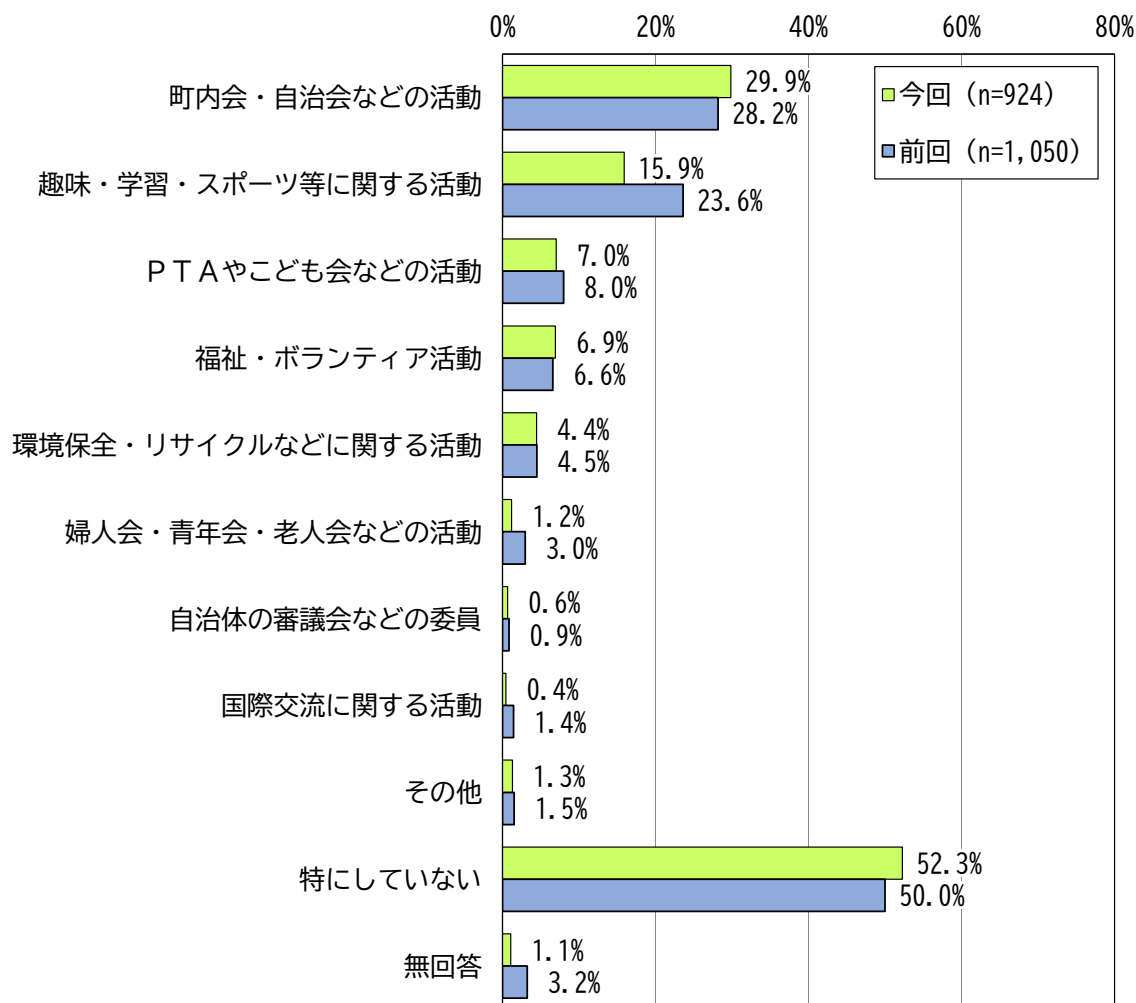
男女別では、男女ともに、「学校における性の多様性に関する教育の充実や性自認への配慮」という回答が最も高く、次いで「法改正やパートナーシップ制度、福利厚生など社会制度の見直し」となっています。

年代別をみると、女性は概ね、「学校における性の多様性に関する教育の充実や性自認への配慮」「法改正やパートナーシップ制度、福利厚生など社会制度の見直し」という回答が高くなっているのに対し、男性では、「学校における性の多様性に関する教育の充実や性自認への配慮」という回答が高くなっていましたが、男性の30歳代では「法改正やパートナーシップ制度、福利厚生など社会制度の見直し」50歳代では「理解を進めるための講座や広報などによる啓発活動」という回答が最も高くなっています。

## ●地域活動・社会参加について

問25 あなたは現在どのような地域活動・社会活動をしていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

現在行っている地域活動に関しては、「特にしていない」が**52.3%**と最も多く、次いで、「町内会・自治会などの活動」が**29.9%**、「趣味・学習・スポーツ等に関する活動」が**15.9%**となっています。



### 【前回調査(令和2年度)との比較】

前回との比較では、前回と同様「特にしていない」という回答が最も高く、行っている地域活動は、「町内会・自治会などの活動」との回答が約3割で前回と大きな違いはなく、「趣味・学習・スポーツ等に関する活動」との回答が約1.5割で前回から7.7ポイント減少しています。

## 【男女別・年代別クロス表】

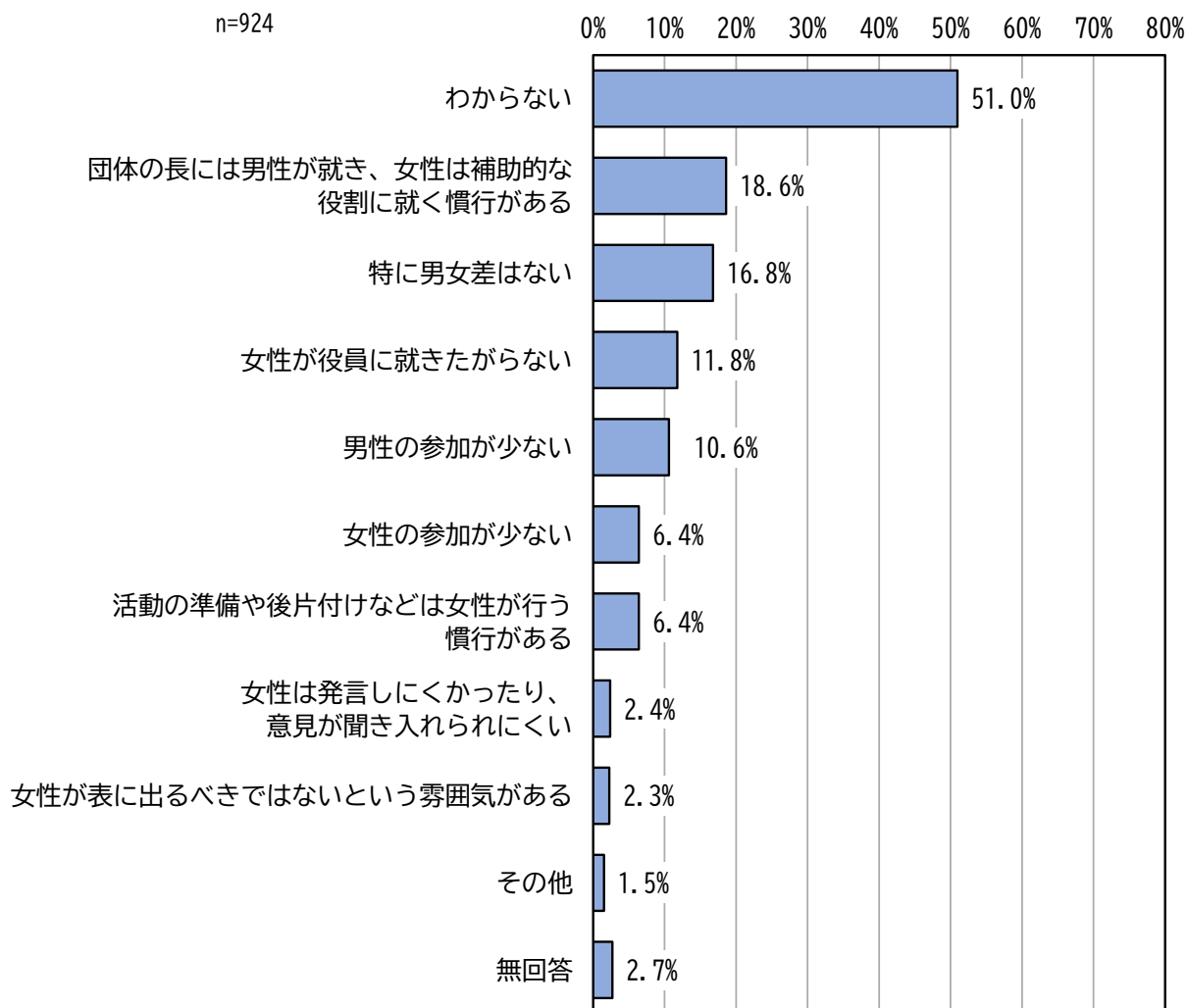
	回答者数	の町内会・自治会などの活動	人婦人会・青年会・老人会などの活動	活動福祉・ボランティア	P T A や子ども会などの活動	環境保全・リサイクルなどに関する活動	自治体の審議会などの委員	活動国際交流に関する	活動趣味・学習・スポーツ等に関する	その他	特にしていない	無回答	
全体	924	29.9%	1.2%	6.9%	7.0%	4.4%	0.6%	0.4%	15.9%	1.3%	52.3%	1.1%	
性別	男性	400	29.8%	1.3%	5.3%	3.3%	5.3%	1.3%	0.5%	15.0%	1.3%	55.0%	1.0%
	女性	517	30.2%	1.2%	8.3%	9.9%	3.9%	0.2%	0.4%	16.4%	1.4%	49.9%	1.2%
男性×年齢別	18～19歳	11	18.2%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	72.7%	0.0%
	20歳代	31	0.0%	0.0%	3.2%	3.2%	3.2%	0.0%	0.0%	6.5%	0.0%	83.9%	0.0%
	30歳代	52	21.2%	0.0%	5.8%	3.8%	3.8%	0.0%	0.0%	21.2%	1.9%	61.5%	0.0%
	40歳代	52	28.8%	1.9%	7.7%	5.8%	1.9%	0.0%	0.0%	9.6%	3.8%	57.7%	0.0%
	50歳代	81	28.4%	0.0%	3.7%	4.9%	3.7%	0.0%	0.0%	16.0%	2.5%	55.6%	0.0%
	60歳代	73	34.2%	1.4%	6.8%	2.7%	6.8%	2.7%	0.0%	13.7%	0.0%	56.2%	1.4%
	70歳代以上	100	43.0%	3.0%	4.0%	1.0%	9.0%	3.0%	2.0%	18.0%	0.0%	38.0%	3.0%
女性×年齢別	18～19歳	14	0.0%	0.0%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	42.9%	0.0%	42.9%	0.0%
	20歳代	52	7.7%	0.0%	7.7%	1.9%	1.9%	0.0%	0.0%	19.2%	0.0%	69.2%	0.0%
	30歳代	72	26.4%	1.4%	1.4%	16.7%	4.2%	1.4%	1.4%	5.6%	1.4%	62.5%	0.0%
	40歳代	70	45.7%	0.0%	5.7%	40.0%	2.9%	0.0%	0.0%	12.9%	1.4%	38.6%	0.0%
	50歳代	118	32.2%	0.8%	5.9%	8.5%	4.2%	0.0%	0.0%	7.6%	1.7%	51.7%	2.5%
	60歳代	98	31.6%	1.0%	10.2%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%	19.4%	2.0%	44.9%	1.0%
	70歳代以上	92	34.8%	3.3%	12.0%	0.0%	6.5%	0.0%	0.0%	30.4%	1.1%	41.3%	2.2%

男女別では、男女ともに、「特にしていない」という回答が最も高く、次いで「町内会・自治会などの活動」となっています。

年代別をみると、同様に男女ともほとんどの年代で「特にしていない」という回答が最も高くなっていますが、女性の18歳～19歳では、「福祉・ボランティア活動」「趣味・学習・スポーツ等に関する活動」という回答も「特にしていない」と同様で最も高くなっています。なお、男女とも年代が上がるに従い「町内会・自治会などの活動」という回答も高くなる傾向があります。

問26 あなたがお住いの地域の活動(自治会・子ども会・ボランティア・自主防災活動など)では、次のことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

お住いの地域活動については、「わからない」が**51.0%**と最も多く、次いで、「団体の長には男性が就き、女性は補助的な役割に就く慣行がある」が**18.6%**、「特に男女差はない」が**16.8%**となっています。



## 【男女別・年代別クロス表】

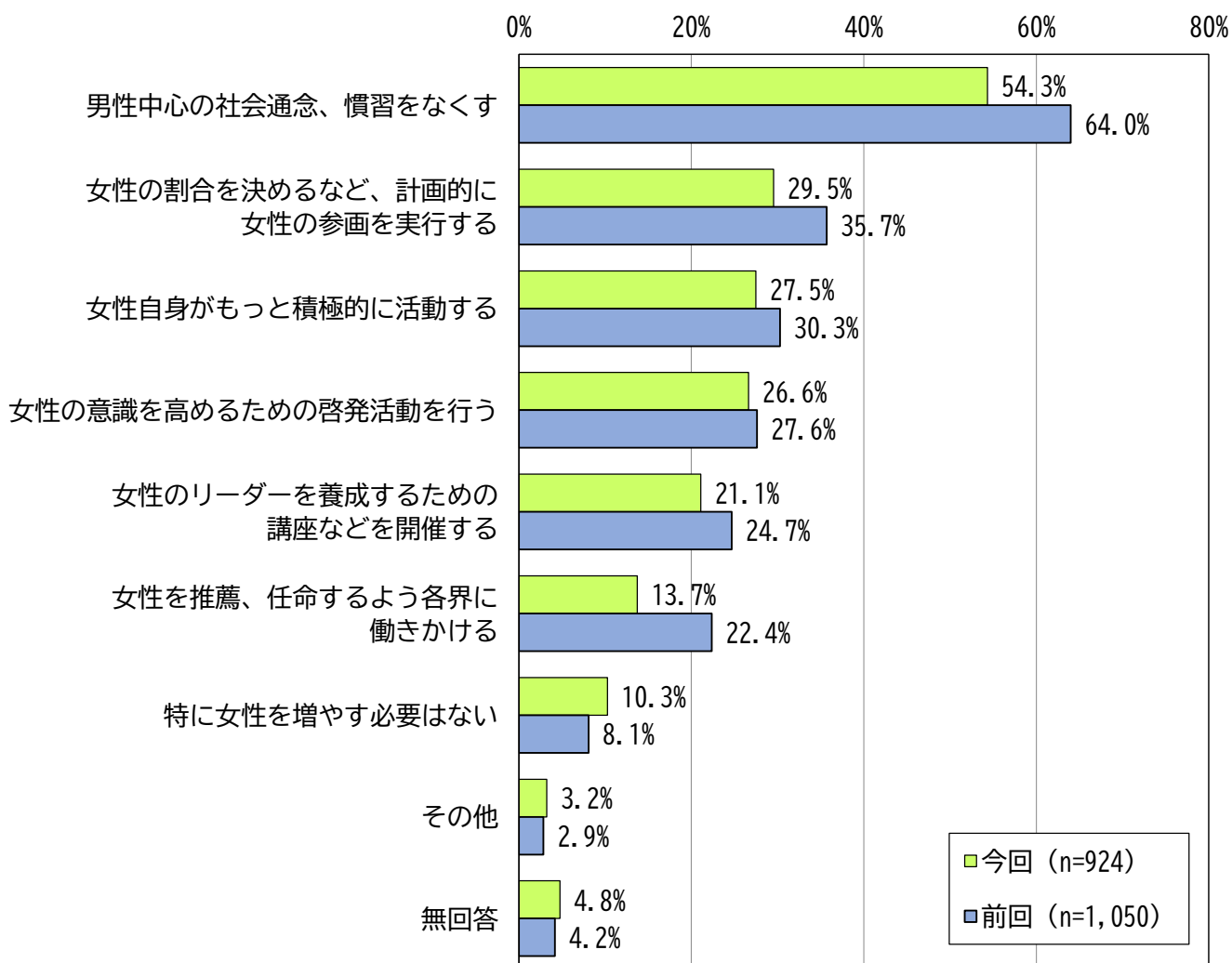
	回答者数	男性の参加が少ない	女性の参加が少ない	団体の長には男性が就き、女性は補助的な役割に就く慣行がある	女性が役員に就きたがらない	女性が表に出るべきではないという雰囲気がある	聞き入れられにくい	女性が発言しにくかったり、意見が聞かれない	後片付けなどは女性が行う慣行がある	活動の準備や後片付けなどは女性が行う	その他	特に男女差はない	わからない	無回答
全体	924	10.6%	6.4%	18.6%	11.8%	2.3%	2.4%	6.4%	1.5%	16.8%	51.0%	2.7%		
性別	男性	400	9.5%	8.8%	15.8%	12.5%	2.0%	2.5%	5.3%	1.3%	17.5%	52.3%	2.3%	
	女性	517	11.6%	4.6%	20.7%	11.4%	2.5%	2.3%	7.4%	1.5%	16.2%	49.9%	3.1%	
男性×年齢別	18～19歳	11	9.1%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	18.2%	63.6%	0.0%	
	20歳代	31	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%	3.2%	0.0%	3.2%	87.1%	3.2%	
	30歳代	52	3.8%	13.5%	9.6%	7.7%	0.0%	0.0%	3.8%	1.9%	9.6%	65.4%	0.0%	
	40歳代	52	3.8%	3.8%	3.8%	1.9%	1.9%	1.9%	3.8%	1.9%	21.2%	69.2%	0.0%	
	50歳代	81	7.4%	8.6%	16.0%	9.9%	3.7%	1.2%	4.9%	1.2%	17.3%	55.6%	1.2%	
	60歳代	73	12.3%	8.2%	26.0%	21.9%	1.4%	5.5%	6.8%	0.0%	17.8%	37.0%	5.5%	
	70歳代以上	100	18.0%	13.0%	23.0%	20.0%	3.0%	4.0%	6.0%	2.0%	24.0%	33.0%	3.0%	
女性×年齢別	18～19歳	14	14.3%	0.0%	21.4%	7.1%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	7.1%	64.3%	0.0%	
	20歳代	52	1.9%	1.9%	7.7%	3.8%	1.9%	5.8%	5.8%	1.9%	11.5%	73.1%	0.0%	
	30歳代	72	4.2%	1.4%	11.1%	4.2%	1.4%	1.4%	1.4%	2.8%	13.9%	72.2%	1.4%	
	40歳代	70	20.0%	0.0%	31.4%	24.3%	5.7%	1.4%	14.3%	0.0%	10.0%	42.9%	1.4%	
	50歳代	118	10.2%	4.2%	19.5%	9.3%	1.7%	1.7%	9.3%	2.5%	16.1%	52.5%	1.7%	
	60歳代	98	13.3%	10.2%	20.4%	16.3%	5.1%	3.1%	5.1%	2.0%	22.4%	40.8%	2.0%	
	70歳代以上	92	16.3%	7.6%	28.3%	9.8%	0.0%	2.2%	7.6%	0.0%	20.7%	29.3%	10.9%	

男女別では、男女ともに、「わからない」という回答が最も高く、次いで男性は「特に男女差はない」女性は「団体の長には男性が就き、女性は補助的な役割に就く慣行がある」となっています。

年代別をみると、男女とも同様に全ての年代で「わからない」という回答が最も高くなっています。「特に男女差はない」「団体の長には男性が就き、女性は補助的な役割に就く慣行がある」という回答も高くなっています。

問27 政策決定への女性の参画をさらに、促進するにはどうしたらよいと思いますか。次の中から重要だと思うものを3つまで選び○をつけてください。

政策決定への女性の参画の促進に必要なことでは、「男性中心の社会通念、慣習をなくす」が54.3%と最も多く、次いで、「女性の割合を決めるなど、計画的に女性の参画を実行する」が29.5%、「女性自身がかもっと積極的に活動する」が27.5%となっています。



#### 【前回調査(令和2年度)との比較】

前回との比較では、「男性中心の社会通念、慣習をなくす」が前回より9.7ポイント減少しています。次いで「女性の割合を決めるなど、計画的に女性の参画を実行する」が6.2ポイント減少し、「女性自身がかもっと積極的に活動する」は2.8ポイント減少しましたが、前回と同様の順位となっています。

【男女別・年代別クロス表】

	回答者数	慣習をなくす 男性中心の社会通念、	女性のリーダーを養成 するための講座など	女性の啓発活動を行う ための意識を高める	女性の割合を決める など、計画的に女性の 参画を実行する	女性自身がもっと 積極的に活動する	女性を推薦、任命する よう各界に働きかける	特に女性を増やす 必要はない	その他	無回答	
全体	924	54.3%	21.1%	26.6%	29.5%	27.5%	13.7%	10.3%	3.2%	4.8%	
性別	男性	400	53.8%	21.3%	28.3%	29.8%	27.0%	15.3%	13.3%	3.8%	3.5%
	女性	517	54.9%	20.9%	25.3%	29.0%	28.0%	12.6%	8.1%	2.9%	5.8%
男性×年齢別	18～19歳	11	36.4%	27.3%	27.3%	36.4%	27.3%	27.3%	9.1%	0.0%	0.0%
	20歳代	31	38.7%	12.9%	19.4%	9.7%	54.8%	3.2%	22.6%	3.2%	3.2%
	30歳代	52	48.1%	19.2%	21.2%	25.0%	13.5%	17.3%	21.2%	5.8%	1.9%
	40歳代	52	46.2%	7.7%	26.9%	23.1%	26.9%	15.4%	23.1%	5.8%	1.9%
	50歳代	81	61.7%	27.2%	24.7%	30.9%	21.0%	14.8%	9.9%	3.7%	2.5%
	60歳代	73	58.9%	28.8%	34.2%	35.6%	28.8%	15.1%	8.2%	4.1%	4.1%
	70歳代以上	100	57.0%	21.0%	34.0%	36.0%	29.0%	17.0%	8.0%	2.0%	6.0%
女性×年齢別	18～19歳	14	57.1%	14.3%	28.6%	28.6%	35.7%	0.0%	14.3%	0.0%	7.1%
	20歳代	52	48.1%	15.4%	25.0%	21.2%	17.3%	11.5%	5.8%	5.8%	1.9%
	30歳代	72	55.6%	18.1%	16.7%	33.3%	23.6%	19.4%	5.6%	2.8%	4.2%
	40歳代	70	64.3%	25.7%	24.3%	38.6%	31.4%	18.6%	5.7%	1.4%	1.4%
	50歳代	118	61.9%	18.6%	30.5%	29.7%	24.6%	7.6%	10.2%	5.1%	4.2%
	60歳代	98	55.1%	22.4%	20.4%	30.6%	32.7%	11.2%	11.2%	2.0%	3.1%
	70歳代以上	92	42.4%	23.9%	31.5%	19.6%	33.7%	13.0%	6.5%	1.1%	17.4%

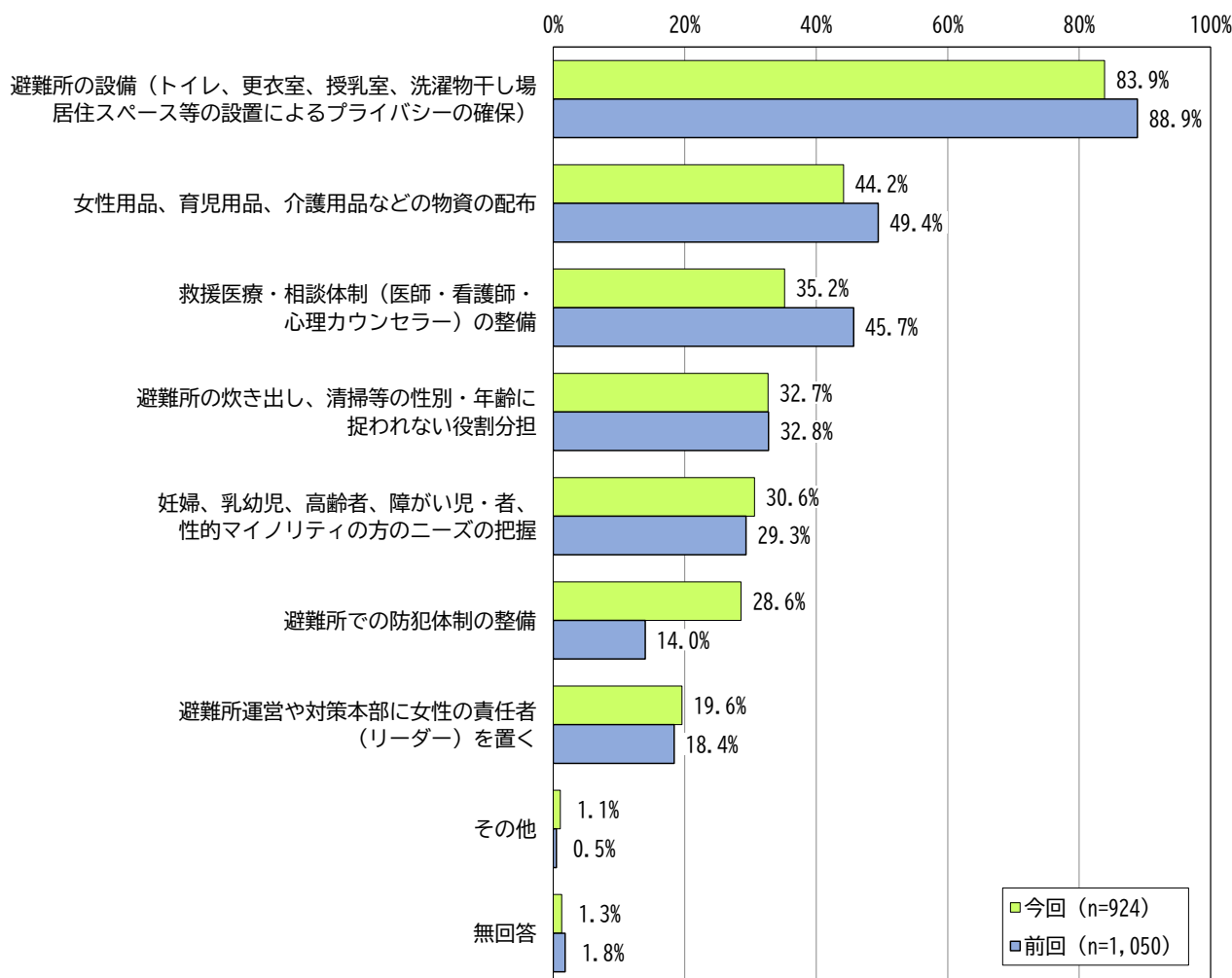
男女別では、男女ともに、「男性中心の社会通念、慣習をなくす」という回答が最も高く、次いで「女性の割合を決めるなど、計画的に女性の参画を実行する」となっています。

年代別をみると、同様に男女ともほとんどの年代で「男性中心の社会通念、慣習をなくす」という回答が最も高くなっていますが、男性は20歳代で「女性自身がもっと積極的に活動する」が最も高くなっています。男性は20歳代以外で「女性の割合を決めるなど、計画的に女性の参画を実行する」という回答も高い傾向があります。

## ●防災について

問28 防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点に配慮した取り組みの中から、特に必要と思うことを3つまで選び、番号に○をつけてください。

防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点に配慮した取り組みの中から、特に必要なことについては、「避難所の設備(トイレ、更衣室、授乳室、洗濯物干し場、居住スペース等の設置によるプライバシーの確保)」が**83.9%**と最も多く、次いで、「女性用品、育児用品、介護用品などの物資の配布」が**44.2%**、「救援医療・相談体制(医師・看護師・心理カウンセラー)の整備」が**35.2%**となっています。



### 【前回調査(令和2年度)との比較】

前回との比較では、「避難所の設備(トイレ、更衣室、授乳室、洗濯物干し場、居住スペース等の設置によるプライバシーの確保)」が前回より**5.0ポイント**減少しています。次いで「女性用品、育児用品、介護用品などの物資の配布」が**5.2ポイント**減少し、「救援医療・相談体制(医師・看護師・心理カウンセラー)の整備」は**10.5ポイント**減少しましたが、上位5位までは前回と同様の順位となっています。

また、前回調査と比較して、「避難所での防犯体制の整備」が**14.6ポイント**増加しています。

【男女別・年代別クロス表】

		回答者数	避難所の設備(トイレ、更衣室、授乳室、洗濯物干し場、居住スペース等の設置によるプライバシーの確保)	避難所運営や対策本部に女性の責任者(リーダー)を置く	避難所の炊き出し、清掃等の性別・年齢に捉われない役割分担	女性用品、育児用品、介護用品などの物資の配布	妊婦、乳幼児、高齢者、障がい児・者、性的マイノリティの方のニーズの把握	救援医療・相談体制(医師・看護師・心理カウンセラー)の整備	避難所での防犯体制の整備	その他	無回答
全体		924	83.9%	19.6%	32.7%	44.2%	30.6%	35.2%	28.6%	1.1%	1.3%
性別	男性	400	81.5%	22.3%	37.8%	35.3%	32.0%	33.5%	25.5%	1.3%	1.5%
	女性	517	85.7%	17.6%	28.8%	50.9%	29.4%	36.6%	30.8%	1.0%	1.2%
男性×年齢別	18～19歳	11	81.8%	9.1%	45.5%	27.3%	54.5%	27.3%	27.3%	0.0%	0.0%
	20歳代	31	61.3%	16.1%	35.5%	45.2%	22.6%	25.8%	41.9%	3.2%	0.0%
	30歳代	52	80.8%	15.4%	38.5%	42.3%	25.0%	38.5%	30.8%	1.9%	0.0%
	40歳代	52	76.9%	25.0%	36.5%	46.2%	28.8%	21.2%	28.8%	0.0%	0.0%
	50歳代	81	81.5%	18.5%	38.3%	33.3%	29.6%	30.9%	23.5%	0.0%	3.7%
	60歳代	73	91.8%	26.0%	34.2%	35.6%	38.4%	34.2%	17.8%	1.4%	2.7%
	70歳代以上	100	83.0%	28.0%	40.0%	25.0%	35.0%	42.0%	23.0%	2.0%	1.0%
女性×年齢別	18～19歳	14	85.7%	42.9%	7.1%	71.4%	21.4%	21.4%	14.3%	7.1%	0.0%
	20歳代	52	84.6%	25.0%	21.2%	55.8%	28.8%	23.1%	44.2%	0.0%	0.0%
	30歳代	72	76.4%	18.1%	29.2%	65.3%	31.9%	19.4%	33.3%	0.0%	1.4%
	40歳代	70	91.4%	18.6%	22.9%	62.9%	27.1%	32.9%	35.7%	0.0%	0.0%
	50歳代	118	82.2%	11.9%	27.1%	50.8%	30.5%	44.9%	36.4%	1.7%	0.0%
	60歳代	98	92.9%	16.3%	36.7%	41.8%	30.6%	39.8%	20.4%	1.0%	1.0%
	70歳代以上	92	85.9%	17.4%	33.7%	33.7%	28.3%	48.9%	23.9%	1.1%	4.3%

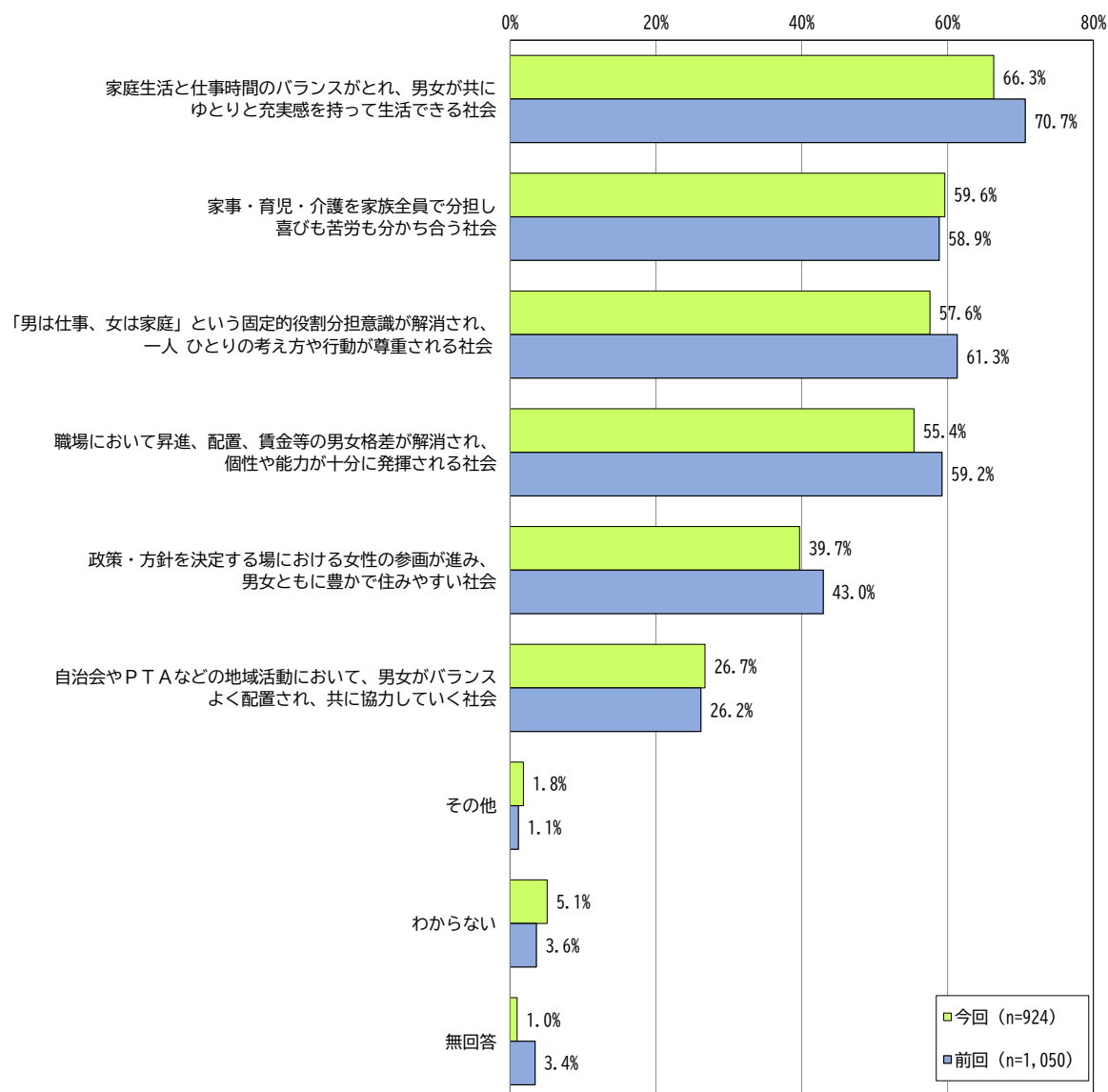
男女別では、男女ともに、「避難所の設備(トイレ、更衣室、授乳室、洗濯物干し場、居住スペース等の設置によるプライバシーの確保)」という回答が最も高くなっています。男性の2位は「避難所の炊き出し、清掃等の性別・年齢に捉われない役割分担」、女性の2位は「女性用品、育児用品、介護用品などの物資の配布」となっています。

年代別をみると、男女ともに、全ての年代で「避難所の設備(トイレ、更衣室、授乳室、洗濯物干し場、居住スペース等の設置によるプライバシーの確保)」という回答が最も高くなっています。女性は「女性用品、育児用品、介護用品などの物資の配布」という回答も高くなっています。なお、男女ともに70歳代以上「救援医療・相談体制(医師・看護師・心理カウンセラー)の整備」という回答も高くなっています。

## ●男女共同参画社会のための施策について

問29 あなたは、男女共同参画社会とは、どのような社会をイメージしますか。次の中からイメージするものすべてに○をつけてください。

男女共同参画社会のイメージについては、『家庭生活と仕事時間のバランスがとれ、男女が共にゆとりと充実感を持って生活できる社会』が**66.3%**と最も多く、次いで、『家事・育児・介護を家族全員で分担し喜びも苦労も分かち合う社会』が**59.6%**、『「男は仕事、女は家庭」という固定的役割分担意識が解消され、一人ひとりの考え方や行動が尊重される社会』が**57.6%**となっています。



### 【前回調査(令和2年度)との比較】

前回との比較では、『家庭生活と仕事時間のバランスがとれ、男女が共にゆとりと充実感を持って生活できる社会』が最も高く、前回と同様となっています。

前回の第2位の『「男は仕事、女は家庭」という固定的役割分担意識が解消され、一人ひとりの考え方や行動が尊重される社会』は**3.7ポイント**減少し、第3位となっています。

【男女別・年代別クロス表】

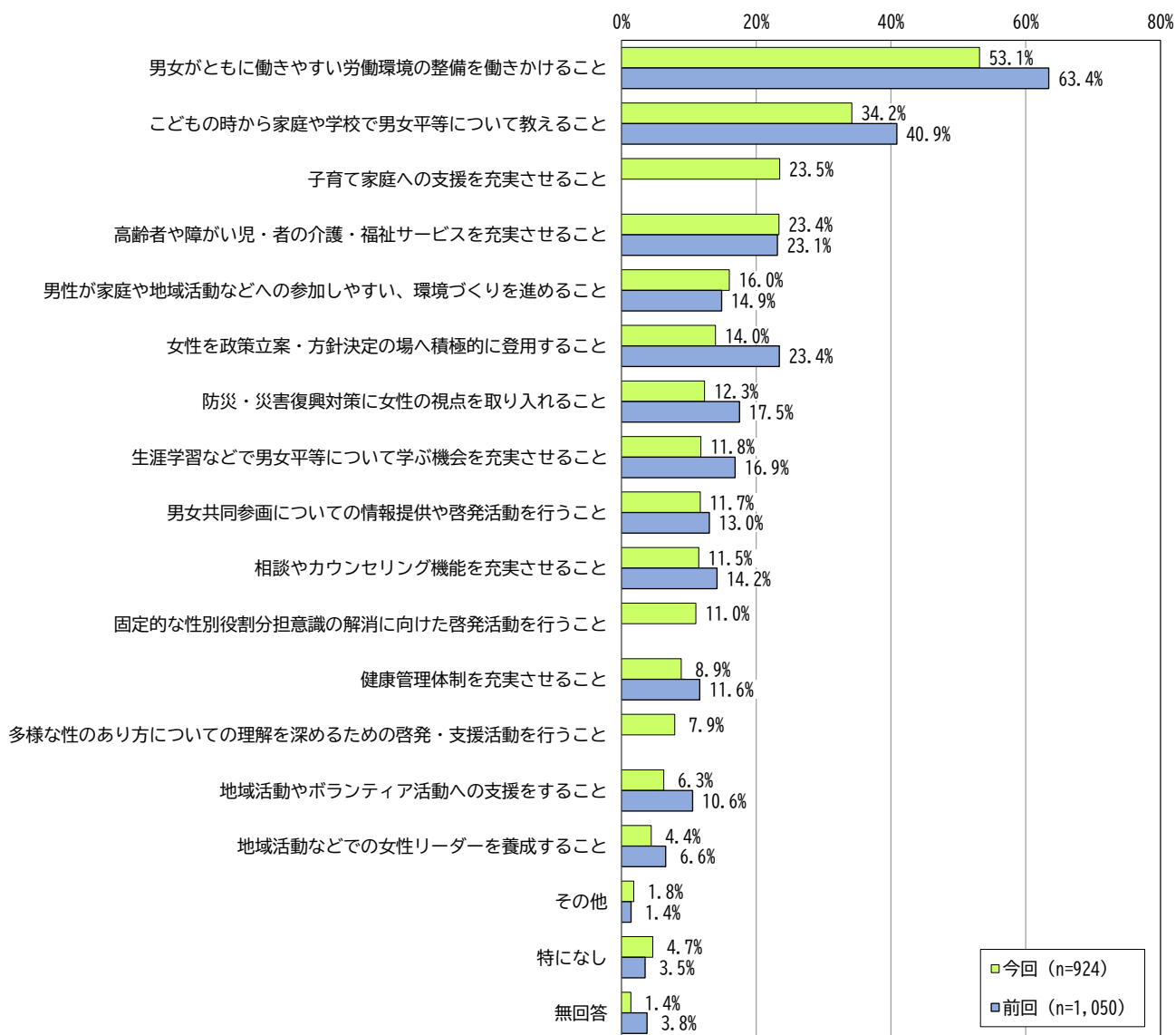
	回答者数	家事・育児・介護を家族全員で分担し喜びも苦労も分かち合う社会	職場において昇進、配置、賃金等の男女格差が解消され、個性や能力が十分に発揮される社会	住みやすい社会	政策・方針の決定する場における女性の参画が進み、男女ともに豊かである社会	自治会やPTAなどの地域活動において、男女が協力していく社会	役割分担意識が解消され、一人ひとりの考え方や行動が尊重される社会	「男は仕事、女は家庭」という固定的役割分担意識が解消され、一人ひとりの考え方や行動が尊重される社会	家庭生活と仕事時間のバランスがとれ、男女が共にゆとりと充実感を持つことができる社会	その他	わからない	無回答
全体	924	59.6%	55.4%	39.7%	26.7%	57.6%	66.3%	1.8%	5.1%	1.0%		
性別	男性	400	55.3%	51.5%	39.5%	27.0%	52.0%	56.0%	2.0%	6.5%	0.8%	
	女性	517	63.1%	58.2%	39.7%	26.3%	61.7%	74.1%	1.7%	4.1%	1.2%	
男性×年齢別	18～19歳	11	36.4%	45.5%	45.5%	9.1%	72.7%	27.3%	0.0%	9.1%	0.0%	
	20歳代	31	45.2%	48.4%	29.0%	19.4%	41.9%	41.9%	0.0%	6.5%	0.0%	
	30歳代	52	59.6%	44.2%	32.7%	32.7%	51.9%	61.5%	3.8%	5.8%	0.0%	
	40歳代	52	50.0%	44.2%	26.9%	9.6%	38.5%	53.8%	5.8%	5.8%	0.0%	
	50歳代	81	55.6%	56.8%	40.7%	21.0%	54.3%	61.7%	0.0%	7.4%	1.2%	
	60歳代	73	54.8%	54.8%	39.7%	31.5%	49.3%	57.5%	4.1%	4.1%	2.7%	
	70歳代以上	100	61.0%	54.0%	51.0%	39.0%	60.0%	56.0%	0.0%	8.0%	0.0%	
女性×年齢別	18～19歳	14	35.7%	57.1%	50.0%	28.6%	71.4%	71.4%	0.0%	0.0%	0.0%	
	20歳代	52	59.6%	51.9%	36.5%	15.4%	65.4%	69.2%	1.9%	3.8%	0.0%	
	30歳代	72	56.9%	55.6%	33.3%	20.8%	58.3%	80.6%	1.4%	4.2%	1.4%	
	40歳代	70	68.6%	68.6%	37.1%	32.9%	74.3%	80.0%	0.0%	4.3%	0.0%	
	50歳代	118	64.4%	59.3%	43.2%	22.9%	61.9%	73.7%	2.5%	3.4%	0.0%	
	60歳代	98	66.3%	60.2%	33.7%	27.6%	57.1%	75.5%	3.1%	4.1%	1.0%	
	70歳代以上	92	64.1%	52.2%	48.9%	34.8%	56.5%	67.4%	1.1%	5.4%	4.3%	

男女別では、男女ともに、『家庭生活と仕事時間のバランスがとれ、男女が共にゆとりと充実感を持って生活できる社会』という回答が最も高く、次いで『家事・育児・介護を家族全員で分担し喜びも苦労も分かち合う社会』という回答が高くなっています。

年代別をみると、同様に男女ともほとんどの年代で『家庭生活と仕事時間のバランスがとれ、男女が共にゆとりと充実感を持って生活できる社会』という回答が高くなっていますが、男性の18～19歳では、『「男は仕事、女は家庭」という固定的役割分担意識が解消され、一人ひとりの考え方や行動が尊重される社会』、20歳代では、『職場において昇進、配置、賃金等の男女格差が解消され、個性や能力が十分に発揮される社会』、70歳代以上では『家事・育児・介護を家族全員で分担し喜びも苦労も分かち合う社会』という回答が最も高くなっています。また、女性の18～19歳では、『「男は仕事、女は家庭」という固定的役割分担意識が解消され、一人ひとりの考え方や行動が尊重される社会』という回答も『家庭生活と仕事時間のバランスがとれ、男女が共にゆとりと充実感を持って生活できる社会』と同様に高くなっています。さらに、女性の50歳代以上では「家事・育児・介護を家族全員で分担し喜びも苦労も分かち合う社会」という回答も高くなっています。

問30 男女共同参画社会をめざすために、市では今後どのようなことに力を入れる必要があると思いますか。次の中から特に重要なものを3つまで選び、番号に○をつけてください。

男女共同参画社会をめざすために必要な取り組みについては、「男女がともに働きやすい労働環境の整備を働きかけること」が53.1%と最も多く、次いで、「こどもの時から家庭や学校で男女平等について教えること」が34.2%、「子育て家庭への支援を充実させること」が23.5%となっています。



### 【前回調査(令和2年度)との比較】

前回との比較では、「男女がともに働きやすい労働環境の整備を働きかけること」が最も高く、前回と同様となっています。

前回の第3位の「女性を政策立案・方針決定の場へ積極的に登用すること」が9.4ポイント減少し、第6位となっています。

【男女別・年代別クロス表】

		回答者数	を相談やカウンセリング機能を充実させること	労働環境の整備を働きやすい環境づくりを進めること	男性が家庭や地域活動などへの参加しやすい、環境づくりを進めること	女性リーダーを養成すること	地域活動などでの登用すること	女性を積極的に登用すること	地域活動やボランティアへの支援をすること	学校で男女平等について教えること	子どもの時から家庭や充実させる機会を男女平等に	生涯学習などで男女平等に情報提供や啓発活動を行うこと	男女共同参画についての意識	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発活動を行うこと
全体		924	11.5%	53.1%	16.0%	4.4%	14.0%	6.3%	34.2%	11.8%	11.7%	11.0%		
性別	男性	400	12.3%	53.8%	13.8%	5.8%	18.5%	7.0%	24.5%	10.5%	14.3%	9.8%		
	女性	517	10.8%	52.8%	18.0%	3.5%	10.3%	5.8%	41.4%	13.0%	9.9%	11.8%		
男性×年齢別	18～19歳	11	9.1%	45.5%	18.2%	0.0%	18.2%	9.1%	36.4%	9.1%	36.4%	0.0%		
	20歳代	31	12.9%	54.8%	16.1%	0.0%	6.5%	3.2%	19.4%	12.9%	9.7%	3.2%		
	30歳代	52	9.6%	63.5%	19.2%	5.8%	19.2%	3.8%	19.2%	7.7%	1.9%	7.7%		
	40歳代	52	5.8%	51.9%	21.2%	9.6%	13.5%	5.8%	17.3%	5.8%	15.4%	9.6%		
	50歳代	81	19.8%	56.8%	11.1%	4.9%	12.3%	12.3%	33.3%	12.3%	13.6%	9.9%		
	60歳代	73	13.7%	53.4%	16.4%	4.1%	23.3%	2.7%	27.4%	9.6%	15.1%	11.0%		
	70歳代以上	100	10.0%	48.0%	6.0%	8.0%	26.0%	9.0%	22.0%	13.0%	19.0%	13.0%		
女性×年齢別	18～19歳	14	14.3%	71.4%	14.3%	0.0%	7.1%	7.1%	35.7%	0.0%	21.4%	14.3%		
	20歳代	52	3.8%	51.9%	26.9%	7.7%	7.7%	0.0%	46.2%	15.4%	3.8%	11.5%		
	30歳代	72	5.6%	54.2%	20.8%	2.8%	12.5%	6.9%	34.7%	9.7%	6.9%	9.7%		
	40歳代	70	5.7%	60.0%	18.6%	1.4%	12.9%	1.4%	58.6%	15.7%	7.1%	18.6%		
	50歳代	118	13.6%	58.5%	16.9%	1.7%	10.2%	5.9%	36.4%	13.6%	6.8%	11.0%		
	60歳代	98	12.2%	50.0%	13.3%	5.1%	12.2%	9.2%	45.9%	15.3%	12.2%	9.2%		
	70歳代以上	92	17.4%	39.1%	17.4%	4.3%	6.5%	7.6%	33.7%	10.9%	17.4%	12.0%		

次のページにつづく→

	回答者数	健康管理体制を充実させること	高齢者や障がい児・者の介護・福祉サービスを充実させること	子育て家庭への支援を充実させること	女性の視点を取り入れること	防災・災害復興対策に啓発・支援活動を行うこと	多様な性のあり方について理解を深めるためのこと	その他	特になし	無回答
全体	924	8.9%	23.4%	23.5%	12.3%	7.9%	1.8%	4.7%	1.4%	
性別	男性	400	10.8%	19.8%	21.8%	11.8%	7.5%	1.8%	6.8%	1.0%
	女性	517	7.5%	26.3%	24.4%	12.6%	8.3%	1.9%	3.1%	1.7%
男性×年齢別	18～19歳	11	9.1%	27.3%	27.3%	9.1%	9.1%	0.0%	9.1%	0.0%
	20歳代	31	6.5%	3.2%	38.7%	3.2%	3.2%	3.2%	9.7%	0.0%
	30歳代	52	15.4%	5.8%	40.4%	7.7%	5.8%	1.9%	7.7%	0.0%
	40歳代	52	11.5%	13.5%	23.1%	9.6%	5.8%	1.9%	11.5%	0.0%
	50歳代	81	9.9%	23.5%	8.6%	11.1%	9.9%	1.2%	4.9%	0.0%
	60歳代	73	6.8%	16.4%	23.3%	16.4%	11.0%	2.7%	8.2%	1.4%
	70歳代以上	100	13.0%	34.0%	15.0%	15.0%	6.0%	1.0%	3.0%	3.0%
女性×年齢別	18～19歳	14	7.1%	0.0%	21.4%	14.3%	7.1%	7.1%	0.0%	7.1%
	20歳代	52	5.8%	17.3%	55.8%	19.2%	1.9%	0.0%	5.8%	0.0%
	30歳代	72	6.9%	5.6%	50.0%	12.5%	11.1%	4.2%	1.4%	1.4%
	40歳代	70	7.1%	17.1%	21.4%	14.3%	11.4%	1.4%	2.9%	0.0%
	50歳代	118	6.8%	39.8%	21.2%	12.7%	8.5%	1.7%	4.2%	0.0%
	60歳代	98	9.2%	28.6%	8.2%	12.2%	8.2%	1.0%	2.0%	2.0%
	70歳代以上	92	8.7%	39.1%	10.9%	7.6%	7.6%	2.2%	3.3%	5.4%

男女別では、男女ともに、「男女がともに働きやすい労働環境の整備を働きかけること」という回答が最も高く、次いで「こどもの時から家庭や学校で男女平等について教えること」という回答が高くなっています。

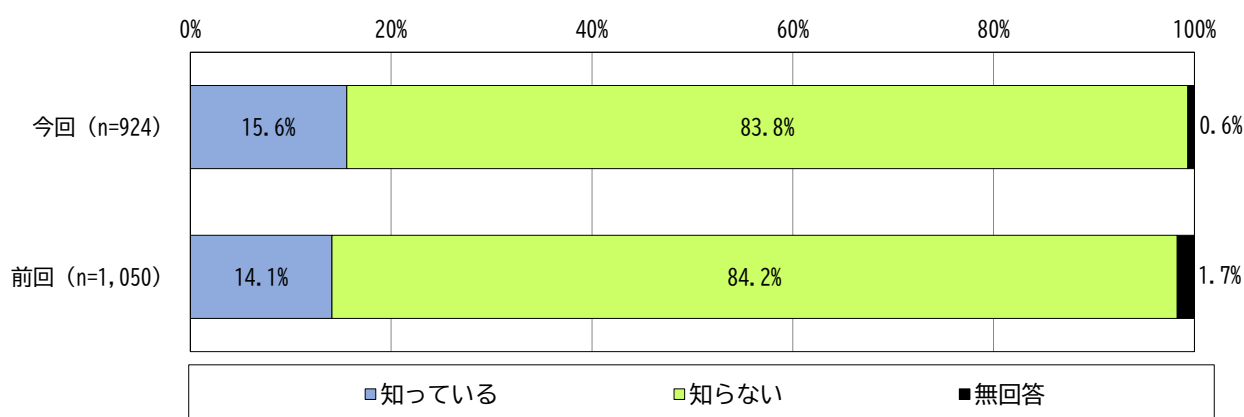
年代別をみると、同様に男女ともほとんどの年代で「男女がともに働きやすい労働環境の整備を働きかけること」という回答が高くなっていますが、女性の20歳代では、「子育て家庭への支援を充実させること」という回答が最も高くなっています。また、女性の70歳代以上では「高齢者や障がい児・者の介護・福祉サービスを充実させること」という回答も「男女がともに働きやすい労働環境の整備を働きかけること」という回答同様、最も高くなっています。

※男女共同参画センターは、狭山市市民交流センターの2階にあります。女性の活躍支援のセミナーや男性の家事・育児参加等を促す講座を開催しています。

また、情報コーナーでは、男女共同参画に関する書籍やDVDの貸出、セミナー等の情報を取得することができます。

**問31 狭山市市民交流センター内に、男女共同参画センターがあることを知っていますか。**

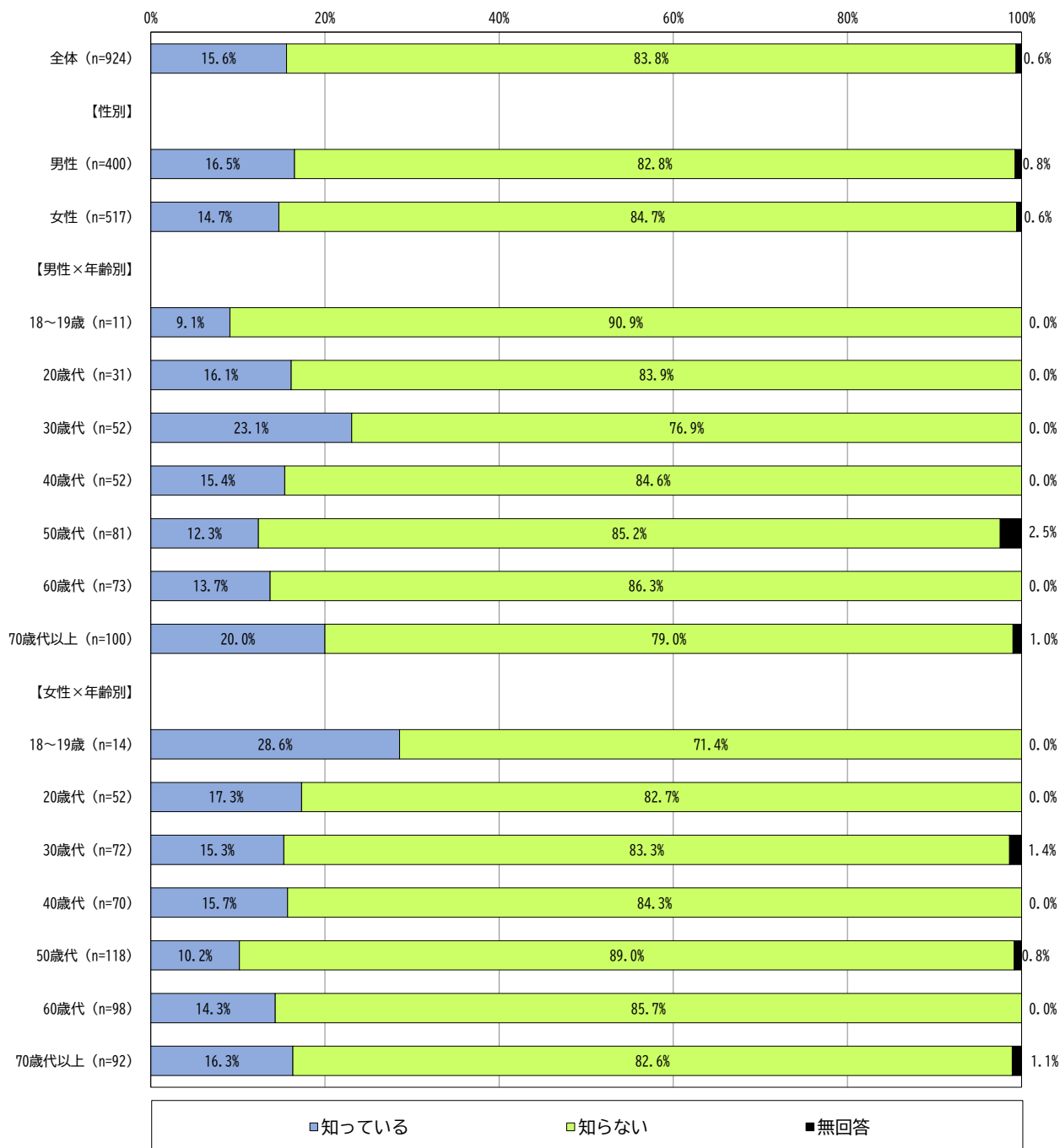
男女共同参画センターの認知度については、「知っている」が**15.6%**に対し、「知らない」が**83.8%**となっています。



**【前回調査(令和2年度)との比較】**

前回との比較では、「知っている」という回答が**1.5ポイント**増加しています。また、「知らない」という回答は**0.4ポイント**減少しています。

## 【男女別・年代別クロス表】

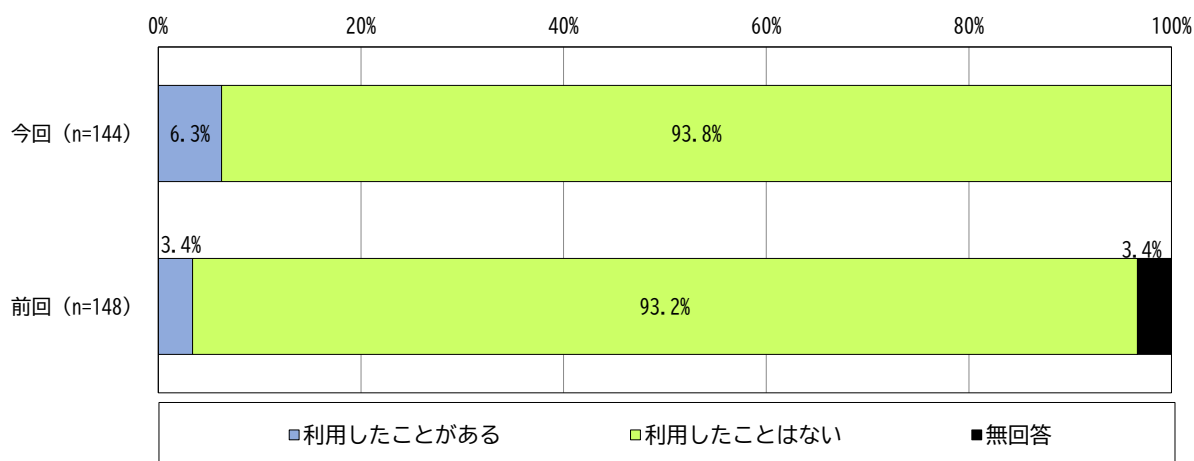


性別では、女性よりも男性の方が「知ってる」という回答がやや高くなっています。  
 年代別をみると、男性の30歳代、女性の18～19歳で「知っている」という回答がやや高くなっています。

### 問31で「知っている(男女共同参画センター)」を選択した方の回答

問32 あなたは、男女共同参画センターを利用したことがありますか。

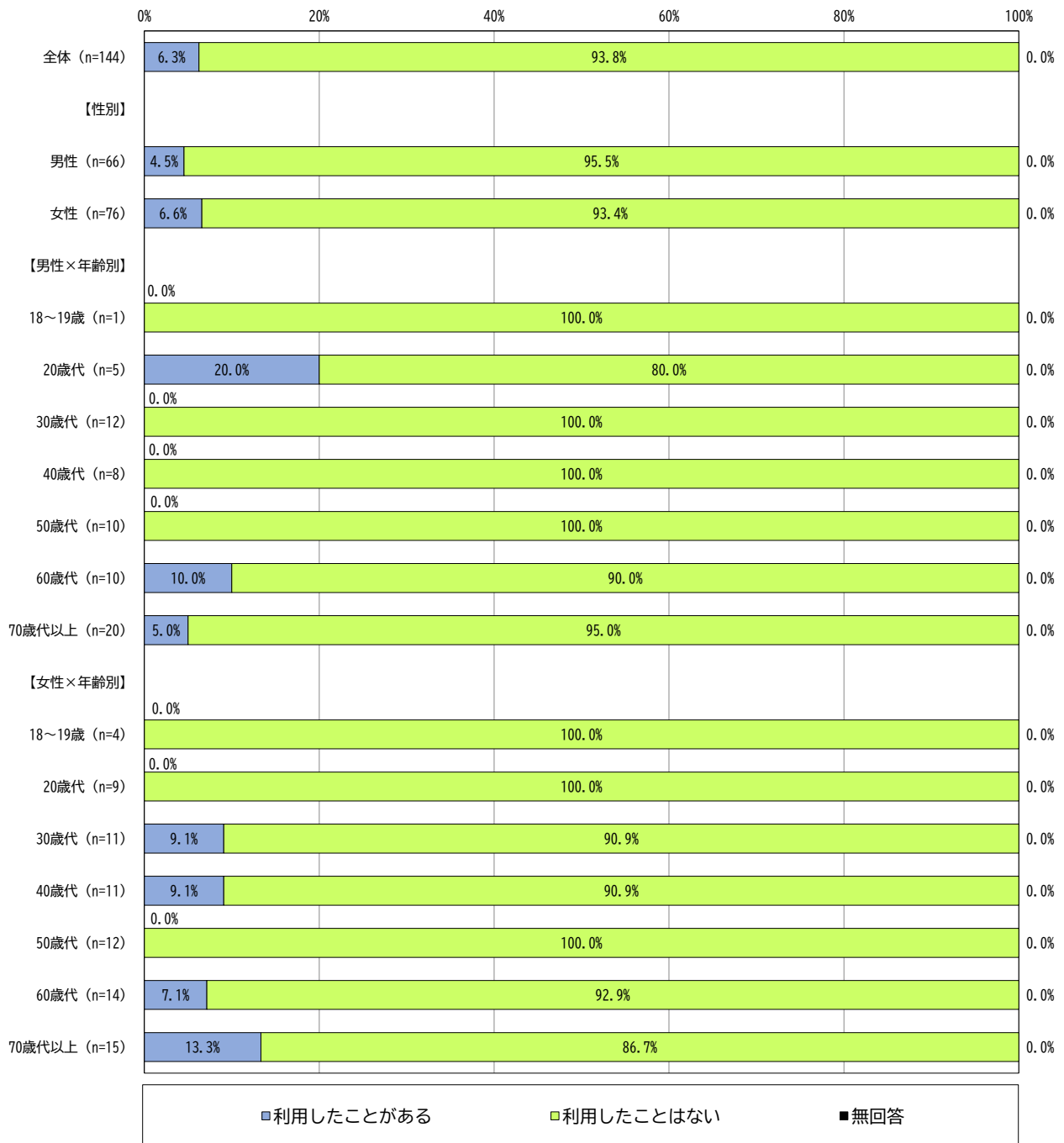
男女共同参画センターの利用状況については、「利用したことがある」が**6.3%**に対し、「利用したことはない」が**93.8%**となっています。



#### 【前回調査(令和2年度)との比較】

前回との比較では、「利用したことがある」という回答が**2.9ポイント**増加しています。一方で、「利用したことはない」という回答も**0.6ポイント**増加していますが、無回答がなくなりました。

## 【男女別・年代別クロス表】



性別では、男性よりも女性の方が「利用したことがある」という回答がやや高くなっています。  
 年代別をみると、男性では20歳代、女性では70歳代以上で「利用したことがある」という回答が高くなっています。

## ●自由記述

最後に、男女共同参画社会の実現を目指すために、市に対してのご意見やご要望などありましたら、ご自由にお書きください。

男女共同参画社会の実現を目指すために、市に対してのご要望やご意見は、男性77名、女性86名、その他1名、性別無回答2名の合計166名から寄せられました。

ここでは、要望や意見を内容ごとに分類し、全文を掲載します。

回答者の意見を尊重し、原文の内容を損なわないよう記載していますが、誤字・脱字等は修正しています。

### 【男女共同参画について】

- 「あなたの性別をお聞かせください」とありましたけれど、質問の内容が男性への質問ばかりの様な気がしました。それならば、この様に男か女か聞く必要はないのではと思いましたし、質問の意味がよくわからないし、長い！（男性、60～64歳）
- あまり役に立つアンケートの回答が出来ず、すみません。男女平等、簡単なようで、すごく難しい問題だと思います。狭山市、頑張って下さい。（女性、25～29歳）
- そもそも男と女は違う生き物なので、性質上平等にできない部分もあるから、平等ばかりに焦点を集めるのではなく、お互いの良さでお互いの弱点を補い合うという視点も大事と思っています。（女性、35～39歳）
- ネットでご承知おきのとおり、男女共同参画については、利権的な意味であまりいい印象がない。あと、どっかの誰かが勝手に決めたポリコレやLGBTQの時代はもう終わったんだよ。いい加減新しい価値観にアップデートしてほしい。（男性、55～59歳）
- 意識的に男女とせず、個人の能力に合わせた参加位置付けで良いのかとは思いますが、窮屈な自治体にならないでほしいと願います。暑い日が続く中、皆さまには感謝申し上げます。（女性、75歳以上）
- 何でも男女が同じようにすれば良いという訳ではないので、男女で発言する機会が平等に与えられ、発言力の低い方に対しての配慮も必要かと思います。また、どの家庭も夫婦共働きが理想という訳ではなく、金銭的な理由でそうなっている場合が多いかと思います。それぞれの家庭によって理想の家庭の在り方も異なってくるかと思いますので、色々な考え方が尊重される社会になるように取り組んで頂きたいです。（男性、35～39歳）
- 差別偏見をとっても、身体的にできる、できないことがあると思う。それを認め合えるゆとりある社会を作ること。卒業した高校が100年以上も続いた男子校が近くの女子校と一緒に、共学となった。それぞれ歴史伝統があったが、終わった。地域を巻き込み、長く続いた行事もなくなりそうだ。共学が良いのなら、近くにある共学校に入学できるはず。埼玉県も共学にしようと思っていると思うが、高校が共学になったのも、男女共同参画なんとかという団体が、教育庁、県庁などにガンガン陳情した結果らしく、「ヤッター。」と思っているらしい。若い頃、男だけの世界、女だけの世界を一時経験してもいいと思う。これこそ、男女共同参画の良い教育の場になるだろう。今年から、同郷の同窓会など、一緒になったので欠席する。（男性、70～74歳）
- 参画しやすい環境や、参画する事による特典があれば、絶対数が増えると考えます。（男性、35～39歳）

- 私は他市にある、自治会管理下に所属する同好会に参加しておりますが、責任者(長)に女性を推しても、本人はやりたくないの一点張りで引き受けてくれません。その割には自分勝手な判断で事を勝手に進めてしまうようなところがあります。客観的に見ていて、手と口は出すが、責任は負いたくないのがあからさまに見えてしまいます。男女平等をうたうなら、当然責任も平等に負うべきではないか。私の所属する同好会が、たまたまそういう環境なのかという疑問があります。(男性、60～64歳)
- 自分は決して長く生きている人間ではないが、それでも経験から、男女には根本的に生物としての差があると思う。男性は論理的な思考をする傾向にあり、政治や組織のリーダーとしての適性が高いと思うし、女性はその豊かな感情から、保育や介護の場で活躍できると思う。もちろん全ての男女がそのような特性を持っているわけではないだろう。実際、自分は男性で比較的論理的なものごとに向き合うタイプだが、子どもの相手をするアルバイトをしているし、組織のリーダー的役割には向いていないと自負している。このことが政治や家庭において意味することは、「政治の場における男性の割合が多い」「家事、育児は女性が担当する家庭が多い」ということは、なんら不合理でないということだ。そして同時に、「私情を排除して論理的な思考ができる女性が、政治に参加できない」「子育てに積極的な男性が、仕事に追われ家庭に関われない」といったことは、最大限の努力をもって無くしていったほしいと思う。とはいえ、若い自分でも、行政が「男女には格差がある」などと言えないことは理解しているつもりだ。この回答は、ちょっとした読み物とでも思ってもらえば僥倖である。未筆ながら、暮らしやすい市にするためにいつも努力してくださり、ありがとうございます。(男性、20～24歳)
- 社会実現(現代)男女平等と思います。但し、体力、肉体的には差があり(男女)考慮の上、男女共同参画とは言えません。体力(力仕事)男性優先。能力は平等。(考え方)昔からのレディーファーストは賛成です。女性へのやさしさ忘れてはいけません。(男性、70～74歳)
- 身体づくりも違うので、男女平等は難しいのが現状なのかなと思う。(女性、40～44歳)
- 世代間における男性性、女性性の理解のギャップをそれぞれ意識すること。特に男女雇用機会均等法以前に就職した女性の職業意識(数年働いて家庭に入った女性が多い)と就職氷河期世代の職業意識にギャップというか、深い断層があると実感する場面が多い。ジェンダーなどは日本においては海外で言われているから、“ワールドスタンダード”だからこうしたほうがいい、というような主体性がない場合が多い。歴史的な文脈、特に戦前の教育を受けた親に育てられた世代の感覚と「こうあるべき」という立て前とのギャップ。2020年以降、世界規模で「こうあるべき」ということと、実際の自分の考えとの違い。ひずみが出ている。市の職員さんに意識してほしいことは、自分の労働の経済性に目を向けてほしい。(男性、40～44歳)
- 男とか女ではなく、その人を見ていく事が大事なのでは？(女性、55～59歳)
- 男女が共に社会で活躍するには、安心して家を空けられる態勢を整える必要があると思います。(女性、65～69歳)
- 男女で分けて考えたほうが良い問題と、そうでない問題があるような気がします。(女性、30～34歳)
- 男女という枠にとらわれすぎず、臨機応援さをもちつつ、「人」を見て活動していただければと思います。(女性、25～29歳)
- 男女には、身体的な違いがあるので、それを踏まえて平等に生活していける様に家庭生活のサポートシステムが有ると良いと思います。(女性、65～69歳)

- 男女共同と言っても、男性、女性平等だけではなく、今ではLGBTQということも問題になっていますね。職員の方々、大変御苦勞な事と思います。市民の方には、意見のある人もいるのかなと思いますので、セミナーなどで是非、男女共同参画社会を目指して頑張ってください。（女性、60～64歳）
- 男女共同参画というのは、あくまでも十分な能力や資質を持った女性が性別等を理由に排除されない環境を作り、男女に平等にチャンスを与えるものだと思う。最初から要職に女性専用の枠を作りましょうとかそういうのは違うのではないか。（男性、25～29歳）
- 男女共同参画の行き過ぎの弊害を最近耳にします。専業主婦であることが悪のような風潮があるからです。男女共同参画社会で賃金の格差や待遇の格差は是正すべきです。しかし、家庭を優先させたい女性が古い考えである様な風潮はいかがなものかと感じます。働きたい人は働ける、家庭に専念したい人は専念できる、それが本当の男女共同参画社会ではないかと思います。（男性、40～44歳）
- 男女共同参画は、単なる数合わせでは何の意味もない。「女性だから」選ばれるのではなく、適切な人選の結果、バランスが良かったというのが理想。それに資する人材の育成が急務と思う。（女性、55～59歳）
- 男女共同参画関係の悩みや問題点に対して、いつでも相談できるセンターや相談電話の設置を行い、表に出てこないであろう問題をも拾い上げる意識で取り組む必要があると考える。（男性、65～69歳）
- 男女共同参画社会がどういう定義なのかは分からないが、男側の意見としては女性に危険や苦痛を伴う作業をしてほしくは無いと思う。（男性、30～34歳）
- 男女平等はあるべきだが、生物として同一ではなく得意不得意は存在するので、社会的な役割やその傾向はでてくる。職業や仕事などやりたいが、制度や風習で阻害されるのは良くないと思う、世の中は大分変わってきていると思う。政治家の数を半分半分にするなど、数値的に半分にすることは平等ではないと思う。男性の子育ては理解云々ではなく、一緒に働く人間としてハッキリ迷惑でしかない。保育所の拡充などで対応してほしい。LGBTQ理解増進法などは、全くの悪法であり、議論する意味もない。男女が同一を望んでいる人は、徴兵制などになったら女性が軍隊に行くことを了承するのだろうか。また女性が働いて、男性が専業主夫であることを認めるのだろうか？男女はともに尊重されるべきだが、そこに資源を投入すべきなのは、社会に余裕がある場合の優先度でしかないと思う。（男性、55～59歳）
- 男女平等は良いとしても、性的マイノリティなど必要ないと思う。ただでさえ、少子高齢化で人口減少が始まっているのに何言ってるの？と思う。（男性、35～39歳）
- 男性、女性に関わらず、それぞれに得意、不得意があると思うので、あまり男女という性別にこだわらずに良いのではと設問を見て感じた。私は幼児2人の子育て中ですが、夫とは特に決まった役割分担を固定して決めずに、できるときにできる人が行うといった考えでいる。やりたいことがある人が、やりたいときに手を上げてできるようにする環境があると、また違った見え方になると思う。少しずつ声を上げやすい環境、世の中になってきているので、より良い未来を期待しています。（女性、35～39歳）
- 普段の生活の中に、社会とのつながりを持って行く事、自分の出来る事で協力して行く事。（女性、75歳以上）

- 平和都市への取り組みは行われていると思いますが、市民に広く知られていない気がします。男女共同参画社会を目指す一環として、平和都市建設への活発な活動を展開していったらどうかと考えます。市内のあちらこちらに散在する戦争功労軍人の名前や役職が刻まれている石碑内の人々やその家族、または市民、国民も国をあげての中での、一部の軍国指導者による犠牲者だと考えるからです。今、マスコミで報道されている戦争も、国家の指導者たちが他国の指導者や国民を信ずることができず、人間不信、エゴ、差別から脱却できないからだと感じています。今こそ人の心の中に、平和を構築しなければならないという教育も必要でしょう。このような平和都市建設への活動は、男女共同参画社会の実現を目指す、基本の活動だと思います。少時的外れの意見となってはしまいましたが、大切なことだと思います。（男性、70～74歳）
- 保育園や幼稚園とその先生を増やし、働きやすい環境を作る。男性も家事育児をするのが当たり前の社会にする。賃金をもっと上げて生活できるようにする。引きこもり0を目指す。結婚に結び付けられる出会いの場を作り、結婚後も生活できるだけの環境を作る！！（女性、40～44歳）
- 無理に女性の活躍を、増やすのではなくて良いのではないかと思います。子供の医療、病児保育などの保証が増えれば、女性の活躍が増えていくのではないかと思います。（女性、20～24歳）

#### 【政策・方針決定について】

- ①市役所内での女性リーダーの育成に力を注ぐこと。市役所内で女性管理職登用についての数値目標を年次的に作成し実施すること。これらを市役所が本気で取り組むことが人々の意識を変え、より住みよい社会となると思う。②狭山市の基本理念「人権が尊重され、女と男が輝ける街、さやま」は素晴らしいと思う。特に「男と女が…」ではなく「女と男が…」という表現がよいので、この理念を広めていく機会を多く作ることを望みます。（男性、70～74歳）
- SNSにありがちな安易な男女論にならないように、なるべく実現可能な、感情的ではない政策を考えてほしい。講座を開く際は、講師の先生の採用には気を付けてほしい。どちらの性別にも理解がある、攻撃的でない人が望ましいと思う。保育園の子たちの散歩コースの公園は整備してほしい。（コンクリートから芝生への変更、砂場の清掃、水飲み場の改修、ベンチ配置）エミテラスのような大きいフードコートのある商業施設がほしい。（女性、35～39歳）
- ハードルの高い課題が多くあるように感じました。このような事務に携わる方の業務が、一分でも短くなることを切にお祈り申し上げます。お体にお気をつけていただき、素敵な狭山市を作ってください。（男性、40～44歳）
- 意識を変える。社会構造を変える。制度を変える。子育て介護は財源も必要。どれも一つの市では荷が重いですが、狭山市が先進的に取り組んで、日本の将来を幸せにする基を作ってください。このアンケートを初め、広報に努めて下さい。（男性、75歳以上）
- 狭山市は、まだまだ都会的な考えが浸透していないように感じます。男だから女だからという考えの年配の方も実際にいらっしやると思います。男女、年齢関係なく、お互いに尊重し合うような自治体になればいいなと思います。（女性、55～59歳）

- 狭山市は何事においても、アピール力が弱すぎると思う。もっと市の魅力を発信することに注力してもよいのでは。(女性、50～54歳)
- 狭山茶などの名産品をPRする際に、若い女性のみを茶娘として活動させているのは男女共同参画社会ではない。中高年等年齢を問わず、かつ男女共に登用すべきだ。茶娘的役割の男性、中高年女性がいないのは気になる。広報さやまを見ていて、狭山茶を今後支える若手(男性)と狭山市茶業協会の重鎮(男性)がインタビューをしており、女子大生らしき若い女性が「狭山茶のフラペチーノ美味しいね」とPRしていたのが印象的だった。狭山市は男女差別や年齢差別をしていないつもりで、無意識に性差や年齢差の役割を課している印象を受けた。狭山茶業等で活躍する女性はいないのだろうか？フラペチーノが美味しいねと言うのが男性でなく若い女性にするのは、無意識の差別ではないか。加えて、中高年の女性は仕事を語る場から排除されている印象を受け、フラペチーノを語るにも中高年では見栄えが悪いのかなと感じた。そして狭山市の広報なら、性役割を強要しないPRの仕方があるのではないかと考えた。仕事を語るのは男性で、子育てや美味しいもの、楽しいイベントを語るのは女性と言う役割を出していることを、広報さやまからも感じる。(女性、45～49歳)
- 具体的な支援制度を整えることや、その周知を行うことが特に重要だと思います。(女性、20～24歳)
- 国が大きく変わらなければ、何も変えられないと思う。生活にゆとりが出来なければ、精神的にもゆとりが出来ない。本当の政治家を望む。(女性、65～69歳)
- 国の制度が変わるのに時間がかかりすぎる。もっとスピーディにやってくれば、より良い日本になっていくと思います。とにかく遅すぎる。(男性、35～39歳)
- 国政にはありますが、市政にはありません。昭和62年に就職し、女性の社会的地位は少し上がりましたが、お茶くみやコピー取りが無くなっただけ。同じ仕事をしていても、男性が優遇される社会は変わっていません。社会に絶望しています。これまで行ってきたことと、真逆な政策をするのはいかがでしょうか。(女性、55～59歳)
- 市の取り組み全般について、市民の声を十分に吸い上げ、市民の為に10年前、5年前より現在と、本当に良くなっていると実感しています。色々な意見があると思いますが、男女共同参画社会の実現についても、宜しくお願いします。いつもありがとうございます！(女性、55～59歳)
- 市長はじめ市全体が男女共同参画社会、その他の仕事をはりきってやっている様に見えないのが残念である。狭山市全体が活気がない感じがします。(女性、75歳以上)
- 市役所の中の男女共同が進んでいるのでしょうか？疑問です。(男性、70～74歳)
- 市役所内の男女比は見掛けたところでは、圧倒的に男性が多い。まずは身近なところから見直す必要が有るのではないかと？昇進は男女平等なのかな？(男性、75歳以上)
- 自己の仕事、家のことが忙しく、社会の事に参加していない。病院勤務で60歳以上だと、男女とか何とかより、年金で生活できる社会づくりの方が優先では。年金をもらいながら仕事しないと生活できない社会ってどうなの。(女性、65～69歳)
- 人それぞれの意見があるかと思いますが、施策にとらわれない、自然な形で進めて頂ければと考えます。(男性、55～59歳)

- 人間がこの地球で繁栄し始めて何百年も経ちますが、いまだにどこの国家も人間が生まれてから死を迎えるまで、安心して生きられる持続可能な仕組みの構築ができていません。資本主義に頼り続ける社会は弱者と強者を生み出し続けるしかないのです、その仕組みから脱却しつつ、持続可能で安心できる社会を構築してほしいです。(男性、40～44歳)
- 政治や経済分野における女性参画の遅れ、賃金格差、育児、家事への男性の参画不足等、制度改革と意識改革の両面からの取り組みが必要！！男女が互いを尊重し、それぞれの個性、能力を活かせる社会づくりを目指すよう、願います。(女性、50～54歳)
- 昔ながらの固定概念が強く、思いこみや決めつけの考え方を持っている人がほとんどで、法律やシステムでもそういった考えのもと作られている事案が多いので、一度検討し直してほしいです。特に子育てについて。(女性、40～44歳)
- 男女共同参画センターの、人的組織の拡充を図る。(男性、75歳以上)
- 男女共同参画と男女平等とは別の物。混同して考えない方がいい。男女共同参画は、制度や行政が推進していく事が中心で、男女平等は子どもの頃からの教育的な事が中心。平等の意味をもっと深く考えるべきである。機会の平等、権利の平等などは守るべきだが、生まれ持った性による区別は明らかに当たり前。しかし、生まれた家庭環境によっては、平等ではないのが現実。金持ちもいれば、貧乏もいる。健康な人もいれば、病弱な人もいる。それを補うのが行政。しっかりやってください。(男性、60～64歳)
- 年齢を問わず、男女が知り合うきっかけ、交流が持てるイベント等を企画し、みんなが参加しやすい、楽しい、笑顔になれる交流できるものを考えてもらい、地域の方が疎外感なく過ごせる狭山市であればと思う。狭山市民に各種テーマを市で考えて、希望する企画を問いかけてみては…。調査だけに終わらず、賛否色々ありますが、市長が批判(否定意見)を気にせず強制的に実行していかないと狭山市から離れていきますよ！(男性、65～69歳)

#### 【就労・子育て・介護について】

- うちは個人事業主なので、休日もほとんどないので保証も貯えも、全て自分次第なので、ゆっくり休む時間がありません。仕方ないのですが、仕事を変えない限り、家庭に携わることもないだろうし、将来の不安もあるので、こういったお話しは自分のものとしてはあまり考えられません。すみません。(女性、50～54歳)
- これからの時代は男女平等になってほしいです。育児にもどんどん男性が参加し、仲良く子育てしてほしいものです。(女性、65～69歳)
- 一つの市として出来ることは限られているかも知れませんが、社会や学校教育、その他様々な分野、領域、場面で制度改革と意識改革の両方が必要なのだろうと考えます。考えつく主な課題は次の通りです。育児・介護制度の充実(男女ともに利用しやすい育休制度の普及など)・働き方改革の促進(長時間労働の是正、柔軟な勤務形態の導入)・教育やメディアを通じた意識改革(性別に関わらず能力を発揮できるという認識の普及)・女性の活躍の場の拡大。(政治・経済分野でのクオータ制の検討など)特に、性別による役割分担という、非常に手強く根強い無意識の前提を社会全体で総力を挙げて見直す、ひっくり返していくことが、最大かつ最も重要な課題という気がします。(男性、65～69歳)

- 噂によると男女共同参画の名のもとに、趣味や関係のない習い事などが行われ、予算消化が優先されている感もある。問題なのは、子育てしている世代が仕事や社会活動との両立が成り立たないことにある。狭山市も首都圏の周辺機能として、子育てがしやすい環境が重要。厚木市だったか、子どもを遊ばせられる公園やBBQができる公園などを整備して、子育て世代の流入が増えているらしい。そこで、テレワークなど仕事も増えて女性が充実感を増殖させている。LGBT対応のトイレを作る必要はない。(来なくて良い)小手先ではなく将来を見据えた政策が必要と思います。(男性、70~74歳)
- 介護など、実際に行っている人の生の声を聞いてほしいです。(男性、75歳以上)
- 会社での男女平等が進んでいない企業があります。平等が達成されていたり、模範的な企業に対しては表彰や税金優遇などをし、古い体質の企業への啓発になる取り組みをするのはいかがでしょうか？(女性、40~44歳)
- 基本的に“仕事は誰でもできる”という考え方を浸透させる必要がある。余程の事がない限り、仕事は誰でもできる。ただ、その仕事に就くには資格や試験があり、一度離れると再就職が難しい昇給・昇進もあるから、一度離れると再びその地位に戻ることが難しい、その前提が、このような状況を生んでいるのではないのでしょうか？しかし、“仕事は誰でもできる”という考え方を浸透させてしまえば、昇給・昇進という考え方が難しくなるので、男女の共同参画や職業観も変えるのではないかと考えます。(男性、50~54歳)
- 狭山市に住んではいるが、職場は別の地域なため、狭山市でどれだけ頑張っても、他の地域では適応されなければ意味がなく感じてしまう。具体的には、狭山市で仕事を休めるルールにしても、別の地域では何も保障してもらえなければ意味がなく思ってしまう。(男性、35~39歳)
- 狭山市の子育てに対する支援は、(他市と比べていませんが)よく考えられていると思います。でもどんな時に使えるとか、突然使えるのかとかがよく分かりません。子育て世帯で利用してみてどうだったかのアンケートか、感想が広報などにあると利用したい人が増えると思います。(女性、50~54歳)
- 高齢者が多い中、親の介護をやっている自分。そして周りの方との情報を取り入れて、少しでもゆとりの時間がほしいです。高齢者、子供だけでなく、介護、子育てしている側にも何か支援してほしいです。(女性、50~54歳)
- 国が実施している既存の育児休業手当制度だけでなく、子育て世代に対して、持続的、経済的な支援があると、給料の格差がある夫婦間でも格差が埋められ、男性側も育児休業を取得しやすく、男性の育児参加が促され、女性も社会復帰しやすくなると思う。(男性、30~34歳)
- 子育てに負担(お金)がかかっている、家族が多いと思います。そこへの支援をしてほしい。(男性、60~64歳)
- 子育て世帯、介護世帯への金銭的援助が必要。フランスのような経済的支援が理想的です。(男性、35~39歳)

- 市内の学校で教員をしています。質問項目の中に、「男女共同参画社会について学校で教育」という項目がありましたが、学校現場はすでに教員不足な上に、保護者対応やネットトラブルなど、多様化する課題対応で精一杯です。育児をしている者としては、やはり男性の方が収入が大きいので、育休等を取得してしまうと、家庭の経済的問題が起きてしまいます。本来は、妻や子供のサポートをしたいのですが、なかなか踏み切れていないのが現実です。国でも、女性が議員として活躍したり、学校現場でも女性管理職の方が沢山いらっしゃったりします。特段、女性が社会で活躍するための取組に、お金や人材、時間を投資するのは、あまり費用対効果的に良いとは思えません。男性・女性として考えるのではなく、1人の人材として育てたり、支援したりできたら良いと思います。(男性、35～39歳)
- 産休中にも仕事に関する情報共有ができると、女性の産休によるハンデを減らせると思う。(女性、60～64歳)
- 私は男女平等に働ける職場に恵まれ、幸せに頑張れましたが、世の中には平等でない職場がほとんどの様で、驚きました。(退職後の事でした)男女にこだわらず、能力に応じたポジションに立たされたなら、それぞれの能力が発揮できるはずなのに…。残念です。なぜ、男女で評価されてしまうのでしょうか？(女性、75歳以上)
- 主旨とは違うと思うが、訪問介護を利用してきましたが、皆さんよくお世話してもらいましたが、もっと意見を言ったり、相談すればよかった。市役所とはどんな場所ですか。新駅舎は不便になった。少子高齢化の世の中に反しています。特に西口は自転車置き場が無くなり、有料の置き場もない。(女性、70～74歳)
- 住居の周りにシングルマザーで、仕事をしながら子供を育てている女性を見ます。毎日大変で生活に子育てもいっぱい見えます。収入面でも男性より少ないように聞きます。働くシングルマザーが少しでも生活しやすくなるように、給料面ももっと良くなることを考えていくことが必要だと思います。シングルマザーを集めた生活育児の相談会もよい。働くシングルマザーを応援する町！狭山市。(男性、60～64歳)
- 出産して育児休暇が終われば終わりではなく、育児とは仕事と家庭を継続し続けなければならない。責任はなってみないと分からない程、過酷なものでした。人それぞれではあると思いますが、もっと周りの目を気にすることなく休みが取れる他、育児をしている人は出勤日数を減らせるなど。何かもう少し、体力や共にゆとりが持てる状態にならない限り、子どもは増えていかず、平等には働けないと感じました。(女性、30～34歳)
- 女性が社会に出るために子育て等の補助が充実したら良いと思います。(女性、50～54歳)
- 女性が働き続けやすい環境づくりのため、保育・介護支援や柔軟な働き方への後押しをお願いします。また、性別に関わらず、能力が正しく評価される社会に向けて、企業や地域での意識啓発にも力を入れていただきたいです。(女性、50～54歳)
- 女性の管理職を増やす。(男性、50～54歳)
- 女性は男性と比べると体力がない場合が多いので、体力を消耗せずに済む仕事を女性にまわすよう、求人を出すなどすると良いと思う。そうすると事務仕事をイメージしがちになるが、事務仕事が向いてない人もいるので、それ以外で仕事になるものがあると良いと思う。ITの活用促進はそういった意味でも良いのではないかと考えます。(女性、50～54歳)
- 職場の人手不足や賃金の低さを解消。余裕のない生活が現実。(女性、50～54歳)

- 全てが男女平等である必要はないと思いますが、子供を授かる事や授かった後に、女性の職場での地位を諦めなくてはいけなかったり、それを理由に子供を授かる事をあきらめる人が少なからずいらっしゃると思います。実際に、自身の回りでも、お子さんが来年小学生に上がるのに、ママ側だけが「仕事どうしよう」「学童どうしよう」「このままでは生活が上手くいかない」と常に悩んでいる方がいます。そのような方が相談できる場所や、ワークライフバランスを一緒に考えてくれる人がもっと身近にあるといいと思います。そのような悩みをもつママが、目に付く場所に「悩みを一緒に考えます」的なお知らせをすると良いと思います。例えば、狭山市の子育てアプリに、ママ同士の悩みや情報交換ができるところを作るとか、相談会やセミナーの日程もアプリで発信するとか。(女性、25～29歳)
- 男女が働き易い労働環境を充実させる。障がい者の福祉サービスを充実させる。以上を強く希望します。(男性、60～64歳)
- 男女ともに働く意力がある方々が働けるように。再雇用、再就職できるようにサポートしていただきたい。(女性、50～54歳)
- 男女共同等、言葉を掲げなくていい社会になると良いのですが。まずは子育て中に多様なチャレンジが出来るように、子どもをみてる制度がもっと充実するといいですね。(女性、55～59歳)
- 男女平等、女性の社会進出、昇進、女子の学歴が高くなれば自然な事だと思いますが、大人の都合ばかりでなく、子ども達の立場、目線も考えてほしい。1歳未満から保育所に預けられる子ども達、嫌と言えない赤ちゃん、せめて3歳くらいまでは母親の躰で。この子たちが思春期を迎えるころが怖い。お金ばかりが先行して、愛情が、家族が失われつつある。成熟した大人になるには、やはり子供たちにとって家庭が基地となり拠り所。未来を考えるなら、子供たちを自分の手で守ろう。大切にしよう。そのうち、母という言葉が無くなるのでは。父性ばかりで。女性の体と男性の体の作りが違う。女性は40才になるとプチ更年期がでて、少しずつ男性より不調が出やすい。晩婚化が進むのも女性はかなり不利になる。もっと育児の楽しさを知ってほしい。ワークバランスについて、子育て、専業主婦も仕事とみなしていいのではないのでしょうか。この中にすべて含まれていることもあります。お金を稼ぐことが仕事ではなく、すべて役立っているという肯定感だと思います。(女性、65～69歳)
- 独身の身として、子育て世帯への差別は起こってほしくない。子育て世帯への支援は重要で、是非やってもらいたいのが「子育て世帯だから」時短時間勤務が認められるとか、育休とかで空いた期間のキャリアの支援までは、何か違うと思う。独身を貫く人が増える中での真の男女共同参画社会の実現を望む。(男性、25～29歳)
- 妊娠⇒夫婦2人で36万円/1年(申請)・出産1歳6ヶ月まで毎月2万5千円/子1人につき(申請)・子を園へ送迎⇒市が運営(100円/毎)・ホテル的な要領で寝泊り可⇒職員へ好待遇を。料金別(特別申請で25%OFF)・無料子供学習館(小4～高3)⇒創設、食堂付き。学習指導者(小・中・高2名ずつ)アルバイト(1,250円/時)・家事(大人)教育プログラム推奨⇒参加につき2千円商品券/1人(男性、25～29歳)

- 夫婦共働きをしないといけない給料形態の改善、物価上昇抑制等をお願いしたいです。昔は夫婦どちらかが働けば、生活できた家庭が多かったにもかかわらず、最近は共働きが当たり前で保育園等には入りにくい、そもそも子供を小さい時から預けなければいけない給料形態の改善を是非お願いしたいです。自分が子供の頃は、帰宅すれば母が笑顔で迎えてくれました。今、出産を控えてますが、自分の子供にそうすることが出来ないであろうと思うと苦しいです。また、出産に向けての出費、産まれてからの必ずかかるオムツ代もずっしりのしかかります。是非よろしく願いいたします。(女性、30～34歳)

#### 【教育について】

- 過去の教育、経験から形成された価値観や性格から、いきなり男女共同参画社会を目指すより、先を見越しつつ子供の頃からの啓蒙(学校・家庭)が必須と思われます。(男性、70～74歳)
- 基本的に男女共同参画に対して、強い希望はありません。男女の性の違いをはっきり認識して、それぞれの性別が自然に伝わるように学校教育から教えていく必要があります。(女性、65～69歳)
- 固定概念や人それぞれの価値観などで、実現はとても難しいと思います。幼少期から男女平等、思いやりを持ち、自分と異なる人の理解に努めることの大切さを教育してほしいです。(女性、40～44歳)
- 子育て支援を充実してほしい。(男性、40～44歳)
- 私が現在53歳であるが、22歳の頃から治療を受けている。集団接種で感染した児童が一人いた。性感染症にかかる小、中、高、大学でHIV採血検査やワクチン接種ができるとよい。HIVの対策が不十分です。HIVの検査は本人の意向ですが、小、中、高、大学生の子が自分の状態をみるのも大切。学校の性教育は不十分です。(男性、50～54歳)
- 旦那は『ザ、昭和』の人間なのでこの取り組み(男女共同参画センター)があっても、まず存在を知らないし、取り組みを知っても全く興味を示さないとします。なので旦那は諦めてます。今更、家事育児なんか出来ないし、興味もなさそう。休みは昼から家で酒飲んで、子供と遊ぼうともしない旦那には期待できません。なので、これからこの世に生きる子供たちを、学校や家庭でずっと教育する事が大事だと思いました。娘には、私みたいな苦勞しない素敵な旦那様に出会えれば良いなと願います。(女性、40～44歳)
- 幼児から小中学生への取り組みを、強化した方がいいと思う。(その他、70～74歳)

#### 【啓発・要望】

- LGBTQなどでも、トイレ等は必ず分けて。犯罪が増えます。(女性、25～29歳)
- SNSやAI等のテクノロジーも取り入れて、幅広い世代への情報発信が必要。カジュアルなイベントなど、楽しみながら浸透できるような活動が必要。(女性、40～44歳)
- フルタイムワンオペで介護をしていると、平日市役所の開庁時間に伺うことが難しく、土日であれば遠方の家族の手をかりて、時間をつくれるのに、市役所は空いてません。手続きにどれくらいの時間を要するのかわからず、有給を取らざるを得ないこともあります。働いてる皆さんも家庭があるので難しいと思いますが、市役所の平日の開庁時間延長、土日祝、開庁日を増やしていただきたいです。(女性、25～29歳)

- もう少し魅力のある市にしてほしい。温浴施設等を無くさないでほしい。温かい心づかいのできる社会。年齢差を超えた交流を持てる機会を増やす。市議会は機能していますか？（女性、55～59歳）
- もっと住みやすい世の中にしてください。（女性、20～24歳）
- 意識、考え方を高めるためには、講習会などの回数を重ね、世界の動向など実例で行うことが必要です。（資料添付は映像で行う）（男性、75歳以上）
- 引き続き、本対策を淡々と推進し、その目的を達成されることを願っております。（男性、70～74歳）
- 何かのきっかけで意識するので、広報など目を通すきっかけで、知ることが出来るので引き続き情報発信をお願いします。（女性、55～59歳）
- 各種専門の相談窓口の充実。（男性、50～54歳）
- 狭山市に若い人を呼び込む必要があると思います。空家の解消、担い手のいない畑なども解消し、土地の有効活用し、若い人を増やし、市全体を元気あるものにすると思います。（女性、70～74歳）
- 啓蒙の為の冊子、講演会は不要です。勤務している企業の中でも、かなりの時間を使ってハラスメント関連の教育はされていると思います。予算は、防犯や避難所の整備など、実りのあるところに使ってほしいと思います。（女性、60～64歳）
- 啓蒙活動、特に小学校からの意識付けが必要。（男性、60～64歳）
- 交通量の増えた交差点に、信号機などを設置してほしい。コミュニティバスを増発してほしい。（男性、65～69歳）
- 高齢者交通手段、福祉サービスの向上、告知情報提供、スマホの使い方教室、スマホによる詐欺の勉強会、度々の開催を望みます。（女性、70～74歳）
- 災害時の防災用品に、オムツや生理用品の在庫を確保してほしい。（女性、20～24歳）
- 市民の困りごとに、柔軟に対応してくれる、相談にのってくれる、役所であってほしい。（女性、75歳以上）
- 私の孫は障害児です。以前ファミリーレストランに行った時、孫が奇声を発すると、近くの席の子どもを連れた女性が不快な表情をされ、店員の方を呼び、席を変える。という事がありました。心地良い場は健常な方もそうでない方も平等であるべきですが「これが現状なのだ」と痛感した出来事でした。平等な存在という共通認識ができる環境が必要だと思います。（女性、65～69歳）
- 書籍やDVDの貸出しも良いと思いますが、YouTube等を利用して、もっと気軽に受けられるとより広がるかと思う。（不明、50～54歳）
- 女性、特に子育て経験のある人を決定権のあるところに配置することを希望します。（女性、35～39歳）
- 女性が活躍できる機会は大切だが、声がデカいのは左翼や自称フェミニストと社会貢献していない層が多いので、意見の取り入れは慎重に行なった方が良くと思います。（男性、30～34歳）

- 女性と男性の格差があり、シングルマザーが生活するのは厳しい現実があると思う。シングルマザーへの経済的支援が必要だと思う。また、配偶者から暴力を受けた際、男女共同参画センターに相談したことがあるが、最後まで寄り添ってもらおうということはしてもらえなかった。弁護士さんへ繋げてもらえたり、法的な相談がゆっくりできたり、親身になって最後まで寄り添ってもらえて、気軽に助けを求められるようなそんな施設になってほしいと願う。(女性、30～34歳)
- 女性一人でも生活していける市であると助かります。高齢者のシェアハウスなど。(女性、45～49歳)
- 小・中・高・大の学校を会場として、各種各号(スポーツ、文化、芸術なども含め幅広い分野)で活躍している(活躍した)女性の講演や、展示会、映写会などを、実施する。(生徒だけではなく、一般の人も参加できれば)(男性、70～74歳)
- 障害児・者や1人親家庭への支援を充実させ、ハンデを持つ人、ハンデを持つ生活をしている人でも共に社会参加できるように支援してほしい。(男性、65～69歳)
- 申請などわかり易く、スムーズに行なえるようにして頂きたいです。(女性、50～54歳)
- 人権が尊重して輝ける街に。(女性、65～69歳)
- 制度を整えることも大切ですが、文化と心のバリアを取り除くことも大切なことだと思います。例えば男性が育児休暇を取れる制度があっても、「空気を読んで使えない」のであれば、形だけになってしまいます。『できる』ことを『やっていい』と思える社会文化をつくるのが最終的なゴールかと考えます。(女性、30～34歳)
- 誰もが狭山市民であって良かったと思える社会にしてほしいと思います。(女性、75歳以上)
- 男女共同参画センター様の活動に期待しています。(男性、65～69歳)
- 男女共同参画だけでなく、高齢者が生活しやすい町にしてほしい。(男性、70～74歳)
- 男女共同参画の活動内容を知る機会がないので、具体的に一般の市民が知ることのできる活動をお願いしたいです。(女性、55～59歳)
- 男女共同参画社会の実現のため、性急な対策を行うことは避けてほしい。最終的な目的は市民の幸せの為、という事を念願に行動してほしいです。(男性、55～59歳)
- 男女共同参画社会が少しでも早く実現することを目指すために、様々な情報を提供している事を市民サイドが気付くよう、引き続きこれからも呼び掛けていただきたく思います。(女性、75歳以上)
- 男女平等を促進している自治体であることを広く知ってもらうために「男女平等の推進都市」をスローガンとして、市を通る国道や高速道路などに横断幕を設置してみたいかですか。(男性、50～54歳)
- 男女問わず能力を発揮できる環境、社会をつくること。女性のリーダーを置き、気兼ねなく女性が相談できる環境をつくる。(男性、65～69歳)
- 中年、高齢者は意識を変えることは、難しいです。あきらめました。若い世代への啓発、支援をどうかよろしく願います。これからの方達が少しでも楽しく明るく、自分を誇って生きていきますように。(女性、40～44歳)

- 賃貸住宅では、最近自治会に入らない家庭も多い。それぞれのライフスタイルが尊重されてきている中で、男女共同参画社会の実現に対し両立できるのかが疑問である。職場でも、子育て世代は残業ができないとか休みが多いのが現状であり、そのしわ寄せは他の人に負担が入っているのが実情である。必要性は理解している。出来るだけ多くの人にその恩恵が得られるよう改善を進めてほしい。(男性、55～59歳)
- 当時2人の子育てをしながら自分の好きな仕事をしていましたが、子どもがよく熱を出すため、会社に迷惑をかけて結果的に退職しました。その後、派遣で従業員が多い工場に勤めています。子育て中は自分の好きな仕事はできず、我慢の連続なのだなと思いました。夫は急な休みができないため看病のときは必ず妻である私がします。夫自身は、私からの報告で子育ての現状を理解しているつもりでも、子どもとずっと一緒という場面が少なすぎて、経験不足で実際は理解できていません。このような事例は多くあると思います。精神的に参ったときに、気軽に心理士さんと相談できる場がほしいです。(女性、30～34歳)
- 入曽駅の自由通路にご意見箱を置き、男女共同参画社会についてみんなの意見を聞く。(男性、55～59歳)
- 年をとってくると、色々情報をとるのが面倒になります。(私の場合)若いうちから、家事や仕事の知識をつけさせた方が良くと思います。もっと色々な情報を自然な形で流していただきたいです。(女性、70～74歳)
- 能動的な情報取得では、興味を持った人しか情報を得られない。興味を持たない人ほど意識が低く、感じられる為。問題を感じられる人を匿名通報できる制度等を設け、強制指導を実施する等、実のある対策による意識改革をして下さい。(女性、30～34歳)
- 偏見のない世界にしたい。戦争を早く終結してもらいたい。世界平和。(男性、45～49歳)
- 毎日の生活(衣食住)に不安がある状況では、「男女共同参画社会」という言葉も絵空事に聞こえる。最低限の生活が保障されていない現状では、市にも国にも未来はないと思う。特に子ども達は日々の食事に苦勞しているような生活では、夢を見ることさえ難しい。解決に向かう困りごとは多いと思う。家族単位での施策中心で単身者向けの施策は顧みられてこなかった。そこを重点的に見直してほしい。ご一考願います。(女性、60～64歳)

#### 【調査・調査結果の反映】

- Q13において、優先事項を答えさせるにも関わらず、複数の項目を選ばせるのは如何なものか。選択肢は単一事項だけを回答させた方が、集計考察がしやすいと思われる。(男性、30～34歳)
- この資料が、有効に活用されることを願っています。(女性、75歳以上)
- こんなアンケートを取っていないで、困ってる人の意見を聞いてから考える方が早いと思う。(男性、20～24歳)
- 回答出来ると思ったものだけに記載しました。お役に立てるか分かりませんが、返信を送りません。(女性、60～64歳)
- 今回のアンケートを見て考えて、これから意欲的に勉強していきたいと思いました。特によく理解した訳ではないので、要望などはありません。(女性、65～69歳)
- 今回の調査で、男女共同参画社会の事を知りました。これからは勉強して、視野を広くして生活したいと思います。(女性、70～74歳)

- 今回の調査の問18で、『過去5年の間で、あなた自身やあなたの周りで、被害を受けたり、見聞きした経験はありますか』との設問に対し、『周りにはないが聞いたことがある』という状況に対しての回答選択肢がない。(男性、60～64歳)
- 今後も継続していただけたら、いずれ当たり前の社会になっていくと思います。回答の機会をいただき、ありがとうございます。(女性、50～54歳)
- 参画者の男女比率は同数とする。(不明、65～69歳)
- 市民の意識調査の意見をしっかりと、狭山市に住む人の為にやってほしいです。(男性、70～74歳)
- 実績作りのアンケートのような印象。今後どのように役立てられるかを期待。(男性、45～49歳)
- 男女共同参画社会の必要性や、それを実施しない事への問題をわかりやすく、**広くの多くの方**へ周知することが必要ではないかと感じます。少なからず、私たちは家族や会社、居住地域といった小さなグループを中心とした生活を営んでいます。女性がリーダーになることが男女共同参画社会とは言えず、性差からくる体格や物事の考え方、捉え方の違いを良い方向へ向けることが男女共同参画社会ではないかと考えます。今回のアンケートが市民からの困りごとの吸い上げや方向性の情報となることを願います。(男性、35～39歳)
- 調査対象となる方を無作為に選んでいますが、結婚して家族がいる方を調査対象として選んだ方が良いと思います。(質問に該当しない事がありわからないと答えるしかない。)(男性、70～74歳)
- 働いているということが前提と感ぜられる設問が多く、このアンケートに回答することが難しかったです。(女性、18～19歳)
- 平等と差別と区別の違いをキチンと教えることをしてほしいと思います。男女共同という言葉を使ってる時点で、当てはまらない人が出てしまいます。この調査の名称から考え直すことも必要なことではないでしょうか。(女性、55～59歳)

#### 【その他】

- ありがとうございます。小さな単位、グループで、ディスカッションがあったら、話し合いしやすいと思います。(女性、55～59歳)
- このような活動がある事知りませんでした。利用してみたいと思いました。(女性、50～54歳)
- どちらも受け入れる、心の広さが大切だと思いました。(男性、18～19歳)
- 頑張ってください。(女性、45～49歳)
- 期待していません。(女性、55～59歳)
- 共同参画という表現に違和感があります。平等ではない？(男性、65～69歳)
- 現状から新しい事をとり入れていくのは、大変だと思います。よろしく願致します。(男性、55～59歳)
- 御苦労さまです。意見ありません。(男性、70～74歳)
- 生きていくため精一杯なので、何もありません。(男性、75歳以上)
- 特に無し。(男性、75歳以上)【同様 4件】

## 資料「男女共同参画に関する市民意識調査」調査票

### 男女共同参画に関する市民意識調査

市民の皆様には、日頃から市政運営に、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

狭山市では、令和4年3月に、「人権が尊重され、女と男が輝けるまち さやま」を基本理念とした「第5次狭山市男女共同参画プラン」を策定し、これまでさまざまな取り組みを進めています。この取り組みをさらに充実させるための基礎資料とするため、「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施することとなりました。

調査の対象となる方は、令和7年7月1日現在に狭山市に住民登録のある18歳以上の市民の方から2,000名を無作為に選ばせていただきました。ご記入の内容につきましては、無記名でお願いし、調査結果はすべて統計的な数値として取りまとめますので、個人が特定されるようなことはございません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和7年8月

狭山市長 小谷野 剛

※男女共同参画とは、男女がお互いに人権を尊重し、一人ひとりが持っている個性や能力を十分に発揮できることです

#### 回答にあたってのお願い

1. 回答は郵送または、インターネットのどちらかでお願いたします。
2. インターネットで回答される方は、裏面「インターネットでの回答方法」をご覧ください。
3. 調査には、あて名のご本人がお答えください。
4. 回答時間の目安は15分程度です。

#### 《郵送で回答される場合》

- ① ご記入は、黒の筆記用具でお願いします。
- ② 質問ごとにあてはまる回答の番号を○で囲むか、番号を記入してください。
- ③ 回答の○の数は、「○は1つだけ」「○は3つまで」「○はあてはまるものすべて」など指示してありますので、それに合わせてお答えください。
- ④ 「その他」にあてはまる場合は、( )内に具体的に内容をご記入ください。
- ⑤ この調査票には、住所・氏名をお書きになる必要はありません。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、

8月31日(日)までにご投函ください。

#### 【お問い合わせ先】

狭山市役所 市民部 市民相談課 男女共同参画センター  
電話:04-2937-3617(直通)  
FAX:04-2937-3616  
E-mail:danjyo@city.sayama.saitama.jp

## インターネットでの回答方法

### 1. 回答ページへの進み方

下記の二次元コードまたは URL アドレスから、回答サイトにお進みください。

【二次元コード】



【URL】

<https://logoform.jp/form/6LWm/847618>

### 2. 回答手順

- ①回答サイトが開くと、回答ページが表示されます。設問文に従って回答をしてください。
- ②すべての回答が終わったら、
- ③確認画面で回答を確認し、回答に誤りがない場合は、
- ④回答終了です。画面を閉じてください。

### 3. 「ID」の入力について

インターネットでの回答は、ID の入力が必要です。

右側に印字されている5桁の数字を入力してください。

ID: ●●●●●

ID は、郵送回答との重複を防ぐためのものです。個人を特定するものではありません。

回答期限: 令和7年8月31日(日) 23:59まで

※期限を過ぎますと回答いただくことができません

### 《注意事項》

- ①回答に伴う通信費はご自身の負担となります。あらかじめご了承のうえ、ご回答をお願いいたします。
- ②チェックボックスやラジオボタンなど、設問ごとに選択肢の選択方法が異なります。
- ③設問ごとに回答の数について「1つを選択」「3つまで選択可」「あてはまるものすべてを選択」などと指示してありますので、それに合わせてお答えください。
- ④「その他」に当てはまる場合は、表示された入力欄に具体的な内容を入力してください。
- ⑤回答ページは24時間経ちますと、タイムアウトとなり、ご入力いただいた回答がすべて消えてしまいますので、ご注意ください。一時保存機能がありますので、画面下の「入力内容を一時保存する」をご利用ください。
- ⑥インターネットで回答された方は、調査票の返送は不要です。

## 調査

(あてはまる番号を選んで○をつけてください。)

### ●あなたご自身について

問1 あなたの性別をお聞かせください。(回答は1つだけ)

1. 男性          2. 女性          3. その他

問2 あなたの年齢は次のどれにあてはまりますか。(回答は1つだけ)

1. 18～19歳    2. 20～24歳    3. 25～29歳  
4. 30～34歳    5. 35～39歳    6. 40～44歳  
7. 45～49歳    8. 50～54歳    9. 55～59歳  
10. 60～64歳   11. 65～69歳   12. 70～74歳  
13. 75歳以上

問3 あなたの職業は次のどれにあてはまりますか。(回答は1つだけ)

1. 自営業・自由業・家業    2. 正規雇用社員(職員)  
3. 派遣・契約社員(職員)   4. パートタイマー・アルバイト  
5. 専業主婦・主夫          6. 学生          7. 無職  
8. その他

問4 あなたは結婚されていますか。次の中からお選びください。

(回答は1つだけ)

1. 結婚している
2. 結婚していないがパートナーがいる(事実婚)
3. 離婚・離別・死別
4. 結婚していない(未婚)

問5 問4で「1. 結婚している」「2. 結婚していないがパートナーがいる(事実婚)」と答えた方に伺います。あなたの世帯は、共働きですか。

1. 共働きしている(パート含む)
2. 共働きしていない

問6 あなたの世帯状況は、次のどれにあてはまりますか。

(回答は1つだけ)

1. 単身世帯(ひとり暮らし)
2. 一世代世帯(夫婦のみの世帯又は兄弟姉妹のみの世帯)
3. 二世帯世帯(親子で暮らしている世帯)
4. 三世帯世帯(親・子・孫で暮らしている世帯)
5. その他

●男女平等についての考え方や行動についておたずねします

問7「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。次の中からあてはまる番号を1つだけ選び○をつけてください。

1. そのとおりだと思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問8 あなたは現在、次の(1)~(9)の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの考えに近いものを1つずつ選び、その番号(1~6)に○をつけてください。

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	男女が平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない
(1) 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
(2) 就職・採用で	1	2	3	4	5	6
(3) 職場で	1	2	3	4	5	6
(4) 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
(5) 地域や社会活動の場で	1	2	3	4	5	6
(6) 政治や政策決定の場で	1	2	3	4	5	6
(7) 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
(8) 慣習・しきたり等で	1	2	3	4	5	6
(9) 社会全体で	1	2	3	4	5	6

問9 あなたは、次の(1)~(7)の考え方についてどう思いますか。あなたの考えに近いものを1つずつ選び、その番号(1~5)に○をつけてください。

	そのとおりだと思う	そう思う どちらかといえば	そう思わない どちらかといえば	そう思わない	わからない
(1) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい	1	2	3	4	5
(2) 女の子は赤、男の子は青、というように性別で持ち物を分けた方がよい	1	2	3	4	5
(3) 子育ては、やはり母親でなくてはと思う	1	2	3	4	5
(4) 男性は、家事に向いていないと思う	1	2	3	4	5
(5) 女性は、職場等で責任のある仕事に向いていないと思う	1	2	3	4	5
(6) 自治会などの団体の代表は、男性になった方がよいと思う	1	2	3	4	5
(7) こどもの数や産む時期を決めるにあたって、女性の主体的な意見を尊重した方がよい	1	2	3	4	5

●家庭生活・子育てについておたずねします

問10 今現在あなたの家庭では、次の(1)~(8)のことについて、(主に)男性、女性のどちらが行っていますか。それぞれ1つずつ選びその番号(1~5)に○をつけてください。

	(主に)男性	共同 男性・女性	(主に)女性	その他	該当しない
(1) 家事(炊事・洗濯・掃除等)	1	2	3	4	5
(2) 子育て(こどもの世話、しつけ、教育等)	1	2	3	4	5
(3) 介護(介護の必要な親の世話、病人の世話等)	1	2	3	4	5
(4) 地域の行事への参加	1	2	3	4	5
(5) 自治会、PTA 活動	1	2	3	4	5
(6) 生活費の確保	1	2	3	4	5
(7) 家計の管理	1	2	3	4	5
(8) 高額な商品や土地、家屋の購入の決定	1	2	3	4	5

問11 最新の「社会生活基本調査(総務省統計局・令和3年)」によると、「1日平均の家事関連(家事・介護・育児など)時間は、女性が、3時間24分に対し、男性は51分となっています。男性が家事関連に関わる時間が少ないのはなぜだと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 仕事が忙しくて疲れている
2. 家事参加を女性が望んでいない
3. 勤務時間が長く、家にいる時間が少ない
4. 家事をする手が足りている
5. こどものときから家事をするようにしつけられていない
6. 家事は女性の仕事である、と考えている
7. 家事をするのは世間体が悪いと感じている
8. 家事の仕方がよくわからない
9. その他(具体的に )
10. わからない

●ワーク・ライフ・バランスについておたずねします

問12 あなたは、ワーク・ライフ・バランスという言葉を知っていますか。

あてはまる番号を1つだけ選び番号に○をつけてください。

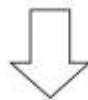
1. 言葉も内容も知っている
2. 言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない
3. 言葉も内容も知らない

※ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)とは、「仕事と生活(家庭、趣味や余暇など)のバランスを上手にとることによって、仕事をしながら充実した生活を送る」という考え方のことです。

問13 生活の中での優先度についてお伺いします。「理想」としての優先

度と、「現実」の優先度について、あなたのお考えや現状に最も近いものを、それぞれ1つずつ選んで番号を記入してください。

1. 仕事を優先
2. 家庭生活を優先
3. プライベート(個人的)な時間を優先
4. 仕事と家庭生活を優先
5. 仕事とプライベート(個人的)な時間を優先
6. 家庭生活とプライベート(個人的)な時間を優先
7. 仕事・家庭生活とプライベート(個人的)な時間を両立



理想は

現実には

●男女の就業・仕事についておたずねします

問14 あなたは女性が職業に就くことについてどう思いますか。

1つだけ選び○をつけてください。

1. 職業をもち続けたほうがよい
2. こどもができたなら辞めるが、こどもが成長したら再び職業に就いたほうがよい
3. 結婚するまで職業につくが、結婚したら辞めたほうがよい
4. こどもができたなら辞めたほうがよい
5. 女性は職業に就かないほうがよい
6. その他(具体的に )
7. わからない

問15 男女がともに働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 男女とも家庭生活と両立できるよう労働時間の短縮を促進すること
2. 在宅勤務や時差勤務など、柔軟な勤務制度を導入すること
3. 保育所・学童保育などの育児環境の充実を図ること
4. 事業所内の保育を促進すること
5. 育児休業制度・介護休業制度の定着、促進を図ること
6. 出産・育児などに際して、仕事を辞めずに働き続けることへの社会的理解を深めること
7. ホームヘルパーや福祉施設などを充実させ、家族の介護負担を軽減すること
8. 職務内容や昇進、昇格などの男女平等を進めること
9. ハラスメント(相手に不快感や不利益を与える嫌がらせ)のない職場づくりを進めること
10. 再雇用の制度の導入を促進すること
11. 求人情報の提供や働ける新しい環境・職務の開発を進めること
12. 男性も家事や地域活動などを分担すること
13. 男性が家事や育児を行うことに対し、社会的理解を深めること
14. その他(具体的に )
15. 特になし

問16 問15で○をつけた中で、あなたがもっとも重要だと思うことを  
1つだけ選び、番号を記入してください。

問17 男性の育児休業・介護休業の取得は依然として少ない状況ですが、その理由は何だと思えますか。1つだけ選び○をつけてください。

1. 職場や周囲の理解が得られず、休みにくい雰囲気があるから
2. 男性は責任ある仕事をしているという考えがあるから
3. 男性は育児や介護をするよう教育されていないから
4. キャリアを中断することになり、昇格・昇給等に不利だから
5. 育児休業中や介護休業中は、収入が減るから
6. 育児休業や介護休業等の制度が不十分または利用しにくいから
7. その他(具体的に )

## ●人権・暴力についておたずねします

問18 次の(1)~(6)のハラスメントについて、過去5年の間で、あなた自身やあなたの周りで、被害を受けたり、見聞きした経験はありますか。あてはまる番号(1~5)をすべて選び、番号に○をつけてください。

	受けたことがある	自分の周りに受けた人がいる	自分自身が見聞きした経験はない	受けたことがあるかわからない	受けたことがある	自分の言動を指摘されたことがある
(1) セクシュアル・ハラスメント 身体を触る、卑猥な話を聞かせる、容姿について不適切な発言をするなど、性的な言動により相手を不快にさせること。	1	2	3	4	5	5
(2) パワー・ハラスメント 職場等において、大声による叱責や過重な業務の強制など、立場の優位性を背景に、業務の適切な範囲を超えて嫌がらせをすること。	1	2	3	4	5	5
(3) モラル・ハラスメント 暴言を浴びせる、無視をする、理由なく不機嫌な態度をとるなど、言動や態度によって相手に精神的苦痛を与えること。	1	2	3	4	5	5
(4) 出産や育児に係るハラスメント 妊娠・出産・育児に関わる制度(産前休業や育児休業等)の利用を理由に、嫌がらせをしたり、雇用条件等の面で不当な扱いをすること。	1	2	3	4	5	5
(5) 性的指向※1・性自認※2に係るハラスメント 性的指向や性自認について、勝手に他人に暴露したり、侮辱的な言動や差別によって嫌がらせをすること。	1	2	3	4	5	5
(6) その他のハラスメント ( ) (1)~(5)以外のハラスメントについて経験があればお書きください。	1	2	3	4	5	5

※1 性的指向:恋愛感情や性的な関心がどの性に向いているか。「好きになる性」と言うこともあり、異性愛や同性愛、両性愛など、さまざまな形があります。

※2 性自認 :自分の性別をどう認識しているか。男性/女性という認識だけでなく、中間、どちらでもないなど、そのあり方は多様です。

問19 あなたは過去5年の間で、配偶者（パートナー）や恋人からDV（ドメスティック・バイオレンス）を受けたり、あるいはDVをしたことがあったり、身近で見聞きした経験はありますか。あてはまる番号（1～3）を1つずつ選び、番号に○をつけてください。

	何度もあった	1・2度あった	全くない
(1) 配偶者（パートナー）からDVを受けたことがある	1	2	3
(2) 恋人からDVを受けたことがある	1	2	3
(3) 配偶者（パートナー）にDVをしたことがある	1	2	3
(4) 恋人にDVをしたことがある	1	2	3
(5) 身近で見聞きしたことがある	1	2	3

※DV（ドメスティック・バイオレンス）とは、配偶者やパートナーなど親密な関係にあった相手から振るわれる暴力を言います。暴力とは、身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力、子どもを利用した暴力などを言います。

問20 問19 (1)または(2)で「何度もあった」または「1・2度あった」と答えた方に伺います。DVを受けたとき、あなたは誰(どこ)に相談しましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 家族・親族
2. 友人・知人
3. 警察
4. 医師・カウンセラー
5. 弁護士
6. 公的な相談機関(機関名: )
7. 民間の相談機関(機関名: )
8. その他(具体的に )
9. 誰にも相談しなかった(できなかった)

問21 問20で「相談しなかった(できなかった)」と答えた方に伺います。誰(どこ)にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. どこに相談してよいのかわからなかったから
2. 恥ずかしくて、誰にも言えなかったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 相手に相談したことがわかると仕返しをされると思ったから
5. 自分が我慢すれば、このままやっていけると思ったから
6. 世間体が悪いから
7. 相談するほどのことではないと思ったから
8. 自分にも悪いところがあると思ったから
9. その他(具体的に )

問22 あなたは、「性的マイノリティ(LGBTQ※)」という言葉と意味について、知っていますか。あてはまる番号を1つだけ選び番号に○をつけてください。

※性的マイノリティ(LGBTQ)とは、次の総称を言います。

- ・レズビアン(Lesbian) …女性同性愛者
- ・ゲイ(Gay) …男性同性愛者
- ・バイセクシュアル(Bisexual) …両性愛者
- ・トランスジェンダー(Transgender) …生まれた時の性別と自認する性別が一致しない人
- ・クエスチョニング・クエア(Questioning・Queer) …自分自身の性を決められない・わからない・決めていない人など

1. 言葉も意味も知っている
2. 言葉は知っているが、意味は知らない
3. 言葉も意味も知らない

問23 あなたは過去5年の間で、性的マイノリティ(LGBTQ)に対する差別的な言動を、次の場所で見聞きしたことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 職場
2. 学校
3. 地域
4. 家族
5. テレビ・ラジオ
6. インターネット
7. 友人との交流の場
8. その他( )
9. 見聞きしたことがない

問24 あなたは性的マイノリティ(LGBTQ)に対する理解の促進や支援にはどのような取り組みが必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 書類等の性別記載欄(法的に定めがあるもの以外)の見直し
2. 理解を進めるための講座や広報などによる啓発活動
3. 性的マイノリティについての専門の相談窓口の充実
4. 法改正やパートナーシップ制度、福利厚生など社会制度の見直し
5. 学校における性の多様性に関する教育の充実や性自認への配慮
6. 更衣室やトイレなどの環境の整備
7. その他(具体的に )
8. 必要だと思わない
9. わからない

**●地域活動・社会参加についておたずねします**

問25 あなたは現在どのような地域活動・社会活動をしていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 町内会・自治会などの活動
2. 婦人会・青年会・老人会などの活動
3. 福祉・ボランティア活動
4. PTAやこども会などの活動
5. 環境保全・リサイクルなどに関する活動
6. 自治体の審議会などの委員
7. 国際交流に関する活動
8. 趣味・学習・スポーツ等に関する活動
9. その他(具体的に )
10. 特にしていない

問26 あなたがお住いの地域の活動（自治会・子ども会・ボランティア・自主防災活動など）では、次のことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 男性の参加が少ない
2. 女性の参加が少ない
3. 団体の長には男性が就き、女性は補助的な役割に就く慣行がある
4. 女性が役員に就きたがらない
5. 女性が表に出るべきではないという雰囲気がある
6. 女性は発言しにくかったり、意見が聞き入れられにくい
7. 活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある
8. その他（具体的に )
9. 特に男女差はない
10. わからない

問27 政策決定への女性の参画をさらに、促進するにはどうしたらよいと思いますか。次の中から重要だと思うものを3つまで選び○をつけてください。

1. 男性中心の社会通念、慣習をなくす
2. 女性のリーダーを養成するための講座などを開催する
3. 女性の意識を高めるための啓発活動を行う
4. 女性の割合を決めるなど、計画的に女性の参画を実行する
5. 女性自身がもっと積極的に活動する
6. 女性を推薦、任命するよう各界に働きかける
7. 特に女性を増やす必要はない
8. その他（具体的に )

### ●防災についておたずねします

問28 防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点に配慮した取り組みの中から、特に必要と思うことを3つまで選び、番号に○をつけてください。

1. 避難所の設備（トイレ、更衣室、授乳室、洗濯物干し場、居住スペース等の設置によるプライバシーの確保）
2. 避難所運営や対策本部に女性の責任者（リーダー）を置く
3. 避難所の炊き出し、清掃等の性別・年齢に捉われない役割分担
4. 女性用品、育児用品、介護用品などの物資の配布
5. 妊婦、乳幼児、高齢者、障がい児・者、性的マイノリティの方のニーズの把握
6. 救援医療・相談体制（医師・看護師・心理カウンセラー）の整備
7. 避難所での防犯体制の整備
8. その他（具体的に )

### ●男女共同参画社会のための施策についておたずねします

問29 あなたは、男女共同参画社会とは、どのような社会をイメージしますか。次の中からイメージするものすべてに○をつけてください。

1. 家事・育児・介護を家族全員で分担し喜びも苦労も分かち合う社会
2. 職場において昇進、配置、賃金等の男女格差が解消され、個性や能力が十分に発揮される社会
3. 政策・方針を決定する場における女性の参画が進み、男女ともに豊かで住みやすい社会
4. 自治会やPTAなどの地域活動において、男女がバランスよく配置され、共に協力していく社会
5. 「男は仕事、女は家庭」という固定的役割分担意識が解消され、一人ひとりの考え方や行動が尊重される社会
6. 家庭生活と仕事時間のバランスがとれ、男女が共にゆとりと充実感を持って生活できる社会
7. その他（具体的に )
8. わからない

問30 男女共同参画社会をめざすために、市では今後どのようなことに力を入れる必要があると思いますか。次の中から特に重要なものを3つまで選び、番号に○をつけてください。

1. 相談やカウンセリング機能を充実させること
2. 男女がともに働きやすい労働環境の整備を働きかけること
3. 男性が家庭や地域活動などへの参加しやすい、環境づくりを進めること
4. 地域活動などでの女性リーダーを養成すること
5. 女性を政策立案・方針決定の場へ積極的に登用すること
6. 地域活動やボランティア活動への支援をすること
7. こどもの時から家庭や学校で男女平等について教えること
8. 生涯学習などで男女平等について学ぶ機会を充実させること
9. 男女共同参画についての情報提供や啓発活動を行うこと
10. 固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発活動を行うこと
11. 健康管理体制を充実させること
12. 高齢者や障がい児・者の介護・福祉サービスを充実させること
13. 子育て家庭への支援を充実させること
14. 防災・災害復興対策に女性の視点を取り入れること
15. 多様な性のあり方についての理解を深めるための啓発・支援活動を行うこと
16. その他(具体的に )
17. 特になし

※男女共同参画センターは、狭山市市民交流センターの2階にあります。女性の活躍支援のセミナーや男性の家事・育児参加等を促す講座を開催しています。

また、情報コーナーでは、男女共同参画に関する書籍やDVDの貸出、セミナー等の情報を取得することができます。

問31 狭山市市民交流センター内に、男女共同参画センターがあることを知っていますか。

1. 知っている
2. 知らない

問32 問31で「知っている」と答えた方に伺います。あなたは、男女共同参画センターを利用したことがありますか。

1. 利用したことがある
2. 利用したことはない

最後に、男女共同参画社会の実現を目指すために、市に対してのご意見やご要望などありましたら、ご自由にお書きください。

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。  
お手数ですが、同封の返信用封筒に入れ、8月31日(日)までに、  
ご投函いただきますようお願いいたします。

---

---

## 男女共同参画に関する市民意識調査報告書

発行年 令和8年3月

発行 狭山市

編集 市民部 市民相談課 男女共同参画センター

〒350-1305

埼玉県狭山市入間川1丁目3番1号

TEL:04-2937-3617

FAX:04-2937-3616

URL:<https://www.city.sayama.saitama.jp/>

E-mail:[danjyo@city.sayama.saitama.jp](mailto:danjyo@city.sayama.saitama.jp)

---

---